

茨城県教育財団文化財調査報告第165集

国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線  
道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 1

西 平 遺 跡

五 安 遺 跡

(上 卷)

平成 12 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

210.231

Ka76

(NK)

茨城県教育財団文化財調査報告第165集

国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線  
道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1

にし だいら 西 平 遺 跡  
ご あん 五 安 遺 跡  
(上 卷)

平成 12 年 3 月

寄贈  
歴史・人類学系  
平成 年 月 日

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

00609340



西平・五安遺跡遠景



西平遺跡平成8年度調査区域全景



五安遺跡平成10年度調査区域全景



西平遺跡出土弥生土器

## 序

茨城県は、道路通行の円滑化を図るため、一般県道荒井麻生線の道路改良工事を進めております。その工事予定地内には、西平遺跡及び五安遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から工事地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成8年度と平成10年度に発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成8年7月から10月、平成10年4月から8月に調査を行った西平遺跡と五安遺跡の調査成果を取録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県からいただいた多大な御協力に対し、心から感謝申し上げます。

また、茨城県教育委員会、鹿嶋市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 齋藤住郎

## 例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年度及び平成10年度に発掘調査を実施した、茨城県鹿嶋市大字津賀に所在する西平遺跡及び五安遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 上記の2遺跡の発掘調査期間および整理期間は、以下のとおりである。  
第1次調査 平成8年7月1日～平成8年10月11日  
第2次調査 平成10年4月1日～平成10年8月31日  
整 理 平成11年4月1日～平成12年3月31日
- 3 上記の2遺跡の発掘調査は、調査第1課長沼田文夫の指揮のもと、第1次調査を調査第4班長海老沢、主任調査員茂木悦男、宮崎修士が、第2次調査を調査第3班長田所剛夫、主任調査員宮崎修士、柴田博行が担当した。
- 4 上記の2遺跡の整理および本書の執筆・編集は、整理課長川井正一、主席調査員萩野吾悟の指揮のもと、主任調査員茂木悦男、宮崎修士が担当した。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

# 凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を用いて区画し、西平遺跡は、 $X=4,456m$ 、 $Y=67,940m$ 、五安遺跡は、 $X=4,160m$ 、 $Y=67,960m$ の交点を基準点（A1a1）とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、その組み合わせで「A1区」、「B2区」のように呼称した。

さらに、小調査区も同様に北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

- 2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構	住居跡-SI	土坑-SK	竪穴状遺構-SX	溝跡-SD	道路跡-SF	土塁-SA
	柱穴-P					
遺物	土器-P	土製品-DP	石器・石製品-Q	金属製品-M	拓本土器-TP	
土層	攪乱-K					

- 3 遺構及び遺物の実測図中の表示



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色板」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、以下のとおりである。

- (1) 遺構全体図は西平遺跡が縮尺270分の1、五安遺跡が300分の1とし、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 住居跡の「主軸方向」は、竪または竪と出入り口部を通る軸線とし、その主軸が座標北からみて、どの方向に、何度ふれているかを、例えば「N-10°-E」のように表示した。手掛かりがない場合は南北に近い軸線を主軸と見なした。竪穴状遺構は長軸を主軸と見なした。  
なお、[ ] を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台径、E-高台高とし、単位はcmである。なお、現存値は（ ）で、推定値は [ ] を付けて示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号（P、DP、Q、M）、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。
- (6) 写真図版中の遺物に付した番号は挿図と遺物の番号である。

## 抄 録

ふりがな	こほらききょうちほうどうろせいびじきょういっげんけんどうちらいあそうせんどうろかいほうにじちないまいどうふんかざいりょうほつにじよ							
書名	国補緊急地方道路整備事業 一般県道荒井麻生線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	西平遺跡 五安遺跡							
巻次	1							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第165集							
著者名	茂木悦男 宮崎修士							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2000(平成12)年3月21日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
西平遺跡	茨城県鹿嶋市 大字津賀字西 平1,262ほか	08222 - 54	36度 02分 15秒	140度 35分 15秒	38 ~ 39m	平成8年度 19960701 ~ 19961011	4,216㎡ 1 次 (1,736㎡) 2 次 (2,480㎡)	国補緊急地方道路 整備事業一般 県道荒井麻生線 道路改良工事に 伴う事前調査
五安遺跡	茨城県鹿嶋市 大字津賀字五安 1,373ほか	08222 - 79	36度 02分 04秒	140度 35分 11秒	34 ~ 37m	平成10年度 19980401 ~ 19980831	2,417㎡ 1 次 (1,057㎡) 2 次 (1,360㎡)	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西平遺跡	散布地	旧石器			燧石		縄文時代から平安時代 にかけての集落跡及び 中世の墓跡。	
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	1軒	縄文土器(尖底土器) 石器(石鏃・凹石・磨石)			
		弥生時代	竪穴住居跡 土坑	8軒 1基	弥生土器(壺・広口壺・ ミニチュア土器) 石製品(石製円板)			
	古墳時代	竪穴住居跡 土坑	42軒 1基	土師器(坏・碗・高坏・ 埴・壺・甕・甔・手捏 土器), 須恵器(坏・ 蓋・甕・甔), 石製模 造品(双孔円板・劍形 品・白玉・碧玉) 土製 品(球状土錘・管状土 錘・土玉), 石製品(勾 玉・紡錘車・砥石), 鉄製品(鏃・鎌)				
	奈良・平安時代	竪穴住居跡 土坑	21軒 2基	土師器(坏・壺・甕), 須恵器(坏・壺・甔)				



所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西平遺跡	墓跡	中世	土坑 8基 溝跡 1条 道路状遺構 1条 地下式墳 1基 方形壘穴状遺構 21基	陶器, 古銭	
	その他	時期不明	壘穴住居跡 16軒 土坑 54基 道路状遺構 1条 溝跡 10条	古銭, 石製品(硯)	
五安遺跡	その他	旧石器		剥片	古墳時代から平安時代にかけての集落跡及び近世の墓跡。遺跡は中世の津賀城跡に隣接している。
		縄文時代		縄文土器片	
		弥生時代		弥生土器片	
	集落跡	古墳時代	壘穴住居跡 5軒	土師器(坏・高坏・甕), 須恵器(坏・蓋), 土製品(球状土錘・紡錘車), 石製模造品(勾玉・双孔円板)	
		奈良・平安時代	壘穴住居跡 6軒	土師器(坏・高台付坏), 須恵器(坏・蓋・甕)	
	土坑群	中世	壘穴状遺構 3基 土坑 8基 土塚 1条	土師質土器(皿・外耳鍋) 陶器(碗・香炉)	
			近世	土坑 2基	
その他	時期不明	壘穴住居跡 9軒 壘穴状遺構 1基 土坑 50基 溝跡 15条	陶磁器, 石製品(砥石・石臼), 不明金属製品		

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
図版目次	
表目次	
写真図版目次	
付図目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 西平遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序の検討	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
(1) 竪穴住居跡	10
2 弥生時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 土 坑	33
3 古墳時代の遺構と遺物	34
(1) 竪穴住居跡	34
(2) 土 坑	164
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	166
(1) 竪穴住居跡	166
(2) 土 坑	212
5 中世の遺構と遺物	214
(1) 地下式墓	214
(2) 方形竪穴状遺構	215
(3) 溝 跡	230
(4) 土 坑	232

(5) 道路状遺構	236
6 時期不明の遺構と遺物	237
(1) 竪穴住居跡	237
(2) 溝 跡	252
(3) 土 坑	260
(4) その他の土坑	264
(5) 道路跡遺構	273
7 遺構外出上遺物	279
第4節 ま と め	284
付 章	288

— 下 卷 —

第4章 五安遺跡	293
第1節 遺跡の概要	293
第2節 基本層序の検討	293
第3節 遺構と遺物	294
1 古墳時代の遺構と遺物	294
(1) 竪穴住居跡	294
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	304
(1) 竪穴住居跡	304
3 中世の遺構と遺物	315
(1) 竪穴状遺構	315
(2) 土 坑	318
(3) 土 壘	323
4 近世の遺構と遺物	324
(1) 土 坑	324
5 時期不明の遺構と遺物	326
(1) 竪穴住居跡	326
(2) 竪穴状遺構	334
(3) 土 坑	335
(4) その他の土坑	343
(5) 溝 跡	348
6 遺構外出上遺物	356
第4節 ま と め	363

# 插图目次

—上 卷—

第 1 图	西平·五安遗址周边遗址分布图	第 35 图	第 9 号住居跡出土遺物実測図(1)	4	42
第 2 图	西平遗址调查区剖面	第 36 图	第 9 号住居跡出土遺物実測図(2)	43	43
第 3 图	五安遗址调查区剖面	第 37 图	第 10 号住居跡実測図	44	44
第 4 图	西平遗址基本土層図	第 38 图	第 10 号住居跡出土遺物実測図(1)	45	45
第 5 图	第 106 号住居跡実測図	第 39 图	第 10 号住居跡出土遺物実測図(2)	46	46
第 6 图	第 106 号住居跡出土遺物実測図	第 40 图	第 13 号住居跡実測図	49	49
第 7 图	第 3 号住居跡実測図	第 41 图	第 13 号住居跡出土遺物実測図(1)	50	50
第 8 图	第 3 号住居跡出土遺物実測図	第 42 图	第 13 号住居跡出土遺物実測図(2)	51	51
第 9 图	第 14 号住居跡実測図	第 43 图	第 13 号住居跡出土遺物実測図(3)	52	52
第 10 图	第 14 号住居跡出土遺物実測図	第 44 图	第 2 号住居跡実測図	55	55
第 11 图	第 37 号住居跡実測図	第 45 图	第 2 号住居跡出土遺物実測図	56	56
第 12 图	第 37 号住居跡出土遺物実測図	第 46 图	第 4 号住居跡実測図	57	57
第 13 图	第 41 号住居跡実測図(1)	第 47 图	第 4 号住居跡出土遺物実測図	58	58
第 14 图	第 41 号住居跡実測図(2)	第 48 图	第 11 号住居跡実測図(1)	60	60
第 15 图	第 41 号住居跡出土遺物実測図(1)	第 49 图	第 11 号住居跡実測図(2)	61	61
第 16 图	第 41 号住居跡出土遺物実測図(2)	第 50 图	第 11 号住居跡出土遺物実測図(1)	62	62
第 17 图	第 67 号住居跡実測図(1)	第 51 图	第 11 号住居跡出土遺物実測図(2)	63	63
第 18 图	第 67 号住居跡実測図(2)	第 52 图	第 11 号住居跡出土遺物実測図(3)	64	64
第 19 图	第 67 号住居跡出土遺物実測図	第 53 图	第 11 号住居跡出土遺物実測図(4)	65	65
第 20 图	第 91 号住居跡実測図	第 54 图	第 11 号住居跡出土遺物実測図(5)	66	66
第 21 图	第 91 号住居跡出土遺物実測図	第 55 图	第 15 号住居跡実測図	69	69
第 22 图	第 97 号住居跡実測図(1)	第 56 图	第 15 号住居跡出土遺物実測図	69	69
第 23 图	第 97 号住居跡実測図(2)	第 57 图	第 18 号住居跡実測図	71	71
第 24 图	第 97 号住居跡出土遺物実測図	第 58 图	第 18 号住居跡出土遺物実測図(1)	72	72
第 25 图	第 99 号住居跡実測図	第 59 图	第 18 号住居跡出土遺物実測図(2)	73	73
第 26 图	第 99 号住居跡出土遺物実測図	第 60 图	第 19 号住居跡実測図	75	75
第 27 图	第 6 号土坑実測図	第 61 图	第 19 号住居跡出土遺物実測図(1)	76	76
第 28 图	第 6 号土坑出土遺物実測図	第 62 图	第 19 号住居跡出土遺物実測図(2)	77	77
第 29 图	第 6 号住居跡実測図	第 63 图	第 20 号住居跡実測図	78	78
第 30 图	第 6 号住居跡出土遺物実測図	第 64 图	第 20 号住居跡出土遺物実測図	79	79
第 31 图	第 8 号住居跡実測図	第 65 图	第 21 号住居跡実測図	81	81
第 32 图	第 8 号住居跡出土遺物実測図	第 66 图	第 21 号住居跡出土遺物実測図	81	81
第 33 图	第 9 号住居跡実測図(1)	第 67 图	第 22 号住居跡実測図	83	83
第 34 图	第 9 号住居跡実測図(2)	第 68 图	第 22 号住居跡出土遺物実測図	84	84

第 69 图	第23号住居跡実測図	85	第 107 图	第55号住居跡出土遺物実測図	136
第 70 图	第23号住居跡出土遺物実測図	86	第 108 图	第56号住居跡実測図	138
第 71 图	第24号住居跡実測図	89	第 109 图	第56号住居跡出土遺物実測図	139
第 72 图	第24号住居跡出土遺物実測図	90	第 110 图	第62号住居跡実測図	141
第 73 图	第25号住居跡実測図	91	第 111 图	第62号住居跡出土遺物実測図	142
第 74 图	第25号住居跡出土遺物実測図	91	第 112 图	第64号住居跡実測図	144
第 75 图	第27号住居跡実測図	93	第 113 图	第64号住居跡出土遺物実測図	145
第 76 图	第27号住居跡出土遺物実測図	94	第 114 图	第69号住居跡実測図	147
第 77 图	第28号住居跡実測図(1)	95	第 115 图	第69号住居跡出土遺物実測図(1)	148
第 78 图	第28号住居跡実測図(2)	96	第 116 图	第69号住居跡出土遺物実測図(2)	149
第 79 图	第28号住居跡出土遺物実測図(1)	97	第 117 图	第77号住居跡実測図	151
第 80 图	第28号住居跡出土遺物実測図(2)	98	第 118 图	第77号住居跡出土遺物実測図	152
第 81 图	第29号住居跡実測図	101	第 119 图	第82号住居跡実測図	153
第 82 图	第29号住居跡出土遺物実測図	102	第 120 图	第82号住居跡出土遺物実測図	154
第 83 图	第32号住居跡実測図	104	第 121 图	第85号住居跡実測図	155
第 84 图	第32号住居跡出土遺物実測図	105	第 122 图	第85号住居跡出土遺物実測図	156
第 85 图	第33号住居跡実測図	106	第 123 图	第88号住居跡実測図	158
第 86 图	第33号住居跡出土遺物実測図	107	第 124 图	第88号住居跡出土遺物実測図	159
第 87 图	第35号住居跡実測図	108	第 125 图	第89号住居跡実測図	160
第 88 图	第35号住居跡出土遺物実測図	108	第 126 图	第89号住居跡出土遺物実測図	160
第 89 图	第42号住居跡実測図	110	第 127 图	第92号住居跡実測図	161
第 90 图	第42号住居跡出土遺物実測図	111	第 128 图	第92号住居跡出土遺物実測図	162
第 91 图	第43号住居跡実測図	112	第 129 图	第100号住居跡実測図	163
第 92 图	第43号住居跡出土遺物実測図	112	第 130 图	第100号住居跡出土遺物実測図	163
第 93 图	第46号住居跡実測図	114	第 131 图	第29号土坑・出土遺物実測図	165
第 94 图	第46号住居跡出土遺物実測図	115	第 132 图	第 5 号住居跡実測図	166
第 95 图	第50号住居跡実測図	116	第 133 图	第 5 号住居跡出土遺物実測図	166
第 96 图	第50号住居跡出土遺物実測図	117	第 134 图	第17号住居跡実測図	167
第 97 图	第51号住居跡実測図(1)	120	第 135 图	第17号住居跡出土遺物実測図	167
第 98 图	第51号住居跡実測図(2)	121	第 136 图	第31号住居跡実測図	169
第 99 图	第51号住居跡出土遺物実測図(1)	122	第 137 图	第341号住居跡出土遺物実測図	170
第 100 图	第51号住居跡出土遺物実測図(2)	123	第 138 图	第34号住居跡実測図	171
第 101 图	第52号住居跡実測図	126	第 139 图	第34号住居跡出土遺物実測図	171
第 102 图	第52号住居跡出土遺物実測図(1)	127	第 140 图	第36号住居跡実測図	172
第 103 图	第52号住居跡出土遺物実測図(2)	128	第 141 图	第36号住居跡出土遺物実測図	172
第 104 图	第53号住居跡実測図	131	第 142 图	第48号住居跡実測図	174
第 105 图	第53号住居跡出土遺物実測図	132	第 143 图	第48号住居跡出土遺物実測図	175
第 106 图	第55号住居跡実測図	135	第 144 图	第54号住居跡実測図	178

第 145 图	第54号住居跡出土遺物実測図	178	第 182 图	第 4 号方形竪穴状遺構実測図	218
第 146 图	第57号住居跡実測図	180	第 183 图	第 5 号方形竪穴状遺構・出土遺物 実測図	219
第 147 图	第57号住居跡出土遺物実測図	181	第 184 图	第 6・10・11号方形竪穴状遺構実測図	220
第 148 图	第59号住居跡実測図	183	第 185 图	第 7・8号方形竪穴状遺構実測図	221
第 149 图	第59号住居跡出土遺物実測図	184	第 186 图	第 9 号方形竪穴状遺構実測図	222
第 150 图	第65号住居跡実測図	186	第 187 图	第13号方形竪穴状遺構実測図	224
第 151 图	第65号住居跡出土遺物実測図	186	第 188 图	第14号方形竪穴状遺構・出土遺物 実測図	225
第 152 图	第66号住居跡実測図	187	第 189 图	第15・16号方形竪穴状遺構実測図	226
第 153 图	第66号住居跡出土遺物実測図	187	第 190 图	第17号方形竪穴状遺構実測図	228
第 154 图	第68号住居跡実測図	189	第 191 图	第18号方形竪穴状遺構実測図	228
第 155 图	第68号住居跡出土遺物実測図	190	第 192 图	第19・21号方形竪穴状遺構実測図	229
第 156 图	第70号住居跡実測図	191	第 193 图	第20号方形竪穴状遺構実測図	230
第 157 图	第70号住居跡出土遺物実測図	191	第 194 图	第 8 号溝跡・出土遺物実測図	231
第 158 图	第79号住居跡実測図	193	第 195 图	第31号上坑実測図	232
第 159 图	第79号住居跡出土遺物実測図	193	第 196 图	第35号上坑実測図	233
第 160 图	第81号住居跡実測図	194	第 197 图	第44・50号土坑実測図	233
第 161 图	第81号住居跡出土遺物実測図	195	第 198 图	第 5・53・54・61号上坑実測図	234
第 162 图	第83号住居跡実測図	196	第 199 图	第 1 号道路状遺構上層断面実測図	236
第 163 图	第83号住居跡出土遺物実測図	196	第 200 图	第 1 号住居跡実測図	237
第 164 图	第87号住居跡実測図	198	第 201 图	第 1 号住居跡出土遺物実測図	238
第 165 图	第87号住居跡出土遺物実測図	198	第 202 图	第 7 号住居跡実測図	238
第 166 图	第93号住居跡実測図(1)	200	第 203 图	第12号住居跡実測図	239
第 167 图	第93号住居跡実測図(2)	201	第 204 图	第16号住居跡実測図	241
第 168 图	第93号住居跡出土遺物実測図(1)	202	第 205 图	第38号住居跡実測図	241
第 169 图	第93号住居跡出土遺物実測図(2)	203	第 206 图	第38号住居跡出土遺物実測図	241
第 170 图	第94号住居跡実測図	206	第 207 图	第40号住居跡実測図	242
第 171 图	第94号住居跡出土遺物実測図	207	第 208 图	第44号住居跡実測図	243
第 172 图	第98号住居跡実測図	208	第 209 图	第49号住居跡実測図	244
第 173 图	第98号住居跡出土遺物実測図	209	第 210 图	第60号住居跡実測図	244
第 174 图	第105号住居跡実測図	210	第 211 图	第60号住居跡出土遺物実測図	245
第 175 图	第105号住居跡出土遺物実測図	210	第 212 图	第78号住居跡実測図	245
第 176 图	第117号土坑・出土遺物実測図	212	第 213 图	第78号住居跡出土遺物実測図	246
第 177 图	第121号土坑・出土遺物実測図	213	第 214 图	第80号住居跡実測図	246
第 178 图	第 1 号地下式竪穴実測図	214	第 215 图	第95号住居跡実測図	247
第 179 图	第 1 号方形竪穴状遺構・出土遺物 実測図	216	第 216 图	第96号住居跡実測図	248
第 180 图	第 2・12号方形竪穴状遺構実測図	216			
第 181 图	第 3 号方形竪穴状遺構実測図	217			

第 217 図	第96号住居跡出土遺物実測図	248
第 218 図	第101号住居跡実測図	249
第 219 図	第102号住居跡実測図	251
第 220 図	第102号住居跡出土遺物実測図	251
第 221 図	第107号住居跡実測図	252
第 222 図	第 1号溝跡土層断面・出土遺物 実測図	253
第 223 図	第 4号溝跡土層断面実測図	255
第 224 図	第 5号溝跡・出土遺物実測図	256
第 225 図	第 6号溝跡土層断面実測図	257
第 226 図	第 7号溝跡土層断面実測図	258
第 227 図	第10号溝跡・出土遺物実測図	258
第 228 図	第11号溝跡・出土遺物実測図	259
第 229 図	第12号溝跡土層断面実測図	260
第 230 図	第 7号土坑実測図	261
第 231 図	第 9号土坑実測図	261

第 232 図	第11号土坑実測図	262
第 233 図	第13号土坑実測図	263
第 234 図	第86号土坑・出土遺物実測図	263
第 235 図	その他の土坑実測図(1)	267
第 236 図	その他の土坑実測図(2)	268
第 237 図	その他の土坑実測図(3)	269
第 238 図	その他の土坑実測図(4)	270
第 239 図	その他の土坑実測図(5)	271
第 240 図	その他の土坑出土遺物実測図	272
第 241 図	第 3号道路状遺構土層断面実測図	273
第 242 図	遺構外出土遺物実測図(1)	281
第 243 図	遺構外出土遺物実測図(2)	282
第 244 図	遺構外出土遺物実測図(3)	283
第 245 図	遺構外出土遺物実測図(4)	283
第 246 図	中世墓域土坑群	287

— 下

卷 —

五安遺跡

第 247 図	五安遺跡基本土層図	293
第 248 図	第 2号住居跡実測図	294
第 249 図	第 2号住居跡出土遺物実測図	295
第 250 図	第 5号住居跡実測図	296
第 251 図	第 5号住居跡出土遺物実測図	297
第 252 図	第14号住居跡実測図	298
第 253 図	第14号住居跡出土遺物実測図	299
第 254 図	第21号住居跡実測図	300
第 255 図	第21号住居跡出土遺物実測図	301
第 256 図	第25号住居跡実測図	302
第 257 図	第25号住居跡出土遺物実測図	303
第 258 図	第20号住居跡実測図	304
第 259 図	第20号住居跡出土遺物実測図	305
第 260 図	第 3号住居跡実測図	306
第 261 図	第 3号住居跡出土遺物実測図	307
第 262 図	第 4号住居跡実測図	309
第 263 図	第 4号住居跡出土遺物実測図	309
第 264 図	第 6号住居跡実測図	310
第 265 図	第 6号住居跡出土遺物実測図	310

第 266 図	第 9号住居跡実測図	311
第 267 図	第 9号住居跡出土遺物実測図	312
第 268 図	第18号住居跡実測図	313
第 269 図	第18号住居跡出土遺物実測図	313
第 270 図	第 1号竪穴状遺構・出土遺物 実測図	315
第 271 図	第 2号竪穴状遺構実測図	316
第 272 図	第 2号竪穴状遺構出土遺物実測図	316
第 273 図	第 4号竪穴状遺構実測図	317
第 274 図	第 4号竪穴状遺構出土遺物実測図	318
第 275 図	第 1・2号土坑実測図	318
第 276 図	第 3号土坑実測図	319
第 277 図	第 4号土坑実測図	320
第 278 図	第 5号土坑実測図	321
第 279 図	第 6号土坑実測図	322
第 280 図	第60号土坑実測図	322
第 281 図	第28号土坑・出土遺物実測図	323
第 282 図	第 1号土層跡実測図	323
第 283 図	第30号土坑・出土遺物実測図	324
第 284 図	第36号土坑・出土遺物実測図	325

第 285 図	第 7 号住居跡実測図	326	第 302 図	第 22 号土坑実測図	338
第 286 図	第 10 号住居跡実測図	327	第 303 図	第 23 号土坑実測図	339
第 287 図	第 11 号住居跡実測図	328	第 304 図	第 32 号土坑実測図	339
第 288 図	第 11 号住居跡出土遺物実測図	328	第 305 図	第 32 号土坑出土遺物実測図	340
第 289 図	第 12 号住居跡実測図	329	第 306 図	第 37 号土坑・出土遺物実測図	341
第 290 図	第 13 号住居跡実測図	330	第 307 図	第 49 号土坑・第 50 号土坑・第 50 号土坑 出土遺物実測図	341
第 291 図	第 15 号住居跡実測図	330	第 308 図	第 55 号土坑実測図	342
第 292 図	第 16 号住居跡実測図	332	第 309 図	その他の土坑実測図(1)	343
第 293 図	第 16 号住居跡出土遺物実測図	332	第 310 図	その他の土坑実測図(2)	344
第 294 図	第 19 号住居跡実測図	333	第 311 図	その他の土坑実測図(3)	345
第 295 図	第 22 号住居跡実測図	334	第 312 図	第 1～12 号溝跡実測図	354
第 296 図	第 3 号竪穴状遺構実測図	334	第 313 図	第 13～15 号溝跡実測図	355
第 297 図	第 3 号竪穴状遺構出土遺物実測図	335	第 314 図	遺構外出土遺物実測図(1)	356
第 298 図	第 14 号土坑実測図	335	第 315 図	遺構外出土遺物実測図(2)	357
第 299 図	第 15 号土坑・出土遺物実測図	336	第 316 図	遺構外出土遺物実測図(3)	358
第 300 図	第 16 号土坑実測図	337			
第 301 図	第 21 号土坑実測図	338			

## 表 目 次

— 上		卷 —			
表 1	西平・五安遺跡周辺遺跡一覧表	5	表 4	西平遺跡方形竪穴状遺構一覧表	276
表 2	西平遺跡住居跡一覧表	274	表 5	西平遺跡土坑一覧表	277
表 3	西平遺跡溝跡一覧表	276			
— 下		卷 —			
表 6	五安遺跡住居跡一覧表	360	表 8	五安遺跡土坑一覧表	361
表 7	五安遺跡竪穴状遺構一覧表	360	表 9	五安遺跡溝跡一覧表	362

## 付 図

— 下		卷 —			
付図 1	西平遺跡遺構全体図		付図 2	五安遺跡遺構全体図	



## 写真図版目次

- 西平遺跡
- P L 1 西平遺跡南西部遺構確認状況(北から),  
西平遺跡南西部遺構確認状況(南から)
- P L 2 西平遺跡南西部完掘状況(北から), 西平  
遺跡中央部完掘状況(南から)
- P L 3 西平遺跡中央部完掘状況(南から), 西平  
遺跡中世幕域完掘状況(東から)
- P L 4 第106号住居跡, 第106号住居跡遺物出土状  
況
- P L 5 第3・4号住居跡, 第2号溝跡, 第3・4  
号住居跡遺物出土状況, 第14号住居跡・第  
1号溝跡
- P L 6 第14号住居跡遺物出土状況, 第28・29・36・  
37号住居跡, 第37号住居跡遺物出土状況
- P L 7 第37号住居跡遺物出土状況, 第23・41号住  
居跡, 第1号溝跡, 第23・41号住居跡遺物  
出土状況
- P L 8 第41号住居跡遺物出土状況
- P L 9 第67号住居跡, 第67号住居跡遺物出土状況,  
第91・92号住居跡
- P L 10 第91・92号住居跡遺物出土状況, 第91号住  
居跡炉, 第97号住居跡
- P L 11 第97号住居跡遺物出土状況, 第97号住居跡  
炉
- P L 12 第99号住居跡, 第99号住居跡遺物出土状況,  
第6号土坑
- P L 13 第5・6号住居跡, 第8・33号住居跡, 第  
6号土坑, 第9号住居跡・第7号土坑
- P L 14 第9・10・11・13・17号住居跡, 第9号住  
居跡遺物出土状況, 第11・13号住居跡
- P L 15 第11・13号住居跡遺物出土状況, 第13号住  
居跡遺物出土状況, 第13号住居跡遺物遺物出  
土状況
- P L 16 第1・2号住居跡, 第1・2号住居跡遺物  
出土状況, 第4号住居跡遺物出土状況
- P L 17 第11号住居跡, 第11号住居跡遺物出土状況
- P L 18 第15号住居跡遺物出土状況・第1号溝跡,  
第18号住居跡, 第18号住居跡遺物出土状況
- P L 19 第19号住居跡, 第19号住居跡遺物出土状況
- P L 20 第20号住居跡・第1号溝跡, 第20・21・22  
号住居跡, 第1号溝跡遺物出土状況, 第21  
号住居跡
- P L 21 第20・22・42号住居跡, 第1号溝跡, 第23・41  
号住居跡, 第23・41号住居跡遺物出土状況
- P L 22 第24号住居跡, 第25号住居跡遺物出土状況,  
第27号住居跡,
- P L 23 第28・37号住居跡, 第28・29・31・32・36・  
37号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡竈
- P L 24 第28・29・32・36・37号住居跡, 第28・29・  
31・36・37号住居跡, 第29号住居跡, 第121  
号土坑遺物出土状況
- P L 25 第33号住居跡, 第6号土坑, 第2・35号住  
居跡, 第22・42号住居跡
- P L 26 第24号住居跡遺物出土状況, 第43号住居跡,  
第46号住居跡, 第46号住居跡遺物出土状況
- P L 27 第50号住居跡遺物出土状況, 第51号住居跡,  
第51号住居跡遺物出土状況
- P L 28 第52号住居跡, 第52号住居跡遺物出土状況
- P L 29 第51・52・53・56号住居跡, 第117号土坑,  
第53号住居跡遺物出土状況, 第55・105号  
住居跡, 第111・114号土坑
- P L 30 第56号住居跡, 第56号住居跡遺物出土状況,  
第56号住居跡竈
- P L 31 第62号住居跡遺物出土状況, 第64・65・66  
号住居跡, 第109号土坑, 第64号住居跡遺  
物出土状況
- P L 32 第69・100号住居跡, 第6・7号溝跡, 第  
77号住居跡, 第75号土坑, 第77号住居跡遺  
物出土状況
- P L 33 第82号住居跡, 第82号住居跡遺物出土状況,

- 第85号住居跡, 第87号上坑
- P L 34 第83号住居跡遺物出土狀況, 第88号住居跡, 第88号住居跡遺物出土狀況
- P L 35 第89号住居跡遺物出土狀況, 第91·92号住居跡, 第29号上坑遺物出土狀況
- P L 36 第5·12号住居跡, 第9·17·33号住居跡, 第31号住居跡
- P L 37 第34号住居跡遺物出土狀況, 第28·36号住居跡, 第36·37号住居跡遺物出土狀況
- P L 38 第48号住居跡, 第10号土坑, 第48号住居跡遺物出土狀況, 第54号住居跡遺物出土狀況
- P L 39 第57号住居跡, 第57号住居跡遺物出土狀況, 第59号住居跡
- P L 40 第64·65·66号住居跡, 第64·65·66号住居跡遺物出土狀況, 第64~67号住居跡遺物出土狀況
- P L 41 第50·51·52·68号住居跡, 第70号住居跡遺物出土狀況, 第79号住居跡
- P L 42 第81号住居跡遺物出土狀況, 第83号住居跡遺物出土狀況, 第87号住居跡遺物出土狀況, 第5号方形竪穴状遺構 (SK-38)
- P L 43 第93号住居跡, 第93号住居跡遺物出土狀況, 第94号住居跡
- P L 44 第98号住居跡, 第98号住居跡遺物出土狀況, 第105号住居跡遺物出土狀況
- P L 45 第1号地下式壇 (SK-75), 第3号方形竪穴状遺構 (SK-36), 第4号方形竪穴状遺構 (SK-37) 遺物出土狀況
- P L 46 第9号方形竪穴状遺構 (SK-43), 第49号土坑, 第10·17号方形竪穴状遺構 (SK-46·67), 第64号土坑, 第18号方形竪穴状遺構 (SK-68) 遺物出土狀況
- P L 47 第1·2号住居跡, 第7号住居跡竈, 第16·21号住居跡
- P L 48 第95号住居跡, 第96号住居跡, 第102号住居跡
- P L 49 第106号住居跡出土遺物, 遺構外出土遺物 (繩土器)
- P L 50 第3·14·37号住居跡出土遺物
- P L 51 第41号住居跡出土遺物(1)
- P L 52 第41号住居跡出土遺物(2)
- P L 53 第67·91号住居跡出土遺物
- P L 54 第97号住居跡出土遺物
- P L 55 第99号住居跡出土遺物
- P L 56 第99号住居跡·第6号上坑出土遺物
- P L 57 第6·8·9·10号住居跡出土遺物
- P L 58 第10·13号住居跡出土遺物
- P L 59 第13号住居跡出土遺物
- P L 60 第4·11·13号住居跡出土遺物
- P L 61 第11号住居跡出土遺物
- P L 62 第11·15·18·19号住居跡出土遺物
- P L 63 第19·20·22·23号住居跡出土遺物
- P L 64 第24·25·27·28号住居跡出土遺物
- P L 65 第29·32·33·35·42号住居跡出土遺物
- P L 66 第43·46·50·51号住居跡出土遺物
- P L 67 第51·52号住居跡出土遺物
- P L 68 第53·55·56号住居跡出土遺物
- P L 69 第62·69号住居跡出土遺物
- P L 70 第69·77·82·85·88·89号住居跡出土遺物
- P L 71 第17·31·34·36·48·54·57·92·100号住居跡出土遺物, 第29号土坑出土遺物
- P L 72 第59·65·66·68·70·79·81·83·87·93号住居跡出土遺物
- P L 73 第93·94号住居跡出土遺物
- P L 74 第96·98·105号住居跡出土遺物, 第5·117·121号土坑出土遺物, 遺構外出土遺物
- P L 75 第2·4·9·11·18·20号住居跡出土遺物, 遺構外出土遺物
- P L 76 第22~25·28·29·32·50·51号住居跡出土遺物
- P L 77 第48·51~53·55~57·62·69·77·88·89号住居跡出土遺物, 第29号上坑出土遺物
- P L 78 第1·2·11·23·50·57·59·87·93号住居跡出土遺物, 第14号方形竪穴状遺構 (SK-59) 出土遺物, 第1·5号溝跡出土遺物, 遺構外出土遺物

- P L 79 第10·11·13·15·19·23·28·32·51·52·55·62号住居跡出土遺物
- P L 80 第31·48·62·66·69·88·102号住居跡出土遺物, 第12·29·49号土坑出土遺物, 第1·5号溝跡出土遺物, 遺構外出土遺物
- P L 81 第9·10·51·57·59·62·81·93号住居跡出土遺物, 第1号方形竪穴狀遺構(SK-33)出土遺物, 第1·8号溝跡出土遺物, 遺構外出土遺物
- 五安遺跡
- P L 82 五安遺跡平成8年度調査区北部完掘狀況, 五安遺跡平成10年度調査区南西部完掘狀況
- P L 83 第2号住居跡, 第4号土坑, 第5号住居跡遺物出土狀況, 第13·14号住居跡
- P L 84 第14号住居跡遺物出土狀況, 第21号住居跡
- P L 85 第21号住居跡遺物出土狀況, 第21号住居跡竈, 第25号住居跡
- P L 86 第25号住居跡遺物出土狀況, 第20号住居跡, 第20号住居跡遺物出土狀況
- P L 87 第20号住居跡竈, 第3·12号住居跡, 第5·6号土坑, 第3号住居跡遺物出土狀況
- P L 88 第3号住居跡遺物出土狀況, 第3号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 89 第4号住居跡, 第13号土坑, 第6号住居跡, 第9号住居跡遺物出土狀況
- P L 90 第9号住居跡遺物出土狀況, 第18号住居跡, 第18号住居跡遺物出土狀況
- P L 91 第18号住居跡竈·棚狀施設, 第1号竪穴狀遺構, 第2号竪穴狀遺構
- P L 92 第2号竪穴狀遺構遺物出土狀況, 第4号竪穴狀遺構, 第4号竪穴狀遺構遺物出土狀況
- P L 93 第4号竪穴狀遺構遺物出土狀況, 第1·2号土坑, 第3号土坑
- P L 94 第4号土坑, 第5·6号土坑, 第60号土坑
- P L 95 第28号土坑, 第1号土塚, 第30号土坑
- P L 96 第36号土坑, 第7号住居跡, 第11号住居跡
- P L 97 第15号住居跡, 第15号住居跡竈, 第16号住居跡
- P L 98 第19号住居跡, 第22号住居跡, 第3号竪穴狀遺構
- P L 99 第3号竪穴狀遺構遺物出土狀況, 第14号土坑, 第15号土坑遺物出土狀況
- P L 100 第16·17号土坑, 第22号土坑, 第23号土坑
- P L 101 第32号土坑, 第37号土坑, 第37号土坑遺物出土狀況
- P L 102 第49·50号土坑, 第49·50号土坑燒土·炭化材出土狀況, 第55号土坑遺物出土狀況
- P L 103 第55号土坑土層断面, 第18号土坑, 第19号土坑
- P L 104 第20号土坑, 第24号土坑, 第26号土坑
- P L 105 第27号土坑, 第29号土坑, 第31号土坑
- P L 106 第33号土坑, 第34号土坑, 第35号土坑
- P L 107 第38号土坑, 第40号土坑, 第41号土坑
- P L 108 第42号土坑, 第43号土坑, 第45号土坑
- P L 109 第46号土坑, 第47号土坑, 第48号土坑
- P L 110 第51号土坑, 第52号土坑, 第53号土坑
- P L 111 第54号土坑, 第56号土坑, 第57·58·59号土坑
- P L 112 第1号溝跡, 第4号溝跡, 第5号溝跡
- P L 113 第6号溝跡, 第7号溝跡, 第7号溝跡遺物出土狀況
- P L 114 第9号溝跡, 第10·11号溝跡, 第13号溝跡
- P L 115 第12号溝跡, 第14号溝跡, 第15号溝跡
- P L 116 第2·3号住居跡出土遺物
- P L 117 第3·4·5·6·9·11号住居跡出土遺物
- P L 118 第14号住居跡出土遺物
- P L 119 第16·18·20号住居跡出土遺物
- P L 120 第21·25号住居跡出土遺物, 第1·2·3号竪穴狀遺構出土遺物
- P L 121 第4号竪穴狀遺構出土遺物, 第15·28·30·32·36·37·50号土坑出土遺物
- P L 122 遺構外出土遺物(1)
- P L 123 遺構外出土遺物(2)
- P L 124 遺構外出土遺物(3)

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

鹿嶋市と茨城県は、鹿嶋市津賀地区において国補緊急地方道路整備事業を進めている。

平成5年9月16日、茨城県潮来土木事務所は、大野村（平成7年9月、鹿島町と合併して鹿嶋市となった。）教育委員会あてに、一般県道荒井麻生線（大野村津賀地区）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。それを受けて、大野村教育委員会は、平成6年11月16日、茨城県教育委員会あてに、一般県道荒井麻生線建設事業に伴う埋蔵文化財の所在およびその取扱いについて照会した。茨城県教育委員会は、11月17日、事業地内の現地踏査を行い、平成7年2月20日、大野村教育委員会あてに、事業地内に西平遺跡及び五安遺跡が所在する旨を茨城県潮来土木事務所に回答するよう通知した。回答を受けた茨城県土木部は、3月6日、茨城県教育委員会あてに、事業地内に所在する西平遺跡（1,736㎡）と五安遺跡（1,057㎡）の取扱いについて協議した。これに対し、茨城県教育委員会は、3月9日、記録保存する旨を回答し、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。茨城県土木部は、7月24日、茨城県教育委員会あてに、発掘調査計画の変更について協議した。それを受けて、茨城県教育委員会は、7月26日、財団法人茨城県教育財団と発掘調査計画の変更について協議した。その結果、茨城県教育委員会は、8月8日、茨城県土木部あてに、両遺跡の調査を取りやめることと、未調査地の取扱いについては別途協議する旨を回答した。

平成8年3月4日、茨城県土木部は、茨城県教育委員会あてに、両遺跡の未調査地の取扱いについて協議した。その結果、茨城県教育委員会は、3月11日、記録保存する旨を回答し、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。発掘調査期間は平成8年7月1日から9月30日となった。財団法人茨城県教育財団が調査を開始したところ、確認された遺構の数が予想より多く、期間内に調査を終了させることが困難であることが判明した。それを受けて、茨城県土木部は、茨城県教育委員会と、発掘調査計画の変更について協議した。その結果、発掘調査終了時期は7月31日から8月11日と変更された。

平成10年4月1日、茨城県教育委員会は、茨城県土木部あてに、未調査地であった西平遺跡（2,480㎡）と五安遺跡（1,360㎡）を記録保存する旨を通知した。発掘調査期間は平成10年4月1日から6月30日となった。

財団法人茨城県教育財団は、調査を開始したところ確認された遺構の数が予想より多く、期間内に調査を終了させることが困難であることが判明したことから、6月9日、茨城県教育委員会あてに発掘調査計画の変更について協議した。その結果、茨城県教育委員会は、発掘調査の円滑な推進を図るために、茨城県土木部道路建設課及び茨城県潮来土木事務所と発掘調査期間の変更について協議し、6月29日、財団法人茨城県教育財団あてに、発掘調査終了時期を当初の6月30日から8月31日と変更する旨の回答をした。

## 第2節 調査経過

西平遺跡と五安遺跡の発掘調査は、平成8年7月1日から平成8年10月11日までと、平成10年4月1日から平成10年8月31日までの期間実施した。以下、調査経過の概要を月ごとに記述する。

平成8年度

- 7 月 8日に現場事務所と現場倉庫を立ち上げ、9日から室内補助員及び調査補助員を雇用した。10、11日に現場事務所への発掘器材や物品の搬入等発掘調査の準備を行い、12日から西平遺跡の樹木伐採作業を開始した。16日には五安遺跡の伐採作業も開始し、18日からは西平遺跡の、24日からは五安遺跡のトレンチ試掘を開始した。26日には両遺跡の試掘が終了し、29日から西平遺跡は重機により、五安遺跡は人力により表土除去を開始した。
- 8 月 2日に西平遺跡の重機による表土除去が終了し、五安遺跡も重機による表土除去を開始した。2日から西平遺跡の遺構確認作業を開始し、住居跡25軒、土坑10基及び溝跡6条を確認した。6日には五安遺跡の遺構確認作業を行い、住居跡7軒、土坑10基及び溝跡3条を確認した。7日から西平遺跡の遺構調査を開始した。
- 9 月 前月に引き続き西平遺跡の遺構調査を進めた。予想よりも遺構の数が多かったため、茨城県教育委員会及び茨城県と発掘調査期間の変更について協議し、10月11日までの期間延長が決まった。24日から五安遺跡の遺構調査を開始した。
- 10 月 前月に引き続き西平遺跡と五安遺跡の遺構調査を進め、2日に報道発表を実施した。4日までに両遺跡の遺構調査を終了し、5日にセスナによる航空写真撮影を実施した。7日から補足調査を行い、11日までには安全対策を含め現地調査をすべて終了した。18日に、茨城県及び鹿嶋市教育委員会に対して、発掘調査の成果の報告を実施した。

平成10年度

- 4 月 10日に現場事務所と現場倉庫を立ち上げ、13日に現場事務所への発掘器材や物品の搬入と発掘調査の準備をした。14日から室内補助員を雇用した。16日から調査補助員を雇用し、五安遺跡内の清掃を実施した。17日から五安遺跡の、22日からは西平遺跡のトレンチ試掘を開始した。23日に五安遺跡の試掘が終了し、人力により表土除去を開始した。
- 5 月 8日に五安遺跡の重機による表土除去と遺構確認作業を開始した。13日からは西平遺跡の重機による表土除去と並行して、五安遺跡の遺構確認作業を行い、住居跡5軒、土坑1基及び溝跡3条を確認した。15日からは西平遺跡の遺構確認作業を表土除去と並行して行い、20日までに、住居跡61軒、土坑30基及び溝跡7条を確認した。予想より遺構の数が多かったため、茨城県教育委員会及び茨城県と発掘調査期間の変更について協議し、2か月間の期間延長が決まった。22日から五安遺跡の、遺構調査を開始した。27日から西平遺跡をA～C区に分け、A区の掘り込みとB区の遺構確認作業を並行して進めた。
- 6 月 前月に引き続き五安遺跡と西平遺跡の遺構調査を進めた。8日からは、西平遺跡のB区の土坑と道路跡の調査を開始した。
- 7 月 前月に引き続き西平遺跡と五安遺跡の遺構調査を進めた。13日からは、西平遺跡のB区の住居跡の調査を開始した。
- 8 月 前月に引き続き西平遺跡と五安遺跡の遺構調査を進め、7日から西平遺跡のC区の遺構調査を開始した。13日に五安遺跡の遺構調査を終了し、17日に報道発表を実施した。20日にセスナによる航空写真撮影を実施し、21日に56名の参加者を集めて現地説明会を開催した。24日に西平遺跡の遺構調査が終了し、25日から補足調査を行い、26日までに安全対策を含め現地調査をすべて終了した。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

西平遺跡と五安遺跡は、茨城県鹿嶋市津賀地区の鹿島台地縁辺部に所在する。津賀地区は鹿嶋市役所から北西に約10kmの、北浦側の鹿嶋市北端付近に位置する。鹿嶋市は、平成7年9月に遺跡の所在する旧大野村と旧鹿島町が合併して誕生したもので、鹿島台地のほぼ南側半分は鹿嶋市に含まれる。

鹿島台地は、東側の細長く南北に延びる鹿島灘沿岸低地と、西側の谷が樹枝状に入り込んでいる北浦湖岸低地に挟まれており、幅約4kmで細長い。標高39～44mの洪積台地である。台地北端は那珂川河川(付)付近である。南は鹿嶋市の粟生付近で約20mまで標高が低くなる。北浦湖岸の沖積低地との境は、急傾斜地になっており、樹枝状に入り込んだ谷底平野の傾斜は、谷頭と出口の標高差が約5mとゆるやかで、大部分の平野の出口の部分に微高地部が見られる。水系は、台地西側の北部は西北西方向に、南部は西南西方向に台地を開削している。

北浦湖岸の地形変化を見ると、縄文時代には沖積世の海進が主要谷部に及び、弥生時代には中位湖岸低地が形成され、以後、この低地に水田が開けている。また、この低地の入り組んだ地形を利用して、水運の拠点となる港がつくられている。

地層は、2.5～3mの厚さの関東ロームにおおわれており、その下に台地を構成する砂層がある。関東ロームの最下部付近には東京軽石(TP)の薄層がみられる。

両遺跡の位置は、東側と西側に谷底平野が入り込む中位砂礫段丘上であり、周囲が崖及び斜面で囲まれた平坦な地域である。西平遺跡は段丘中央部から東側の急斜面に向かって広がり、五安遺跡は南西の急斜面に面してそれぞれ立地している。遺跡のある段丘上と沖積低地に開ける水田との比高は約34mである。調査前の現況は畑・山林・雑種地である。

### 第2節 歴史的環境

西平遺跡(1)と五安遺跡(2)は、北浦に面した鹿島台地縁辺部に位置する。ここでは、両遺跡の所在する地域周辺の主な遺跡について時代ごとに記述する。

旧石器時代の遺跡は確認されていないが、志騎地区で表面採集の尖頭器が報告されている。

縄文時代の遺跡は、北浦側の台地縁辺部で早期から晩期まで確認されている。西平遺跡、武井貝塚(3)、中村貝塚(4)、原畑遺跡(5)、天津茂遺跡(6)、居合山遺跡(7)、棚木遺跡(8)、小嶋遺跡(9)、津賀沢遺跡(10)、東山遺跡(11)、本松遺跡(12)、甲頭遺跡(13)、蛸子野遺跡(14)などがある。居合山遺跡と蛸子野遺跡からは早期の田代土器が出土している。

弥生時代では中期から後期の遺跡が確認されている。西平遺跡、明地野館跡遺跡(15)、岡遺跡(16)、前野遺跡(17)、鳥山遺跡(18)、小塚遺跡、大津茂遺跡、居合山遺跡などがある。明地野館跡遺跡では3軒の住居跡が調査され、上稲吉式土器の特徴を持つ広口壺が出土した。居合山遺跡からは上稲吉式土器が出土している。岡遺跡では、遺構は確認されていないが、足洗式土器が出土している。

古墳時代になると遺跡数は増加する。縄文時代の遺跡とはほぼ同じ占地であり、西平遺跡、五安遺跡、蛸子野

遺跡、若清遺跡(19)、前野遺跡、居合山遺跡、棚木遺跡、岡遺跡、津賀沢遺跡、烏山遺跡などがある。

古墳時代前期と古墳時代中期の遺跡は少なく、古墳時代後期の遺跡では、西平遺跡、五安遺跡のほかは若清遺跡、子塚遺跡、津賀沢遺跡、居合山遺跡などで土器の散布がみられる。岡遺跡では2軒の住居跡が調査されている。

古墳は若清古墳群(20)、奈良毛古墳群(21)、前野古墳群(22)、居合山古墳群(23)、二子塚古墳群(24)、日光山古墳群(25)、橋掛古墳(26)、志々山古墳群(27)、春秋古墳群(28)、烏山古墳(29)がある。いずれも北浦側の台地上に立地し、岡遺跡周辺の海岸側の台地上では古墳は確認されていない。日光山古墳群1分墳からは人骨3体と副葬された直刀、刀子が出土した。二子塚古墳群は3基の円墳からなり、1号墳から円筒埴輪が出土した。志々山古墳群は西平遺跡から北東に約500mの台地上に位置し、18基の古墳からなる。当遺跡周辺では最大の古墳群であり、古墳時代後期のもと思われる。

奈良・平安時代の遺跡は、西平遺跡、五安遺跡、明地野館跡、前野遺跡、岡遺跡、鹿島神社北1の鳥居(30)、津賀沢遺跡がある。前野遺跡からは蔵付器が出土している。

中世になると、北浦沿岸の沖積低地に面した台地上に城がつくられた。周辺には、五安遺跡と南側で隣接する津賀城跡(31)、武井城跡(32)、立原城跡(33)などがある。いずれも小規模である。

以上のように、当遺跡の周辺地域では、縄文時代から、北浦南岸の沖積底地とそこから延びる谷底平野に面した台地縁辺部で生活が営まれた。

※文中の( )内の番号は、表1、第1図中の該当番号と同じである。

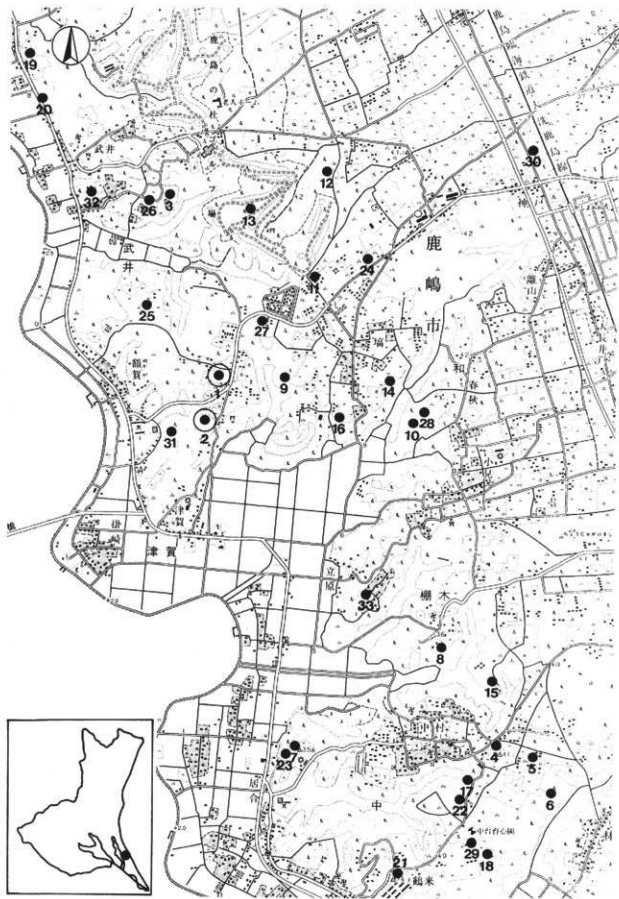
#### 参考文献

- ・鹿島町史編さん委員会『鹿島町史 第1巻』1973年
- ・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 磯浜・鉾田』1991年
- ・大野村史編さん委員会『大野村史』1983年
- ・鹿島町史編さん委員会『鹿島町史』1983年
- ・茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料=考古資料編 古墳時代』1984年
- ・茨城県立歴史館『茨城県史料=考古資料編 弥生時代』1992年
- ・茨城県立歴史館『茨城県史料=考古資料編 奈良・平安時代』1996年
- ・明地野館跡遺跡調査会『明地野館跡遺跡』大野村教育委員会 1987年
- ・岡遺跡発掘調査会『岡遺跡発掘調査報告書』大野村教育委員会 1981年

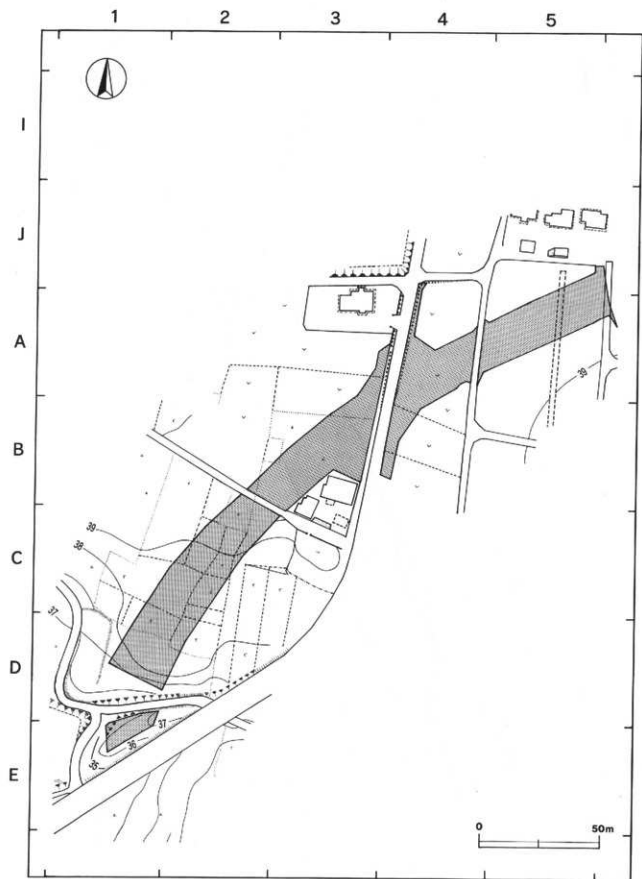
表1 西平・五安遺跡周辺遺跡一覧表

国 中 番 号	遺 跡 名	県 道 跡 番 号	時 代						国 中 番 号	遺 跡 名	県 道 跡 番 号	時 代					
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良・平安	中・近世				近・現代	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良・平安
①	西平遺跡	5094	○	○	○	○	○		18	烏山遺跡	5107				○		
②	五安遺跡					○	○	○	19	若清遺跡	5102				○		
3	武井貝塚	1199		○					20	若清古墳群	5101				○		
4	中村貝塚	1200		○					21	奈良毛古墳群	1190				○		
5	原畑遺跡	2775		○					22	前野古墳群	1191				○		
6	大津茂遺跡	5077		○	○				23	居合山古墳群	1192				○		
7	居合山遺跡	5080		○	○				24	二子塚古墳群	1193				○		
8	棚木遺跡	5081		○	○				25	日光山古墳群	1194				○		
9	小埴遺跡	5089		○	○				26	橋掛古墳	1195				○		
10	津賀沢遺跡	5093		○	○	○	○		27	志々山古墳群	3320				○		
11	垂山遺跡	5096		○		○			28	春秋古墳群	3321				○		
12	一本松遺跡	5097		○					29	烏山古墳	5106				○		
13	甲頭遺跡	5099		○			○		30	鹿島神宮北1の鳥居	5070						○
14	蛭子野遺跡	5087			○	○			31	津賀城跡	3329						○
15	明地野築跡	5079			○		○	○	32	武井城跡	5100						○
16	岡遺跡	5088			○	○	○		33	立原城跡	5083						○
17	前野遺跡	2774			○	○											

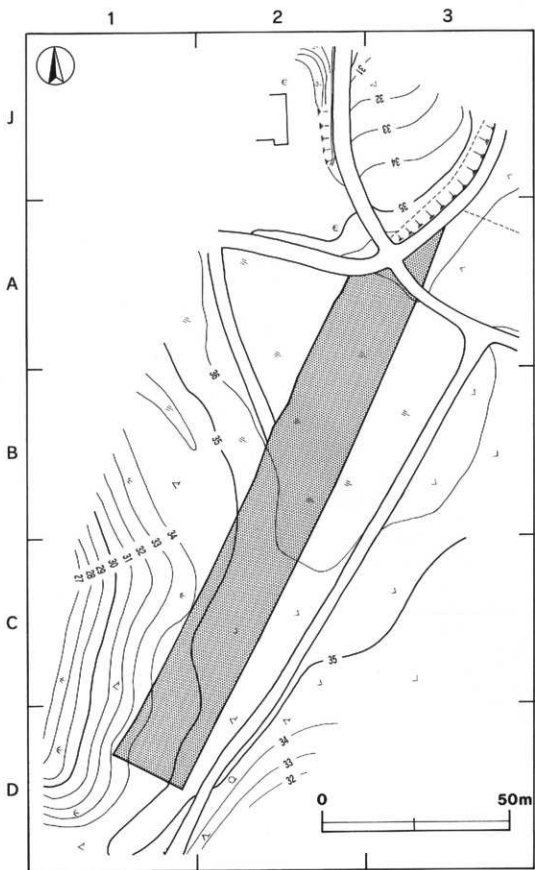




第1図 西平・五安遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 1：25000地形図 武井）



第2图 西平遗址调查区剖面图



第3图 五安遗址调查区剖面图

## 第3章 西平遺跡

### 第1節 遺跡の概要

西平遺跡は、鹿嶋市北部の標高38～39mの北浦に面した鹿島台地西縁部に所在する。現況は山林及び畑地であり、平成8年度に1,736㎡、平成10年度に2,480㎡を調査した。当遺跡は縄文時代早期及び弥生時代後期から平安時代にかけて断続的につくられた集落跡と中世の墓跡である。谷を挟んだ300mほど南西には、古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡の五安遺跡と中世の津賀城跡がある。

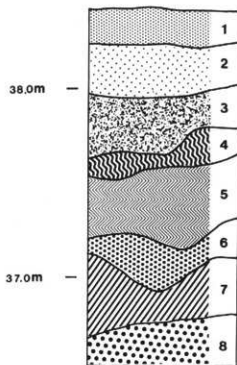
遺構は、縄文時代早期の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期の竪穴住居跡8軒、土坑1基、古墳時代の竪穴住居跡42軒、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡21軒、土坑2基、中世の方形竪穴状遺構21基、地下式墳1基、道路状遺構1条、土坑8基、溝跡1条、時期不明の竪穴住居跡16軒、土坑54基、溝跡10条及び道路状遺構1条が検出された。遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に95箱出土している。旧石器時代の剥片、縄文土器(深鉢片)、石器(石鏃・凹石・磨石)、弥生土器(広口壺)、土師器(坏・高坏・甕・埴・甕・瓶・手捏土器)、須恵器(坏・蓋・盤・甕・瓶)、土製品(勾玉・球状土錘・管状土錘・土玉)、石製模造品(双孔円板・剣形品・勾玉)、石製品(勾玉・白玉・管玉・紡錘車・砥石・硯)、鉄製品(鐵・鎌)、陶器、古銭等が出土している。

### 第2節 基本層序の検討

調査区内(D115区)にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。観察の結果は以下の通りである(第4図)。

遺構は第2層上面で確認した。

- 第1層 厚さ18～20cmの黒褐色の表土。
- 第2層 厚さ18～24cmの暗褐色のソフトローム層。
- 第3層 厚さ18～24cmの暗褐色上。ローム大・中ブロックを含む第1黒色帯(BB I)。
- 第4層 厚さ8～20cmの明褐色のハードローム層。
- 第5層 厚さ24～38cmの暗褐色土。スコリアを少量含む第2黒色帯(BB II)。
- 第6層 厚さ22～42cmの褐色土。
- 第7層 厚さ10～26cmの明褐色土。粘土小ブロックを少量含む。
- 第8層 厚さ10～26cmの褐色土。スコリアを少量含むハードローム層。



第4図 西平遺跡基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

遺構としては、竪穴住居跡1軒を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第106号住居跡 (第5・6図)

位置 調査区域の中央部、C2a5区。

規模と平面形 西北部は調査区域外である。長軸2.40m、短軸(1.80)mで、隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-42°-E

壁 壁高は15~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。特に硬化面は確認できなかった。

ピット 1か所。P1は、径25cmの円形で、深さは25cmである。性格は不明である。

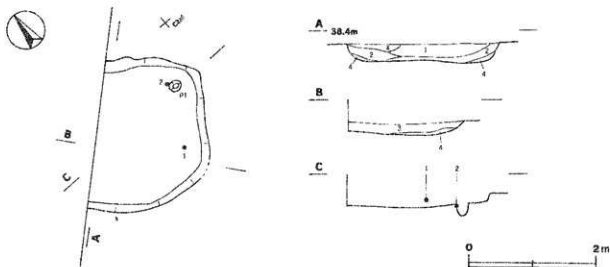
覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

##### 土層構成

- 1 灰 褐色 rome小ブロック・粒子微量
- 2 暗 褐色 rome粒子多量
- 3 黒 褐色 rome粒子微量 4層より色調が明るい。
- 4 灰 褐色 rome粒子微量

遺物 縄文土器片10点と礫6点が出土している。第6図1は尖底土器の胴部片で、南部の覆土下層から出土している。2は尖底土器の底部片で、P1横の床面から出土している。1の尖底土器と礫は、火熱を受けた痕が認められる。

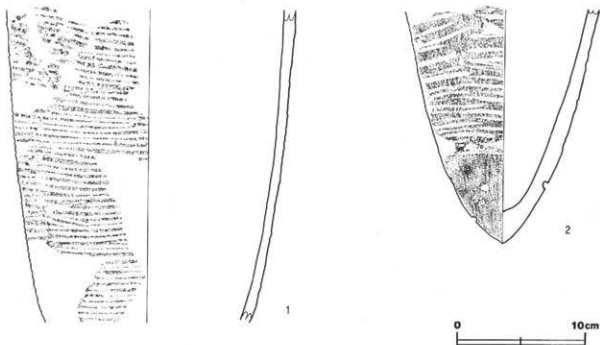
所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代早期(三戸式期)と考えられる。



第5図 第106号住居跡実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	尖底土器 縄文土器	B (24.9)	胴部片。横位の沈線が施されている。	砂粒・石英・雲母・ スコリア 橙色普通	P 2.5% PL49 南部覆土下層 (三戸式期)
2	尖底土器 縄文土器	B (18.5)	底部から胴部の破片。尖底である。横位の沈線が施されている。	砂粒・石英・長石・ スコリア 橙色普通	P 1.5% PL49 P 1 横床面 (三戸式期)



第6図 第106号住居跡出土遺物実測図

## 2 弥生時代の遺構と遺物

遺構としては、竪穴住居跡8軒と土坑1基を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第3号住居跡 (第7・8図)

位置 調査区域の南西部、D1g5区。

重複関係 北西部から中央部を第4号住居に掘り込まれていることから、第4号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸5.28m、短軸3.47mで、長方形である。

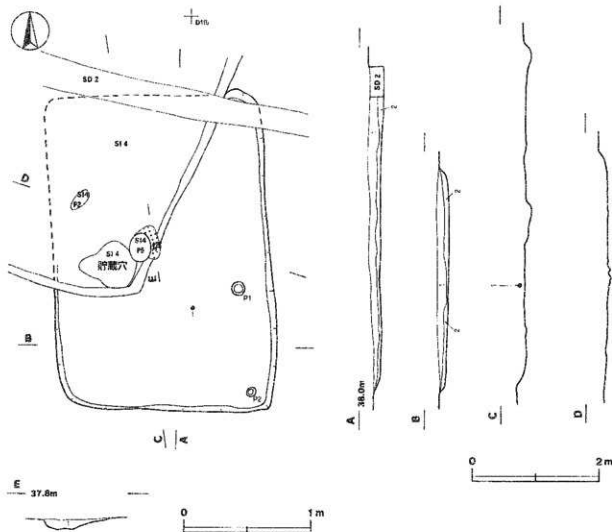
主軸方向 N-0°

壁 壁高は15~20cmで、緩やかに立ち上がる。

床 平坦である。硬化面は確認できなかった。中央部は第4号住居の原溝とピットに掘り込まれている。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は、長径24cm、短径22cmの円形で、深さは21cmである。P2は、長径16cm、短径14cmの円形で、深さは14cmである。性格は不明である。

炉 はほぼ中央に位置し、長径55cm、短径32cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。初床は、赤変硬化している。西半分が、第4号住居のP5に掘り込まれている。



第7図 第3号住居跡実測図

伊土層解説

1 暗 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

2 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量

遺物 弥生土器片70点, 礫5点, 貝殻が出土している。第8図1・2は広口壺の底部片である。1は中央部の覆土上層から, 2は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第8図 1	広口壺 弥生土器	B (3.8) C 6.3	底部から胴部の破片。底部は壁に突出している。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。施文順は下から上である。底部に本葉痕がある。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P 3 10% PL50 中央部覆土上層 (弥生時代後期後葉)
2	広口壺 弥生土器	B (4.3) C [ 7.6]	底部片。附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。施文順は下から上である。底部に布目痕がある。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P 4 5% PL50 覆土中 (弥生時代後期後葉)



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡 (第9・10図)

位置 調査区域の南西部, D1d8区。

重複関係 南東部の下半部が, 第1号溝に掘り込まれていることから, 第1号溝跡より古い。

規模と平面形 長軸(3.20)m, 短軸4.20mで, 隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は5~7cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 平坦である。特に硬化面は確認できなかった。

ピット 3か所(P1~P3)。P1, P2は, 長径32cm, 短径14cmの楕円形で, 深さは64cmである。配置と規模から主柱穴と考えられる。P3は, 長径19cm, 短径13cmの楕円形で, 深さは18cmである。性格は不明である。主柱穴は, 長径方向が, 住居の主軸方向に対して直交している。

炉 北西寄りに位置し, 長径83cm, 短径58cmの楕円形で, 床面を12cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は, 赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

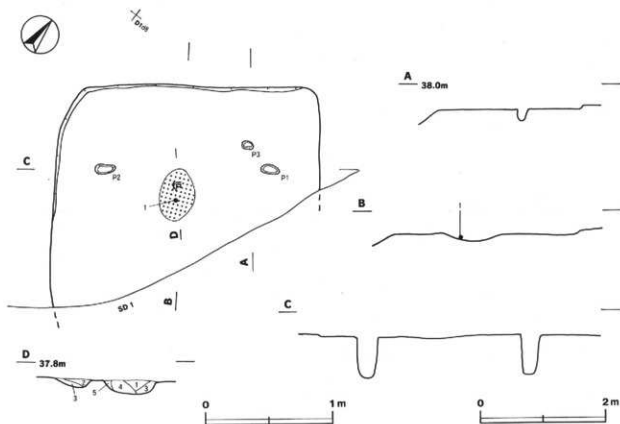
2 褐 色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・粒子微量

3 褐 色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量

4 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量

5 暗 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量





第9図 第14号住居跡実測図



第10図 第14号住居跡出土遺物実測図

遺物 弥生土器片50点，礫1点が出土している。第10図1は広口壺の胴部片で，炉内から出土している。2・3は広口壺の胴部片である。2は附加条一種（附加2条）の縄文が，3は単節縄文がPL施されている。

所見 本跡の時期は，出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	広口壺 弥生土器	B(5.8)	頸部から口縁部の破片。口縁部は折り返している。口縁部の縄文は附加条一種（附加2条）である。頸部は無文である。口縁部と頸部との境に刺突文が施されている。	砂粒・長石・石英 黒褐色 普通	P5 5% PL50 炉内 (弥生時代後期後葉)

### 第37号住居跡 (第11・12区)

位置 調査区域の南西部, C 2 e 4 区。

重複関係 中央部から北西部を第28号住居に, 南部を第29号住居に掘り込まれていることから, 両遺構より古い。

規模と平面形 長軸 [4.52]m, 短軸 [4.05]m で, 隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は34~38cmで, 緩やかに立ち上がる。

壁溝 北東部と南部の壁下に巡っている。上幅5~11cm, 下幅3~8cmで, 断面形はU字状である。

床 東と南の壁から中央部に向かって, わずかに傾斜している。

ピット 16か所 (P1~P16)。P1は径30cmの円形で, 深さは85cmである。P2は, 長径54cm, 短径33cmの楕円形で, 深さは81cmである。P3は長径42cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは65cmである。P4は, 径21cmの円形で, 深さは85cmである。P1~P4は, 配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は径33cmの円形で, 深さは75cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。P6~P16は, 長径18~42cm, 短径13~30cmの円形あるいは楕円形で, 深さは14~59cmである。性格は不明である。

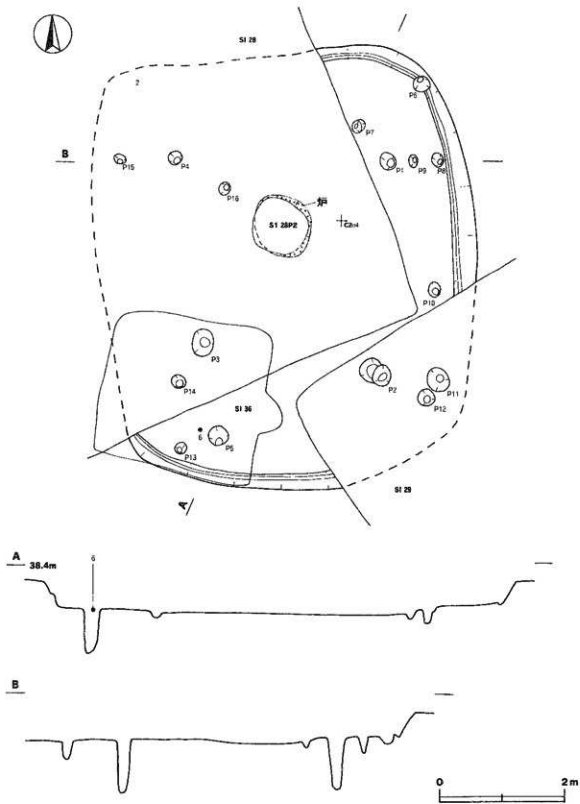
炉 中央部に位置し, 長径105cm, 短径92cmの楕円形である。炉のほとんどが, 第28号住居のP2に掘り込まれている。

遺物 赤生土器片53点が出土している。第12区1は壺の頸部片, 2は広口壺の頸部片, 5は広口壺の底部片で, それぞれ, 覆土中から出土している。3・4・6は広口壺の底部片である。3・4は中央部の覆土中から, 6は南西部の覆土下層から出土している。7は広口壺の口縁部片で, 瓣歯数5本の波状文が施され, 隆帯が貼り付けられている。口唇部にはキザミが施されている。8は隆帯が貼り付けられ, 口唇部に縄文が押圧されている。9は広口壺の胴部片である。網目状熟糸文を地文に, 菱形に沈線が施され, 内側を磨り消している。10は磨石で, 覆土中から出土している。

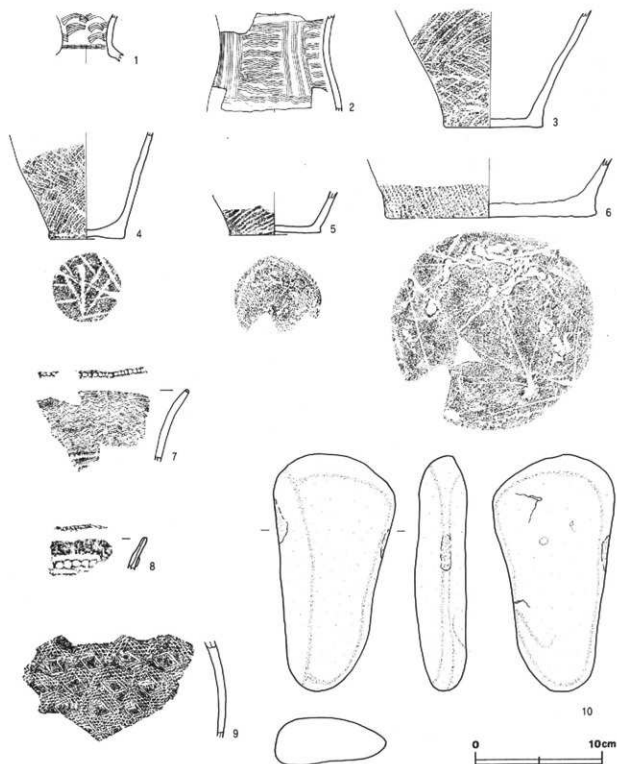
所見 本跡の時期は, 出土土器から弥生時代後期後葉(十王台式期)と考えられる。

#### 第37号住居跡出土遺物観察表

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	出土・色調・焼成	備考
第12区 1	壺 赤生土器	B (3.8)	頸部片。瓣歯状工具により連弧文が施されており, 頸部下端には横状文が施されている。瓣歯数は4本である。	砂粒・石英・長石 パミス にぶい黄褐色普通	P 6 5% PL50 覆土中 (二軒式期)
2	広口壺 赤生土器	B (7.8)	頸部片。上部に指預による押圧で消された隆帯が貼られている。隆帯の下は, 瓣歯状工具により3条を単位に縦区画され, 区画間には波状文が充填されている。瓣歯数は4本である。頸部は, 隆帯, 下層の楕円口の波状文, 縦区画, 区画内の波状文の順で施文されている。	砂粒・石英・長石 黒褐色 普通	P 7 10% PL50 覆土中 (十王台式期)
3	広口壺 赤生土器	B (9.3) C 7.9	底部から胴部の破片。胴部に附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。	砂粒・石英・長石 雲母・パミス にぶい褐色 普通	P 9 30% PL30 覆土中 (十王台式期)
4	広口壺 赤生土器	B (8.4) C 6.0	底部から胴部の破片。胴部に附加条二種(附加2条)の縄文が施されている。底部にも目板がある。	砂粒・石英・雲母 長石 にぶい褐色 普通	P 8 30% PL50 覆土中 (十王台式期)
5	広口壺 赤生土器	B (3.3) C 7.2	底部から胴部の破片。胴部には附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。底部にも目板がある。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい褐色 普通	P10 10% PL50 覆土中 (十王台式期)
6	広口壺 赤生土器	B (4.7) C 16.9	底部片。熟糸文が施されている。底部に木炭痕がある。内面の摩滅, 剥離が著しい。	砂粒・石英・長石 にぶい褐色 普通	P11 10% PL50 南西部覆土下層 (弥生時代後期後葉)



第11图 第37号住后跡実測図



第12図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第12図10	磨石	18.6	9.6	4.2	(933.4)	覆土中	Q25 PL50

#### 第41号住居跡（第13・14・15・16図）

位置 調査区域の南西部、C2h1区。

重複関係 北西部を第1号溝に、南部を第23号住居に掘り込まれていることから、西並溝より古い。

規模と平面形 長軸6.00m、短軸5.86mで、隅丸方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は40～55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北コーナー部から東壁下にかけて巡っている。上幅8～13cm、下幅4～6cm、深さは4cmで、断面形はJ字形である。

床 中央部からP1の上まで、硬化面が確認できた。炉2の上はわずかに硬いだけである。

ピット 17か所（P1～P17）。P1は長径38cm、短径24cmの楕円形で、深さは73cmである。P2は、径26cmの円形で、深さは76cmである。P3は長径30cm、短径17cmの楕円形で、深さは66cmである。P4は、長径42cm、短径18cmの楕円形で、深さは66cmである。P2の上に硬化面が認められることから、P1～P4は建て替え前の主柱穴と考えられる。P5は長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さは76cmである。P6は、長径39cm、短径32の楕円形で、深さは73cmである。P7は長径54cm、短径36cmの楕円形で、深さは77cmである。P8は、長径28cm、短径14cmの楕円形で、深さは65cmである。P5～P8は、建て替え後の主柱穴と考えられる。P9は、長径38cm、短径35cmの円形で、深さは31cmである。出入り口施設に伴うピットと思われるが、新旧いずれの主柱穴に対応するかは不明である。P10は、長径35cm、短径24cmの楕円形で、深さは26cmである。上層の覆土がP5の上層の覆土と同じであることから、建て替え後の主柱穴の補助柱穴と考えられる。P11は、長径35cm、短径23cmの楕円形で、深さは14cmである。位置から補助柱穴と思われるが、新旧どちらの主柱穴に対応するかは不明である。P12～P17は、長径14～42cm、短径9～21cmの円形あるいは楕円形で、深さは15～49cmである。性格は不明である。楕円形の主柱穴は、長径方向が、住居の主軸方向に対して両交している。

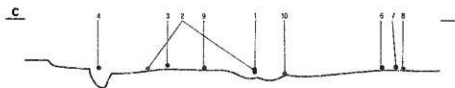
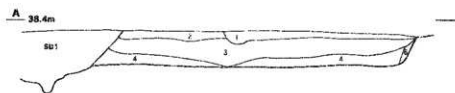
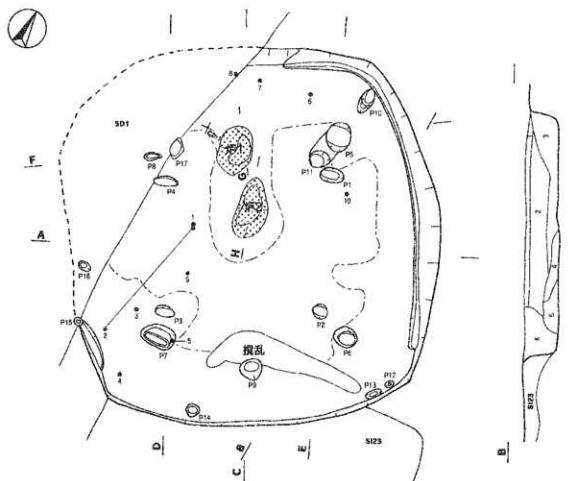
炉 炉1は北西壁寄りに位置し、長径76cm、短径56cmの楕円形で、床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は、赤変硬化している。炉2は中央部に位置し、長径98cm、短径48cmの楕円形で、床面を13cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は、赤変硬化している。炉2は、上面にわずかに硬い覆土が認められることから、建て替え前に使われた炉と考えられる。

##### 炉1土層解説

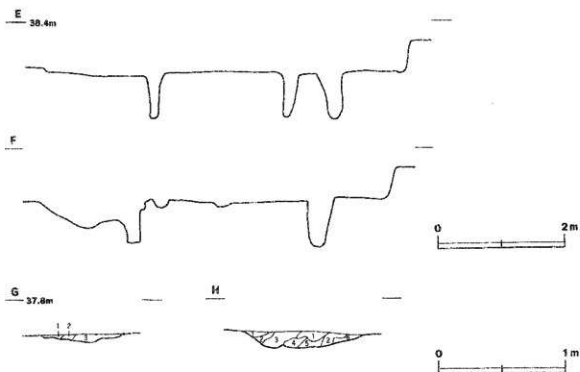
- 1 赤 黒 色 焼土粒少・炭化物・ローム小ブロック中量、ローム粒子微量
- 2 暗赤 褐色 焼土粒少・砂粒中量
- 3 暗赤 褐色 焼土粒少・砂粒多量
- 4 に近い赤褐色 ローム小ブロック・粒子中量、焼土粒子少量
- 5 に近い赤褐色 焼土粒少・炭化物少量、ローム粒子微量

##### 炉2土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒少・炭化物微量
- 2 暗赤 褐色 焼土粒少量、炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗赤 灰色 焼土中ブロック中量、焼土粒少量、炭化物・ローム粒子微量
- 4 暗赤 褐色 焼土粒多量、ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒少・砂粒中量
- 6 暗赤 褐色 焼土粒多量、砂粒中量



第13图 第41号住居跡実測図(1)



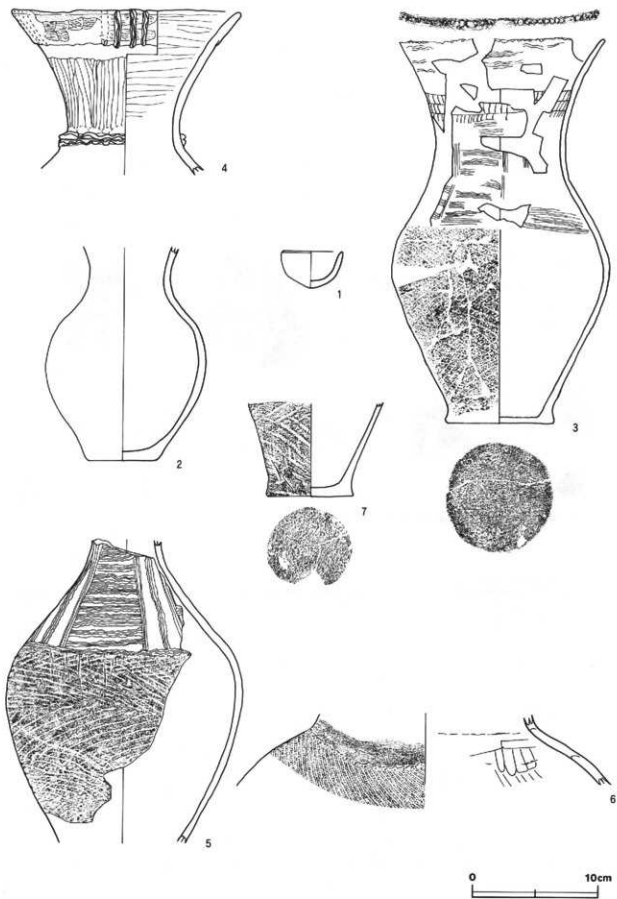
第14図 第41号住居跡実測図(2)

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

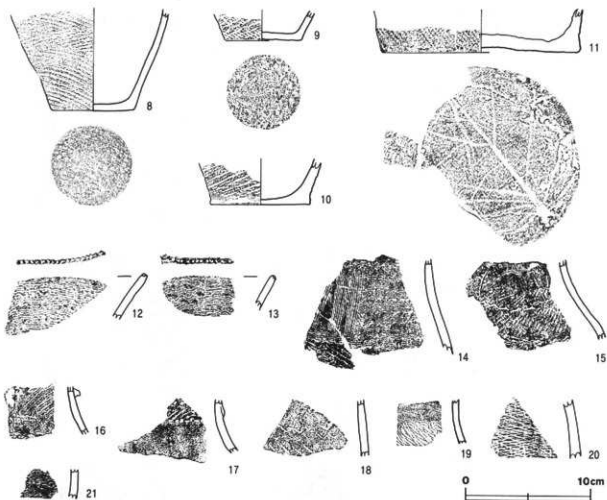
1 暗褐色	ローム粒子少量、地上粒・ローム小ブロック散見	4 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック散見
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック散見	5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック散見
3 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子散見	6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック散見、炭化粒子散見

遺物 弥生土器片222点、礫12点が出土している。第15図1はミニチュア土器で、西部の覆土下層から出土している。3は広口壺、2は無文の広口壺で、建て替え後のP7横の床面から出土している。3は十王台式土器の最も新しい段階の特徴を備えている。5は南関東系の装飾壺で、建て替え後のP7の覆土上層から正位で出土している。4は広口壺で、南西コーナー側の床面から出土している。縦に割れた半分が出土し、接合する破片は見つからない。6は広口壺の頸部片、7・第16図8は広口壺の底部片で、北部の覆土下層から出土している。9は広口壺の底部片で、南部の覆土下層から出土している。10は広口壺の底部片で、北部の覆土中層から出土している。11は広口壺の底部片で、南部の覆土中層から出土している。12は広口壺の口縁部片で、櫛歯数5本による波状文が施されている。口縁部には縄文が押圧されている。13は広口壺の口縁部片で、櫛歯数3本による波状文が施されている。口縁部にはキザミが施されている。14は広口壺の頸部片で、櫛歯数6本でスリット手法による縦区画が施され、区画間に波状文が充填されている。縄文は附加条二種（附加1条）である。15は広口壺の胴部から頸部片で、単節縄文が施され、S字状結節文が施されている。16は広口壺の頸部片で、附加条一種（附加2条）の縄文が施され、瘤が貼り付けられている。S字状結節文が施されている。17は広口壺の頸部片で、附加条一種（附加2条）の縄文が施され、頸部の無文帯との境には原体刺突が施されている。18は広口壺の頸部片で、無節の縄文とS字状結節文が施されている。19～21は胴部片である。19・21は捻糸文が、20は網目状捻糸文が施されている。



第15图 第41号住居跡出土遺物実測図(1)





第16図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	ミニチュア 弥生土器	A 4.3	丸底で体部はわずかに内彎する。内・外面ナデが施され、内面は丁寧にナデられている。	砂粒・石英・長石 雲母 に多い黄褐色 普通	P12 80% PL52 西部覆土下層 (弥生時代後期後葉)
		B 2.9			
2	広口壺 弥生土器	B (6.8)	器内が厚い。無文である。	砂粒・長石・スコ リア 灰黄褐色 普通	P14 70% PL52 床面 (弥生時代後期後葉)
		C 5.8			
3	広口壺 弥生土器	A 16.3	口唇部に縄文原体による押圧が施され、口縁部に波状文が施されている。口縁部と頸部との境に、横位の沈線が施され、沈線間にキザミが施されている。頸部は蹄曲状工具による縦区画がつくられ、区画内には波状文が充填されている。腹部は、縦区画、区画内の波状文、下腹の横区画の順で施文されている。頸部には附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。縄文の施文順は下から上である。底部に布目痕がある。	砂粒・長石 褐色 普通	P13 60% PL52 床面 (土玉台式期)
		B 30.5			
		C 8.6			
4	壺 土師器	A 18.0	頸部から口縁部の破片。口縁部は折り返している。口縁部に4本を1単位とする波状の隆帯が5か所貼り付けられていた跡が残っている。折り返し部分の外側は、網目状糸文が施されている。口縁部外側は縦帯に、内側は横帯にミガキが施されている。頸部には、押圧が加えられた波状を呈する隆帯が2本貼られている。	砂粒・石英・雲母 長石・パミス 褐色 普通	P16 20% PL52 P7 覆土上層 (弥生時代後期後葉)
		B (13.1)			

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
5	広口壺 弥生土器	B (24.2)	胴部から頸部の破片。頸部は曲線状上縁で腹区画され、区前面には波状文が充填されている。肩部と胴部は波状文で区画されている。頸部は4本である。頸部は、腹区画、下部の横区画の波状文、区画内の波状文の順で施文している。胴部には附加条二條（附加1条）の縄文が施されている。施文順は下から上である。	砂粒・石英・長石 にふい黄褐色 普通	P15 30% PL52 床面 (1千台式期)
6	広口壺 弥生土器	B (5.6)	胴部から頸部の破片。頸部は紐文で、胴部には附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。	砂粒・長石・石英 赤母 褐色 普通	P17 5% PL52 覆土下層 (弥生時代後期後葉)
7	広口壺 弥生土器	B (7.4) C 6.9	底部から胴部の破片。底部は横に突出する。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。施文順は下から上である。底部に砂目痕がある。	砂粒・石英・長石 赤母 にふい褐色 普通	P18 20% PL52 覆土下層 (1千台式期)
第16図 8	広口壺 弥生土器	B (7.9) C 6.5	底部から胴部の破片。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部に砂目痕がある。	砂粒・石英・玄母 スコリア にふい黄褐色 普通	P19 20% PL52 覆土下層 (1千台式期)
9	広口壺 弥生土器	B (2.3) C 6.1	底部から胴部の破片。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部に砂目痕がある。	砂粒・石英・長石 赤母 にふい褐色 普通	P20 10% PL52 南部覆土下層 (1千台式期)
10	広口壺 弥生土器	B (3.6) C (7.8)	底部から胴部の破片。底部は横に突出している。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。	砂粒・石英・玄母 長石 にふい黄褐色 普通	P21 5% PL52 北部覆土下層 (1千台式期)
11	広口壺 弥生土器	B (3.4) C 15.7	底部片。早期縄文が施されている。底部に木炭痕がある。内面の摩滅、剥離が著しい。	砂粒・石英・赤母 スコリア にふい褐色 普通	P22 5% PL52 南部覆土中層

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後葉（1千台式期）と考えられる。

#### 第67号住居跡（第17・18・19区）

位置 調査区域の中央部、B 3 g 2 区。

重複関係 北東コーナー部を第69号住居に、西壁の中央部を第29号土坑に掘り込まれていることから、両遺構より古い。

規模と平面形 長軸5.40m、短軸4.55mで、隅丸長方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は48～55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東と南東のコーナー部の地下に巡っている。上幅16～20cm、下幅5～13cmで、断面形はU字形である。

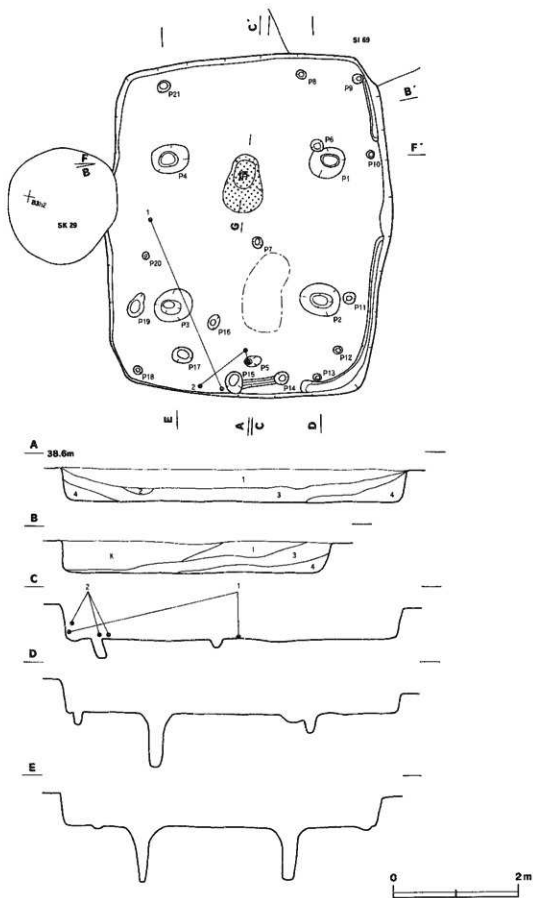
床 平坦である。全体的に硬いが、出入り口部と炉の間に特に硬い面が確認できた。

ピット 21か所（P1～P21）。P1は長径60cm、短径47cmの楕円形で、深さは79cmである。P2は、長径64cm、短径55cmの楕円形で、深さは86cmである。P3は長径62cm、短径48cmの楕円形で、深さは90cmである。P4は、長径59cm、短径47cmの楕円形で、深さは93cmである。P1～P4は、配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は、長径26cm、短径16cmの楕円形で、深さは28cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。P6～P21は、長径13～36cm、短径11～28cmの円形あるいは楕円形で、深さは6～31cmである。性格は不明である。

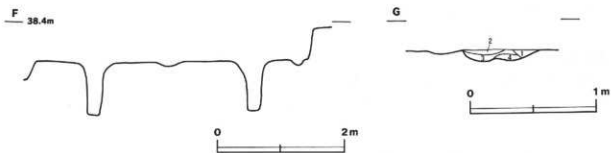
炉 中央部よりやや北に位置し、長径93cm、短径45cmの楕円形で、床面を10cmほど皿状に掘りくぼめた地床状である。炉床は、赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 黒色 焼上粒了多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼上粒了少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼上粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼上小ブロック・粒子中量、ローム粒子微量



第17图 第67号位后跡突测图(1)



第18図 第67号住居跡実測図(2)

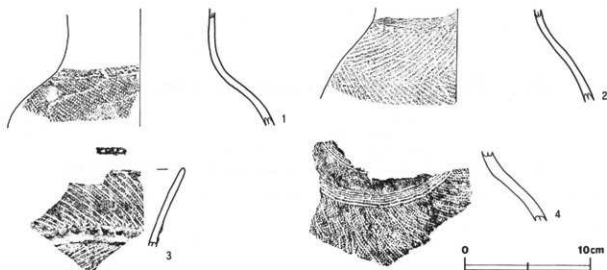
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 弥生土器片227点が出土している。ほとんどが広口壺の小片である。第19図1は広口壺の胴部から頸部の破片で、南部の覆土下層と西部の床面から出土して破片が接合したものである。2は広口壺の胴部から頸部の破片で、南部入り口付近の覆土下層から出土している。3は広口壺の口縁部片で、附加条一種（附加2条）の縄文が施され、頸部に隆帯が貼り付けられている。口唇部に原体押圧が、頸部に原体刺突が施されている。4は広口壺の頸部から胴部の破片で、櫛歯数6本の沈線が2条施され、頸部に無文帯がつけられている。縄文は附加条一種（附加2条）である。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。



第19図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	広口壺 弥生土器	B ( 9.3 )	胴部から頸部の破片。頸部は無文である。胴部と胴部は結節文により区画され、胴部には附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。	砂粒・石英・長石 黒褐色 普通	P23 10% PL53 南部覆土下層 (弥生時代後期後葉)
2	広口壺 弥生土器	B ( 7.5 )	胴部から頸部の破片。頸部は無文である。胴部には附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P24 10% PL53 覆土下層 (弥生時代後期後葉)

### 第91号住居跡（第20・21図）

位置 調査区域の北東部、A4h7区。

重複関係 南部を第92号住居に掘り込まれていることから、第92号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸3.90m、短軸3.70mで、隅丸方形である。

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は20～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平地である。中央部から南側の範囲に硬化面が確認できた。

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径21cmの円形で、深さは51cmである。P2は、長径23cm、短径17cmの楕円形で、深さは36cmである。P3は長径20cm、短径10cmの楕円形で、深さは55cmである。P4は、長径26cm、短径24cmの楕円形で、深さは59cmである。P1～P4は、配置と規模から主柱穴と考えられる。

炉 北東壁寄りに位置し、長径73cm、短径43cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床かである。か味は、赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、焼土小ブロック極微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、ローム小ブロック極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

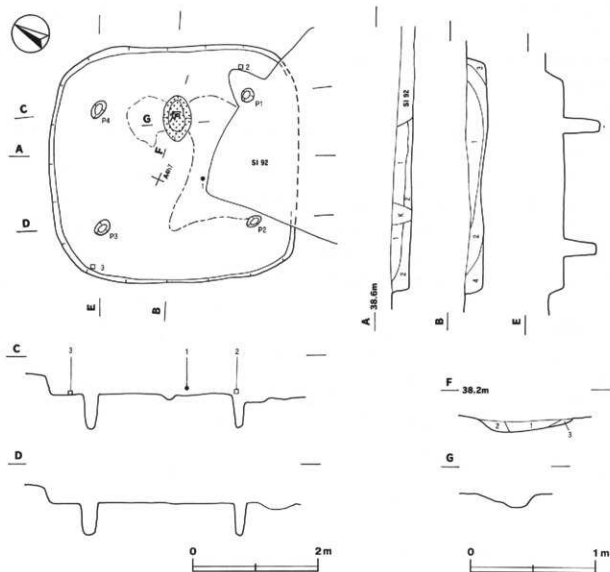
遺物 弥生土器片12点、竊2点及び貝殻が出土している。第21図1は広口壺の胴部片で、中央部の覆土下層から出土している。2・3は石製円板である。2は東コーナー部の、3は西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後葉（上土台式期）と考えられる。

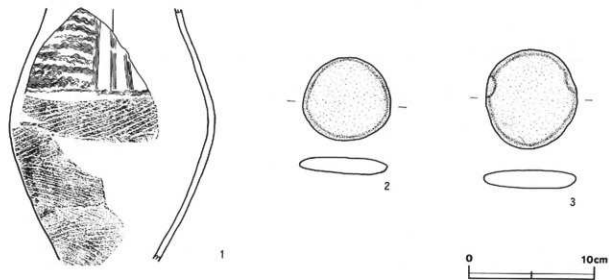
### 第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	広口壺 赤生土器	B (19.8)	胴部から頸部の破片。3条を単位とする縞状工具による縦区画が施され、区画間に波状文が充填されている。輪角数は5本である。頸部は、縦区画、区画内の波状文、下端の横区画の波状文の順で施文されている。胴部には附加条二條（附加1条）の縞文が施されている。施文順は1から上である。	砂粒・石英・長石 母透	P25 15% PL53 中央部覆土下層 (上土台式期)

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	石製円板	6.6	6.9	1.2	(89.8)	砂岩 Q1	東コーナー部床面 PL53
3	石製円板	7.8	7.3	1.4	(128.5)	砂岩 Q2	西コーナー部床面 PL53



第20图 第91号住居跡実測図



第21图 第91号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡 (第22・23・24図)

位置 調査区域の北東部、A5e4区。

規模と平面形 南部は調査区域外である。長軸(5.67)m、短軸6.55mで、隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は12~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 西から東に、わずかに傾斜している。北東部は大きく擾乱されている。中央部から東西壁に広がって硬化面が確認できた。

ピット 10か所(P1~P10)。P1は長径36cm、短径33cmのほぼ円形で、深さは49cmである。P2は、長径53cm、短径42cmの楕円形で、深さは57cmである。P1とP2は、配置と規模から主柱穴と考えられる。P3は、径18cmの円形で、深さは36cmである。補助柱穴と思われる。P4~P10は、長径18~33cm、短径17~30cmの円形あるいは楕円形で、深さは20~43cmである。性格は不明である。

炉 中央部に位置し、長径88cm、短径58cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は、赤変硬化している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック微量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

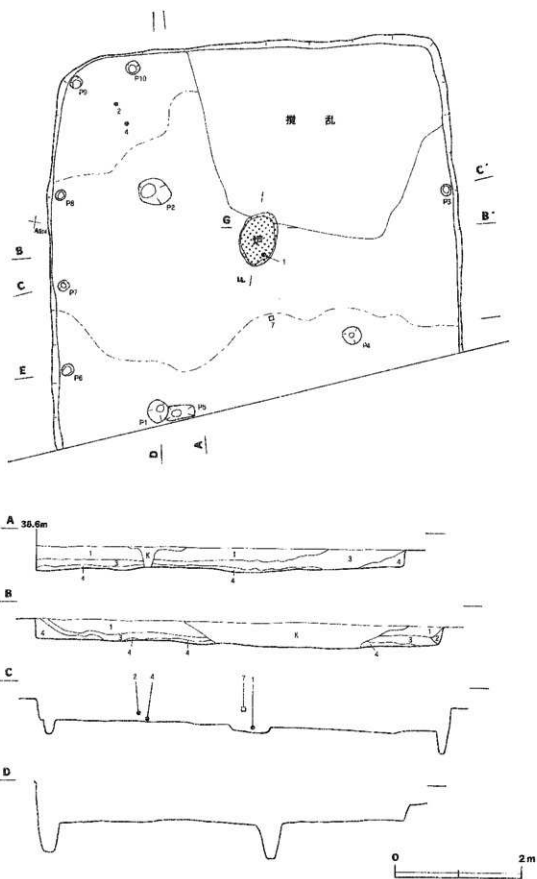
遺物 弥生土器片129点、礫3点が出土している。第24図1は広口壺の口縁部片で、中央部の覆土下層から出上している。2は広口壺の胴部片で、北コーナー部の覆土下層から出上している。3・4は広口壺の底部片である。3は覆土中から、4は北コーナー部の床面からそれぞれ出上している。6は広口壺の口縁部片で、附加条一種(附加2条)の縄文が施され、口唇部は原体押しされている。7は広口壺の頸部片で、歯面数3本でY字状の文様が施され、棒状工具による押しが施された2本の隆帯を巡らしている。5は石製円板で、中央部の覆土中層から出上している。

所見 7は大洗町の髭釜遺跡の第44号住居跡出土の広口壺と文様構成が似ている。本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表

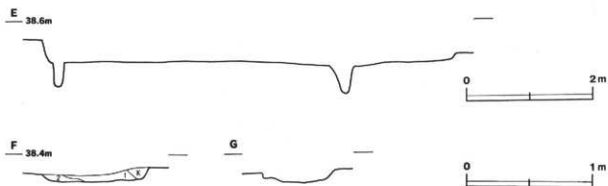
図録番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	広口壺 弥生土器	A (13.0)	胴部から口縁部の破片。口唇部に縄文原体による押しが施されている。 胴部は無文であり、口縁部と胴部には、単線縄文が施されている。	砂粒・石英・長石 スコリア 暗褐色 普通	P26 20% P1.54 覆土中 (弥生時代後期後半)
		B (12.1)			
2	壺 弥生土器	B (23.1)	胴部上位の破片。附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。	砂粒・石英・長石 にぶい棕色 普通	P27 20% P1.54 覆土中 (弥生時代後期後半)
3	広口壺 弥生土器	B (3.7)	底部から胴部の破片。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。底部に布目痕がある。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 普通	P28 5% P1.54 覆土中 (弥生時代後期後半)
		C [7.6]			
4	広口壺 弥生土器	B (3.3)	底部から胴部の破片。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。底部に木炭痕がある。	砂粒・石英・長石 スコリア 明赤褐色 普通	P29 5% P1.54 覆土中 (弥生時代後期後半)
		C [7.8]			

図録番号	種類	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	石製円板	4.8	5.3	1.1	(41.7)	砂岩	Q3 中央部覆土中層 P1.54

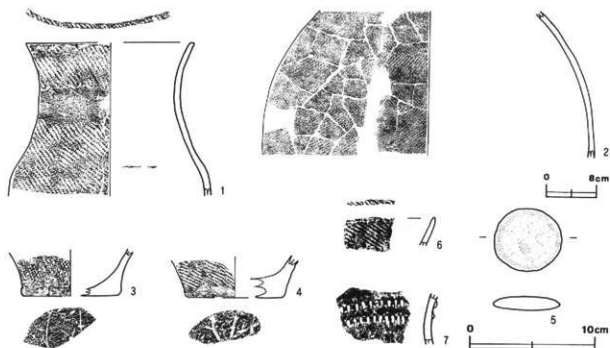


第22图 第97号住居跡実測图(1)





第23図 第97号住居跡実測図(2)



第24図 第97号住居跡出土物実測図

#### 第99号住居跡 (第25・26図)

位置 調査区域の中央部, B 3 g 5 区。

重複関係 西部から中央部を, 第7号溝に掘り込まれていることから, 第7号溝跡より古い。

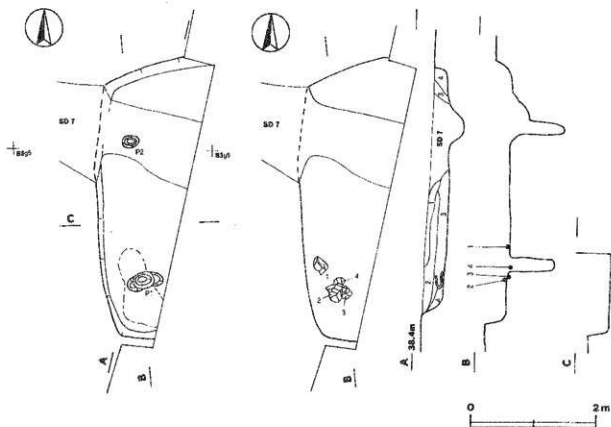
規模と平面形 東部は調査区域外である。長軸4.34m, 短軸(1.37)mで, 隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は25~34cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。南西部主柱穴の周囲に硬化面が確認できた。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は長径55cm, 短径25cmの楕円形で, 深さは71cmである。P2は, 長径25cm, 短径20cmの楕円形で, 深さは88cmである。配置と規模から主柱穴と考えられる。



第25図 第99号住居跡実測図

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

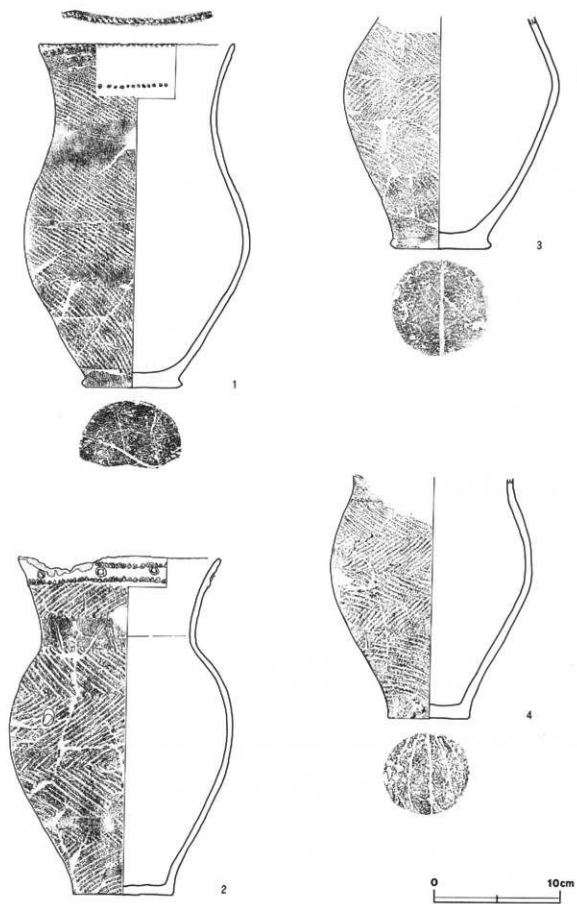
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小・中ブロック微量

遺物 弥生土器片41点と炭化材が出土している。第26図1～4は広口壺である。1は西壁脇の床面から、2・3・4は南西部のP1の覆土の上に置かれたような状態で出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	広口壺 弥生土器	A 15.4	底部は横に突出している。口唇部に縄文原体による同軸押印が施されている。頸部は無文である。口唇部と胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施される。口唇部には、原体による割文文が施されている。底部に木炭痕がある。	砂粒 にぶい褐色 普通	P30 80% PL55 床面 (弥生時代後期後葉)
		B 27.4			
		C 7.8			
2	広口壺 弥生土器	A [15.8]	二段の複合L線で、原体利突を2列並らせ、間に、2個を1単位とする楕が貼り付けられている。折り返し部直下と胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。頸部は無文である。	砂粒 褐色 普通	P31 80% PL53 P1上 (弥生時代後期後葉)
		B 26.8			
		C 8.1			
3	広口壺 弥生土器	B (18.4)	口唇部欠損。底部は横に突出している。頸部は無文である。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。底部に木炭痕がある。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 普通	P32 60% PL35 P1上 (弥生時代後期後葉)
		C 7.1			
4	広口壺 弥生土器	B (19.2)	口唇部欠損。胴部は、断面楕円形状に歪んでいる。頸部は無文である。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。底部に木炭痕がある。	砂粒・石英・長石 にぶい赤褐色 普通	P33 60% PL55 P1上 (弥生時代後期後葉)
		C 6.5			



第26图 第99号住居跡出土遺物実測図

(2) 土 坑

第6号土坑 (第27・28図)

位置 調査区域の南西部, D1d5区。

重複関係 第8・33号住居に掘り込まれていることから, 両遺構より古い。

規模と平面形 長径(4.92)m, 短径2.04mの不定形で, 深さは7~12cmである。

長径方向 N-46°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

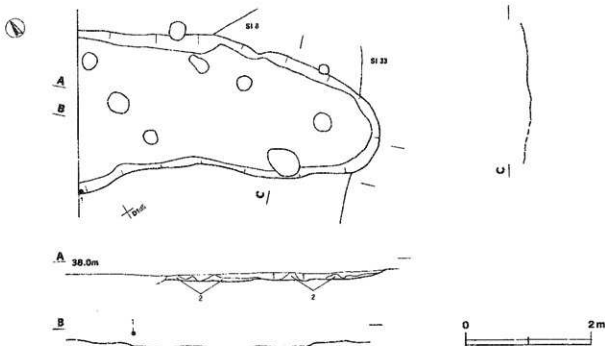
覆土 2層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

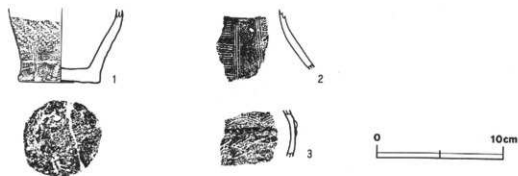
- 1 玉 屑 色 ローム粒子少量, 炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 堀 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 弥生土器片9点が出土している。第28図1は広口壺の底部から胴部の破片で, 底面から出土している。2は広口壺の頸部片で, 縄目数4本でスリット手法による縦区画が施され, 区画間に波状文が充填されている。3は広口壺の胴部片で, 頸部の文様帯と胴部を, キザミをもつ降帯と逆弧文で区画している。縄文は摩滅が著しいため不明である。

所見 本跡の時期は, 出土土器から弥生時代後期後葉(土土六式期)と考えられる。



第27図 第6号土坑実測図



第28図 第6号土坑出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	広口壺 弥生土器	B (5.8) C 6.6	底部から割部の破片。胴部には、附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。	砂粒・石英・長石 雲母 褐色 普通	P34 20% PL56 底面 (十王台式期)

### 3 古墳時代の遺構と遺物

遺構としては、堅穴住居跡42軒（中期5軒，後期37軒）と土坑1基（後期）を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

#### (1) 堅穴住居跡

##### 第6号住居跡（第29・30図）

位置 調査区域の西南部，D1f3区。

重複関係 本跡は，北部を第38号住居に，南部を第5号住居に掘り込まれていることから，両遺構より古い。

規模と平面形 北西側の半分は調査区域外である。長軸（3.00）m，短軸（2.00）mで，方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は21cmで，外傾して立ち上がる。

床 凹凸が認められる。

覆土 2層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

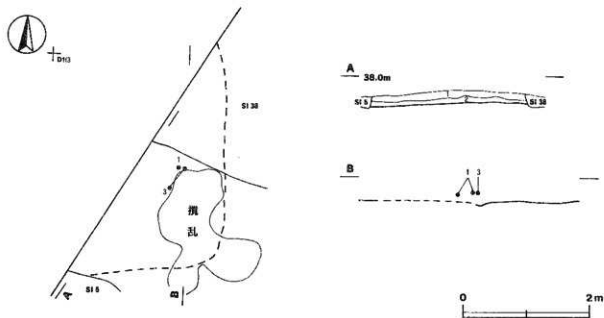
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量

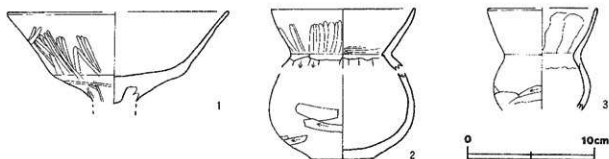
遺物 土師器片36点，鏝1点が出土している。第30図1は土師器高坏で，東部の覆土中層から出土している。

2・3は土師器小形埴である。2は覆土中から，3は東部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と体部が長くなった2の土師器小形埴等の出土土器の特徴から5世紀第2四半期頃と考えられる。



第29図 第6号住居跡実測図



第30図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30図 1	高 杯 土 師 器	A 17.5	杯部片。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石 褐色 普通	P45 30% PL57 東部覆土中層
		B (7.3)				
2	小 彩 上 師 器	A 11.4	体部から口縁部の破片。口縁部は内彎気味に外傾する。	口縁部内面横ナデ、体部方向のヘラ磨き、外面横ナデ、一部縦方向のヘラ磨き。	長石・石英 褐色 普通	P46 60% PL57 覆土中
		B (6.8)				
		C 4.8				
3	小 彩 上 師 器	A 18.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は内彎気味に外傾する。	口縁部内面縦方向のナデ、外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ。下位ヘラナデ。体部内面に輪積み肌。	長石・石英 明赤褐色 普通	P47 30% PL57 東部覆土中層
		B (7.9)				

### 第8号住居跡（第31・32図）

位置 調査区域の南西部、D1d5区。

重複関係 本跡が第6号土坑を掘り込み、南コーナー部を第15号住居と第1号溝に掘り込まれていることから、第6号土坑より新しく、第15号住居跡と第1号溝跡より古い。

規模と平面形 北西部は調査区域外である。長軸（7.88）m、短軸（4.35）mで、長方形と推定される。

主軸方向 N-39°-E

壁 壁高は23～25cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。北西部から炭化材が出上している。

ピット 7か所（P1～P7）。P1は長径58cm、短径38cmの楕円形で、深さは46cmである。P2は径60cmの円形で、深さは45cmである。P1・P2は配置と規模から柱穴と考えられる。P3は長径46cm、短径37cmの楕円形で、深さは21cmである。位置から補助柱穴と考えられる。P4は径32cmの円形で、深さは36cmである。P5は径24cmの円形で、深さは41cmである。P6は径32cmの円形で、深さは26cmである。P7は長径65cm、短径50cmの楕円形で、深さは17cmである。P4～7は、いずれも性格は不明である。

覆土 2層からなる。炭化材とロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 層 色 炭化材中量、ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 層 相 色 炭化材・炭化粒子・ローム粒子中量

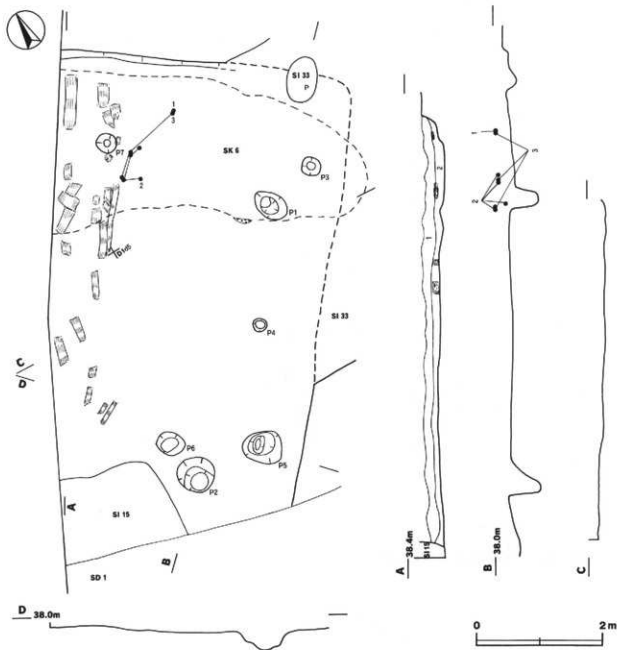
遺物 土師器片153点、須恵器片1点、礫1点が出土している。第32図1は土師器碗で、北部の覆土中層から出上している。2・3は土師器甕で、北部の覆土中層から出上している。須恵器片は混入と考えられる。4は不明石器である。覆土中から出上している。

所見 本跡は、床面と覆土下層から炭化材が多量に検出されたことから、焼失家屋の可能性がある。本跡の時期は、遺物の形態と、単口縁で口縁部下にわずかにハケ目調整痕を残す1の土師器碗等の出土土器の特徴から5世紀前半頃と考えられる。

### 第8号住居跡出土遺物観察表

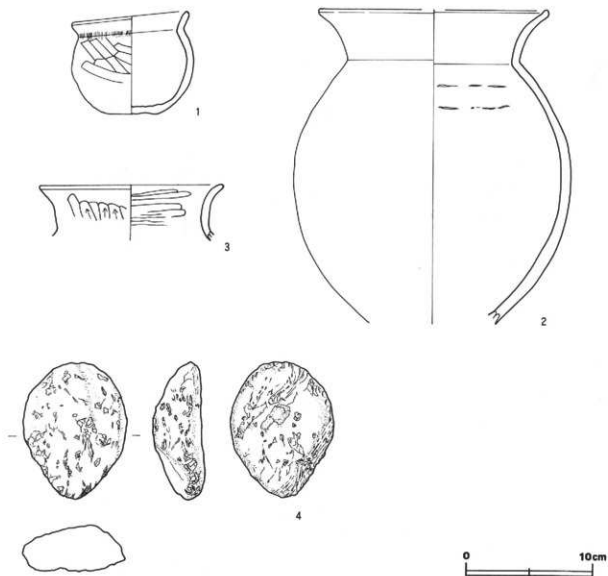
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	土師器	A 8.9	口縁部一部欠丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面--部ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・赤色粒子にぶい褐色 普通	P48 98% PL57 北部覆土中層
		B 8.1				
		C 3.9				
2	土師器	A [18.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内面横ナデ。外面縦方向のナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪模み痕。	長石・石英 褐色 普通	P49 40% PL57 北部覆土中層
		B (24.9)				
3	土師器	A 14.3	口縁部片、口縁部は緩く外反する。	口縁部外面横ナデ、 縦縦方向のナデ。内面横ナデ。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P50 10% PL57 北部覆土中層
		B (4.4)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第32図4	不明石器	10.7	8.2	4.1	(112.0)	軽石	覆土中	Q4



第31图 第8号住居跡実測図





第32図 第8号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡 (第33・34・35・36図)

位置 調査区域の南西部, D1c7区。

重複関係 本跡は, 東部を第10号住居跡に, 北コーナー部を第13号住居に, 南部を第7号土坑に掘り込まれていることから, これらの遺構より古い。

規模と平面形 長軸5.33m, 短軸5.24mで, 方形である。

主軸方向 N-37°-W

壁 壁高は11~38cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東壁の下と南西壁の下に巡っている。上幅6~16cm, 下幅2~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。中央部に硬化面が認められる。

ピット 7か所 (P1~P7)。P1は長径84cm, 短径72cmの楕円形で, 深さは57cmである。P2は長径71cm, 短径61cmの楕円形で, 深さは44cmである。P3は径55cmの円形で, 深さは49cmである。P4は径65cmの円形で,

深さは47cmである。P1～P4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は径27cmの円形で、深さは11cmである。位置から、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径(65)cm、短径57cmの楕円形で、深さは32cmである。補助柱穴と考えられる。P7は長径41cm、短径33cmの楕円形で、深さは21cmである。性格は不明である。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

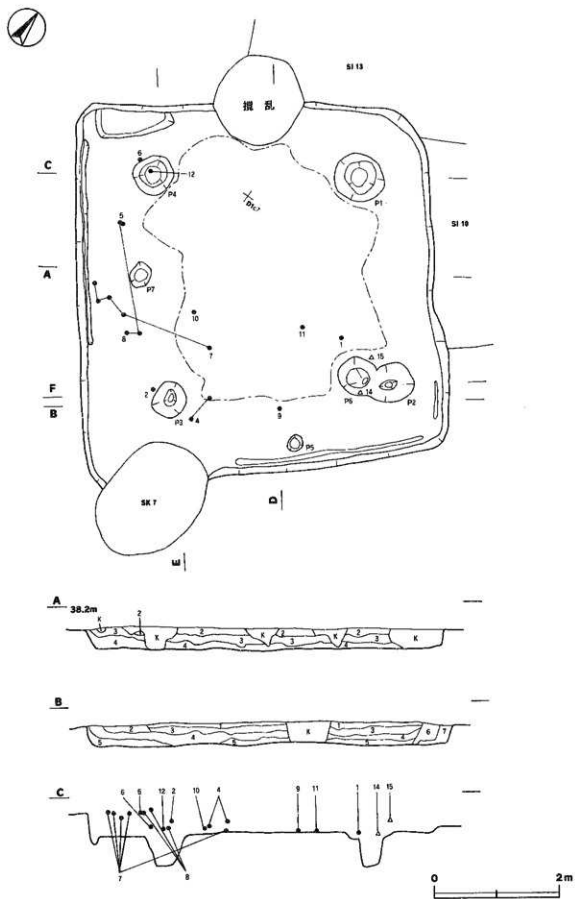
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	炭化粒子少量、ローム中ブロック・小ブロック・粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・粒子中量	6 暗褐色	ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量	7 褐色	ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量		

遺物 土師器片597点、須恵器片9点、鏝18点、不明土製品1点、不明鉄製品2点が出土している。第35・36図1～3は土師器甕である。1は中央部の覆土中層から、2は南部の覆土上層から、3は覆土中から、それぞれ出土している。4～6は土師器甕である。4は南部の覆土中層から、5・6は西部の覆土上層から、それぞれ出土している。7～11は土師器甕である。7は南部の覆土下層から出土した破片と西部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。8は西部の覆土上層から、9は出入り口付近の覆土下層から、10は西部の覆土中層から出土している。11は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。12は竈器台で、西コーナー部の覆土中層から出土している。13は球状土鏝で、覆土中から出土している。14は鏝鏝で、東コーナー部の覆土下層から出土している。15は不明鉄製品で、東コーナー部の覆土上層から出土している。

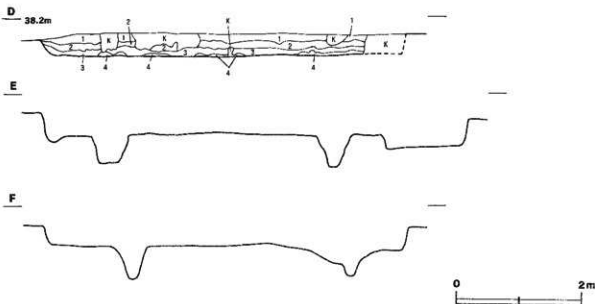
所見 本跡は、北東壁の中央部が、長径150cm、短径129cm、深さ30cmの円筒形状に掘り込まれている。粘土や焼土等の生活の痕は残っていないかったが、踏み固められたと思われる硬化面が確認されたことから、一定の期間、人の生活の場となっていたと思われる。本跡の時期は、平底の2の土師器小形甕と口縁部に段を有する6の土師器甕、体部にハケ目調整痕が残る8・10の土師器甕等の出土土器の特徴から5世紀第1四半期頃と考えられる。

#### 第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35 1	甕 土師器	B (3.4) C 2.6	底部から体部の破片。くぼみを持つ平底。体部は内層しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 赤色粒子 褐色 普通	P51 40% PL57 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A 9.8 B 5.6 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は内傾気味に外傾する。	口縁部外面ナデ。一部縦方向のヘラ磨き。内面ナデ。一部横方向のヘラ磨き。体部外面ナデ。一部横方向のヘラ磨き。内面ナデ。	長石・黒色粒子 褐色 普通	P52 70% PL57 南部覆土中層
3	甕 土師器	B (2.9) C 3.2	底部から体部の破片。突出した平底。体部は内層しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。内・外面に磨頭痕。	長石・石英・砂粒 に白い褐色 普通	P53 20% 覆土中
4	甕 土師器	B (23.0)	体部から口縁部の破片。体部は内層し、口縁部は強く外反する。	体部及び口縁部内・外内面ナデ。	長石・石英・砂粒 赤色粒子 褐色 普通	P54 20% PL57 南部覆土中層
5	甕 土師器	B (5.4)	体部片。体部は内層し、口縁部に至る。	体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。内面ナデ。	雲母 褐色 普通	P55 10% 西部覆土上層
6	甕 土師器	A [21.2] B (5.3)	口縁部片。口縁部は外反し、口縁部は折り返されている。	口縁部外面縦方向の磨き、折り返し部横ナデ。内面横方向のヘラ磨き。	長石 に白い褐色 普通	P56 5% 西部覆土中層



第33图 第9号住居跡実測图(1)

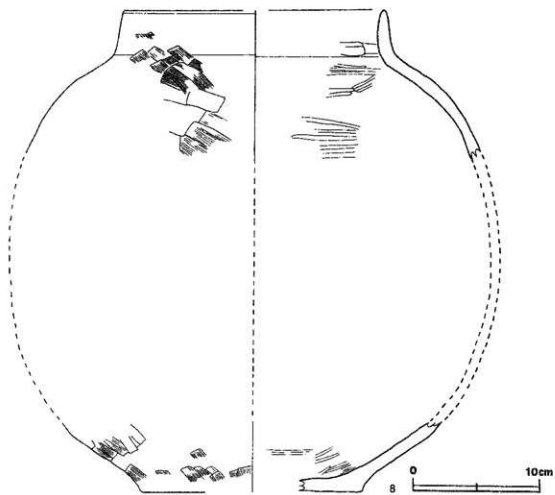
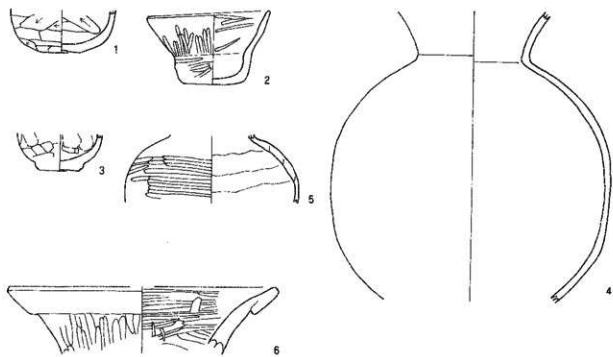


第34図 第9号住居跡実測図(2)

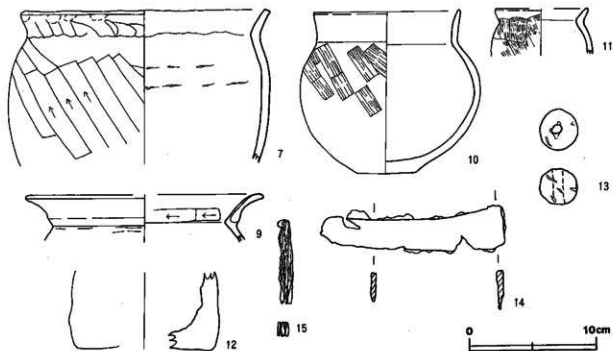
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 7	壺 土 脚 器	A 19.0 B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は短く、縁く外反す る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へ ラナデ。内面ナデ。体部内面に輪 痕み痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P57 40% PL37 内口縁上下層 西部覆土上層
第35図 8	壺 土 脚 器	A (21.0) B (17.7) C [17.6]	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は縁く外反する。  底部から体部の破片。底部は突出 した平底。体部は内彎気味に外傾 して、立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ハ ケ目整形後、ナデ。  体部外面ハケ目整形後、ナデ。内 面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P58 10% 西部覆土上・下層
第36図 9	壺 土 脚 器	A [18.6] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面上位染ナ デ。下位へラナデ。体部内・外面 ナデ。	長石・石英 にふい褐色 普通	P59 5% 出入り口付近覆 土下層
10	壺 土 脚 器	A 11.5 B 12.9 C 4.5	体部一部欠損。突出した平底。体 部は内彎し、口縁部は短く外傾す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ハケ目整形後、ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P60 70% PL57 西部覆土下層
11	小形 壺 土 脚 器	A [ 7.2] B ( 3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ハケ目整形、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P61 5% 中央部覆土下層
12	伊 器 台 土 脚 器	B ( 6.2) C (10.6)	底部から体部の破片。平底。体部 はほぼ垂直に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	赤色砂子・砂粒 にふい褐色	P62 10% 西コーナー部覆 土下層

図版番号	種 別	計 測 値			出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)		
第36図13	球 状 土 鐘	3.1	2.8	0.8	25.0	覆 土 中 DP11  PL75

図版番号	種 別	計 測 値				材 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第36図14	鉄 鐘	(14.6)	3.4	( 0.6)	(45.0)	鉄	覆 土 下 層 M2	PL81
15	不明鉄製品	( 6.6)	( 1.4)	( 1.2)	(17.0)	鉄	覆 土 中 層 M3	PL81



第35图 第9号住居跡出土遺物实测图(1)



第36図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

#### 第10号住居跡 (第37・38・39図)

位置 調査区域の南西部, D1b8区。

重複関係 本跡が第9号住居跡を掘り込み, 北部を第11号住居に, 西部を第13号住居に掘り込まれていることから, 第9号住居跡より新しく, 第11・13号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸(4.63)m, 短軸(2.83)mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-54°-E

壁 壁高は10~17cmで, 外傾して立ち上がる。

盤溝 北東壁の下と南東壁の下に巡っている。上幅10~36cm, 下幅4~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。炉脇から焼土が検出された。

ピット 1か所。P1は長径43cm, 短径32cmの楕円形で, 深さは21cmである。性格は不明である。

炉 中央部から北東寄りに位置している。長径41cm, 短径19cmの楕円形で, 床を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。

##### 炉土層解説

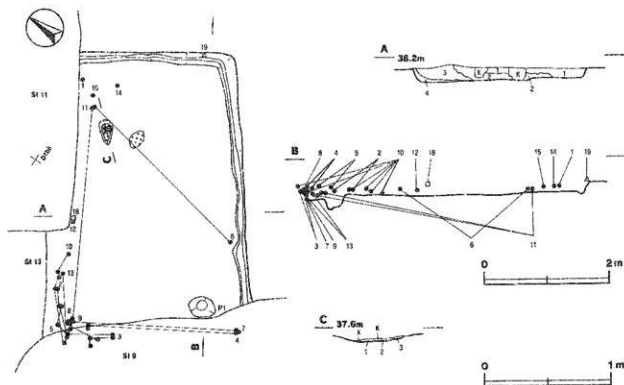
- 1 極暗褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 炭化粒子多量, ローム粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量

覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム大ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片565点, 須恵器片2点, 土製品1点, 礫1点が出土している。遺物は, 第9号住居跡と接する西部と, 北壁側から集中して出土している。第38・39図1~7は土師器坏である。1は北壁側の覆土中層から, 2~7は西部の覆土中層から, それぞれ出土している。8は土師器埴で, 西部の覆土中層から出土している。9は土師器壺で, 西部の覆土中層から出土している。10~14は土師器甕である。10~13は西部の覆土中層



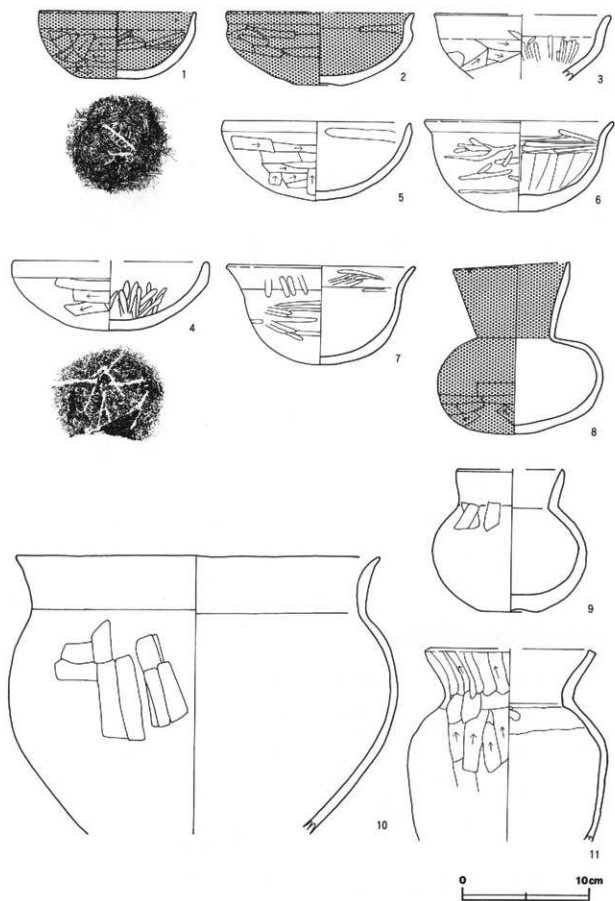
第37図 第10号住居跡実測図

から出土している。14は北塚館の覆土下層から出土している。15は土師器ミニチュア土器で、北壁側の覆土下層から出土している。16は球状土鉢で、覆土中から出土している。17・18は散石で、17は覆土中から、18は中央部の覆土上層から出土している。19は不明鉄製品で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と、体部が内厚して立ち上がり、I線部が直立する1や5の土師器環及び8の土師器用等の出土土器の特徴から、5世紀中～後半頃と考えられる。

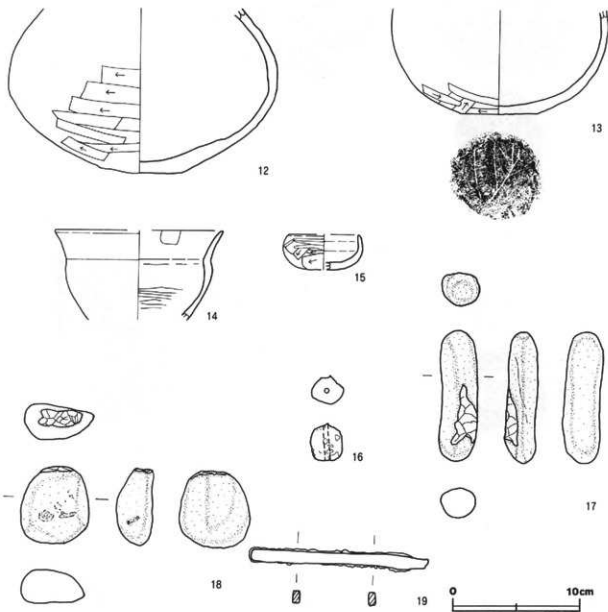
第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	坏	A 12.2	I線部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内厚しながら立ち上がり、I線部はほぼ直立する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母赤色普通	P63 95% PL57 北塚館種土中層
	土師器	B 3.2				
2	坏	A 14.7	底部からI線部の破片。平底。体部は内厚しながら立ち上がり、I線部との境に明瞭な縁を持つ。I線部は短く外反する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英明赤褐色普通	P64 30% 西部覆土中層
	土師器	B 3.8				
	C 3.6					
3	坏	A (15.7)	体部からI線部の破片。平底。体部は内厚し、I線部との境にわずかな縁を持つ。I線部はほぼ直立する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面へラ磨き。	長石・石英・雲母褐色普通	P65 25% PL57 西部覆土中層
	土師器	B (3.2)				
4	坏	A 15.2	底部からI線部の破片。丸底。体部は内厚して立ち上がり、I線部はほぼ直立する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石・石英・砂粒褐色普通	P66 45% PL58 西部覆土中層
	土師器	B 5.5				
5	坏	A 14.8	体部一部欠損。丸底。体部は内厚しながら立ち上がり、I線部はほぼ直立する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒褐色普通	P67 80% PL58 西部覆土中層
	土師器	B 6.3				
6	坏	A 15.1	I線部一部欠損。丸底。体部は内厚しながら立ち上がる。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、一部へラ磨き。内面へラナデ。	長石・石英・雲母褐色普通	P68 60% PL58 西部覆土中層
	土師器	B 7.2				
7	坏	A 14.7	I線部一部欠損。丸底。体部は内厚しながら立ち上がり、I線部はほぼ直立する。	I線部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母褐色普通	P69 70% PL58 西部覆土中層
	土師器	B 7.8				



第38图 第10号住居跡出土遺物実測図(1)





第39図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 8	埴 土 師 器	A 9.0	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部中位に最大径を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 黒色粒子・赤色粒子 赤色 普通	P70 80% PL58 西部覆土中層
		B 13.8				
9	壺 土 師 器	A [ 8.4]	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部上位に最大径を持つ。口縁部は短く外傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	石英・赤色粒子 にふい橙色 普通	P71 90% PL58 西部覆土中層
		B 11.3				
		C 4.4				
10	壺 土 師 器	A 28.7	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・赤色粒子 橙色 普通	P72 30% PL58 西部覆土中層
		B (21.9)				
11	壺 土 師 器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ削り、内面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部内面に輪痕み痕。	長石・砂粒 橙色 普通	P73 40% PL58 西部覆土中層
		B (15.2)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 12	密土器 器	A (13.1) B 6.1	底部から体部の破片。平底。体部は内唇しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 赤色 普通	P74 30% PL58 西部覆土中層
13	密土器 器	A (13.4) B (15.2)	底部から体部の破片。平底。体部は内唇しながら立ち上がる。	体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 砂粒赤褐色 普通	P75 20% 西部覆土中層
14	密土器 器	A (13.2) B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内唇し、口縁部は外唇する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 橙褐色 普通	P76 15% 北壁部覆土下層
15	ミナトキ 土器器	A (5.5) B (2.7) C (3.0)	底部から口縁部の破片。平底。体部は内唇しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ、内面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P77 45% 北壁部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第39図16	球状土器	(2.5)	2.9	(0.4)	9.7	覆土中	DP12

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第39図17	煎石	10.3	3.1	2.4	(126.2)	安山岩	覆土中	Q5 PL79
18	煎石	(6.0)	5.4	2.8	(124.9)	安山岩	覆土中	Q6

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第39図19	不明鉄製品	(14.1)	(1.0)	(0.6)	(49.3)	鉄	覆土中層	M4 PL81

### 第13号住居跡 (第40・41・42・43図)

位置 調査区域の西南部，D1a6区。

重複関係 本跡が第9・10号住居跡を掘り込み，東部を第11号住居に掘り込まれていることから，第9・10号住居跡より新しく，第11号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸(5.84)m，短軸4.92mで，長方形と推定される。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は12～15cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北コーナー部壁の下と西壁の下に巡っている。上幅8～29cm，下幅3～8cmで，断面形はU字状である。

床 平坦である。中央部から東壁の下にかけて硬化面が認められる。

ピット 6か所(P1～P6)。P1は径28cmの円形で，深さは58cmである。P2は長径26cm，短径19cmの楕円形で，深さは70cmである。P3は長径25cm，短径19cmの楕円形で，深さは60cmである。P4は長径23cm，短径19cmの楕円形で，深さは80cmである。P1～P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は長径21cm，短径18cmの楕円形で，深さは40cmである。P6は長径23cm，短径18cmの楕円形で，深さは13cmである。性格は不明である。

炉 中央部から南東寄りに位置している。長径136cm，短径61cmの楕円形で，床を13cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉の覆土の上面が硬化していた。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

竈 北西壁中央部の壁の内側約12cmの位置に、砂泥じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、同袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで121cm、最大幅104cmである。火床部は床面を13cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤化し、硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。竈の周囲からは多量の遺物が出土している。

竈土層解説

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量</li> <li>2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量</li> <li>3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量</li> <li>4 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子微量</li> <li>5 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量</li> <li>7 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量</li> <li>8 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量</li> <li>9 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量</li> <li>10 暗褐色 焼土小ブロック中量、ローム粒子少量</li> <li>11 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量</li> <li>12 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子微量</li> <li>13 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量</li> <li>14 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量</li> <li>15 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量</li> <li>16 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量</li> <li>17 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量</li> <li>18 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>19 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量</li> <li>20 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量</li> <li>21 暗赤褐色 焼土粒子多量</li> <li>22 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量</li> <li>23 暗褐色 ローム粒子少量</li> <li>24 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量</li> <li>25 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量</li> <li>26 暗褐色 焼土粒子多量</li> <li>27 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム中ブロック・粒子少量</li> <li>28 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量</li> <li>29 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量</li> <li>30 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量</li> <li>31 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量</li> <li>32 暗赤褐色 ローム粒子少量</li> <li>33 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量</li> <li>34 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量</li> <li>35 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量</li> <li>36 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量</li> <li>37 暗赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量</li> <li>38 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量</li> <li>39 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量</li> </ol> |
|---|--|

覆土 単一層である。遺構の上部が割平されているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

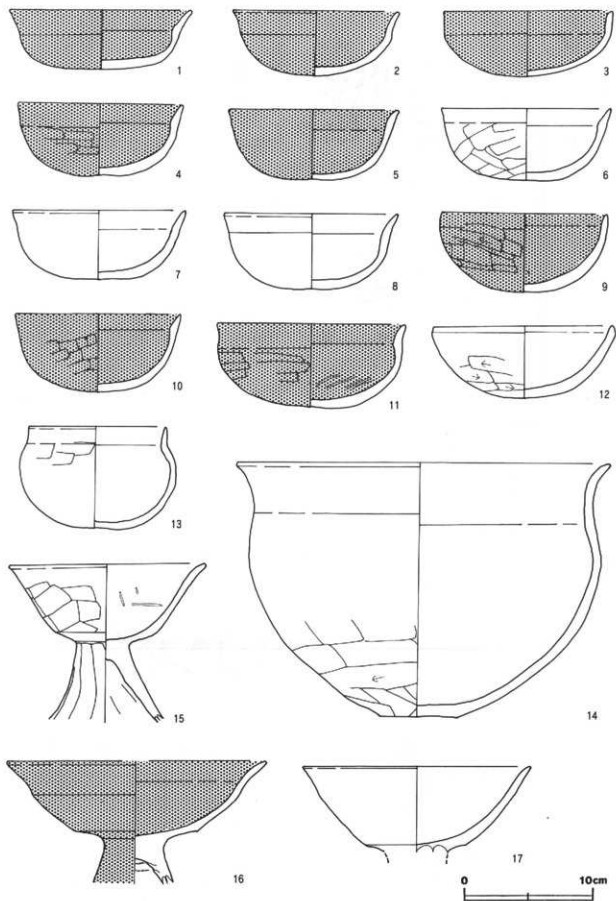
遺物 土師器片160点、鉄製品1点、礫5点が出土している。第41～43図1～12は土師器片、13は土師器碗である。1・2は竈の煙道部の覆土下層から、2点が逆位で重なって出土している。3～13は竈周囲の覆土下層からまとまって出土している。14は土師器鉢で、西コーナー部の覆土下層から出土している。15～17は土師器高坏で、いずれも竈煙道部の覆土下層から出土している。18は土師器壺である。北壁と竈の間の覆土下層から出土している。19～25は土師器甕で、竈周囲の覆土下層から出土している。26～28は須恵器坏蓋で、26は竈南側の、27は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。28は西部の覆土下層から出土している。29は石製模造品の有孔円板で、覆土中から出土している。

所見 本跡からは、炉と竈が検出された。竈は、位置が壁の内側であるという、初期竈の特徴を持っている。竈は炉を埋め戻した後に使用されていたと考えられる。本跡の時期は、遺構の形態と、口縁部内側に稜を持つ土師器坏と丸底で須恵器坏蓋模倣の3の土師器坏等の出土器の特徴及び坏の出土量に対して高坏の出土量が相対的に少ないという遺物出土状況から、5世紀第3四半期頃と考えられる。

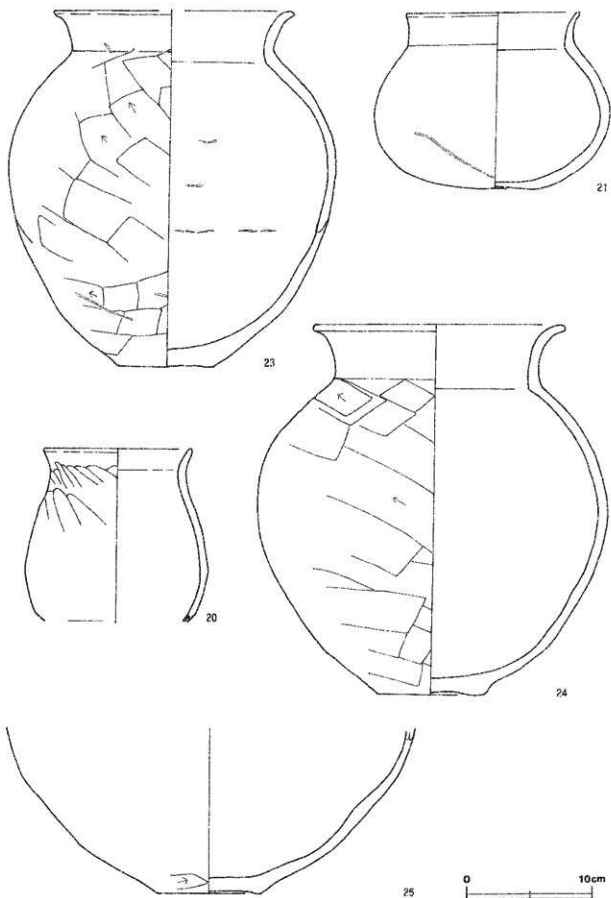
第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	土師器 坏	A 14.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。体部と口縁部との境の内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母 褐色 普通	P99 98% PL58 覆土下層
		B 4.6				
2	土師器 坏	A 13.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・赤色 粒子 褐色 普通	P100 95% PL58 覆土下層
		B 4.9				

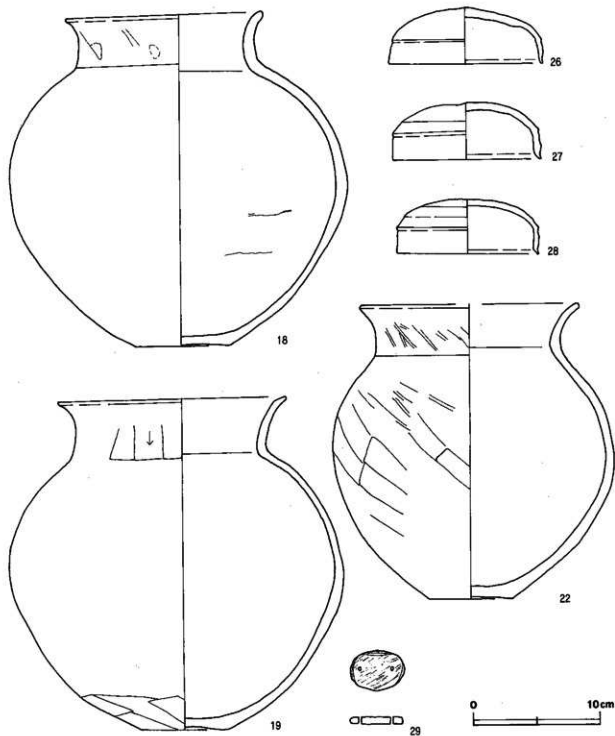




第41图 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第42图 第13号住居跡実測图(2)



第43図 第13号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 3	坏 土器	A 13.3	体部一部欠損。体部は内厚しながら立ち上がり。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・赤色粒子 褐色 普通	P101 95% PL58 龍岡周禮土下層
		B 5.1				
4	坏 土器	A 13.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内厚しながら立ち上がり。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ、内・外面赤彩。	長石・赤色粒子 褐色 普通	P102 95% PL58 龍岡周禮土下層
		B 5.6				
5	坏 土器	A 13.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内厚しながら立ち上がり。口縁部に至る。体部と口縁部との境の内部に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 褐色 普通	P103 95% PL58 龍岡周禮土下層
		B 5.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第41回 6	坏土師器	A 13.4 B 5.6	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石 にふい・橙色 普通	P104 80% PL58 竜岡国覆土下層
		A 13.6 B 5.4				
7	坏土師器	A 13.7 B 5.9	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・赤色粒子 にふい・褐色 普通	P106 95% PL58 竜岡国覆土下層
		A 13.2 B 6.2				
8	坏土師器	A 13.7 B 5.9	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・赤褐色 にふい・褐色 普通	P108 60% 竜岡国覆土下層
		A 13.2 B 6.1				
9	坏土師器	A 14.9 B 6.6	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部と口縁部の境に内面を付す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・赤色 粒子 赤色 普通	P110 100% PL59 竜岡国覆土下層
		A 14.2 B 5.6				
10	坏土師器	A 10.8 B 8.0	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面整形不明。	長石・石英 にふい・赤褐色 普通	P112 100% PL59 竜岡国覆土下層
		A 29.5 B (20.1) C 6.2				
11	坏土師器	A 15.4 B (12.4) C (6.2)	脚部はラッパ状に開く。体部は外反して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。脚部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英 にふい・橙褐色 普通	P114 40% 竜岡国覆土下層
		A 18.0 B (6.6)				
第43回 18	土師器	A 20.3 B (9.6) E (3.5)	脚部はHの字状に開く。体部は内彎実味に立ち上がり、体部と口縁部の境に横を持つ。	口縁部及び体部内・外面ナデ。脚部外面ヘラナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石 にふい・赤褐色 普通	P116 98% PL59 北摩国覆土下層
		A 15.8 B 26.3 C 7.4				
19	土師器	A 18.1 B 20.3 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P118 25% PL60 竜岡国覆土下層
		A [11.6] B (13.6)				
第42回 20	土師器	A 13.7 B 13.9 D 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面下位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P120 75% PL59 竜岡国覆土下層
		A [17.2] B 23.4 C 6.6				
第42回 23	土師器	A 20.0 B 29.5 C 8.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・砂粒・赤色粒子 にふい・赤褐色 普通	P122 70% PL60 竜岡国覆土下層
		A 13.1 B 13.1 C 8.2				
第43回 26	土師器	A 12.2 B 4.4	体部は内彎し、口縁部との境に明瞭な横を持つ。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。	長石 灰色 普通	P124 100% PL59 竜岡国覆土下層
		A 11.7 B 4.5				
27	土師器	A 11.2 B 4.3	体部は内彎し、口縁部との境に明瞭な横を持つ。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面回転ヘラ削り、内面ナデ。	長石 灰色 普通	P126 75% PL59 西部覆土下層

図版番号	器種	計測値			石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第43回29	双孔円板	3.1	4.2	0.5	13.5	滑石版土中	Q18 PL79



## 第2号住居跡 (第44・45図)

位置 調査区域の南西部，D1g7区。

重複関係 本跡が第1・35号住居跡を掘り込んでいることから，両遺構より新しい。

規模と平面形 南東部は調査区域外である。長軸6.00m，短軸5.54mで，方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は30～37cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東側の壁の下を除いて巡っている。上幅12～20cm，下幅2～8cmで，断面形はU字状である。

床 南から北へ，わずかに傾斜している。中央部に硬化面が認められる。竃材に使われたものと同じ粘土が中央部と出入り口付近の床面から検出された。

ピット 12か所 (P1～P12)。P1は長径76cm，短径50cmの楕円形で，深さは48cmである。P2は長径74cm，短径64cmの楕円形で，深さは41cmである。P3は長径97cm，短径82cmの楕円形で，深さは66cmである。P4は長径63cm，短径50cmの楕円形で，深さは50cmである。P5は長径63cm，短径55cmの楕円形で，深さは62cmである。P6は径61cmの円形で，深さは58cmである。P1～P6は配置と規模から主柱穴と考えられる。P7は長径19cm，短径16cmの楕円形で，深さは13cmである。位置から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8は径37cmの円形で，深さは24cmである。P9は長径41cm，短径35cmの楕円形で，深さは27cmである。補助柱穴と考えられる。P10～P12は長径38～70cm，短径32～62cmの円形あるいは楕円形で，深さは16～25cmである。性格は不明である。

竃 北壁の中央部を掘り込んで，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚口部まで180cm，最大幅184cm。壁外への掘り込みは12cmである。火床部は床面を24cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

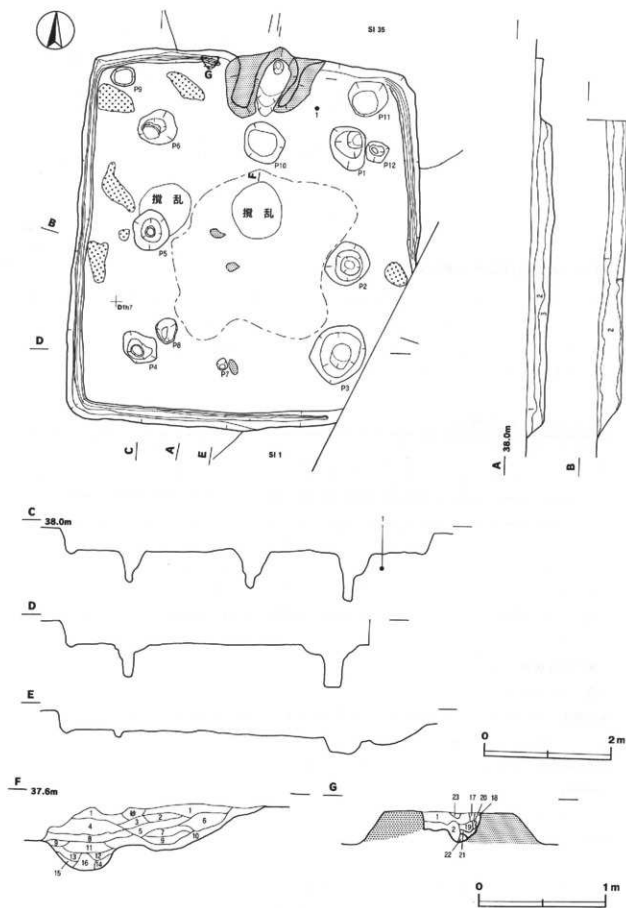
### 埋土層解説

- 1 暗褐色 砂多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化材・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 赤褐色 焼土小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 13 暗赤褐色 ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
- 15 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック少量
- 16 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子極微量
- 18 黒褐色 ローム粒子少量
- 19 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 20 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 21 暗赤褐色 ローム大ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 22 におい黄褐色 ローム粒子微量
- 23 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量

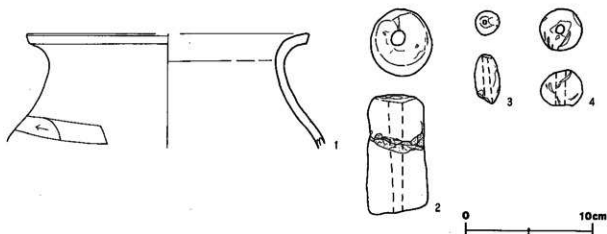
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量



第44图 第2号住居跡実測图



第45図 第2号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片17点、土製品2点、不明鉄製品1点が出土している。第45図1は土師器甕で、甕東側の床面から出土している。2・3は管状土錐、4は球状土錐である。覆土中から出土している。

所見 本跡は、東壁の下に集中して焼土塊が検出されたことから、焼失家屋の可能性はある。本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から後期と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	甕 土師器	A [22.6] B (9.0)	体部から口縁部の破片。体部は内磨し、頸部は強く外反する。口縁部はわずかに肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・砂粒にふい寄せ 普通	P 37 10% 甕東側床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第45図2	管状土錐	4.8	9.4	1.1	(187.0)	覆土中 DP3	
3	管状土錐	1.9	(3.8)	0.4	(10.0)	覆土中 DP4	PL78
4	球状土錐	3.3	2.8	0.7	(28.0)	覆土中 DP5	PL75

#### 第4号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区域の西南部、D1f5区。

重複関係 本跡が第3号住居跡を掘り込み、北壁を第1号溝に、北部を第2号溝に掘り込まれていることから、第3号住居跡より新しく、第1・2号溝跡より古い。

規模と平面形 長軸5.15m、短軸4.56mで、長方形である。

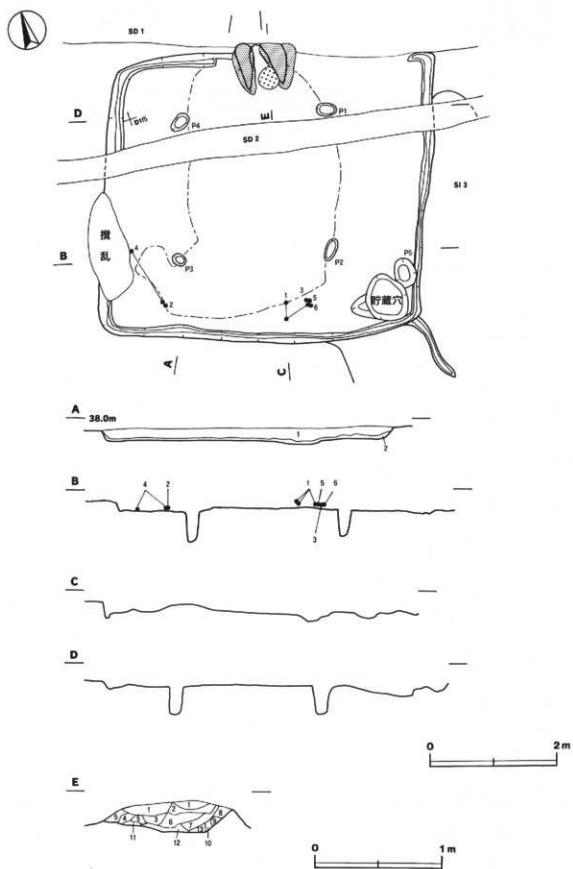
主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は14~17cmで、外傾して立ち上がる。

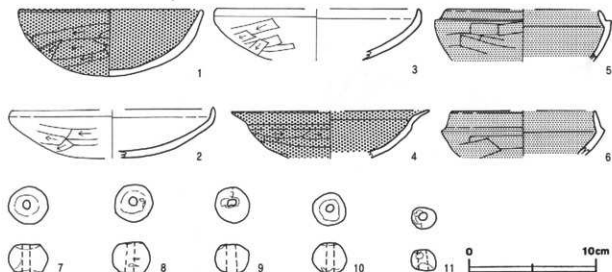
壁溝 北東壁の下と南西壁の下を除き、巡っている。上幅7~21cm、下幅3~11cmで、断面形はU字状である。

床 南側にわずかな高まりが認められる。東と西の壁側を除いて硬い。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は長径32cm、短径21cmの楕円形で、深さは47cmである。P2は長径37cm、短径16cmの楕円形で、深さは44cmである。P3は長径24cm、短径18cmの楕円形で、深さは53cmである。P4は



第46图 第4号住居跡実測图



第47図 第4号住居跡出土遺物実測図

長径33cm, 短径20cmの楕円形で、深さは49cmである。P1～P4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は長径47cm, 短径35cmの楕円形で、深さは13cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、長径78cm, 短径66cmの楕円形で、深さ13cmである。

竈 北壁の中央部を掘り込んで、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで(82)cm, 最大幅98cm, 壁外への掘り込みは(14)cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤化し、硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- |         |                         |         |  |
|---------|-------------------------|---------|--|
| 1 灰褐色   | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    | 9 暗赤褐色  | 焼土粒子中量, ローム粒子微量                          |
| 2 暗褐色   | ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量                          |
| 3 黒褐色   | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量       | 11 灰褐色  | 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 4 暗褐色   | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量    | 12 暗褐色  | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量            |
| 5 灰褐色   | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量    | 13 灰褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量                          |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |         |  |
| 7 暗赤褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |         |  |
| 8 褐色    | ローム粒子中量, 焼土粒子微量         |         |  |

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |      |                           |
|------|---------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量       |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量 |

遺物 土師器片512点, 須恵器片9点, 土製品1点が出土している。第47図1～6は土師器坏である。1・3・5・6は南壁側の覆土下層から出土している。2・4は南西コーナー部の覆土下層から出土している。7～11は球状土錘である。覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と口縁部が内傾する須恵器坏模倣の5・6の土師器坏等の出土土器の特徴から6世紀後半頃と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	土師器 坏	A 14.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。口縁部及び体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P38 98% PL60 南壁側覆土下層
		B 5.1				
2	土師器 坏	A [16.0] B (3.8)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内傾しながら外傾し、口縁部は短く内傾する。	口縁部及び体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。	石英・砂粒 明赤褐色 普通	P39 40% PL60 南西コーナー部 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土器	A [16.0] B (4.0)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁しながら外傾し、口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	雲母 暗赤褐色	P40 30% PL60 南壁部覆土下層 普通
4	坏土器	A [15.8] B (3.7)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部・内外面ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。口縁部及び体部内・外面赤彩。	長石 明赤褐色 普通	P41 40% 南西コーナー部 覆土下層
5	坏土器	A [12.1] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内壁しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母 暗褐色 普通	P42 10% 南壁部覆土下層
6	坏土器	A [11.4] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内壁しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P43 16% 南壁部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第47図7	球状土鉢	3.1	2.3	0.6	20.0	覆土中	DP6
8	球状土鉢	3.0	2.9	0.6	22.0	覆土中	DP7
9	球状土鉢	2.7	2.2	0.8	16.0	覆土中	DP8
10	球状土鉢	2.6	2.3	0.6	15.0	覆土中	DP9
11	球状土鉢	2.0	1.7	1.0	4.5	覆土中	DP10

#### 第11号住居跡 (第48・49・50・51・52・53・54図)

位置 調査区域の南西部，D1a8区。

重複関係 本跡が第10・13号住居跡を掘り込んでいることから，西遺構より新しい。

規模と平面形 長軸5.30m，短軸5.15mで，方形である。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は25～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅16～33cm，下幅3～12cmで，断面形はU字形である。

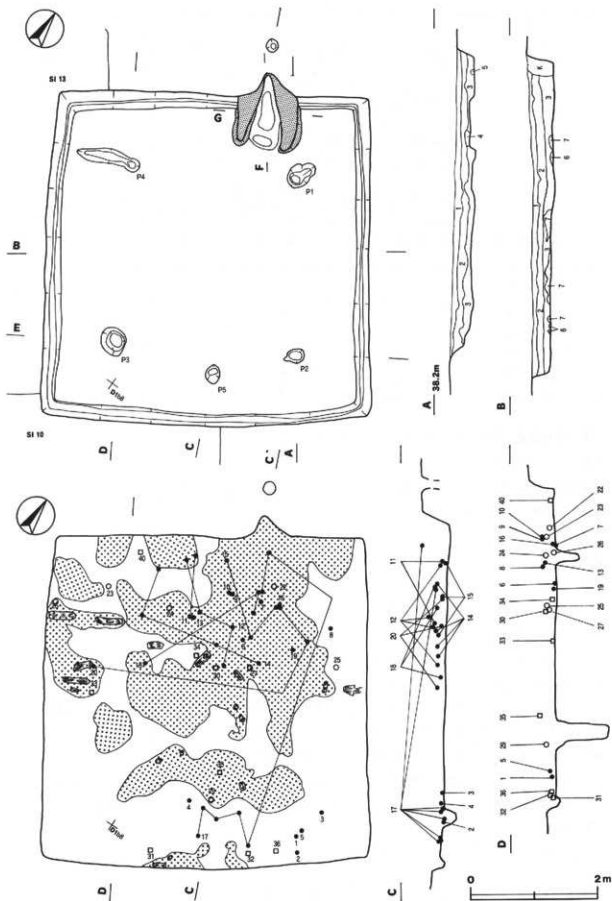
床 平坦で，全面が硬い。P4から南西壁に向かって上幅17～23cm，下幅6～13cm，長さ82cmの溝が延びている。全面から焼土が検出された。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1は長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは84cmである。P2は長径28cm，短径24cmの楕円形で，深さは89cmである。P3は長径48cm，短径41cmの楕円形で，深さは87cmである。P4は径22cmの円形で，深さは40cmである。P1～P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は長径30cm，短径24cmの楕円形で，深さは25cmである。位置から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

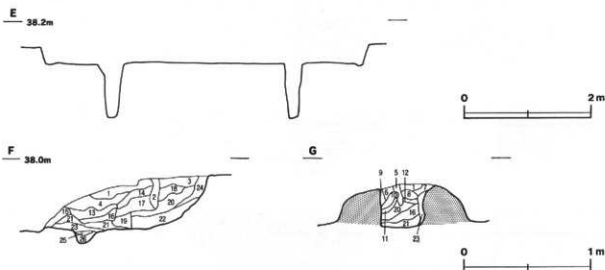
竈 北西壁の中央部から東寄り，壁を削り込んで砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から突口部まで120cm，最大幅104cm，壁外への掘り込みは38cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

#### 焼土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量	8	褐色	焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土小ブロック・ローム粒子微量	9	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	10	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
4	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量，炭化粒子少量	11	暗褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量			
7	暗褐色	焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量			



第48图 第11号住居跡実測图(1)



第49図 第11号住居跡実測図(2)

13	黒	褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量、炭化粒子極微量	19	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量
14	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	20	暗	褐色	焼土粒子・炭化材・ローム粒子少量
15	黒	褐色	ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量	21	暗	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
16	赤	褐色	焼土粒子・炭化材中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	22	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
17	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子少量	23	黒	褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
18	暗	褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量	24	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
				25	黒	褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
				26	黒	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

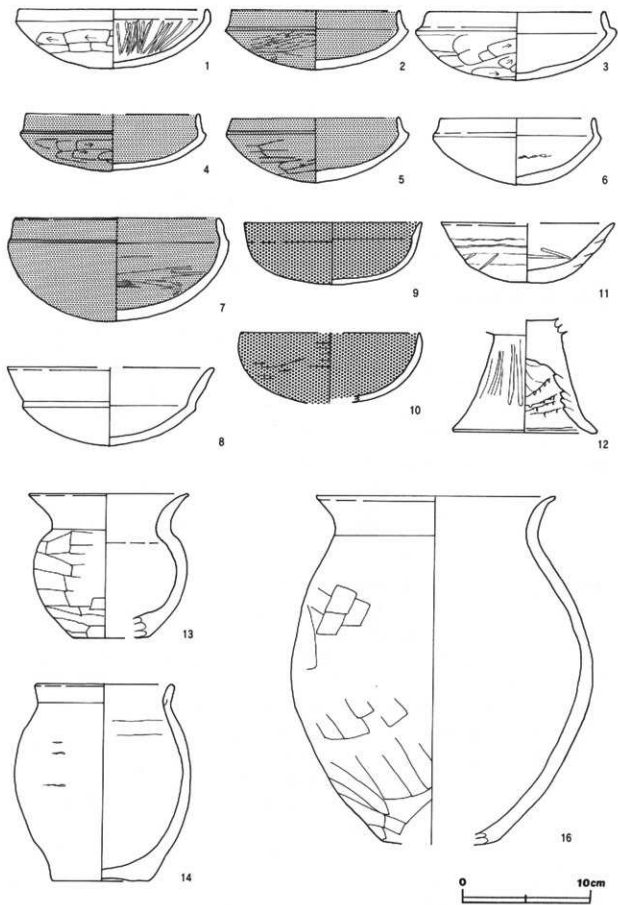
土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化材微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 炭化材多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

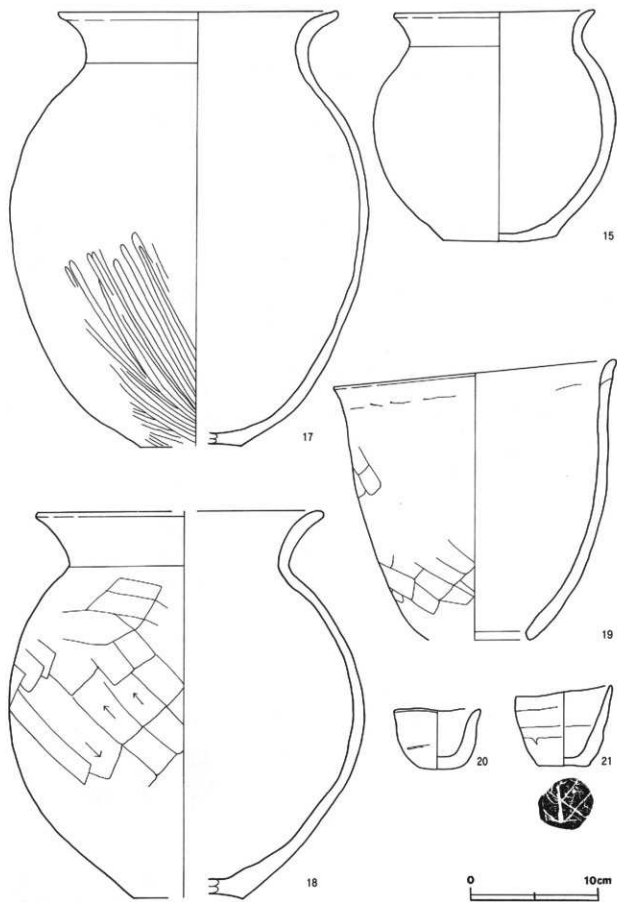
遺物 土師器片916点、須志器片2点、不明鉄製品1点、鏝4点が出土している。第50～54図1～11は土師器坏である。1～3・5は東コーナー部の覆土下層から、6～11は竈西側の覆土下層から、それぞれ出土している。12は土師器高坏で、中央部の覆土上層から出土している。13は土師器壺で、北東部の覆土中層から出土している。14～18は土師器甕である。14・18は中央部の覆土下層から、15は竈西側の覆土下層から、16は竈西側の床面から、それぞれ出土している。17は出入り口付近の覆土下層から出土した破片と竈の覆土上層から出土した破片が接合したものである。19は土師器甕で、竈東側の覆土下層から出土している。20は土師器ミニチュア土器である。西部の覆土下層から出土した破片と北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。21は手捏土器で、覆土中から出土している。23～26は球状土鉢である。23・24・26は西部の、25は北部の覆土下層から出土している。22・29は土製支脚である。22は竈付近の覆土下層、29は出入り口施設付近から出土している。38は石製紡錘車で覆土中から出土している。39は剥片で混入と思われる。30・31・32・36は砥石である。30は中央部の、31・32・36は南東壁側の覆土下層から出土している。33～35は磨石である。33は西部の、34は中央部の、35は東部の覆土下層から出土している。37は砥石で、覆土中から出土している。40は不明石器である。北西壁側の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と、内・外面黒色処理された須志器坏模倣の2・5の土師器坏や8の土師器坏等の出土土器の特徴から6世紀後半頃と考えられる。

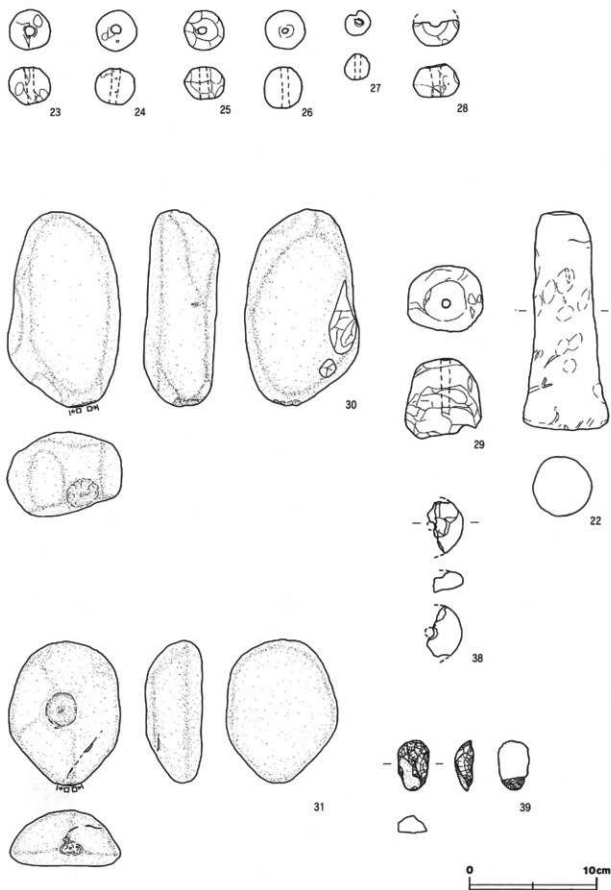




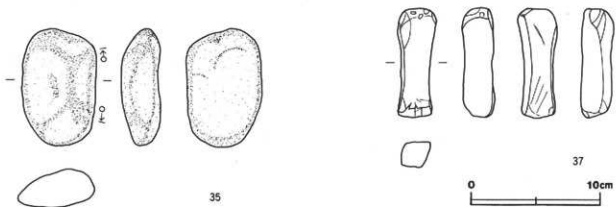
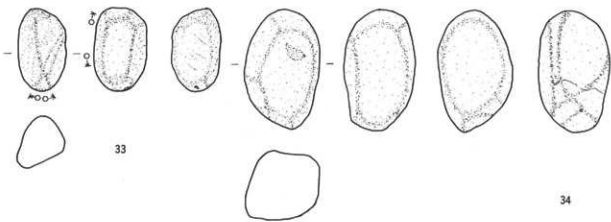
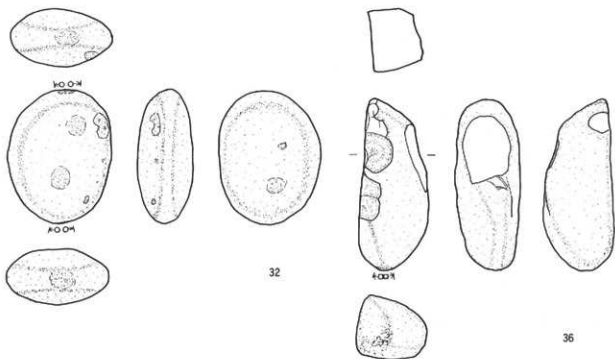
第50图 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



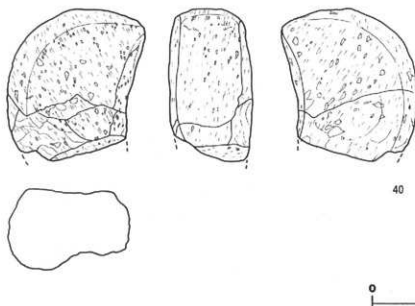
第51图 第11号住居跡出土遺物実測図(2)



第52图 第11号住居跡出土遺物実測図(3)



第53图 第11号住居跡出土遺物実測図(4)



第54図 第11号住居跡出土遺物実測図(5)

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	坏 土 師器	A 14.9 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。体部内面に縮文。	雲母・砂粒にふい褐色普通	P78 95% PL60 東コーナ一部裏土下層
2	坏 土 師器	A 13.2 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・赤色粒子にふい赤褐色普通	P79 95% PL60 東コーナ一部裏土下層
3	坏 土 師器	A 14.1 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。	石英・雲母にふい褐色普通	P80 98% PL60 東コーナ一部裏土下層
4	坏 土 師器	A [13.6] B 4.5	体部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・赤色粒子褐色普通	P81 30% 南部覆土下層
5	坏 土 師器	A 13.2 B 5.1	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母にふい褐色普通	P82 95% PL61 東コーナ一部裏土下層
6	坏 土 師器	A 12.3 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。	長石・石英褐色普通	P83 90% 東西側覆土下層
7	坏 土 師器	A 16.0 B 8.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面一部にへう当て裏。内・外面黒色処理。	長石・赤色粒子暗赤色普通	P84 90% PL61 東西側覆土下層
8	坏 土 師器	A [16.0] B 6.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面ナデ。	長石・砂粒にふい褐色普通	P85 25% 東西側覆土下層
9	坏 土 師器	A 13.9 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。体部と口縁部との境に稜を持つ。	縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	石英・赤色粒子にふい褐色普通	P86 95% PL61 東西側覆土下層
10	坏 土 師器	A 14.0 B 5.4	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	雲母にふい黄褐色普通	P87 45% 東西側覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	坏土師器	A [13.7] B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面に輪積み痕、内面にヘラ当て痕。	長石・砂粒に多い褐色普通	P88 80% 東西側上下層
12	高土師器	B 8.9 D 11.4 E 7.7	脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面に輪積み痕。	長石・石英・赤褐色普通	P89 45% 中央部覆土上層
13	土師器	A 12.6 B 11.3 C [5.8]	底部から口縁部の片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・明赤褐色普通	P90 20% 北東部覆土中層
14	土師器	A 10.9 B 15.4 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾しながら外傾し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・砂粒に多い褐色普通	P91 80% PL61 中央部覆土上層
第51図	土師器	A 15.8 B 18.1 C 8.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・明赤褐色普通	P92 80% PL61 南内側覆土下層
第30回	土師器	A 18.8 B 27.6 C [9.4]	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・砂粒に多い褐色普通	P93 45% PL61 南内側覆土上層
第51回	土師器	A 22.0 B 34.4 C [7.9]	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・赤褐色普通	P94 50% PL61 西入り口覆土下層
18	土師器	A [22.7] B 30.9 C [8.6]	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英に多い褐色普通	P95 55% PL62 中央部覆土下層
19	土師器	A 22.1 B 22.0 C 8.0	口縁部一部欠損。無底式。体部は内傾気味に外傾し、口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒に多い褐色普通	P96 75% PL62 東西側覆土上層
20	土師器	A 6.7 B 4.7	丸底。体部は内傾気味に外傾し、口縁部との境に横を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母に多い褐色普通	P97 100% 西部覆土下層
21	土師器	A 7.5 B 6.4 C 4.0	平底。体部は内傾気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部内・外面に輪積み痕。	普通に多い褐色普通	P98 45% 底部外面に木炭痕覆土中

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第52回22	土師支脚	4.7	17.2	618.0	覆土中 DP19	PL78

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第52回23	球状土師	3.3	2.9	0.7	25.0	覆土中 DP13	PL75
24	球状土師	3.2	2.9	0.8	25.0	覆土中 DP14	PL75
25	球状土師	3.2	2.5	0.6	25.0	覆土中 DP15	PL75
26	土玉	1.1	1.1	0.2	1.0	覆土中 DP16	
27	球状土師	2.0	2.1	0.6	(7.1)	覆土中 DP17	
28	球状土師	3.6	2.6	2.6	(17.0)	覆土中 DP18	
29	棒状土師	(6.3)	3.9	0.7	(145.0)	覆土中 DP20	

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第52回38	石製紡錘車	(4.0)	(1.5)	(0.7)	(13.0)	凝灰岩 覆土中	Q15

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第52図30	葎石	15.4	9.0	6.7	(1210.0)	安山岩	覆土中	Q7	PL79
31	葎石	11.3	8.8	4.5	(632.0)	安山岩	覆土中	Q8	
第53図32	葎石	10.5	8.1	4.5	(524.0)	安山岩	覆土中	Q9	磨石兼用 PL79
33	磨石	6.1	3.8	4.3	(135.5)	安山岩	覆土中	Q10	PL79
34	磨石	9.6	6.0	5.5	(432.0)	安山岩	覆土中	Q11	
35	磨石	9.3	5.9	3.1	(207.0)	砂岩	覆土中	Q12	
36	葎石	13.4	(5.6)	5.1	(547.0)	安山岩	覆土中	Q13	門石兼用
37	葎石	8.6	5.1	2.1	(83.0)	凝灰岩	覆土中	Q14	PL79
39	洞片	3.9	2.4	1.4	(15.0)	頁岩	覆土中	Q16	
第54図40	不明石器	(11.9)	10.7	6.4	(164.0)	緑石	覆土中	Q17	

### 第15号住居跡(第55・56図)

位置 調査区域の南西部，D1e4区。

重複関係 本跡は，南東壁から中央部を第1号溝に，南西コーナー部を第3号溝に掘り込まれていることから，これらの遺構より古い。

規模と平面形 北西側の約半分は調査区域外である。長軸4.53m，短軸[4.17]mで，方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は27～31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の下と東壁の下に巡っている。上幅22～32cm，下幅7～21cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部に硬化面が認められる。

竈 西側半分は調査区域外である。北壁の中央部を掘り込んで，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚口部まで75cm，最大幅(65)cm，壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

1 褐 色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子少量	10 灰褐色	焼土粒子・ローム粒子少量
3 灰褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 灰褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6 におい赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子微量	14 赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子微量
7 赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子微量	15 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
8 赤灰褐色	焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量	16 黒暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量

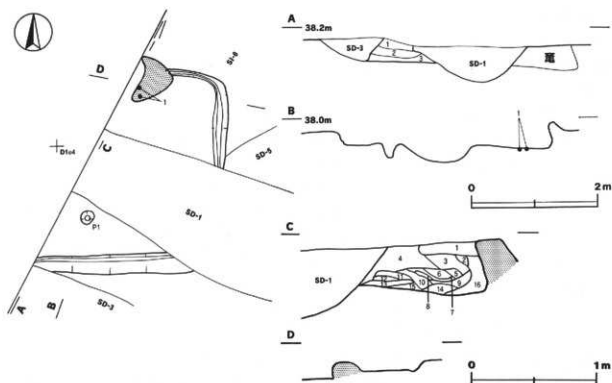
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

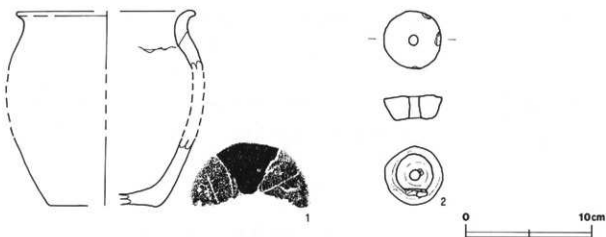
1 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物 弥生土器片2点，土師器片25点，鏝1点が出土している。第56図1は土師器甕で，竈の覆土下層から出土している。2は土製紡錘車で，南部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と1の土師器甕の器形の特徴から6世紀頃と考えられる。



第55図 第15号住居跡実測図



第56図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	壺 土器	A [14.2] B [15.4] C [8.8]	平底。腰部は内壁しながら立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部内・外面ナデ。	雲母にふい・赤褐色 普通	P127 30% PL62 底部外面に木炭灰 塵覆上下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)			
第56図2	石製紡錘車	4.6	1.8	0.8	(50.1)	滑石	石覆土中 Q19	PL79



第18号住居跡 (第57・58・59図)

位置 調査区域の西南部, C117区。

規模と平面形 北西側の半分は調査区域外である。長軸(1.97)m, 短軸(4.50)mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は33~41cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁の下と南壁の下に巡っている。上幅7~29cm, 下幅6~11cmで, 断面形はU字状である。

床 西から東に傾斜している。南壁側に硬化面が認められる。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径33cm, 短径28cmの楕円形で, 深さは61cmである。位置と規模から主柱穴と考えられる。P2は長径18cm, 短径12cmの楕円形で, 深さは20cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3は径28cmの円形で, 深さは42cmである。性格は不明である。

覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

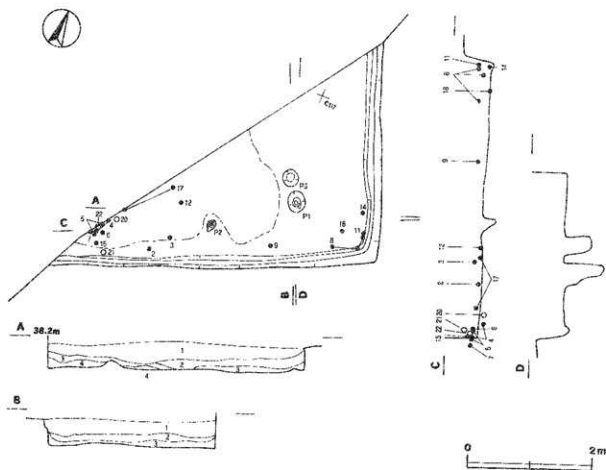
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片494点, 粘土塊10点, 礫1点が出土している。第58・59図P1~4は土師器片である。2~4は南部の覆土中層から出土している。1は覆土中から出土している。5~19は土師器甕である。12は南部の覆土下層から出土している。11・14・18は南東コーナー部の覆土下層から出土している。15は南壁側の覆土下層から出土している。17は南部の覆土下層から出土している。16は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 口縁部が内傾する須恵器環模倣の1の土師器片等の出土土器の特徴から6世紀後半頃と考えられる。

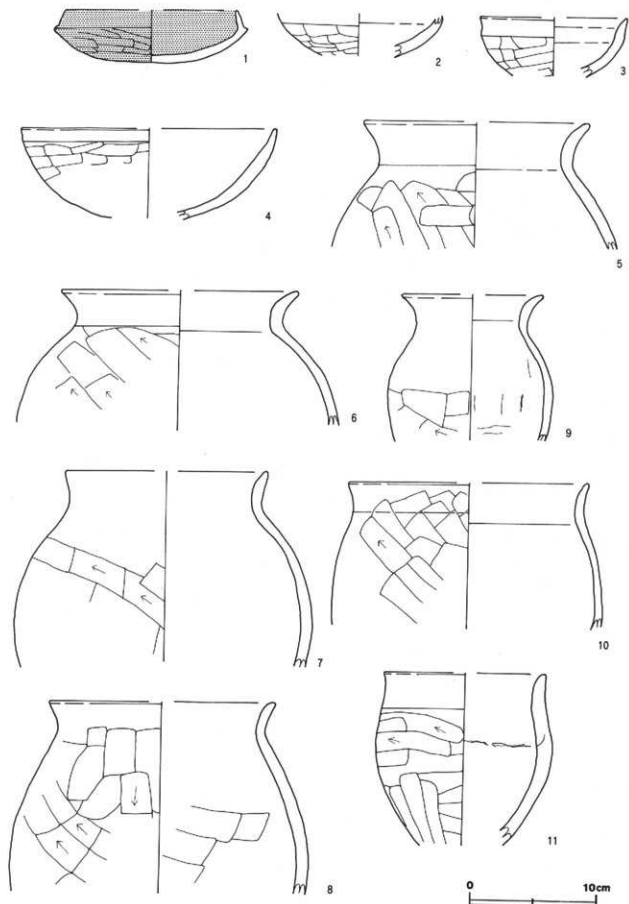
第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	土師器	A [13.5] B 2.2	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部との境に明確な線を伴う。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。内・外面黒色処理。	長石にふい赤褐色 普通	P130 60% PL62 覆土中
2	土師器	B (3.4)	底部から体部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面へラナゲ, 内面ナゲ。	長石にふい褐色 普通	P131 20% 南部覆土中
3	土師器	A [11.5] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。	長石にふい黄褐色 普通	P132 20% PL62 南部覆土中
4	土師器	A [20.0] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。	長石にふい赤褐色 普通	P133 30% PL62 南部覆土中
5	甕 土師器	A [17.6] B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し, 口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。	長石・石英 にふい橙褐色 普通	P134 15% 西部覆土下層
6	甕 土師器	A [18.6] B (10.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。	長石・石英・赤色 粒子・赤褐色 普通	P135 10% 西部覆土下層
7	甕 土師器	A [16.1] B 16.5	体部から口縁部の破片。体部は内彎し, 口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部外面へラ削り, 内面ナゲ。	長石・石英 にふい橙褐色 普通	P136 10% 西部覆土下層

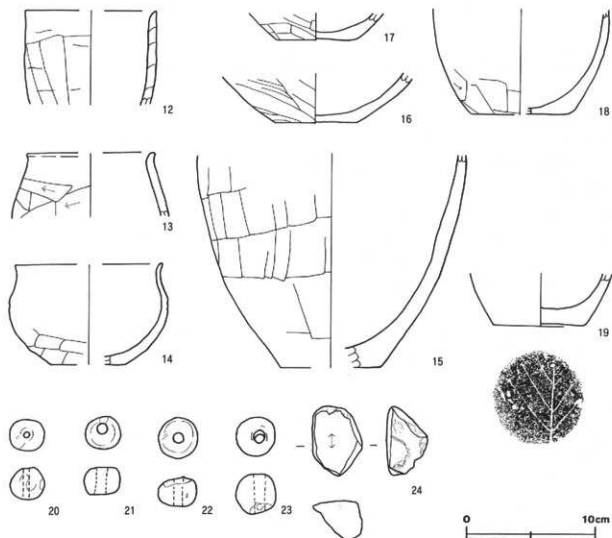


第57図 第18号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 8	夏 上部器	A (17.6)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラ削り、内面ヘラナテ。	長石・石英 にぶい褐色 貫通	P137 10% 南東コーナー部 覆土中層
		B (15.6)				
9	夏 十部器	A (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラ削り、内面ヘラナテ。体部内 面にヘラ当て痕。	長石・石英・赤色 磁子 にぶい褐色 貫通	P138 20% 南東部覆土中層
		B (11.5)				
10	夏 十部器	A (19.0)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラ削り、内面ヘラナテ。体部内 面にヘラ当て痕。	長石 赤褐色 貫通	P139 10% 覆土中
11	夏 上部器	A (12.8)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラ削り、内面ナテ。体部内面に 輪轆み痕。	長石・石英・雲母 赤褐色 貫通	P140 40% 南東コーナー部 覆土中層
		B (13.6)				
第39図 12	夏 上部器	A (10.2)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラナテ、内面ナテ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 貫通	P141 10% 南部床面
		B (7.3)				
13	小形夏 上部器	A (10.0)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラナテ、内面ナテ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 貫通	P142 5% 覆土中
		B (5.0)				
14	小形夏 上部器	A (11.8)	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎し、口縁部は緩く外反す る。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面 ヘラナテ、内面ナテ。	長石 にぶい黄褐色 貫通	P143 30% 南東コーナー部 覆土F層
		B (7.9)				
		C (6.0)				
15	夏 上部器	B (16.6)	底部から体部の破片。平底。体部 は内彎しなから立ち上がる。	体部外面ヘラナテ、内面ナテ。	長石・石英・雲母 褐色 貫通	P144 10% 南西部覆土中層
		C (7.8)				



第58图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第59図 第18号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 16	甕 土師器	B ( 3.9) C 6.4	底部から体部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P145 10% 覆土中
17	甕 土師器	B ( 8.3) C [ 7.6]	底部から体部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・雲母 赤褐色 普通	P146 10% 南部覆土下層
18	甕 土師器	B ( 2.1) C 6.0	底部から体部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P147 5% 南東コーナー部床面
19	甕 土師器	B ( 4.2) C 7.4	底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	明赤褐色 長石・石英・雲母 砂粒・普通	P419 10% 底部木炭痕

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第59図20	球状土師	2.8	2.5	0.5	17.0	南西部床面	DP21	PL75
21	球状土師	2.9	2.3	1.0	16.0	南西部壁際土中層	DP22	
22	球状土師	3.1	( 2.3)	0.8	(20.0)	南西部覆土下層	DP23	
23	球状土師	3.2	( 3.2)	0.6	(27.0)	覆土中	DP24	PL75

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第59図24	瓦石	5.4	3.9	3.1	(58.0)	凝灰岩	掘十中	Q20

### 第19号住居跡 (第60・61・62図)

位置 調査区域の南西部, C1h8区。

規模と平面形 北東側の半分は調査区域外である。長軸(2.40)m, 短軸3.17mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は18~25cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

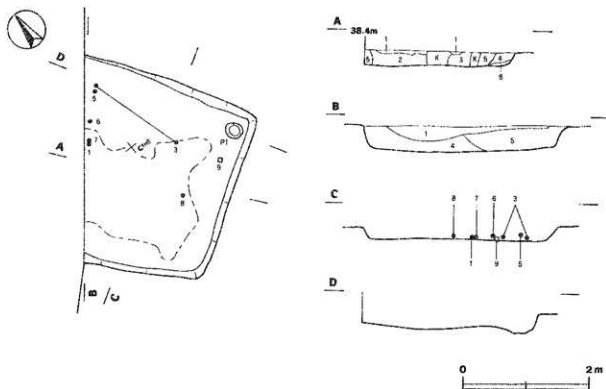
床 東コーナー部にわずかな高まりが認められる。中央部から西部にかけて硬化面が認められる。

ピット 1か所。P1は長径28cm, 短径23cmの楕円形で, 深さは6cmである。性格は不明である。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒少量
- 2 褐色 色 炭化粒少量・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 3 褐色 色 炭化粒少量・ローム大ブロック・ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 色 ローム粒子多量, 炭化材・粒子少量
- 6 黒褐色 色 炭化粒少量・ローム中ブロック少量, 焼土粒少量・ローム粒子微量



第60図 第19号住居跡実測図

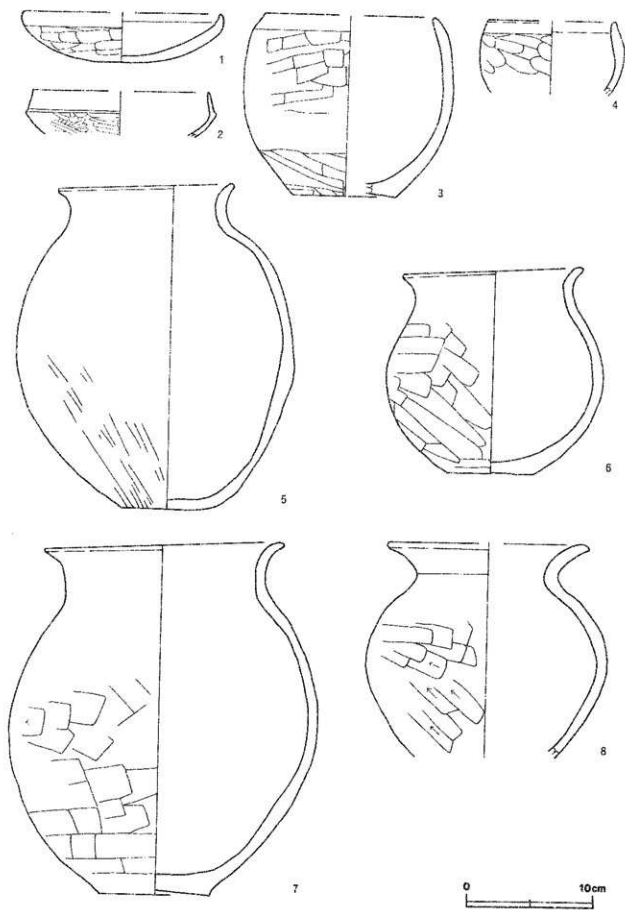
遺物 土師器片136点, 須恵器片1点, 土製品1点, 礫2点が出土している。第61・62図1・2は土師器坏である。1は北西部の床面から出土している。2は覆土中から出土している。4は土師器鉢である。覆土中から出土している。3は土師器鉢である。北部と南部の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。5～8は土師器甕である。5・6・7は北部の覆土下層から出土している。8は南部の覆土下層から出土している。9は磨石で, 南部の覆土下層から出土している。10は敲石で覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 11緑部が内傾する須恵器坏模倣の2の土師器坏等の出土土器の特徴から6世紀後半頃と考えられる。

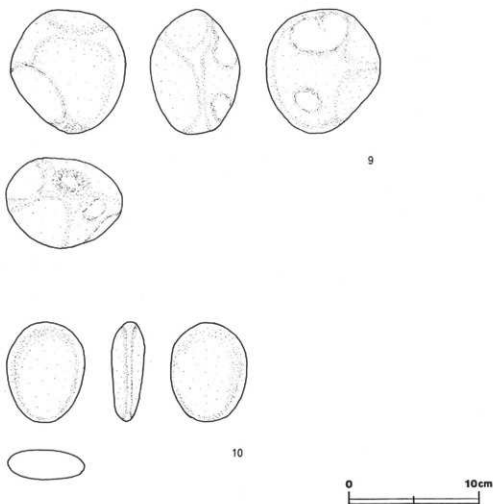
第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	土師器 坏	A 15.7 B 3.9	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内傾し、口縁部は短くほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・赤色粒子にふい橙色 普通	P118 25% PL62 北西部床面
2	土師器 坏	A 14.0 B (3.4)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、口縁部との境に明瞭な線を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	雲母にふい橙色 普通	P149 5% PL63 覆土中
3	土師器 鉢	A 13.4 B 14.2 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒・赤色粒子にふい橙色 良好	P150 30% PL63 北部と南部床面
4	土師器 坏	A 9.9 B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英にふい黄褐色 普通	P151 20% PL63 覆土中
5	土師器 甕	A 13.8 B 25.9 C 7.1	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、中段に最大径を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・赤色粒子にふい赤褐色 普通	P152 95% PL62 北部覆土下層
6	土師器 甕	A 24.3 B 16.3 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい赤褐色 普通	P153 97% PL62 北部覆土下層
7	土師器 甕	A 19.0 B 28.0 C 8.6	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は鋭く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・赤褐色 普通	P154 88% PL63 北部覆土下層
8	土師器 甕	A [16.0] B (16.8)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、口縁部は鋭く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・雲母・砂粒にふい橙褐色 普通	P155 30% PL63 南部覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第62図9	牌 石	9.7	9.0	7.0	(761.0)	安山岩	覆土中	Q21 PL79
10	敲 石	7.8	6.2	2.4	(164.0)	安山岩	覆土中	Q22 PL79



第61図 第19号住居跡出土遺物実測図(1)



第62図 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

#### 第20号住居跡 (第63・64図)

位置 調査区域の南西部, D1 a0区。

重複関係 本跡が第22号住居跡を掘り込み, 北壁から南西コーナー部にかけて第1号溝に, 西壁を第9号土坑に掘り込まれていることから, 第22号住居跡より新しく, 第1号溝跡と第9号土坑より古い。

規模と平面形 長軸6.56m, 短軸6.46mで, 方形である。

主軸方向 N-3°-W

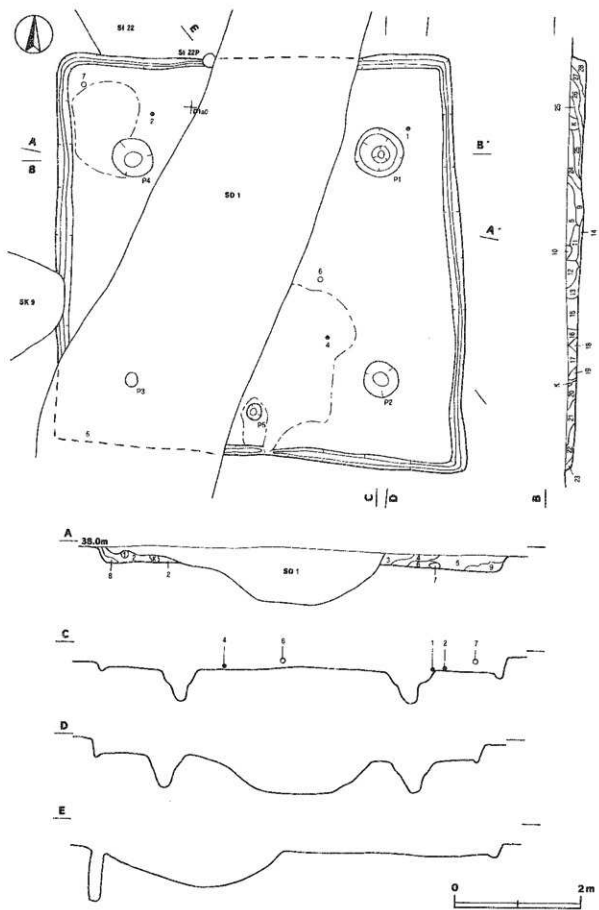
壁 壁高は14~27cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部分を除いて, 全周する。上幅13~27cm, 下幅3~9cmで, 断面形はU字形である。

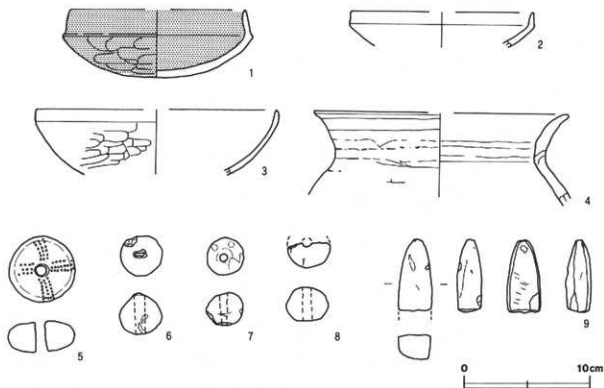
床 中央部に, わずかな高まりが認められる。北東コーナー部と南壁の下に硬化面が認められる。

ピット 5か所(P1~P5)。P1は径79cmの円形で, 深さは50cmである。P2は径58cmの円形で, 深さは51cmである。P3は径(22)cmの円形で, 深さは(62)cmである。P4は径65cmの円形で, 深さは49cmである。P1~P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm, 短径23cmの楕円形で, 深さは51cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。





第63图 第20号住居跡実測図



第64図 第20号住居跡出土遺物実測図

覆土 28層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子微量
- 7 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 8 黒 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 9 暗 褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 10 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 11 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 12 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 13 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 14 黒 褐色 ローム小ブロック微量
- 15 黒 褐色 ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
- 16 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 17 暗 褐色 ローム小ブロック・粒子微量 19層より色調が明るい。
- 18 黒 褐色 ローム中ブロック・粒子微量
- 19 暗 褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 20 黒 褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 21 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 22 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 23 黒 褐色 ローム粒子少量
- 24 黒 褐色 ローム粒子少量23層より締りが強い。
- 25 黒 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 26 暗 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 27 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 28 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片523点、須恵器片6点、粘土塊3点、鉄滓、礫20点が出土している。第64図1～3は土師器片である。1は北東コーナ部の床面から出土している。2は北西コーナ部の床面から出土している。3は覆土中から出土している。4は土師器片で、南部の覆土下層から出土している。5は土製紡錘車で、覆土中から

出土している。6～8は球状土鉢である。6は中央部の、7は北西コーナー部の覆土下層から出土している。8は覆土中から出土している。9は砥石で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、内・外面黒色処理された須恵器坏模倣の1の土師器坏や口縁部が直立する須恵器蓋に系譜を持つという3の土師器坏等の出土土器の特徴から6世紀後半頃と考えられる。

#### 第20住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	坏 土師器	A [13.8] B 5.3	底部から口縁部の破片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な境を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ張り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母にふい黄褐色 普通	P156 40% PL63 北東コーナー部床面
2	坏 土師器	A [14.3] B (2.7)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母にふい黄褐色 普通	P157 5% 北西コーナー部床面
3	坏 土師器	A [19.0] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ、内面ナデ。	砥石・雲母 明赤褐色 普通	P158 5% 覆土中
4	瓦 土師器	A [20.0] B (6.0)	体部から口縁部の破片。体部は内傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部及び体部外面に輪模り痕。	砥石・石英 明褐色 普通	P159 5% 南部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第64図3	土製輪鉢車	5.2	4.5	0.8	(76.0)	覆土中	DP25 PL72

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第64図6	球状土鉢	3.3	3.3	0.9	30.0	覆土中	DP26 PL75
7	球状土鉢	2.9	2.6	0.6	20.0	覆土中	DP27 PL75
8	球状土鉢	3.3	2.6	0.8	(14.0)	覆土中	DP28

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第64図9	砥石	(5.6)	(2.6)	(1.8)	(42.0)	凝灰岩	覆土中	Q23

#### 第21号住居跡(第65・66図)

位置 調査区域の南西部、C2j1区。

重複関係 本跡は、第16号住居に掘り込まれていることから、第16号住居よりも古い。

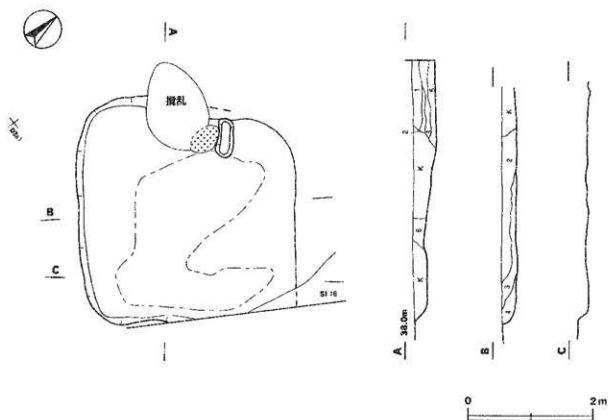
規模と平面形 長軸3.55m、短軸3.42mの方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は2～10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北西壁が攪乱を受けており、竈の一部分と思われる粘土と焼土を検出したが、竈本体の規模や構造等是不明である。



第65図 第21号住居跡実測図

覆土 一部掘乱を受けている部分があるが、レンズ状に堆積していることから、6層からなる自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 rome rome 少量、rome rome 少量
- 2 褐色 rome rome 少量・rome rome 少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・rome rome 少量、rome rome 少量、rome rome 少量
- 4 黒褐色 rome rome 少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 rome rome 少量・rome rome 少量
- 6 黒褐色 rome rome 少量

遺物 土師器が中心で、多量に出上しているが、破片が多い。土師器片325点、須恵器片6点、鉄線1点が出上している。第66図1の土師器環は、北部の覆土中から出土している。

所見 本跡からは、ピットは検出されていない。本跡の時期は、遺構の形態及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第66図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	土師器 環	A [13.0] B [2.9]	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石灰・雲母に多い褐色	P100 5% 北部覆土中 普通

第22号住居跡（第67・68図）

位置 調査区域の南西部，C1j0区。

重複関係 本跡は，第20・42号住居及び第1号溝に掘り込まれており，これらの遺構より古い。

規模と平面形 北部及び南西部が第20・42号住居及び第1号溝に掘り込まれており，遺構全体は検出できなかったが，一辺が[5.24]mの方形と推定される。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は32～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 検出された壁の下には，通っている。上幅20～30cm，下幅3～8cm，深さ3～8cmで，断面形はU字形である。

床 平川で，中央部が窪み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1～P4は，長径20～36cm，短径18～28cmの不規則円形，深さ62～90cmで，配管や規模から支柱穴と思われる。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 無 色 ローム中ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
- 2 緑 色 ローム中ブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 砂土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 粘土小ブロック・ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

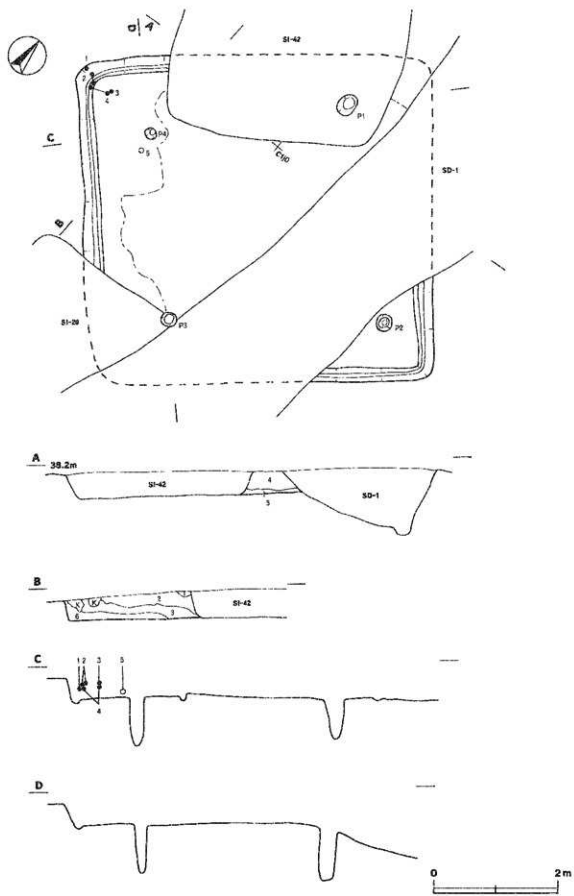
遺物 土師器片591点，須恵器片4点，球状土鉢2点，管状土鉢1点が出している。土師器では，壺片が多い。第68図1の土師器環と2・3の土師器甕及び4の土師器甕は，いずれも北西コーナー部の覆土中層から出土している。5の球状土鉢はP4南側の覆土下層から，6の球状土鉢はP3の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は，北東部及び南西部が第20・42号住居跡及び第1号溝に掘り込まれており，壺は検出されなかった。本跡の時期は，出土土器から後期（6世紀代）と思われる。

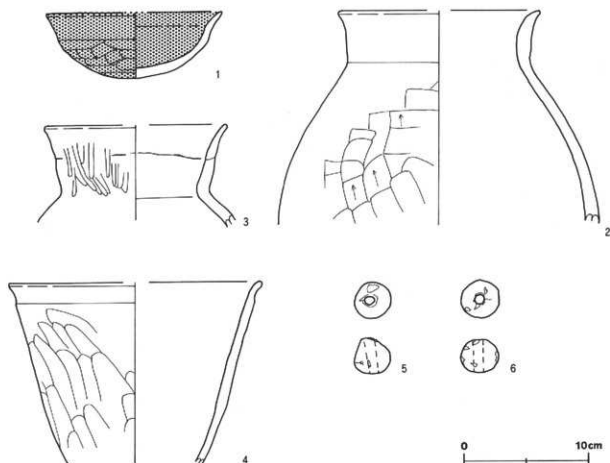
第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	環状土師器	A [10.9]	底部から口縁部片。体部は内傾しながら立ち上がり，口縁部は外反する。体部と口縁部との境にわずかな横を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。体部内・外面赤彩。	長石・砂粒・赤色 褐色 普通	P161 30% 北西コーナー部 覆土中層
		B 5.2				
2	壺土師器	A [15.6]	体部から口縁部片。体部は内傾し，口縁部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P162 5% PL63 北西コーナー部 覆土中層
		B (16.8)				
3	壺土師器	A [14.1]	体部から口縁部片。体部は内傾し，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ヘラ磨き，内面ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部内面にヘラ当て痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	P163 5% PL63 北西コーナー部 覆土中層
		B (7.5)				
4	瓶状土師器	A [19.8]	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P164 5% PL63 北西コーナー部 覆土中層
		B (14.4)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第68図5	球状土鉢	2.9	2.8	0.9	19.2	P4溝側壁下層 DP29		PL76
6	球状土鉢	3.0	2.6	0.9	21.4	P3覆土中，DP30		PL76



第67图 第22号住居跡実測图



第68図 第22号住居跡出土遺物実測図

### 第23号住居跡 (第69・70図)

位置 調査区域の南西部, C 2 j 1 区。

重複関係 第41号住居跡を掘り込んでおり, 第41号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.70mで, 方形である。

主軸方向 N-0°

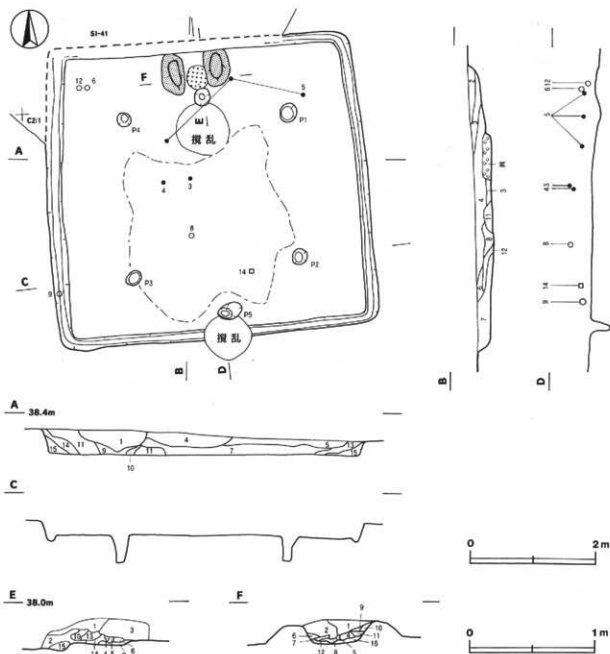
壁 北東部は第41号住居跡との重複部分であり, 壁の立ち上がりは明確に検出されなかった。検出された部分では, 壁高は30~34cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には, 巡っている。上幅14~24cm, 下幅6~14cm, 深さ10cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部から南部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径23~30cm, 短径20~26cmの不整楕円形, 深さ40~46cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。P5は, 長径40cm, 短径26cmの不整楕円形, 深さ30cmで, 出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁はほぼ中央部に, 砂混じりの粘土で構築されているが, 北部は第41号住居跡との重複部分であり, 壁外への掘り込みは明確に検出されなかった。天井部はほとんど崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 長さ(86)cm, 最大幅(108)cmである。火床部は, 床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道部は, 検出されなかった。

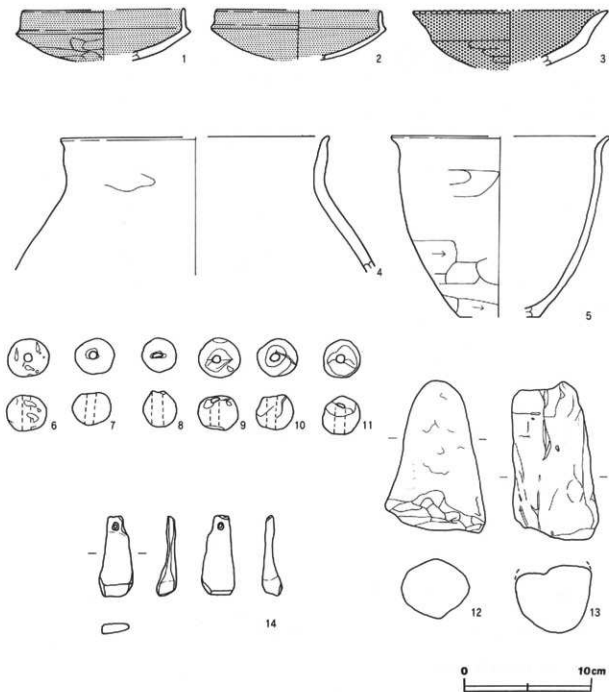


第69図 第23号住居跡実測図

遺土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 5 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量
- 6 黒褐色 粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 粘土粒子微量
- 11 黒褐色 粘土粒子微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量, 締まり弱い
- 13 明褐色 粘土粒子微量
- 14 暗赤褐色 粘土粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量, 粘性・締まりともに弱い
- 16 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量





第70図 第23号住居跡出土遺物実測図

覆土 15層からなる。不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- |       |                                 |        |                         |
|-------|---------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量           | 8 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量         | 9 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量                 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量              | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量          |
| 5 黒褐色 | 焼土中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量      |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                | 13 暗褐色 | ローム粒子微量                 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量           | 14 赤褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量      |
|       |                                 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量        |

遺物 土師器片572点, 須恵器片20点, 球状土鉢6点, 土製支脚2点が, 甕前部から中央部を中心にして出土している。第70図1・2の土師器環は, 中央部の覆土中から出土している。3の土師器高環, 4の土師器甕及び8の球状土鉢は, いずれも中央部の覆土下層から出土している。5の土師器甕は, 甕付近と北東部から出土した破片が接合したものである。6の球状土鉢及び12の土製支脚は北西コーナー部の覆土下層から, 9の球状土鉢は南西部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。14の砥石は, 南部の覆土下層から出土している。7・10・11の球状土鉢と13の土製支脚は, いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は, 一部混乱を受けているものの, 他の住居跡に比べ遺存状態は良好であった。ただ, 遺物は細片が多く, 図示できるものは少なかった。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土土器から後期(6世紀代)と思われる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図1	環状土師器	A [12.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持ち, 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ, 内面ナデ。内・外面黒色処理。	赤色粒子上黄褐色普通	P165 30% PL83 中央部覆土中
		B (4.0)				
2	環状土師器	A [12.8]	体部から口縁部破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持ち, 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英にふい黄褐色普通	P166 30% 中央部覆土中
		B (3.9)				
3	高土師器	A [15.4]	底部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部との境に稜を持ち, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 一部へラナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒・赤色粒子上褐色普通	P167 30% PL63 中央部覆土下層
		B (4.3)				
4	甕土師器	A [21.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部は外傾し, 肩部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・赤色粒子上にふい褐色普通	P168 20% PL63 中央部覆土下層
		B (10.7)				
5	甕土師器	A [17.4]	底部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい赤褐色普通	P169 20% PL63 甕付近と北東部
		B 14.2				
		C (6.4)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第70図6	球状土鉢	3.2	2.8	0.6	25.8	北西コーナー部	DP31	PL76
7	球状土鉢	3.1	2.7	0.6	20.0	覆土中	DP32	PL76
8	球状土鉢	2.7	2.9	0.8	18.7	中央部覆土下層	DP33	PL76
9	球状土鉢	3.1	2.7	0.7	24.2	南西部壁際土下層	DP34	PL76
10	球状土鉢	2.9	2.8	0.9	20.6	覆土中	DP35	PL76
11	球状土鉢	2.9	3.1	0.7	21.5	覆土中	DP36	

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)			
第70図12	土製支脚	5.4	(11.9)	(457.2)	北西コーナー部	DP37	PL78
13	土製支脚	6.8	(12.5)	(412.7)	覆土中	DP38	

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第70図14	砥石	6.3	2.6	0.7	23.5	凝灰岩	南部覆土下層	Q24 PL79

### 第24号住居跡(第71・72図)

位置 調査区域の南西部，C1f0区。

重複関係 本跡が，第43・44号住居跡を掘り込んでおり，向遺構よりも新しい。

規模と平面形 北西部が調査区域外となっており，確認できたのは，南北軸(5.22)m，東西軸(4.60)mで，平面形は不明である。

南北軸方向 N-6°-W

壁 壁高は48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 擾乱を受けている南東部を除いて，巡っている。上幅20~32cm，下幅2~14cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P5は，長さ24~60cm，短径24~50cmの不整円形または不整楕円形，深さ16~43cmで，柱穴と思われる。

覆土 一部擾乱を受けているが，レンズ状の堆積状況から，7層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

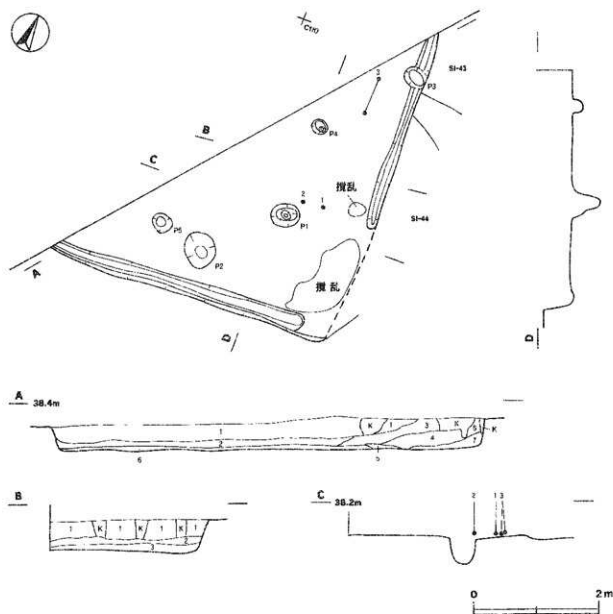
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 黒褐色 焼土粒子中量，炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片496点，須恵器片21点，球状土鍾1点が出土している。第72図1と2の土師器坏は，P1付近の覆土下層から川土している。3の土師器甕は，北東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の土師器甕と5の球状土鍾は，覆土中から出土している。

所見 本跡からは，床，壁，壁溝及び柱穴が検出されていることから住居跡としたが，北西部が調査区域外となっているため竈は検出されなかった。本跡の時期は，出土遺物から後期(7世紀代)と思われる。

### 第24号住居跡出土遺物観察表

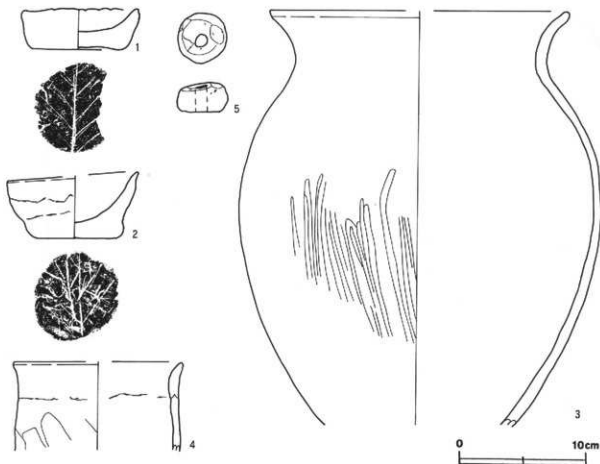
図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	坏 土師器	A 9.1	体部一部欠損。平底。体部は外側に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底 部及び体部の器肉は厚い。	長石・石英 にふい粉色 普通	P170 80% PL61 底面外側に木葉面 P1東部覆土下層
		B 3.2				
		C 7.1				
2	坏 土師器	[10.4]	体部一部欠損。突出した平底。体 部は内側に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底 部及び体部の器肉は厚い。体部外 面に輪積み痕。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P171 70% PL64 底面外側に木葉面 P1東部覆土下層
		B 5.3				
		C 7.4				



第71図 第24号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 3	壺 上部器	A 23.9	体部から底部欠損。体部は内彎しながらわずかにがり、上位に最大径を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位へラ磨き。内面ナデ。	長石・石英・雲母に多い得色 普通	P172 70% PI64 北東部覆土下層
		B (32.9)				
4	壺 下部器	A 13.2	体部はわずかに内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部内・外面に輪痕み痕。	長石・石英・砂粒、赤色銕子 普通	P173 10% 覆土中
		B (6.9)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第72図5	球状土鋪	4.0	2.4	0.9	34.8	覆土中 DP39	PL76



第72図 第24号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡 (第73・74図)

位置 調査区域の南西部, C 2 g 2 区。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸2.90mで長方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は14~28cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分はない。

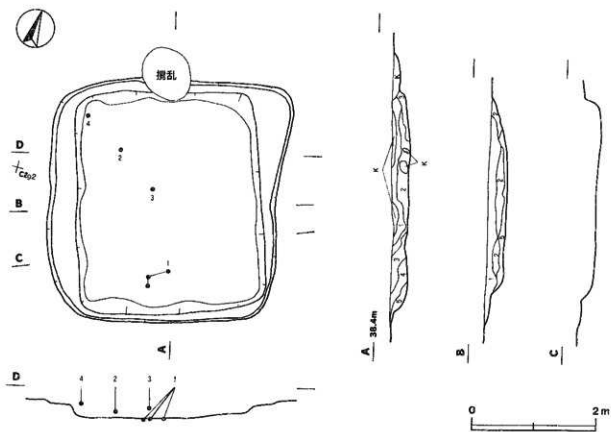
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

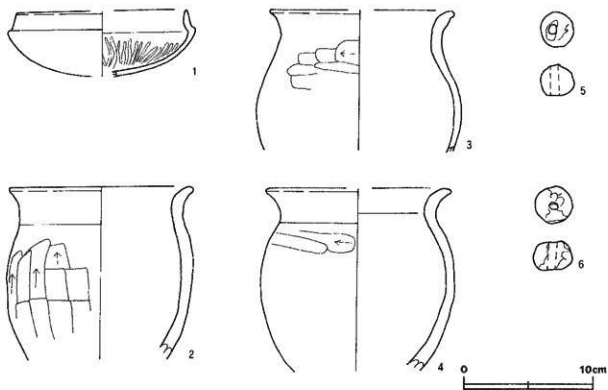
- |       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色  | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量                    |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量                 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量             |
| 5 褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量                      |

遺物 土師器片268点, 須恵器片2点, 球状土鉢2点のほか, 混入した縄文土器片5点, 弥生土器片13点が出土している。第74図1の土師器片は, 南部の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器片は北西部の覆土下層から, 3の土師器片は中央部の覆土上層から, 4の土師器片は北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。5と6の球状土鉢は, いずれも覆土中からの出土である。

所見 本跡からは竈やピット, 床の硬化面等は検出されず, 生活したと思われる形跡が認められなかった。住居として構築し始めたものの, 途中で放棄した可能性が考えられる。そしてその際に, 土器等を投棄したと思われる。本跡の時期は, 出土遺物から後期(6世紀代)と思われる。



第73图 第25号住居跡实测图



第74图 第25号住居跡出土遺物实测图

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施地	備考
第74図 1	環 土師器	A [13.4] B (5.1)	底部から口縁部の破片。体部は内 彎しながら立ち上がる。口縁部の 地に明瞭な稜を持ち、口縁部は内 彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ナデ。内面ヘラ磨き。	長石・赤色粒子 褐色 普通	P174 40% PL64 覆形床面
2	壺 土師器	A 14.7 B (13.5)	底部及び体部一部欠損。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P175 60% PL64 北西部覆土下層
3	壺 土師器	A [14.6] B (11.0)	底部から体部一部欠損。体部は内 彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P176 30% PL64 中央部覆土1層
4	壺 土師器	A [14.4] B (14.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 上位ヘラ削り、内面ナデ。外面下 位剥離のため不明。	赤色粒子・黒色粒子 明赤褐色 普通	P177 33% PL64 北西コーナー部 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第74図3	球状土師	2.7	2.6	0.8	15.7	覆土中	DP40 PL76
6	球状土師	3.0	2.4	0.7	17.3	覆土中	DP41 PL76

第27号住居跡（第75・76図）

位置 調査区域の南西部、C 2 c 1 区。

重複関係 第1号溝に掘り込まれていることから、第1号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸4.08m、短軸(3.70)mで、長方形と推定される。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は24~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 3か所(P1~P3)。P1・P2は、径15~19cmの不整円形、深さ7~15cmで、配置から支柱穴と思われる。P3は、長径30cm、短径18cmの不整楕円形で、深さ11cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。

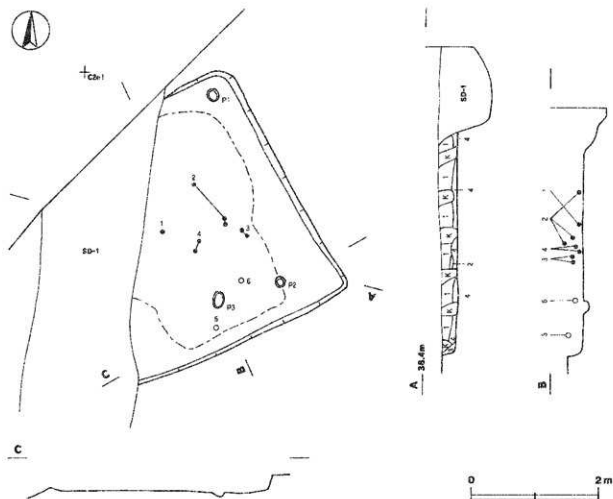
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭十粒子・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 炭上粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 炭十粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片371点、須恵器片6点、球状土師2点、鉄滓1点のほか、混入した弥生土器片21点が出土している。第76図1の土師器環と4の土師器壺は中央部の覆土下層から出土している。2・3の土師器壺は東部の覆土上層及び下層から出土した破片が接合したものである。5と6の球状土師は、いずれも南部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、北部から西部にかけて第1号溝に掘り込まれているため、壺は検出されなかった。また、壁溝も検出されなかった。本跡の時期は、出土遺物から後周(7世紀代)と思われる。



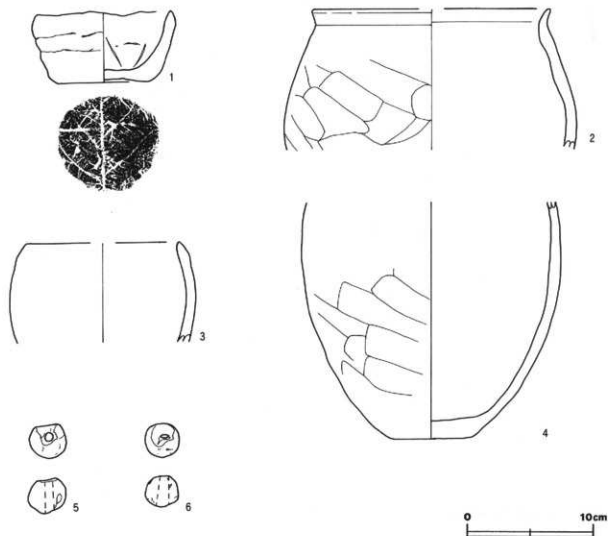
第75図 第27号住居跡実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第76回 1	坏 土 師 器	A 10.6 B 3.5 C 7.2	口縁部一部欠損。底部は上げ底気味の平底。体部は内彎気味に外彎して、立ち上がる。底部及び体部は器肉が薄い。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ刮て痕、外面に輪積み痕。	長石・石英にふい・褐色普通	P178 99% PL61 中央部覆土ト層
2	壺 上 師 器	A 18.8 B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ刮り、内面ナデ。	長石・赤色粒子明赤褐色普通	P179 10% PL64 東部覆土ト層と覆土ト層
3	壺 土 師 器	A (12.1) B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英・赤色粒子明赤褐色普通	P180 15% 東部覆土ト層
4	壺 上 師 器	B (18.8) C 6.4	底部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面へラナデ、内面ナデ。	長石・石英にふい・赤褐色普通	P181 50% PL64 中央部覆土ト層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第76回5	球状土師	3.0	2.8	0.7	16.9	南部覆土中層	DP42
6	球状土師	2.7	2.4	0.7	13.4	南部覆土中層	DP43





第76図 第27号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡 (第77・78・79・80図)

位置 調査区域の南西部, C 2 d 2 区。

重複関係 本跡は, 北部を第4号溝に, 南部を第36号住居跡に掘り込まれ, 第37号住居跡を掘り込んでいることから, 第4号溝, 第36号住居跡よりも古く, 第37号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸4.60m, 短軸4.70mで, 方形である。

主軸方向 N-29°-W

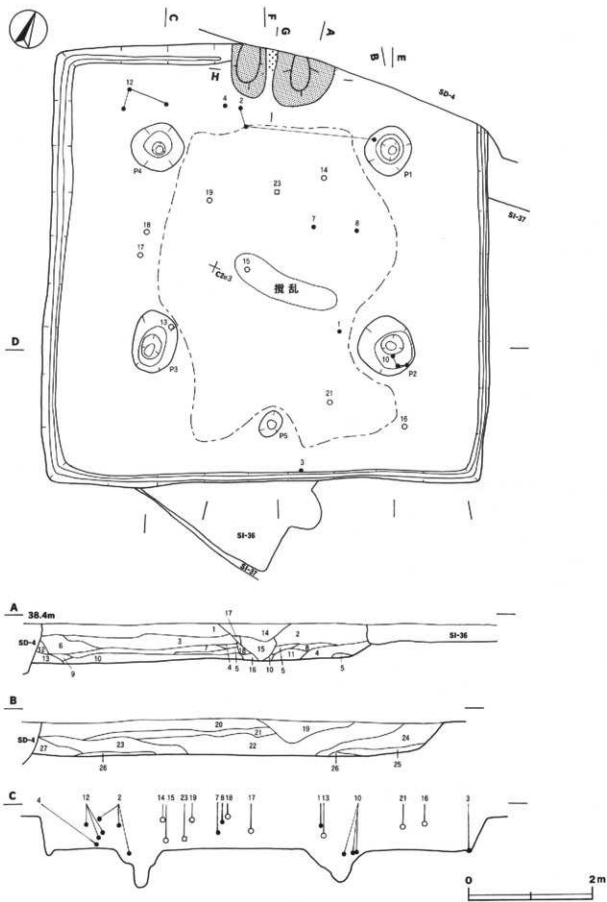
壁 壁高は57~64cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には, 全周する。上幅12~30cm, 下幅3~11cm, 深さ4~9cmで, 断面形はU字形である。

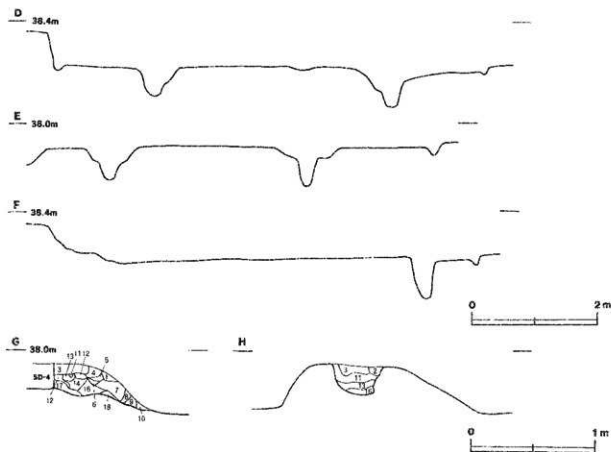
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径72~94cm, 短径68~84cmの不整楕円形, 深さ60~62cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。P5は, 長径43cm, 短径30cmの不整楕円形, 深さ65cmで, 出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁のほぼ中央部に, 砂混じりの白色粘土で構築されているが, 北部が第4号溝に掘り込まれているため, 竈の壁の外への掘り込みは, 不明である。最大幅は107cmである。天井部は崩落しており, 両袖部の一部が残



第77图 第28号住居跡実測图(1)



第78図 第28号住居跡実測図(2)

存している。火床部は、床面と同じレベルの平ら面を使用している。煙道部は、火床面から15cmほどの高さに平ら面を持ち、さらにそこから緩やかな傾斜で立ち上がっている。

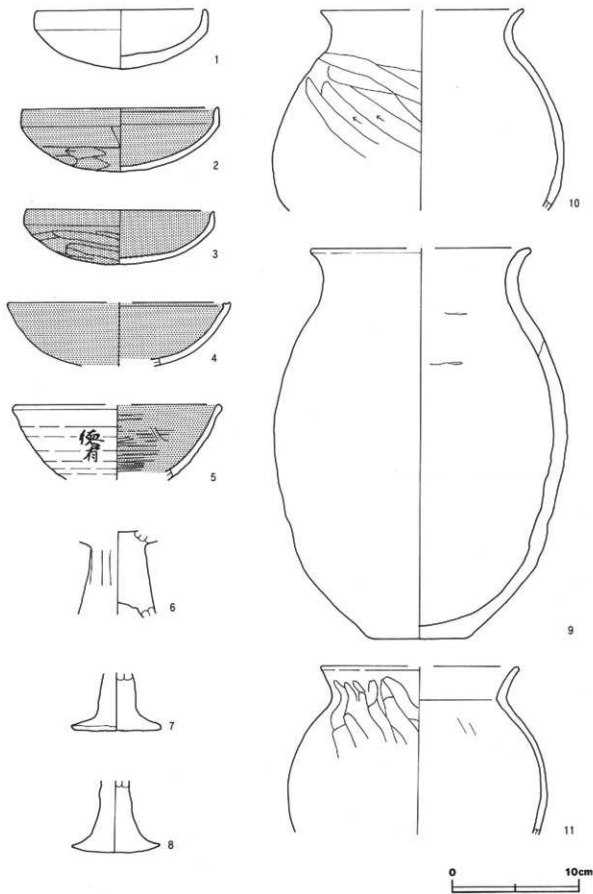
礎土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子微量
2	黒	褐色	ローム粒子少量
3	黄	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子中量
5	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6	黒	褐色	焼土粒子微量、ローム粒子微量
7	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
9	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
10	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
11	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
12	暗	褐色	焼土粒子・ローム粒子微量
13	黒	褐色	焼土粒子微量
14	黒	褐色	ローム粒子微量
15	黒	褐色	ローム粒子少量
16	暗	赤褐色	焼土粒子・ローム粒子少可
17	暗	赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
18	暗	褐色	ローム粒子微量

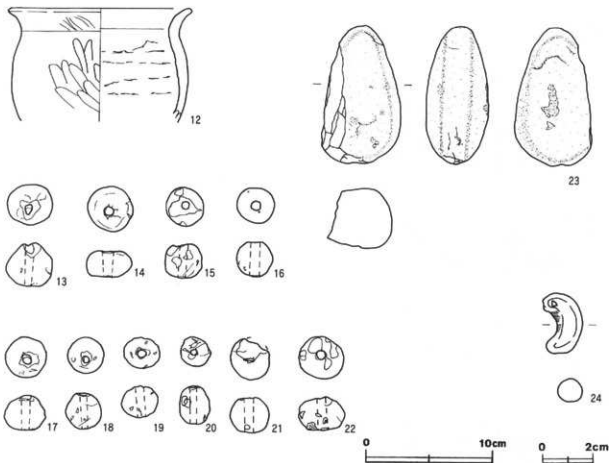
礎土 27層からなる。1～10層は自然堆積、11～27層はブロック状を呈しているため、人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
4	黒	褐色	焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化材微量、ローム粒子微量
5	黒	褐色	ローム粒子少量
6	黒	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
7	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
8	黒	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量



第79图 第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第80図 第28号住居跡出土遺物実測図(2)

- |    |      |  |
|----|------|--|
| 9  | 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量                    |
| 10 | 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量                             |
| 11 | 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 12 | 暗褐色  | ローム粒子多量                                    |
| 13 | 暗褐色  | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量                         |
| 14 | 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量                    |
| 15 | 暗褐色  | ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量                       |
| 16 | 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量                    |
| 17 | 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量                  |
| 18 | 黒褐色  | 炭化粒子・ローム粒子微量                               |
| 19 | 黒褐色  | 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量                      |
| 20 | 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量                    |
| 21 | 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量                           |
| 22 | 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量                |
| 23 | 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック微量           |
| 24 | 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 25 | 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量                       |
| 26 | 黒褐色  | ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、焼土粒子少量                |
| 27 | 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量                  |

**遺物** 遺物は土師器を中心にして、遺構全体の各層から多量に出土している。土師器片1711点、須恵器片24点、球状土錘10点、敲石1点、軽石5点のほか、混入と思われる弥生土器片28点が出土している。第79・80図1の土師器環は東部の覆土中層から、2の土師器環は竈前面の覆土上層とP1の覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器環は南部壁際の手面から逆位の状態で、4の土師器環は竈前面の覆土下層から出土している。7の土師器高環は中央部の覆土中層から、8の土師器高環と19の球状土錘は中央部の覆土上層から出土している。10の土師器甕は、P2の覆土中から出土している。12の土師器甕は、北西部の覆土上層と中層から出土した破片が接合したものである。13の球状土錘はP3上の覆土中層から、14の球状土錘は中央部の覆土上層から、15の球状土錘は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。16・21の球状土錘は南東部の覆土

上層から、17・18の球状土鉢は西部の覆土上層と中層から、23の磁石は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。9の上師器蓋は竈内の覆土中から、5の土師器杯と6の土師器高杯、11の土師器甕、20・22の球状土鉢、24の石製勾玉は覆土中から出土している。

所見 本鉢の時期は、遺構の形態及び出土遺物から後期（6世紀末から7世紀初め）と思われる。

第28号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第79号 1	土師器 杯	A 13.4	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内彎気味に直りする。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・赤色粒子 褐色 良好	P182 95% PL64 東部覆土中層
		B 4.6				
2	土師器 杯	A 15.3	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P183 85% PL54 電前覆土上層 とP1覆土中
		B 4.9				
3	土師器 杯	A 14.9	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直りする。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・赤色粒子 にふい褐色 普通	P184 73% PL64 西部覆土中層
		B 4.3				
4	土師器 杯	A [17.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部に沈殿が溜る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P185 20% 電前覆土上下層
		B (5.0)				
5	土師器 杯	A [16.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P186 15% PL64 体部外面に器蓋「蓋有」か覆土中
		B (5.9)				
6	高土師器 杯	B (6.8)	脚部片。裾部欠損。脚部はハの字状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P187 30% 覆土中
7	ヒナアノ高土師器 杯	B (4.5)	脚部片。脚部は大きくラッパ状に開く。	脚部外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P188 40% 中央部覆土中層
		D 6.8				
8	ヒナアノ高土師器 杯	B (5.7)	脚部片。脚部は大きくラッパ状に開く。	脚部外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P189 35% 中央部覆土上層
		D [7.0]				
9	土師器 蓋	A [17.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪轆み痕。	長石・石英・赤色粒子 にふい赤褐色 普通	P190 45% 竈内覆土上
		B 31.0				
10	土師器 甕	A [16.0]	体部から口縁部の破片。体部は強く内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 黄褐色 普通	P191 30% PL64 P2覆土上
		B [15.7]				
11	土師器 甕	A [15.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部外面へラナデ。内面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・赤色粒子 にふい赤褐色 普通	P193 20% 覆土中
		B (13.2)				
第80号 12	土師器 杯	A [14.1]	体部から口縁部の破片。体部は緩やかに内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。体部内面に輪轆み痕。	長石・石英・赤色粒子 にふい褐色 普通	P194 20% PL64 北西部覆土上層 と覆土中層
		B (8.9)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第80号13	球状土鉢	3.7	3.3	0.6	33.8	P3覆土中層 DP44	PL76
14	球状土鉢	3.7	2.1	0.8	24.8	中央部覆土上層 DP45	PL76
15	球状土鉢	3.1	2.6	0.7	20.9	中央部覆土中層 DP46	PL76
16	球状土鉢	2.9	2.7	0.8	19.3	南東部覆土上層 DP47	PL76
17	球状土鉢	3.3	2.7	0.7	20.7	西部覆土中層 DP48	PL76
18	球状土鉢	2.9	2.8	0.5	21.2	西部覆土上層 DP49	PL76
19	球状土鉢	2.8	2.5	0.7	14.5	中央部覆土上層 DP50	PL76
20	球状土鉢	2.4	3.0	0.5	13.5	覆土中 DP51	

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第80図1	球状土師	3.3	2.7	0.8	23.7	青森郡廣土上層	DP52
22	球状土師	3.6	2.6	0.7	26.1	覆土中	DP1 PL76

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第80図2	釵	4	10.8	6.3	4.7	431.5	安山岩	中央部覆土層 Q27 PL79

図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)			
第80図4	勾玉	下	1.0	2.4	3.2	滑石	覆土中 Q26 PL79

### 第29号住居跡 (第81・82図)

位置 調査区域の南西部、C2c4区。

重複関係 本跡が、第31号及び第37号住居跡を掘り込んでおり、第121号土坑に掘り込まれていることから、第31・37号住居跡より新しく、第121号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.62m、短軸4.70mで、方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は8~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南コーナー部が、第121号土坑によって掘り込まれているが、確認された壁の下には巡っている。上幅8~13cm、下幅4~12cm、深さ3~6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

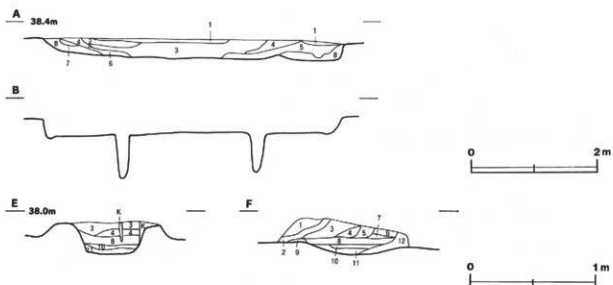
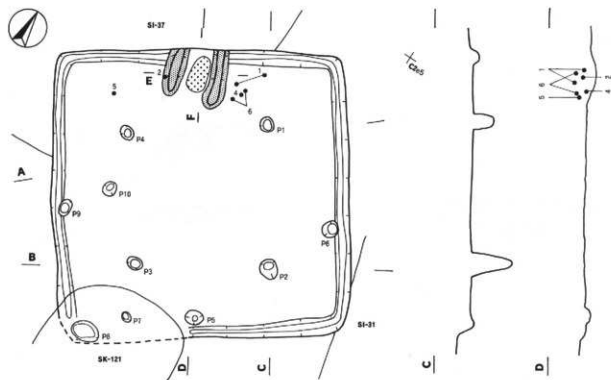
ピット 10か所 (P1~P10)。P1~P4は、長径24~34cm、短径24~28cmの不整円形または不整楕円形、深さ34~69cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は、長径30cm、短径22cmの不整楕円形、深さ28cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P6~P10は、長径18~46cm、短径14~32cmの不整楕円形、深さ6~19cmで、補助柱穴と思われる。P6~P9は、壁際に位置する。

竈 北東壁のほぼ中央部を掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。壁外にも掘り込まれていると推定されるが、第37号住居跡と重複している部分であり、明確に検出することができなかった。天井部は崩落しており、両側部が残存している。規模は、焚火部から煙道部まで長さ90cm、最大幅100cmである。火床部は、床面を13cmほど掘りくぼめており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっているのが、部分的ながら確認された。

#### 壁土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・山砂少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土大ブロック中量、炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・山砂中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 焼土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 焼土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 焼土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 12 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



第81図 第29号住居跡実測図

土層解説

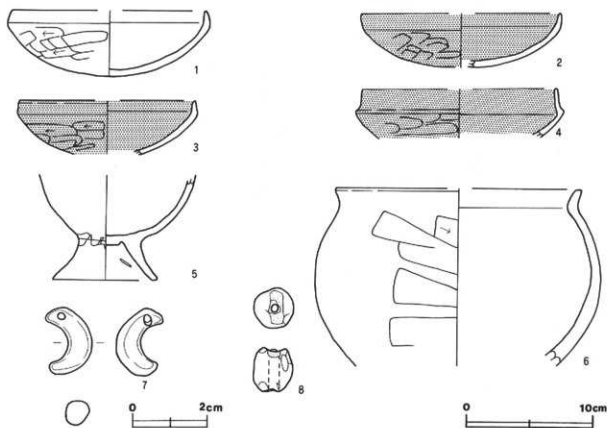
- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子微量
- 5 褐 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 炭化材少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 7 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片1039点、須恵器片26点、土製品2点が電付近を中心にして出土している。第82図1の土師器環と6の土師器甕は、竈東袖部付近の覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器環は竈西袖部付近の覆土下層から、4の土師器環は竈東袖部付近の覆土下層から、5の土師器高環は北西コー



ナー部の覆土中層から出土している。3の土師器環と7の土製勾玉と8の球状土鐘は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第82図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	環 土師器	A [15.4] B (4.2)	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	赤色粒子にふい赤褐色普通	P195 60% PL65 龍東地部周辺覆土 上層と覆土下層
2	環 土師器	A [15.8] B (4.2)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	赤色粒子にふい褐色普通	P196 35% 龍内東部周辺覆土下層
3	環 土師器	A [14.0] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石黄褐色普通	P197 20% 覆土中
4	環 土師器	A [15.4] B (3.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部の地に明瞭な稜を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	赤色粒子にふい褐色普通	P198 20% PL65 龍東地部周辺覆土下層
5	高 土師器 環	B (8.3) D 8.2 E 3.0	体部一部欠損。脚部は短くラッパ状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部及び脚部内・外面ナデ。脚部内面にへラ当て痕。	長石・石英・雲母にふい褐色普通	P199 60% PL65 北西コーナー一部 覆土中層
6	甕 土師器	A [19.5] B (13.9)	体部から口縁部の破片。体部は強く内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色普通	P200 40% PL65 龍東地部周辺覆土 上層と覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)		
第24図7	土製勾玉	0.7	1.8	1.0	覆土中	DP54

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第24図8	球状土埴	3.2	3.5	0.8	32.4	覆土中	DP53 PL76

### 第32号住居跡 (第83・84図)

位置 調査区域の南西部、C2c3区。

重複関係 本跡は、第4号溝に掘り込まれていることから、第4号溝よりも古い。

規模と平面形 確認できたのは、南北軸 (3.30)m、東西軸 (4.86)m であり、遺構の南部が第4号溝に掘り込まれていることと、北西部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

南北軸方向 N-15°-W

壁 壁高は30~55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部で検出された。上幅24~32cm、下幅4~10cm、深さ10~14cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、南東コーナー部から中央部にかけて踏み固められている。また、東壁から中央部に向かって、上幅12cm、下幅4cm、深さ10cm、長さ75cmほどで、断面形はU字形の溝1条が認められた。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径30cmの不整形円形、深さ78cmで配置や規模から主柱穴と思われる。P2・P3は、長さ20~44cm、幅径18~44cmの不整形円形または不整形円形、深さ6~14cmで補助柱穴と思われる。

炉 東壁際に位置し、長径96cm、短径60cmの不整形円形で、床面を24cmほど掘りくぼめた地床かである。炉床は、焼けて赤変している。

#### 炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量

貯蔵穴 東部コーナー部の壁際に付設され、長径70cm、短径62cmの不整形円形である。深さは42cmで、断面は逆台形状である。

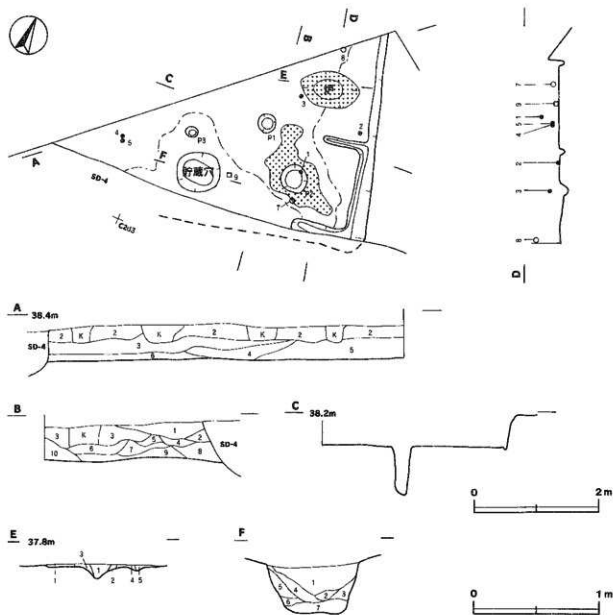
#### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

覆土 10層からなる。不自然な堆積状況であり、またロームブロック等を含んでいることから人為堆積と思われる。

#### 土層解説

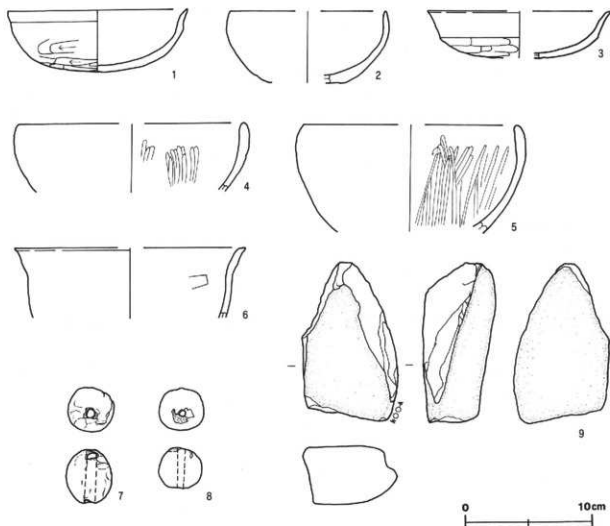
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 10 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量



第83図 第32号住居跡実測図

**遺物** 土師器片415点、須恵器片46点、球状土錘2点、磨石1点のほか、混入と思われる弥生土器片33点が出土している。第84図1の土師器坏はP2付近の覆土中層から、2の土師器坏は東壁際の床面から、3の土師器坏は炉西部の覆上下層からそれぞれ出土している。4・5の土師器鉢は南西部の床面から出土している。6の土師器甕は覆土中から出土している。7の球状土錘は南東コーナー部覆土下層から、8の球状土錘は北部の覆土上層から、9の磨石は貯蔵穴東部の床面から出土している。

**所見** 本跡の特徴としては、東壁から中央部に向かって、幅の狭い溝1条が認められた。これは当遺跡の他の遺構には見られないものである。また、北部が調査区域外となっているためか、竈は検出されず、炉1か所と貯蔵穴1か所が検出されている。本跡の時期は、出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第84図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	坏 土 脚器	A 14.1 B 4.9	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ刷り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P206 30% P2付近裏土中層
2	坏 土 脚器	A [12.2] B 5.7 C [5.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P207 15% 東壁際床面
3	坏 土 脚器	A [14.5] B 3.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ刷り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色砂子 にふい黄色 普通	P208 30% PL65 南西部覆土下層
4	鉢 土 脚器	A [17.8] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部外面ナデ、内面縦方向のへツ磨き。	長石・赤色砂子 黒褐色 普通	P209 10% PL65 南西部床面
5	鉢 土 脚器	A [17.0] B (8.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。体部外面ナデ、内面縦方向のへツ磨き。	長石 にふい赤褐色 普通	P210 50% PL65 南西部床面
6	甕 土 脚器	A [18.2] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 にふい褐色 普通	P211 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第84図7	球状土師	3.6	4.2	0.9	47.4	第83号土師土層	DP55 PL76
8	球状土師	3.6	3.2	0.6	36.9	伊北部層土上層	DP56 PL76

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第84図9	磨石	12.5	7.5	5.6	608.2	砂岩	貯蔵穴東側表面	Q29 PL79

### 第33号住居跡 (第85・86図)

位置 調査区域の南西部, D1d5区。

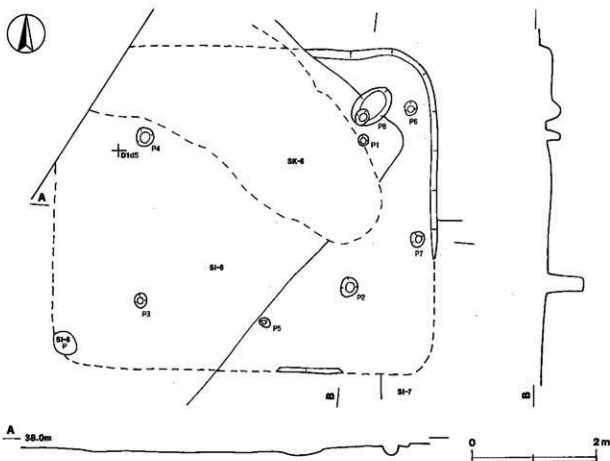
重複関係 本跡は第7号住居に掘り込まれ, 第6号土坑及び第8号住居跡を掘り込んでいることから, 第7号住居より古く, 第6号土坑及び8号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸 [6.10]m, 短軸 [5.10]mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。



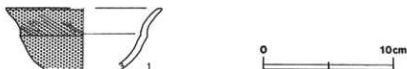
第85図 第33号住居跡実測図

ピット 8か所 (P1～P8)。P1～P4は、長径20～30cm、短径20～28cmの不整形円形または不整形楕円形、深さ19～63cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は、長径20cm、短径16cmの不整形円形、深さ52cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P6～P8は、長径26～74cm、短径22～50cmの不整形円形、深さ18～23cmで補助柱穴と思われる。

覆土 本跡は、掘り込みが非常に浅く、覆土の堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片1点が出土しただけである。第86図1の土師器高坏は、P1の覆土中から出土している。

所見 本跡は、壁の立ち上がりが北東部及び南部の一部分でしか検出されず、また第8号住居跡等に掘り込まれているため、竈も検出されなかった。本跡の時期は、出土土器から後期 (6世紀代) と思われる。



第86図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	高坏 土師器	A [12.4] B (4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。体部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。	長石 明赤褐色 普通	P212 10% PL65 P 1 覆土中

#### 第35号住居跡 (第87・88図)

位置 調査区域の西南部、D1g8区。

重複関係 本跡は、第2号住居跡・第8号土坑及び第1・2号溝に掘り込まれていることから、これらの遺構よりも古い。

規模と平面形 確認できたのは南北方向と東西方向の壁の一部で、南北が (0.95)m、東西が (1.05)m であるが、北東部及び西南部が第1・2号溝及び第2号住居に掘り込まれているため、平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は12cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、巡っている。上幅13～30cm、下幅4～10cm、深さ20cmで、断面形は逆台形である。

床 東部に凹凸部分がみられるが、大部分は平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

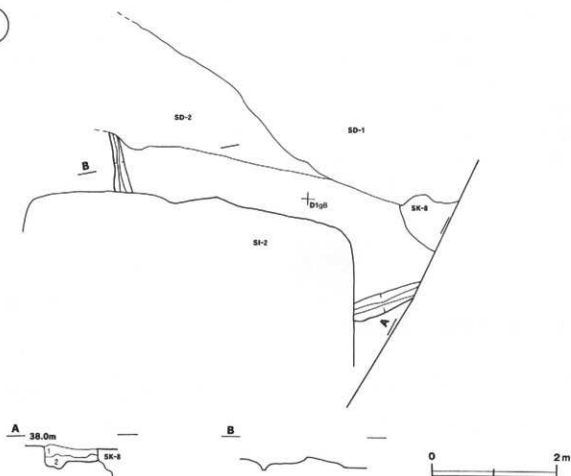
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

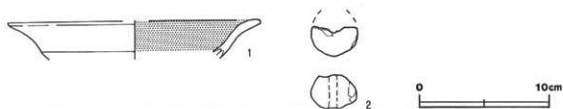
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量

遺物 土師器片59点と土製品1点が出土している。第88図1の土師器高坏、2の球状土鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡は北東部及び西南部が調査区域外となっているため、竈やピットは検出されなかった。本跡の時期は、出土土器から後期 (6世紀代) と思われる。



第87図 第35号住居跡実測図



第88図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	高 土 器	A [19.8] B (3.0)	環部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部外面横ナデ。内面ヘラ磨き 後、黒色処理。	長石 にふい褐色 普通	F214 5% PL65 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第88図2	球 状 土 鉢	3.7	2.6	0.6	(18.3)	覆 土 中	DP57

第42号住居跡 (第89・90図)

位置 調査区域の南西部、C1j0区。

重複関係 本跡が、第22号住居跡を掘り込んでいることから、第22号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.39m、短軸3.37mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は25~38cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅10~28cm、下幅2~8cm、深さ2~4cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P4は、長径19~37cm、短径14~33cmの不整楕円形、深さ33~70cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5は長径21cm、短径19cmの不整楕円形、深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6~P9は、径16~22cmの不整形、深さ16~72cmで補助柱穴と思われる。

竈 北西壁のやや北寄りを、壁外に18cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。当遺跡の他の住居跡に比べて、壁外への掘り込みは少ない。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ92cm、最大幅103cmである。火床部は、床面を15cmほど掘りくぼめている。煙道部は、火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 一部塊状を受けている部分は見られるものの、9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、砂粒少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 焼土粒子・松土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム中ブロック中量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・ローム大ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 9 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量

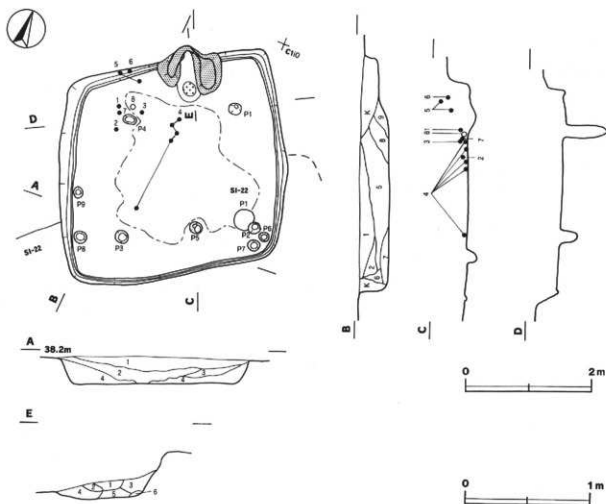
遺物 遺物は、竈の前面から西部の覆土下層を中心に、土師器片126点、須恵器片1点、土製品2点、鉄滓1点が出土している。第90図1と2の土師器片、3の土師器高坏、7の土師器甕、8の球状土鍾はいずれもP4付近の覆土下層から出土している。4の土師器甕は竈前面と南部の床面から出土した破片が接合したものである。5と6の土師器甕は北壁際の覆土上層と下層から出土している。9の球状土鍾は覆土中から出土している。

所見 本跡は当遺跡内の他の住居跡に比べ遺存状態は良好であった。また、出土土器は土師器がほとんどで、須恵器は破片が1点だけであった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期(6世紀代)と思われる。

第42号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第90図 1	土師器 高坏	A 15.0 B 4.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	灰赤・黄褐色色粒子にぶい褐色 普通	P219.30% PL65 P4右瓦葺土層

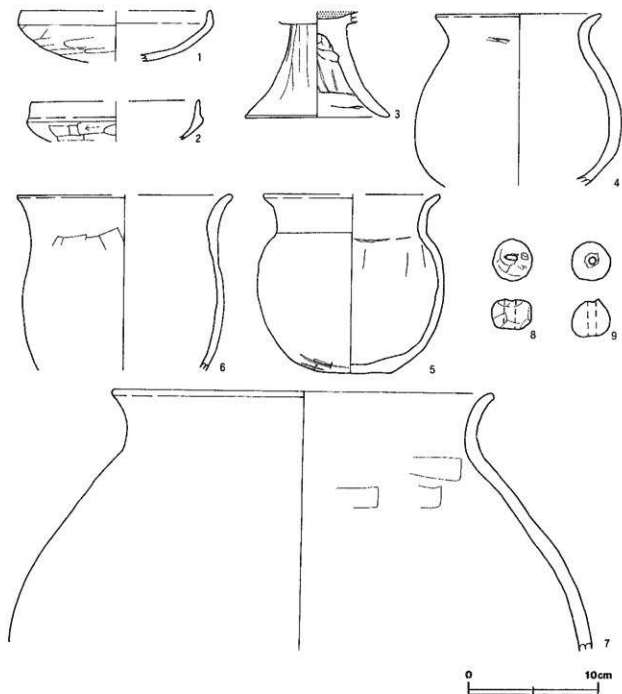




第89図 第42号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 2	坏土 脚器	A [13.4] B ( 3.2)	体部から口縁部の片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内轡する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P220 10% PL65 P4付近覆土下層
3	高土 坏脚器	B ( 8.3) D 11.4 E 7.4	脚部から坏部の破片。脚部はラッパ状に開く。	坏底部内面黒色処理。脚部外面へラナデ、内面ナデ。脚部内面に輪積み痕及びへラ当て痕。	長石・石英 にふい橙色 普通	P221 50% PL65 P4付近覆土下層
4	堊土 脚器	A 12.9 B (13.6)	底部欠損。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P222 80% PL65 覆土前と南面体面
5	堊土 脚器	A [13.8] B 14.0 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 にふい赤褐色 普通	P223 25% PL65 北壁際覆土上層と下層
6	堊土 脚器	A [17.0] B (13.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部上位にへラ当て痕。	長石・石英 橙色 普通	P224 30% PL65 北壁際覆土上層と下層
7	堊土 脚器	A [30.2] B (20.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部との境にわずかな段を持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英 にふい黄褐色 普通	P225 30% PL65 P4付近覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第90図8	球状土鉢	3.2	2.3	0.9	23.0	P4付近覆土下層	DP59
9	球状土鉢	3.1	2.6	0.7	25.2	覆土中	DP90



第90図 第42号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡 (第91・92図)

位置 調査区域の南西部, C1e0区。

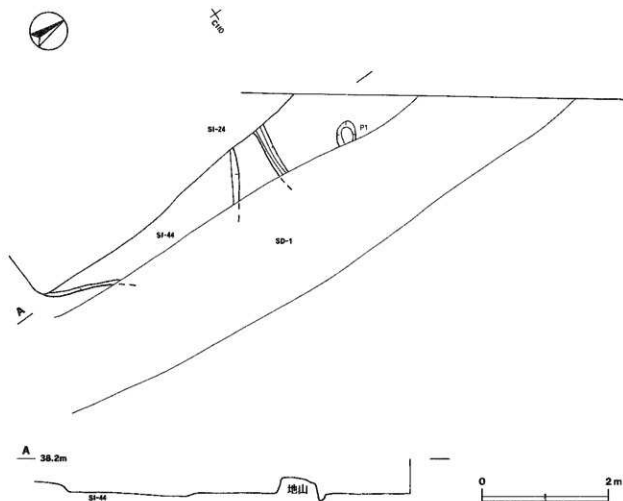
重複関係 本跡は, 第24号住居及び第1号溝に掘り込まれていることから, 両遺構よりも古い。

規模と平面形 遺構の北部が調査区域外となっており, また東部が第1号溝, 西部が第24号住居に掘り込まれているため, 規模及び平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 一部分が南部で検出されている。壁高は20cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

壁溝 一部分が南部で検出され, 上幅12~16cm, 下幅6~8cm, 深さ10cmで, 断面形はU字形である。



第91図 第43号住居跡実測図



第92図 第43号住居跡出土遺物実測図

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット 1か所。P1は、長径(40)cm、短径30cmの不整楕円形と推定され、深さ21cmで、配置から主柱穴と思われる。

遺物 土師器片23点、泥入と思われる須恵器片1点が出土している。第92図1の土師器高坏は、南部の壁溝の覆土中から出土している。

所見 本跡は床、柱穴及び壁の一部が検出されており住居跡とした。竈は調査区域外に存在したと考えられる。掘り込みが浅く、土層の堆積状況は観察できなかった。時期は、出土土器から後期(6世紀代)と思われる。

第43号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	引張り(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第92図 1	高 杯 土 師 器	A [13.2] B (3.6)	杯部片。体部は内壁し、口縁部との境に線を付す。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面積ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 明木褐色 普通	P226 1075 PL66 南部弥生層上中普通

## 第46号住居跡（第93・94図）

位置 調査区域の中央部、C2 b7区。

重複関係 本跡が、第11号溝に掘り込まれていることから、第11号溝より古い。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は45～58cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、北東コーナー部と南壁の中央部を除いて巡っている。上幅15～32cm、下幅5～14cm、深さ6～9cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。竈前面から南壁際にかけて踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1は、長径32cm、短径25cmの小楕円形。深さ22cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P2～P4は、長径26～29cm、短径20～24cmの小楕円形。深さ17～43cmで配置から柱穴と思われる。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に32cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、西側部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ114cm、最大幅92cmである。火床部は、床面からわずかに掘り込まれており、火熱を受けて赤変している。煙道部は、火床面からはほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。

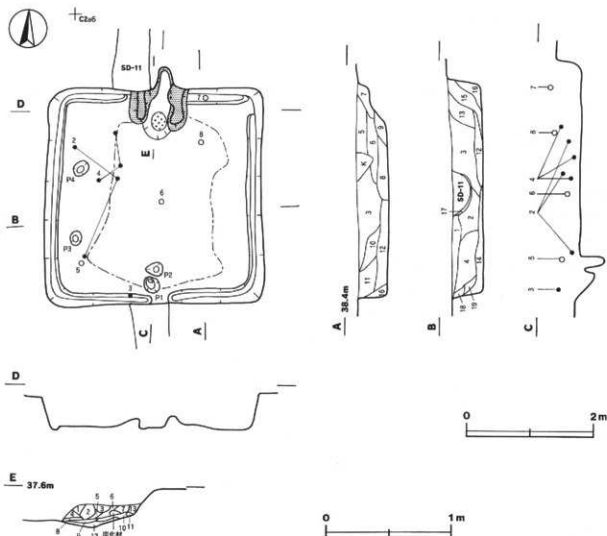
## 竈土層解説

- 1 黒 褐色 粘土粒子中量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量
- 3 黒 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 淡 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
- 6 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 7 淡 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子微量
- 10 黒 褐色 粘土粒子多量、粘土小ブロック少量
- 11 黒 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 12 黒 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 13 明 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子微量

覆土 19層からなる。ブロック状を呈する不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

## 土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 3 淡 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム中ブロック・粘土中ブロック少量、ローム粒子微量
- 8 淡 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、粘土中ブロック微量
- 9 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・粘土中ブロック微量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 11 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック微量
- 12 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 13 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 14 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 15 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、粘土中ブロック少量、ローム小ブロック微量

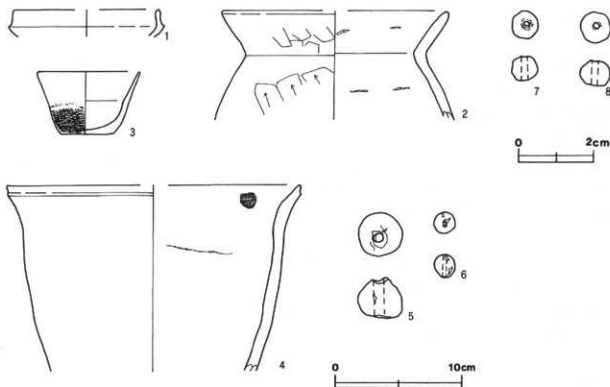


第93図 第46号住居跡実測図

- 16 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 17 黒色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 18 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 19 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物** 土師器片455点、須恵器片6点、土製品4点が出土している。第93図1の土師器坏は覆土中から出土している。2の土師器甕は西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。3の土師器埴は南部壁際の覆土上層から、4の土師器甌は北西部の覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。5の球状土錘は南西部の覆土上層から、6の土玉は中央部の覆土中層から、7・8の小玉は北東部の覆土上層から出土している。

**所見** 本跡は、当遺跡内の他の住居跡に比べ遺存状態は良好であった。また、柱穴が入り口と西部から検出されたが、これ以外は検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期と思われる。



第94図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	坏 土 钵 器	A [11.6] B ( 2.1)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部との境に稜を持ち、 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	石英 にぶい橙色 普通	P229 5% PL66 覆土中
2	堇 土 钵 器	A [18.0] B ( 8.5)	体部は内彎し、口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ、外面へう削り。 体部外面へう削り、内面ナデ。体 部内面に輪積み痕。	長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P230 10% PL66 西部覆土中層
3	埴 土 钵 器	A [ 8.2] B 4.9 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ハゲ目整形、内面ナデ。	長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P231 60% PL66 南部埴粉覆土上層
4	甗 土 钵 器	A 23.2 B (14.8)	体部から口縁部の破片。体部は外 傾し、口縁部は緩く外反する。口 縁部外面にわずかな稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。口縁部内面に布目痕。 体部内面に輪積み痕。	赤色粒子 橙色 普通	P232 15% PL66 北西部覆土上層 と覆土下層

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第94図5	球状土鉢	3.6	3.1	0.7	32.6	南西部覆土上層	DP61
6	土 玉	1.7	1.8	0.35	0.3	中央部覆土中層	DP62
7	土 玉	0.7	0.7	0.2	3.9	北東部覆土中層	DP63
8	土 玉	0.8	0.6	0.15	0.4	北東部覆土上層	DP64

第50号住居跡（第95・96図）

位置 調査区域の中央部、B2J8区。

重複関係 本跡が、第51・52・53号住居跡を掘りこんでおり、また、第68号住居に掘り込まれていることから第51・52・53号住居跡より新しく、第68号住居より古い。

規模と平面形 長軸 [2.63]m、短軸 [2.33]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は26~36cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部からやや東寄りを壁外に12cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。当遺跡内の他の住居跡に比べ、壁外への掘り込みは小さい。規模は、焚口部から煙道部まで長さ94cm、最大幅104cmである。火床部は、床面を16cmほど掘りくぼめている。煙道は、火床面から急な角度で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土小ブロック少量、炭化材微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・粘土小ブロック微量
- 4 暗褐色 粘土粒子中量、焼土中ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量

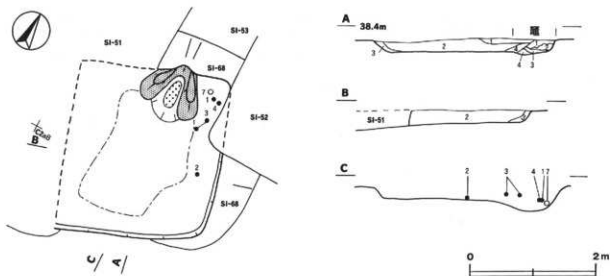
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

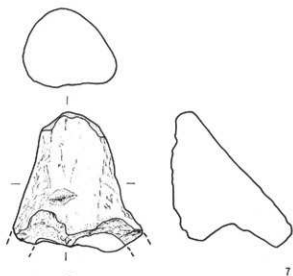
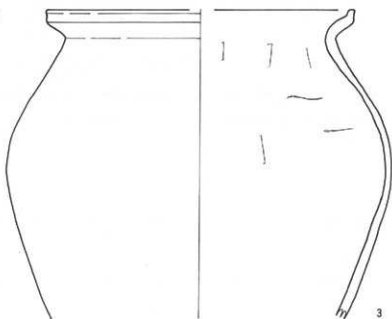
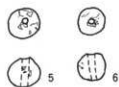
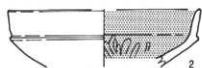
- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック微量

遺物 北東コーナー部を中心にして、土師器片52点、土製品3点が出土している。第95図1の土師器杯、3の土師器罌、4の須恵器高坏、7の土製文脚はいずれも北東コーナー部の覆土下層から出土している。2の土師器杯は東部の床面から、5と6の球状土鍾は覆土中から出土している。

所見 本跡の壁の立ち上がりは、南東コーナー部と南壁の一部が確認されたのみである。よって、住居跡の規模や平面形は推定である。また、ピット、壁溝等は検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第95図 第50号住居跡実測図



第96图 第50号住居跡出土遺物実測図



第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第96図 1	坏 土 師 器	A [14.6] B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎し、口縁部は直く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ傾り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 灰褐色 普通	P244 30% PL66 北東コーナー部 覆土下層
2	坏 土 師 器	A [15.0] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外傾する。体部と口縁部の間に縫を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面へウ磨き後、黒色処理。	長石 にふい灰色 普通	P245 5% PL66 東部床面
3	甕 土 師 器	A [24.0] B (24.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にへウ当て板。体部内面に輪痕み板。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P246 20% PL68 北東コーナー部 覆土下層
4	高 須 壺 器	A [13.4] B (3.8)	坏部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロロナデ。底部焼文LRを焼文後、上下端に2本の稜が通っている。	長石・黒色粒子 灰色 普通	P247 10% PL66 北東コーナー部 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第97図5	球 状 土 師 器	2.6	2.3	0.5	11.6	覆 土 中 DP70	PL76
6	球 状 土 師 器	2.1	2.1	0.5	7.3	覆 土 中 DP71	PL76

図版番号	種 別	計 測 値			材 質	出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)			
第98図7	支 脚	(10.2)	(11.2)	(571.6)	土 製	北東コーナー部 DP72	PL78

## 第51号住居跡 (第97・98・99・100図)

位置 調査区域の中央部、B 2 J7 K。

重複関係 本跡は、第50・68号住居及び第5号溝・第11号土坑に掘り込まれていることから、これらの遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸6.20m、短軸6.01mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は22~58cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、東壁と南東コーナーを除いて巡っている。上軸14~34cm、下軸2~8cm、深さ3~8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。北東部から南壁際にかけて踏み固められている。また、西壁からP3に向かって溝が1条掘られている。上幅18cm、下幅10cm、深さ24cm、長さ78cmほどで、断面形はU字形である。

ピット 2か所(P1~P21)。P1~P4は、長径50~100cm、短径44~47cmの不整楕円形、深さ49~90cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5は、長径82cm、短径35cmの不整楕円形、深さ24cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P6~P21は、長径14~68cm、短径10~40cmの不整楕円形、深さ7~75cmで配置や深さについて規則性がなく、性格等は不明である。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に33cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、西袖部と東袖部の一部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ166cm、最大幅135cmである。火床部は、床面から17cmほど逆台形状に掘りこぼめられている。煙道は、火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

#### 覆土層解説

1	黒褐色	色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
2	黒褐色	色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	色	粘土粒子多量
4	黒褐色	色	粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
5	暗褐色	色	焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子微量
6	黒褐色	色	焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子・ローム粒子微量
7	暗褐色	色	粘土粒子多量、炭化粒子微量
8	黒褐色	色	焼土粒子・粘土粒子中量
9	暗褐色	色	焼土粒子・粘土粒子多量
10	黒褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化材微量
11	暗褐色	色	ローム粒子多量、粘土粒子中量、焼土粒子少量
12	黒褐色	色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
13	黒褐色	色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
14	暗褐色	色	粘土粒子中量、炭化材少量、焼土粒子微量
15	黒褐色	色	ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化材微量
16	暗褐色	色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
17	暗褐色	色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
18	黒褐色	色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
19	暗褐色	色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
20	黒褐色	色	ローム粒子微量、焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量

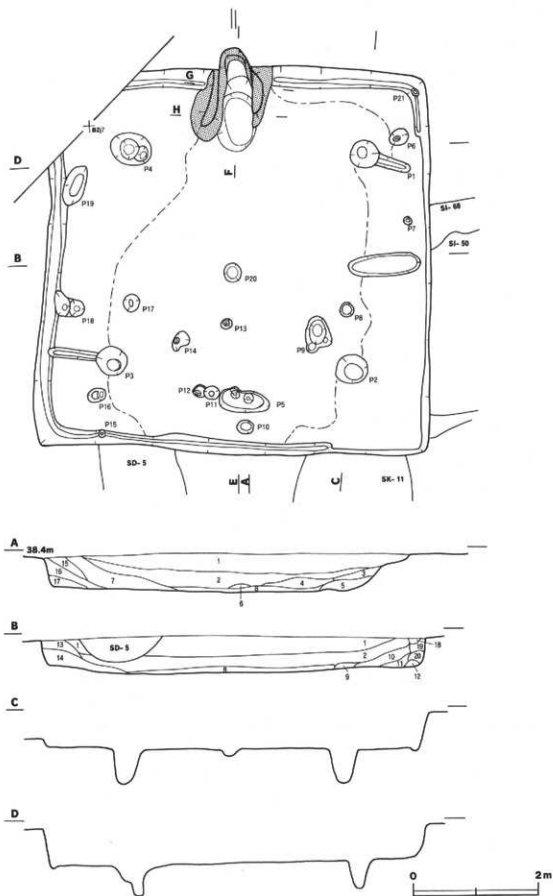
覆土 20層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

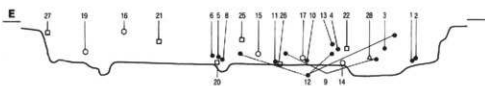
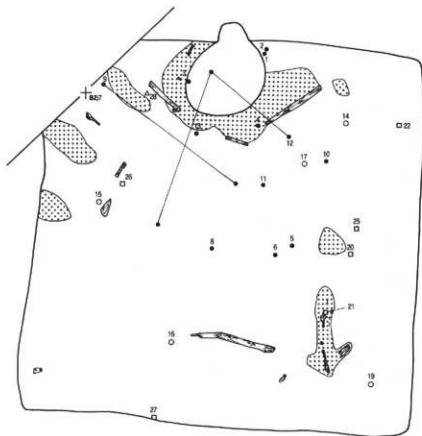
1	黒褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
3	暗褐色	色	砂混じり粘土中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
4	黒褐色	色	ローム粒子・砂混じり粘土中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	色	炭化粒子中量、砂混じり粘土少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6	黒褐色	色	ローム粒子微量
7	黒褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
8	黒褐色	色	ローム粒子中量
9	暗褐色	色	焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10	黒褐色	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
11	黒褐色	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
12	暗褐色	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
13	黒褐色	色	ローム粒子微量
14	暗褐色	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
15	黒褐色	色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
16	黒褐色	色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
17	暗褐色	色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
18	黒褐色	色	ローム粒子少量
19	暗褐色	色	ローム粒子少量
20	黒褐色	色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 遺物は、土師器を中心に多量に出土している。他の住居跡に比べ、完形品に近い土器が多く出土している。土師器片1818点、須志器片18点、土製品5点、石器・石製品9点のほか、混入と思われる弥生土器片25点が出土している。第99図1と2の土師器環は、いずれも竈東袖部内から2を上に正位の状態では2枚が重なって出土している。3の土師器環は竈西袖部外側の覆土中層から正位の状態では出土している。4の土師器環と13の土師器手捏土器は竈前面の覆土中層から出土している。5と6の土師器環は東部の覆土下層から、8の土師器環はP20付近の覆土下層から出土している。9の土師器甕は中央部と北西部の覆土下層から出土した破片が接合し、10と11の土師器甕及び17の球状土鉢は北東部の覆土下層から、12の土師器甕は竈付近から出土した破片が接合している。14の球状土鉢はP1付近の床面から、15の球状土鉢は西部の覆土下層から、16の球状土鉢は南部の覆土上層から、18の球状土鉢は北東部の覆土中層から出土している。19の砥石は南東コーナー部の覆土中層から、20の砥石は東部の覆土下層から、21の磨石と25の双孔円板は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。22の磨石は北東コーナー部の覆土中層から、26の石製紡錘車は西部の床面から、27の白土は南壁際の覆土上層から出土している。28の鉄鉢は竈前面の覆土下層から出土している。7の土師器環及び23と24の不明石器の破片は覆土中層から出土している。

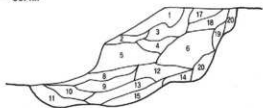
所見 竈前面と北西部及び南東部を中心に炭化材や焼土が検出されていることから、焼失家屋の可能性が高い。本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀）と思われる。



第97图 第51号住居跡実測图(1)



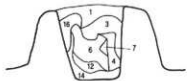
F 38.4m



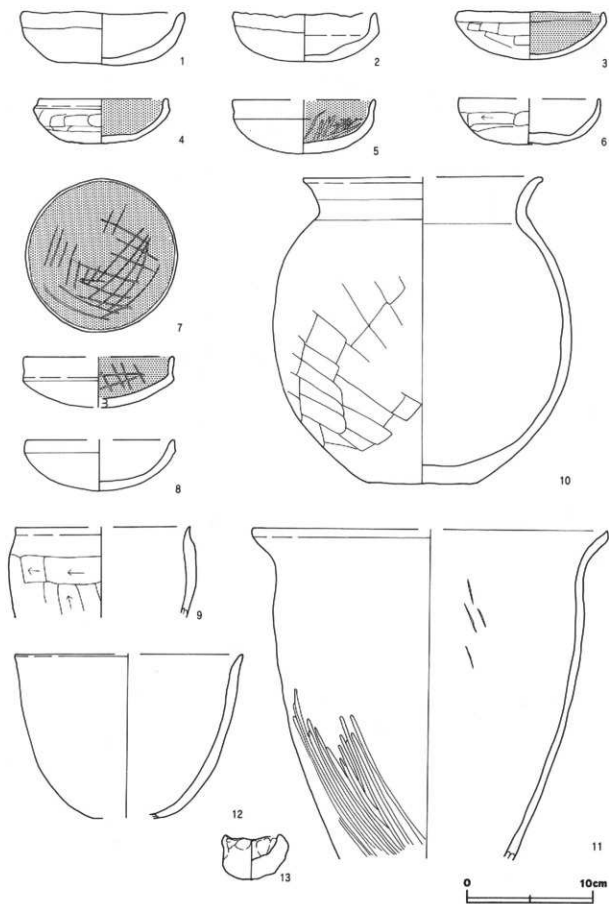
H



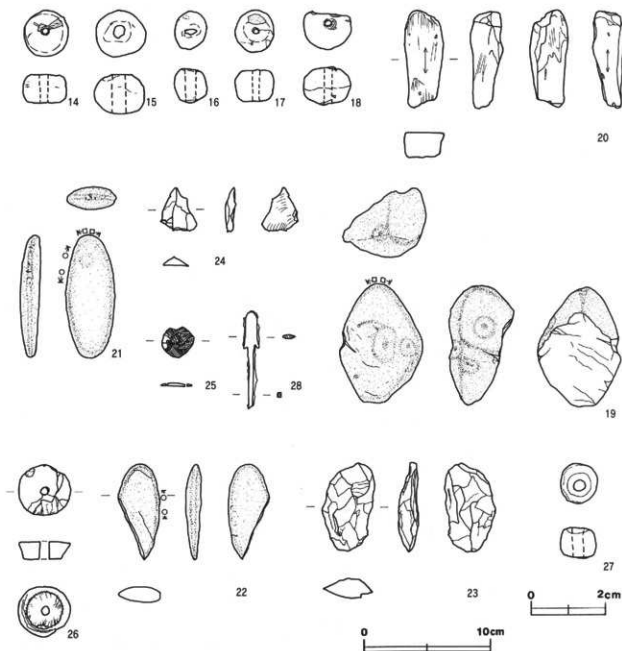
G



第98图 第51号住居跡実測图(2)



第99图 第51号住居跡出土遺物実測図(1)



第100図 第51号住居跡出土遺物実測図(2)

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	坏 土 師 器	A 12.8 B 4.2	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・赤色粒子にふい・黄褐色 良好	F248 100% PL66 甕東袖部内
2	坏 土 師 器	A 11.2 B 3.9	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・砂粒にふい・黄褐色 良好	F219 100% PL66 甕東袖部内
3	坏 土 師 器	A 11.7 B 3.8	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・赤色粒子 灰黄褐色 普通	F250 100% PL66 甕西袖部外側覆土中層

図版番号	種 別	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装束	備 考
第99回 1	坏 土 器 器	A 10.2	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部の境に段を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ崩り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・砂粒 褐色 良好	P251 100% PL66 東部覆土中層 点好
		B 3.6				
5	坏 土 器 器	A 10.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。内面に硝文。	白色粒子 にふい・褐色 普通	P252 85% 東部覆土下層
		B 3.6				
6	坏 土 器 器	A 11.2	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ崩り、内面ナデ。	砂粒 にふい・黄褐色 普通	P253 70% 東部覆土下層
		B 3.6				
7	坏 土 器 器	A 12.0	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。内面にヘウ当て刺。	長石・石英・砂粒 灰青褐色 普通	P254 70% 覆土中
		B 3.9				
8	坏 土 器 器	A 11.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 にふい・黄褐色 普通	P255 20% P20付着層土下層
		B 4.0				
9	甕 土 器 器	A [13.3]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ崩り、内面ナデ。	長石・石英 羽赤褐色 普通	P256 10% PL66 中央部と北西部 覆土下層
		B (7.2)				
10	甕 土 器 器	A [18.9]	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に短大径を持ち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ崩り、内面ナデ。	長石・石英 にふい・褐色 普通	P257 80% PL67 北東部覆土下層
		B 24.4				
		C 8.8				
11	甕 土 器 器	A [28.2]	体部から口縁部の破片。体部は短く内彎し、口縁部は外反する。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面下位縦方向のヘウ崩り。体部内面にヘウ当て刺。	長石・石英・赤色粒子 にふい・褐色 普通	P258 20% PL66 北東部覆土下層
		B 26.3				
12	甕 土 器 器	A [18.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒・赤色粒子 にふい・黄褐色 良好	P259 15% PL65 龍岡区
		B 13.0				
		C 6.0				
13	手捏土器 土 器 器	A 4.4	丸底。体部は内彎して、立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	石英・赤色粒子 褐色 普通	P260 90% PL65 龍岡区覆土中層
		B 3.5				

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第100回14	球状土器	3.6	2.2	0.7	31.2	P1付着床面	DP73	PL76
15	球状土器	4.6	3.1	0.9	37.3	西部覆土下層	DP74	PL77
16	球状土器	3.0	2.6	1.0	16.9	南部覆土上層	DP75	PL77
17	球状土器	3.3	2.5	0.6	25.0	北東部覆土下層	DP76	PL77
18	球状土器	3.8	3.0	0.6	29.6	北東部覆土中	DP77	

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第100回19	版 石	9.4	6.0	5.5	310.1	安山岩	新2-1-1層中層	Q32	
20	版 石	(7.6)	3.0	2.0	(74.1)	凝灰岩	東部覆土下層	Q33	PL79
21	磨 石	9.6	3.9	1.6	82.8	安山岩	東部覆土下層	Q34	版石兼用
22	磨 石	7.5	3.3	1.2	34.2	安山岩	新2-1-1層中層	Q35	
23	磨 片	7.0	4.1	1.6	44.2	チャート	覆土中	Q36	
24	磨 片	3.5	2.9	0.8	4.8	チャート	覆土中	Q37	
25	双孔円板	2.4	2.5	0.2	2.3	滑石	東部覆土下層	Q39	PL79

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考	
		長さ (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第100回21	紡 織 車	4.1	1.4	0.7	32.0	粘板岩	西部床面	Q38	PL79

調査番号	種別	測 定 値				石 質	出土地点	備 考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第102号	瓦	1.1	0.8	0.3	1.2	滑 石	東聖院遺上1層	Q40	PL79

採取番号	種 別	測 定 値				出土地点	備 考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第104号	鉄 線	7.6	1.3	0.3	5.2	竜岡遺上1層	M 6		PI.81

### 第52号住居跡 (第101・102・103号)

位置 調査区域の中央部、B 2 j 9 区。

重複関係 本跡が第53号住居跡を掘り込んでおり、また第50・68号住居に掘り込まれていることから、第53号住居跡よりも新しく、第50・68号住居よりも古い。

規模と平面形 長軸4.78m、短軸3.34mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は20~30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。北部を中心に踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P3は、長径41~62cm、短径22~58cmの不整形凹形または不整形円形、深さ10~30cmで、柱穴と思われるが、位置や大きさに規則性が認められない。

#### P3土層解説

- 1 黒 褐色 rome 粒子中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子・rome 小ブロック微量
- 2 黒 褐色 rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、rome 小ブロック・rome 粒子微量
- 4 黒 褐色 炭化粒子中量、rome 小ブロック少量、焼土粒子・rome 粒子微量
- 5 黒 褐色 rome 小ブロック・rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆 東壁際の中央部からやや南寄りに、砂混じり粘土で構築されている。竈が住居跡の南部に構築されているのは、第69号住居跡と同様である。壁外への掘り込みについては明確に確認できなかった。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さは (85)cm、最大幅106cmである。火床部は、床面がわずかに掘りくぼめられている程度である。煙道は、床面から急な角度で立ち上がる。

#### 覆土層解説

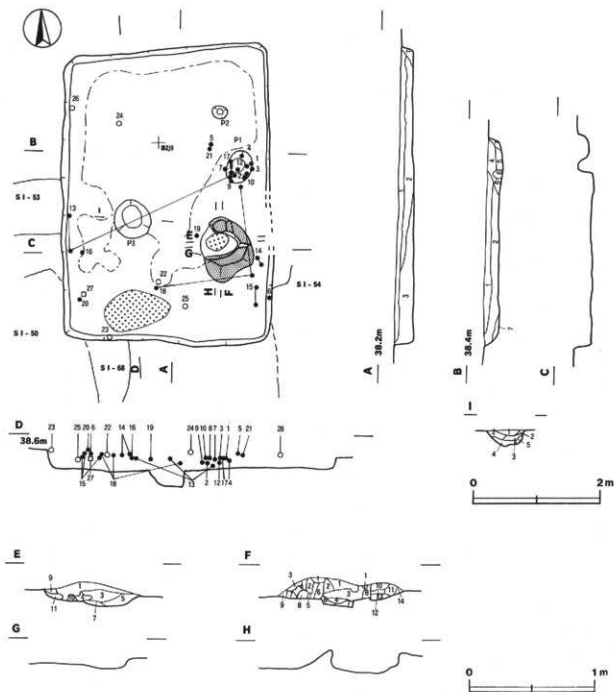
- 1 黒 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、rome 粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 3 黒 褐色 焼土粒子多量
- 4 黒 褐色 焼土粒子多量
- 5 黒 褐色 焼土粒子・rome 粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、rome 粒子微量
- 7 黒 褐色 焼土粒子中量、rome 粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・rome 粒子微量
- 9 黒 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・rome 粒子微量
- 10 黒 褐色 炭化粒子少量、rome 粒子微量
- 11 黒 褐色 炭化粒子・rome 粒子少量、rome 小ブロック微量
- 12 黒 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 13 黒 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 14 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

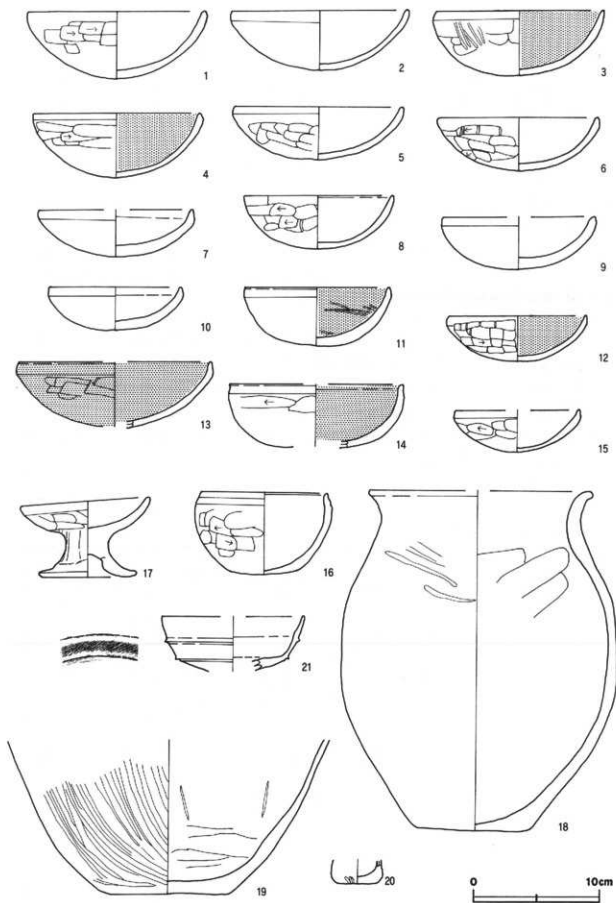
- 1 黒 褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・rome 中ブロック・rome 小ブロック微量
- 3 黒 褐色 rome 小ブロック・rome 粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 rome 粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 rome 粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・rome 小ブロック少量
- 6 黒 褐色 rome 粒子多量、rome 小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 rome 粒子中量



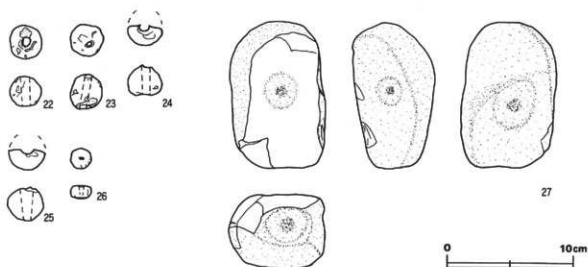


第101図 第52号住居跡実測図

遺物 土師器片429点，須恵器片6点，土製品（球状土錘4，土玉1）5点，石器（凹石）1点のほか，混入と思われる弥生土器片18点が出土している。第102・103図1～4，7～10と12の土師器環はいずれもP1付近の覆土上層から出土している。1と3は正位の状態出土している。8～10は重なった状態で出土し，9と10は正位の状態出土している。5の土師器環と21の須恵器高環は，北東部の覆土上層から，6の土師器環は南東部壁際の覆土上層から，13の土師器環はP1付近の覆土上層と西壁際の覆土下層から出土した破片が接合し，14と15の土師器環は東壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。16の土師器碗は西壁際の覆土上層から，17の土師器高環はP1上の覆土上層から逆位の状態出土している。18の土師器甕は南部と東部の覆土上層から出土した破片が接合し，19の土師器甕は竈前面の覆土上層から，20の手捏土器は南西コーナー



第102图 第52号住居跡出土遺物実測図(1)



第103図 第52号住居跡出土遺物実測図(2)

部壁際の覆土上層と中層からそれぞれ出土している。22と25の球状土錘は南部の覆土上層から、23の球状土錘は南壁際の覆土上層から、24の球状土錘は北西部の覆土上層から、26の土玉は北西コーナー部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。球状土錘はいずれも覆土上層からの出土である。27の凹石は南西コーナー部の覆土上層から出土している。11の土師器杯は覆土中から出土している。

所見 南壁際でわずかに焼土が検出された。壁溝は検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期(6世紀末から7世紀)と思われる。

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	土師器	A 14.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	石英・砂粒にふい橙色普通	P281 95% PL67 P 1 覆土上層
		B 5.2				
2	土師器	A 14.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・砂粒橙色普通	P282 100% PL67 P 1 覆土上層
		B 4.8				
3	土師器	A 13.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。体部外面にへラ当て痕。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P283 100% PL67 P 1 覆土上層
		B 5.0				
4	土師器	A 13.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・砂粒にふい橙色普通	P284 95% PL67 P 1 覆土上層
		B 5.1				
5	土師器	A 13.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	石英・砂粒にふい橙色普通	P285 80% PL67 北東部覆土上層
		B 4.2				
6	土師器	A 12.6	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・砂粒にふい黄褐色普通	P286 80% PL67 南東部壁際上層
		B 4.2				
7	土師器	A [12.4]	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒暗灰黄色普通	P287 80% PL67 P 1 覆土上層
		B 3.7				
8	土師器	A [12.4]	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒にふい黄褐色普通	P288 70% PL67 P 1 覆土上層
		B 3.7				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 9	坏土師器	A [12.0] B 4.2	腰部一部欠損。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部内・外面ナデ。	砂粒 灰黄褐色 普通	P269 75% PL67 P 1 覆土上層
10	坏土師器	A 10.5 B 3.4	腰部一部欠損。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部内・外面ナデ。	長石 灰黄褐色 普通	P270 75% PL67 P 1 覆土上層
11	坏土師器	A 11.4 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部内・外面ナデ。腰部内面黒色処理。腰部内面にヘラ当て痕。	長石 にふい 黄褐色 普通	P271 75% PL67 覆土中
12	坏土師器	A 10.8 B 3.6	腰部一部欠損。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部内・外面ナデ。腰部内面黒色処理。	赤色粒子 褐色 普通	P272 75% PL67 P 1 覆土上層
13	坏土師器	A 15.2 B 5.1	底部から口縁部の破片。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	赤色粒子 にふい 黄褐色 普通	P273 30% PL67 P 1付近覆土上層 と西壁際覆土下層
14	坏土師器	A [13.8] B (5.0)	底部から口縁部の破片。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境にわずかな段を持ち、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	雲母・砂粒 にふい 褐色 普通	P274 40% 東壁際覆土上層
15	坏土師器	A [9.9] B 3.3	底部から口縁部の破片。丸底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り、内面ナデ。	雲母・砂粒 にふい 褐色 普通	P275 20% 東壁際覆土上層
16	碗土師器	A 10.0 B 6.6 C 5.2	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境にわずかな段を持ち、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り、内面ナデ。	赤色粒子 にふい 褐色 普通	P276 90% PL67 西壁際覆土上層
17	高坏土師器	A 10.0 B 6.3 C 7.8	口縁部一部欠損。脚部は短めで、ラッパ状に開く。底部は丸境に伸びる。腰部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラナデ。内面横ナデ。脚部外面へラナデ、内面ナデ。	赤色粒子 にふい 褐色 普通	P277 95% PL67 P 1付近覆土上層
18	壺土師器	A [17.8] B 27.1 C 9.4	底部から口縁部の破片。平底。腰部は内彎ながら立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面ナデ。内面へラナデ。腰部外面にヘラ当て痕。	長石・赤色粒子 赤褐色 普通	P278 50% 東部東壁際覆土上層
19	壺土師器	B 12.2 C 9.8	底部から腰部の破片。平底。腰部は内彎しながら立ち上がる。	腰部外面へラ磨き、内面ナデ。腰部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にふい 赤褐色 普通	P279 30% PL67 東面内面覆土上層
20	手捏土師器	B 1.9 C 3.2	底部から腰部の破片。平底。腰部はほぼ直立する。	腰部内・外面ナデ。腰部外面に通にヘラ当て痕。	粘土粒子 にふい 黄褐色 普通	P280 40% 南西コーナー一部 壁際覆土上層
21	高須壺器	A [11.2] B (4.3)	坏部。腰部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び腰部内・外面クロコナデ。卑脚機文LRを施した後、2本の線が走る。	長石・黒色粒子 灰色 普通	P281 5% 北東部覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第102図22	球状土師	2.7	2.4	0.7	14.2	南部覆土上層	DP78 PL77	
23	球状土師	2.6	2.7	0.5	14.0	南壁際覆土上層	DP79	
24	球状土師	(2.8)	2.5	0.7	(7.2)	北西部覆土上層	DP80	
25	球状土師	(2.8)	2.7	1.1	(10.6)	南部覆土上層	DP81	
26	上	K	1.7	1.0	0.4	2.6	壁内側壁	DP82

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第102図27	門石	11.5	6.6	5.8	868.0	安山岩	南西コーナー壁	Q41 PL79

### 第53号住居跡（第104・105図）

位置 調査区域の中央部、B2j8区。

覆葺関係 本跡が第54号住居跡を掘り込んでおり、また第50・52・68号住居及び第117・120号土坑に掘り込まれていることから、第54号住居跡よりも新しく、第50・52・68号住居及び第117・120号土坑よりも古い。

規模と平面形 長軸4.30m、短軸4.15mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は17~42cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、西壁の一部を除いて巡っている。上幅14~27cm、下幅4~9cm、深さ6~12cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。竈前面から南壁際にかけて踏み固められている。

ピット 7か所（P1~P7）。P1~P4は、長径40~71cm、短径42~46cmの不整楕円形、深さ48~55cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は、長径62cm、短径54cmの不整楕円形、深さ23cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6とP7は、長径19~60cm、短径16~32cmの不整楕円形、深さ6~8cm前後で、壁際にあり、柱穴と思われる。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に40cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。一部第52号住居のピットに掘り込まれている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ100cm、最大幅107cmである。火床部が、床面を15cmほど掘りくはめられている。煙道は、火床面から直線的に外傾して立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子多量、粘土小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒中量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 6 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量
- 7 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ローム粒子多量

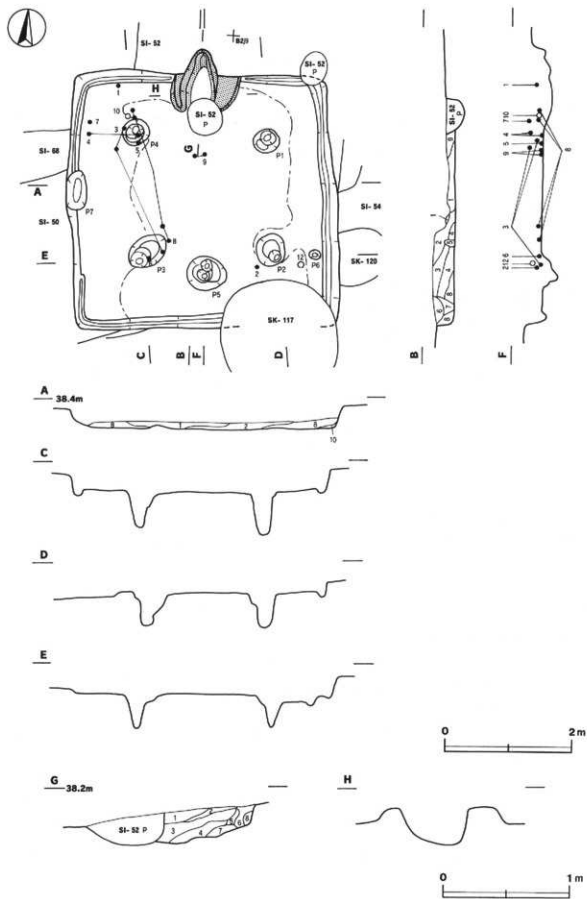
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

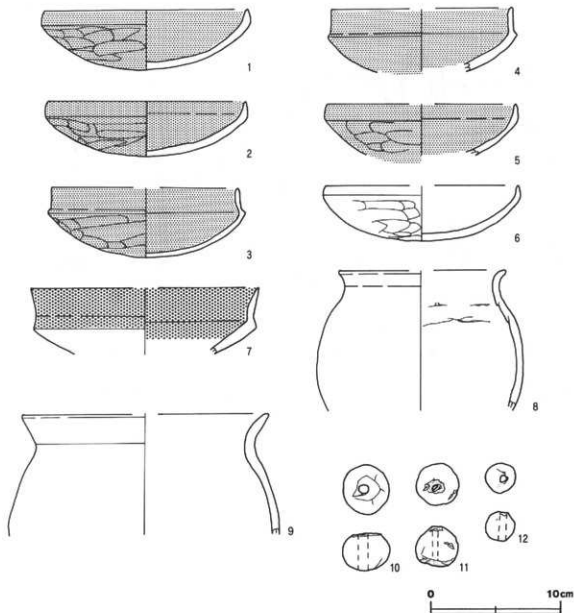
- 1 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
- 2 黒 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 8 暗 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗 褐色 粘土小ブロック・粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 10 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 遺物は北西部を中心にして、土師器片506点、土製品（球状土錘）3点のほか、混入と思われる須恵器片4点が出土している。第105図1の土師器片は北西部壁際の覆土下層から止位の状態、2の土師器片は南東部の覆土下層から出土している。3・4の土師器片と8の土師器片はいずれも西部の覆土下層から出土した破片が接合している。5の土師器片はP4付近の床面から、6の土師器片はP3付近の覆土下層からそれぞれ出土している。7の土師器片は北西部壁際の覆土上層から、9の土師器片は竈前面の床面からそれぞれ出土している。10の球状土錘はP4北部の覆土下層から、12の球状土錘は南東部の覆土上層から出土している。11の球状土錘は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第104图 第53号住居跡実測図



第105図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	坏 土 陶 器	A 16.2 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 髷して立ち上がり、口縁部は短く 内傾する。	体部外面へう削り、内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母 橙色 普通	P282 90% PL68 北西部埋土下層
2	坏 土 陶 器	A 15.8 B 4.4	体部一部欠損。丸底。体部は内髷 して立ち上がり、口縁部は内髷す る。	体部外面へう削り、内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	赤色粒子 橙色 普通	P283 85% PL68 南東部覆土下層
3	坏 土 陶 器	A 15.8 B 4.4	体部一部欠損。丸底。体部は内髷 しながら立ち上がり、口縁部との 境に稜を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り、内面ナデ。内・外面黒 色処理。	石英 橙色 普通	P284 75% PL68 西部覆土下層
4	坏 土 陶 器	A [14.4] B 5.0	体部から口縁部の破片。体部は内 髷し、口縁部との境に稜を持ち、 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り、内面ナデ。内・外面黒 色処理。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P285 20% PL68 西部覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 5	坏土師器	A 13.0 B (4.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう張り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母 棕色 普通	P286 10% P4付近覆土下層
6	坏土師器	A 115.4 B 4.4	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう張り、内面ナデ。	石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P287 10% P3付近覆土下層
7	坏土師器	A 118.0 B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に横を持ち、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう張り、内面ナデ。内・外面赤色。	長石・石英 明赤褐色 普通	P288 10% 北西部屋壁土上層
8	爰土師器	A 13.3 B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は短く、緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪組み取。	長石・石英・砂粒 棕色 普通	P289 10% PL68 西部屋土下層
9	爰土師器	A 19.5 B (9.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・赤色 粒子 灰褐色 普通	P290 10% 覆前向床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第105図10	球状土師	3.9	3.0	0.8	39.4	P1北部屋土下層	DPN3 PL77
11	球状土師	3.4	3.2	0.4	30.4	覆土中	DP84
12	球状土師	2.4	2.3	0.6	9.7	南東部屋土上層	DP85 PL77

#### 第55号住居跡（第106・107図）

位置 調査区域の中央部、C2a8区。

重複関係 本跡は、第54・105号住居及び第111・117・119号土坑に掘り込まれていることから、第54・105号住居、第111・117・119号土坑よりも古い。

規模と平面形 南東部が調査区域外となっているが、一辺が5.45mの方形と推定される。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は14～35cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、第54・105号住居及び第114・115・117号土坑に掘り込まれている部分を除いて、巡っている。上幅14～25cm、下幅4～13cm、深さ5cm前後で、断面形はU字形である。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 12か所（P1～P12）。P1～P3は、長径24～54cm、短径20～45cmの不整楕円形、深さ18～92cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P4は、長径(44)cm、短径(40)cmの不整楕円形、深さ8cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P5～P12は、長径26～92cm、短径18～20cmの不整形及び不整楕円形、深さ6～39cmで大きさ、深さとともさまざまであり性格は不明である。

竈 北西壁のほぼ中央部に、砂混じりの粘土で構築されている。壁外への掘り込みは少ない。天井部は崩落し、西袖部が残存しているが、東袖部の一部が第117号土坑に掘り込まれている。火床部に土製支脚が残存していた。規模は、焚口部から煙道部まで長さ94cm、最大幅(90)cmである。火床部は、床面が25cmほど掘りくぼめられている。煙道は、火床面から急な角度で立ち上がる。



覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
- 7 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 9層からなる。レンズ状を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片236点、土製品（球状土錘）2点、石器（砥石1点・軽石1点・敲石2点）4点が出土している。第107図1の土師器環はP12北部の覆土下層から正位の状態、2の土師器環と4の小形変は東西袖部外側の覆土下層から、3の土師器環はP10南部の覆土下層からそれぞれ出土している。5の球状土錘は東部の床面から、8の砥石は南部の覆土下層から、9の軽石は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。6と7の敲石は覆土中から出土している。

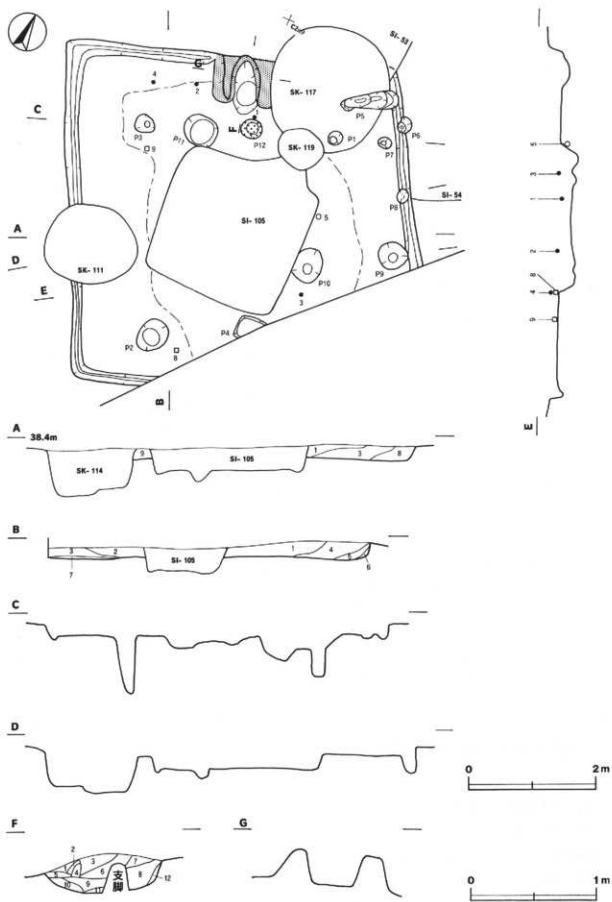
所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。

第55号住居跡出土遺物観察表

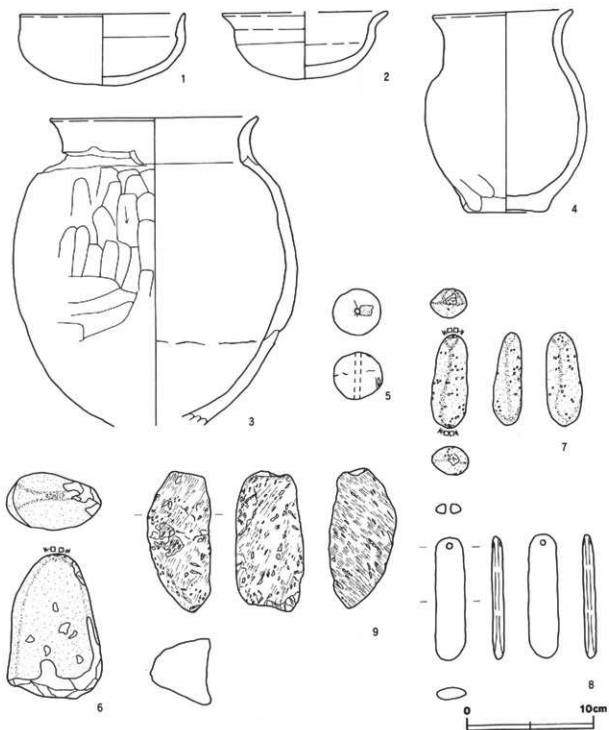
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第107図1	土師器環	A 13.1 B 5.6	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。内面の体部と口縁部の境に段を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P292 100% PL68 P12北部覆土下層
2	土師器環	A 13.2 B (5.3)	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P293 80% PL68 東西袖部外側覆土下層
3	土師器環	A 16.2 B (24.1)	底部及び体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P294 80% PL68 P10南部覆土下層
4	土師器環	A 11.2 B 16.0 C 6.4	口縁部及び体部一部欠損。小形。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面下にヘラ当て痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	P295 80% PL68 東西袖部外側覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第107図5	球状土錘	3.8	3.7	0.4	43.4	東部床面 DP86	PL77

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第107図6	敲石	(11.4)	7.5	4.5	466.1	安山岩	覆土中 Q42	
7	敲石	7.3	2.9	2.3	67.1	安山岩	覆土中 Q43 PL79	
8	砥石	9.7	2.4	1.0	38.4	凝灰岩	南部覆土下層 Q44 PL79	
9	軽石	11.0	3.0	5.3	76.3	—	西部覆土下層 Q45	



第106图 第55号住居跡実測图



第107図 第55号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡 (第108・109図)

位置 調査区域の中央部, B2i9区。

重複関係 本跡が第54号住居跡を掘り込んでおり, 第54号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.88m, 短軸3.62mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は40~50cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。中央部から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は、長径46～62cm、短径40～42cmの不整形円形、深さ29～50cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5・P6は、長径25～40cm、短径20～32cmの不整形円形、深さ21～25cmで配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北境のほぼ中央部を壁外に46cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部の一部と、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ125cm、最大幅104cmである。火床部は、床面からわずかに掘りくぼめられており、焼けて赤変している。煙道は、火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

#### 覆土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・ローム粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
6	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
7	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
10	黒褐色	ローム粒子少量
11	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13	黒褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量
15	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
16	暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
17	褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
21	赤褐色	粘土粒子多量
22	暗褐色	粘土粒子多量
23	暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・ローム粒子微量
24	暗褐色	粘土粒子多量
25	黒褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
26	暗赤褐色	炭化材中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
27	黒褐色	粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量
28	黒褐色	粘土粒子多量、炭化粒子微量
29	黒褐色	粘土粒子多量、炭化粒子少量
30	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量

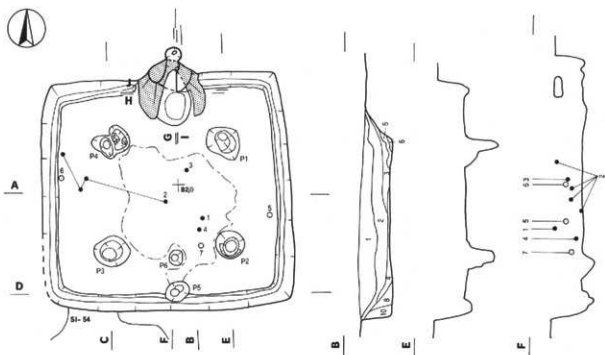
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
3	暗褐色	炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	炭化粒子多量、焼土粒子・ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック微量
8	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

遺物 土師器片856点、土製品5点、石器（砥石）1点が出土している。第109図1の上師器環は中央部の覆土上層から、2の上師器甕は中央部の床面と西部の覆土下層及び西壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。3の手捏土器は中央部の覆土中層から、4の手捏土器は中央部の覆土下層から出土している。5の球状土錘は東部の覆土中層から、6の球状土錘は西部の覆土中層から、7の球状土錘はP2の西部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の球状土錘と9の上玉は覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の住居跡に比べ遺存状態が良好で、天井部も一部検出された。壁溝は、検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



A 38.6m



C



D



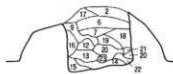
G 38.4m



I



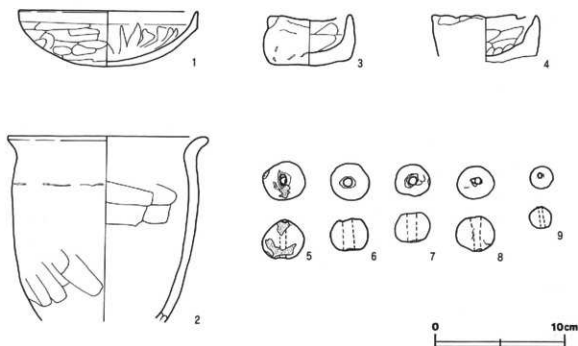
H



J



第108图 第56号住居跡实测图



第109図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 1	坏 土 器	A 14.1 B 4.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り、内面ナデ。	赤色粒子 明褐色 普通	P296 58% PL68 中央部覆土上層
2	甗 土 器	A 16.0 B (14.6)	底部及び体部一部欠損。体部は内 彎気味に外傾し、口縁部は外反す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へう削り、内面へうナデ。体部外 面に輪積み痕。	長石・石英 褐色 普通	P297 50% PL68 中央部床面と西 部覆土下層及び 西壁階覆土上層
3	手捏土器 土 器	A 6.4 B 4.0 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上 がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	砂粒 に多い褐色 普通	P298 100% PL68 中央部覆土中層
4	手捏土器 土 器	A 8.2 B (3.8)	底部外面一部剝離。体部は内彎し ながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	赤色粒子 褐色 普通	P299 70% PL68 中央部覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第109図5	球状土鉢	3.1	3.1	0.5	25.7	東部覆土中層 DP87	
6	球状土鉢	3.0	2.5	0.7	20.6	西部覆土中層 DP88	
7	球状土鉢	2.8	2.2	0.9	13.5	P2西部覆土下層 DP89	PL77
8	球状土鉢	3.0	2.8	0.9	17.3	覆土中 DP90	PL77
9	土 玉	1.8	1.7	0.4	4.4	覆土中 DP91	

第62号住居跡（第110・111図）

位置 調査区域の中央部，B 2 g 9 区。

規模と平面形 南北軸（3.92）m，東西軸4.70mである。北部が調査区域外となっているため，平面形は不明である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は43～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には，南壁の下から検出され，長さは1.1m，1.6mである。上幅20～26cm，下幅7～10cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P3は，長径33～52cm，短径32cm前後の不整形円形または不整楕円形，深さ42～54cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P4は，長径26cm，短径21cmの不整楕円形，深さ10cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P5は径20cmほどの不整形円形，深さ7cm，P6は長径74cm，短径32cmの不整形円形，深さ9cmで，いずれも補助柱穴と思われる。

P1土層解説

- 1 帯 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 2 塊 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 塊 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 帯 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 塊 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 3 に近い褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

P3土層解説

- 1 帯 褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 2 に近い褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

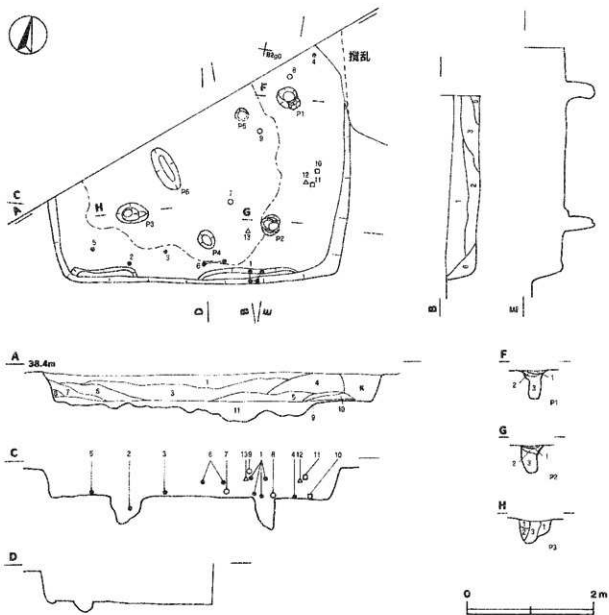
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 帯 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 帯 褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 塊 褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 5 塊 褐色 粘土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 帯 褐色 ローム粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 帯 褐色 炭化粒子微量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量
- 8 帯 褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
- 9 暗 褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 10 帯 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 11 暗 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子・炭化粒子微量

遺物 遺物は，東部及び南部の境界から多く出土している。土師器片501点，須恵器片8点，土製品（球状土鏝）3点，石器・石製品2点，鉄製品2点が出土している。第111図1の土師器環は南境界の覆土上層と下層から出土した破片が接合したものである。2・3・5の土師器環は南部の床面と覆土下層から，4の土師器環は北東部の床面から，6の土師器環は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。2と3の土師器環はいずれも逆位の状態で出土している。7の球状土鏝は中央部の覆土下層から，8の球状土鏝は北東部の覆土下層から，9の球状土鏝は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。10の散石は東部の覆土上層から，11の石製紡錘車は東部の床面から出土している。12の鉄鏝は東部の覆土中層から，13の不明鉄製品は南東部の覆土上層から出土している。

所見 本跡では，北部が調査区域外となっているためか，竈は検出されなかった。時期は，出土遺物から後期（6世紀末から7世紀）と思われる。

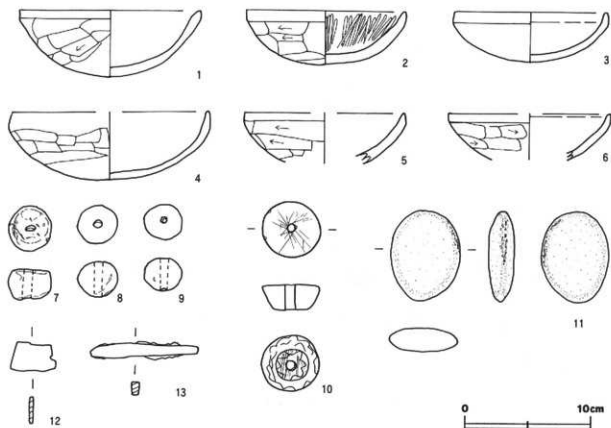


第110図 第62号住居跡実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

試坑番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	坏 土師器	A 14.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 短く内彎する。内・外面の体部と 口縁部の境に鋭い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 にふい橙色 普通	P307 95% PL69 南部長屋上土層 と南土下層
		B 5.3				
2	坏 土師器	A 12.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 にふい橙色 普通	P308 98% PL69 南部長屋上下層
		B 4.3				
3	坏 土師器	A 12.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P309 98% 南部長屋下層
		B 3.9				
4	坏 土師器	A [15.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体 部は内彎しながら立ち上がり、口 縁部は短く内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。体部内面に 陰文。	長石・石英 にふい黄褐色 普通	P310 30% PL69 北東部床面
		B 5.4				
5	坏 土師器	A [12.6]	体部から口縁部の破片。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 短く内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	石英・赤色粒子 にふい橙色 普通	P311 20% 南部長屋土下層
		B (4.0)				





第111図 第62号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 6	坏 土師器	A [12.8] B ( 3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内 斡しながら立ち上がり、口縁部は 短く内縮する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へつり、内面ナデ。	砂粒 にふい黄褐色	P312 155% 南部覆土中層 普通

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第111図7	球状土鉢	3.5	2.4	0.7	28.0	中央部覆土下層 DP124	
8	球状土鉢	3.2	2.9	0.7	26.6	北東部覆土下層 DP125	
9	球状土鉢	3.0	2.5	0.5	19.6	北東部覆土上層 DP126	PL77

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第111図10	紡鉢車	4.4	2.1	0.7	59.0	滑石	東部床面 Q48	PL80

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第111図11	散石	7.1	5.5	1.9	116.6	砂岩	東部覆土上層 Q47	

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第111図12	鉢	( 3.7)	2.3	0.3	( 3.4)	鉄	東部覆土中層 M9	
13	不明鉄製品	8.6	1.1	0.6	12.7	鉄	南東部覆土上層 M10	PL81

## 第64号住居跡（第112・113図）

位置 調査区域の中央部，B313区。

重複関係 本跡は覆土を第65号住居に，西部を第66号住居に掘り込まれていることから，両遺構より古い。

規模と平面形 本跡は，南西部が調査区域外となっている。残存する部分から南北軸5.57m，東西軸（4.27m）の方形または長方形と推定される。

南北軸方向 N-33°-W

壁 壁高は27～42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の一部と東コーナー部で検出された。北壁の下では上幅7～21cm，下幅4～5cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。東コーナー部では，上幅6～9cm，下幅4cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床 検出された床面は平里である。竈の周囲から東コーナー部にかけて踏み固められている。

ピット 8か所（P1～P8）。P1～P2は長径38～46cm，短径28～40cmの不整楕円形，深さ63～80cmで，配石や規模から土柱穴と思われる。P3は北西壁際に位置し，径35cmの不整形，深さ10cm，P4～P8は北東壁際に並ぶ小ピットで，P4～P6は径14cm前後の不整形，深さ10cm前後，P7・P8は長径25～36cm，短径10～13cmの不整楕円形，深さ12cm前後でいずれも補助柱穴と思われる。

竈 北壁を境外に12cm，三角形状に掘り込み，砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，奥1部から煙道部まで長さ152cm，最大幅90cmである。火床部は，床面から6cmほど掘りこぼめられており，火熱を受けて，赤変し硬化している。また，竈前面にわずかな掘り込みがあり，覆土から焼土が検出されたことから，竈の灰の掻き出し部と思われる。煙道は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

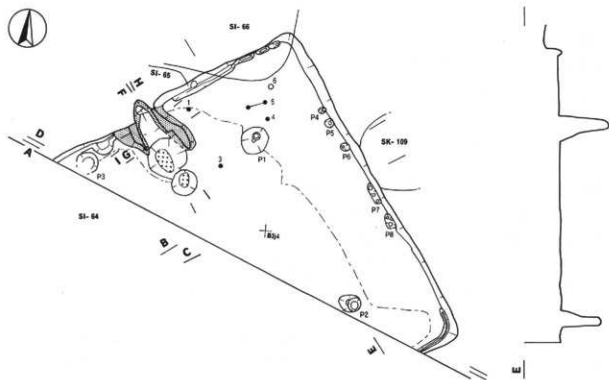
### 覆土層解説

- 1 焼 褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 焼 褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 4 灰 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土粒子多量，粘土粒子少量
- 7 赤 褐色 粘土粒子多量
- 8 焼 褐色 焼土中ブロック少量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗 赤褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
- 10 黒 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 11 暗 褐色 粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 12 暗 褐色 粘土粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 13 暗 褐色 粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 暗 褐色 焼土粒子多量
- 15 黒 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 16 黒 褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 17 暗 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子微量
- 18 暗 赤褐色 焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
- 19 暗 褐色 炭化材少量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 20 暗 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 21 褐色 粘土粒子多量
- 22 褐色 粘土粒子・粘土小ブロック多量
- 23 暗 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

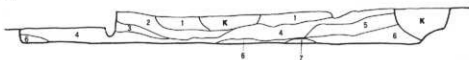
覆土 9層からなる。一部擾乱を受けているが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

### 土層解説

- |        |   |        |                                       |
|--------|---|--------|---------------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量                       | 5 黒 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量                                | 6 黒 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量    |
| 3 黒 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量                | 7 褐色   | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量                   |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量 | 8 黒 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック微量                    |
|        |   | 9 褐色   | ローム粒子多量                               |



A 38.6m



B



C



D 38.4m



F 38.0m



H



G



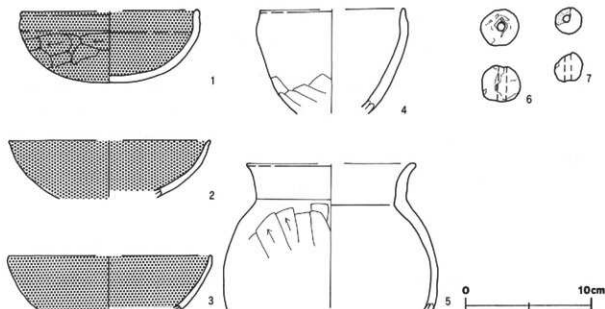
I



0 1m

第112图 第64号住居跡実測图

遺物 竈の周囲を中心にして、土師器片264点、土製品（球状土鉢）2点が出土している。第113図1の土師器  
 坏は竈東部の床面から、3の土師器坏は竈前面の覆土下層から、4の土師器碗は北東部の覆土中層から出土し  
 ている。5の土師器甕は北東コーナー部の覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。6の球状  
 土鉢は北東コーナー部の覆土上層から出土している。2の土師器坏と7の球状土鉢は覆土中から出土している。  
 所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第113図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	坏 土師器	A [14.0] B 5.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石 褐色 普通	P 313 30% 竈東部床面
2	坏 土師器	A [16.0] B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にふい赤褐色 普通	P 314 10% 覆土中
3	坏 土師器	A [16.0] B (4.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石 にふい赤褐色 普通	P 315 10% 竈前面覆土中層
4	碗 土師器	A [11.4] B (8.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英・炭母 明赤褐色 普通	P 316 10% 北東部覆土中層
5	甕 土師器	A [13.2] B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英 にふい赤褐色	P 317 10% 北東コーナー部 覆土中層から覆 土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第113図6	球状土鉢	3.0	2.8	0.6	22.2	北東コーナー部覆土上層	DP127
7	球状土鉢	2.2	2.2	0.5	7.5	覆土中	DP128

## 第69号住居跡（第114・115・116図）

位置 調査区域の中央部，B 3 f 2 区。

重複関係 本跡は，第100・102号住居及び第6・7号溝に掘り込まれていることから，これらの遺構より古い。

規模と平面形 長軸 [6.12]m，短軸4.00mの長方形と推定される。

主軸方向 N-150°-E

壁 検出された部分の壁高は，14～18cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所。P1は，径60cmの不整形円形，深さ53cmで，配置や規模から支柱穴と思われる。P1以外にピットは検出されなかった。

竈 南コーナー部に砂泥じりの粘土で構築されている。煙道部の壁外への掘り込みはなかった。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ115cm，最大幅120cmである。火床部は，床面を10cmほど掘りくぼめられており，焼けて赤変している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

### 竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 粘土粒子中量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量

覆土 3層からなる。他の遺構に掘り込まれている部分があるが，レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

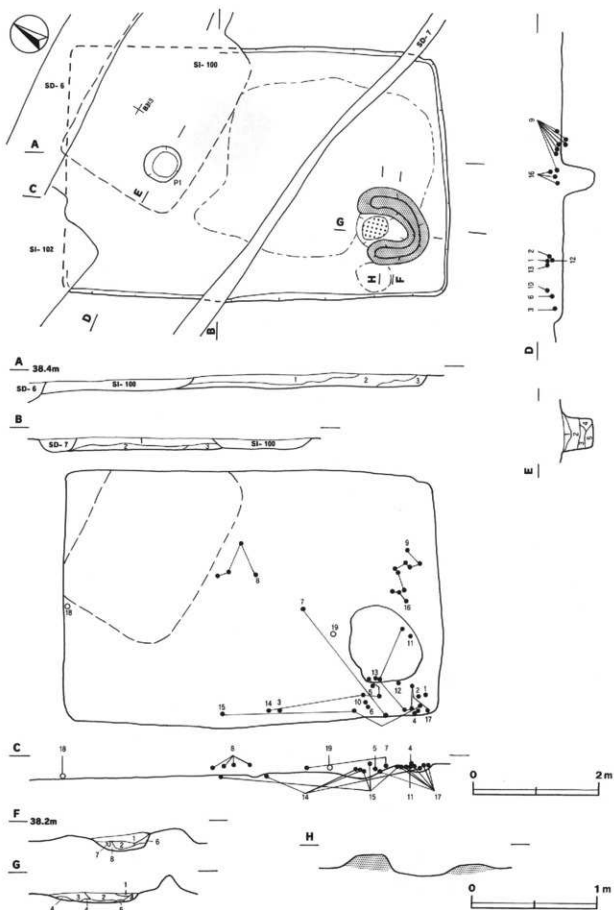
### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量

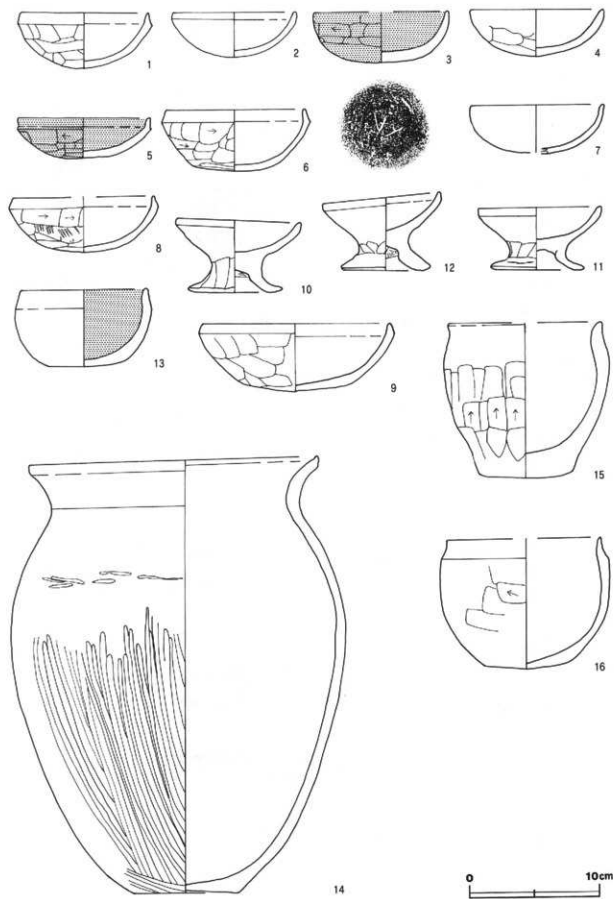
遺物 遺物は遺構全体から多量に出土している。このうち図示できるものは竈の周囲からの出土が多い。土師器片756点，土製品（球状土錘）2点，石製模造品1点のほか，混入と思われる須恵器片14点が出土している。

第115・116図1・2・4の土師器坏は南コーナー部の覆土中層から，3の土師器坏は南西部の壁際の覆土下層から，5・6の土師器坏と10の土師器高坏はいずれも竈西部の覆土上層から出土している。7の土師器坏は竈の西部と中央部の覆土下層から出土した破片が接合し，8の土師器坏は中央部の覆土上層から，9の土師器坏は南東部の覆土上層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。11の土師器高坏は竈東袖部外側の覆土下層から，12の土師器高坏は竈西袖部外側の覆土中層から，13の土師器坏は竈西袖部外側の覆土上層から出土している。14の土師器坏は竈西袖部外側と南西部壁際の覆土下層から出土したものが接合し，15の土師器坏は南コーナー部と南西部壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。16の土師器坏は南東部の床面から，17の土師器坏は竈の覆土中と南コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合している。18の球状土錘は北西部壁際の床面から，19の球状土錘は竈前面の床面から出土している。

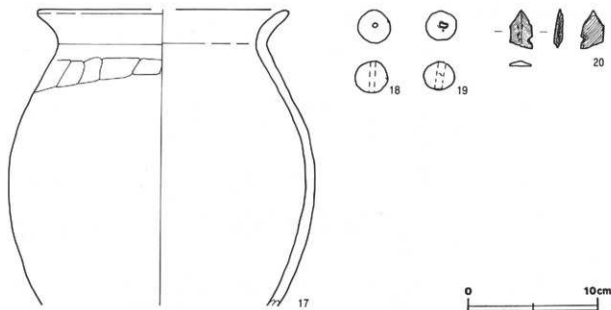
所見 当遺跡には，竈が住居跡の南部に構築されているものが2軒確認されている。本跡は，第52号住居跡同様，竈が住居跡の南部に構築され，また，煙道部の壁外への掘り込みは検出されなかった。時期は，出土土器から後期（7世紀）と思われる。



第114图 第69号住居跡実測図



第115图 第69号住居跡出土遺物実測図(1)



第116図 第69号住居跡出土遺物実測図(2)

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A 10.0 B 4.5	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部の境に稜を持ち、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	赤色粒子にふい橙色普通	P325 100% PL69 南コーナ一部覆土下層
2	坏 土師器	A 9.8 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部は表面が剥離しており、調整不明。	砂粒にふい橙色普通	P328 90% PL69 南コーナ一部覆土下層
3	坏 土師器	A [10.6] B 3.9	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部内・外面黒色処理。底部外面にヘラ記号。	長石暗褐色普通	P327 90% PL69 南西部壁跡覆土下層
4	坏 土師器	A 10.7 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	赤色粒子にふい橙色普通	P328 90% PL69 南コーナ一部覆土下層
5	坏 土師器	A 10.2 B 3.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部の境に稜を持ち、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石にふい橙色普通	P329 85% PL69 壺西部覆土上層
6	坏 土師器	A 11.2 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・赤色粒子にふい橙色良好	P330 85% PL69 壺西部覆土上層
7	坏 土師器	A 10.5 B 3.8	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	赤色粒子にふい橙色普通	P331 70% PL69 壺西部と中央部覆土下層
8	坏 土師器	A [11.2] B 4.3	体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部外面にハケ目痕。	砂粒にふい黄褐色普通	P332 65% PL69 中央部覆土上層
9	坏 土師器	A 15.0 B 5.4 C 8.2	体部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・赤色粒子にふい橙色普通	P333 60% PL69 南東部覆土上層
10	高坏 土師器	A 9.8 B 5.6 D 7.5	口縁部一部欠損。脚部はラック状に開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く直立する。脚部との結合部はソケット状である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。脚部外面ヘラナデ。	砂粒 明黄褐色普通	P334 95% PL69 壺西部覆土上層



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 11	高土師器 坏器	A 9.7 B 5.0 D 7.4	口縁部及び肩部、部欠損。肩部はラップ状に開く。坏体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く直立する。肩部との結合部はソケット状である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。肩部外面ヘラナデ。	石英・砂粒・赤色 粒子 に多い黄褐色 普通	P335 85% PL69 甕内袖部外側覆 土下層
12	高土師器 坏器	A 9.4 B 6.0 D 7.1	口縁部及び肩部一部欠損。肩部はラップ状に開く。坏体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く直立する。肩部との結合部はソケット状である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。肩部外面ヘラナデ。	砂粒 に多い黄褐色 普通	P336 80% PL69 甕内袖部外側覆 土中層
13	陶土師器 碗	A 10.0 B 6.1 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英 に多い黄褐色 普通	P337 100% PL69 甕内袖部外側覆土上層
14	陶土師器 壺	A 22.8 B 34.6 C 8.4	外部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く外反する。体部上位に最大径を持つ。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部上位にヘラ出て板、体部下位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 に多い黄褐色 普通	P338 80% PL70 甕内袖部外側と 内面袖部外側覆土 下層
15	陶土師器 壺	A [12.2] B (12.4) C 7.4	底部及び体部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り、内面ナデ。全体に器内は厚い。	長石・石英・赤色 粒子 明赤褐色 普通	P339 70% PL69 甕内コーナー部と内 面袖部外側覆土下層
16	陶土師器 壺	A [12.3] B 10.3 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 に多い黄褐色 普通	P340 50% PL69 甕内袖部外側
第116図 17	陶土師器 壺	A [19.8] B (23.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。下位は剥離のための裏装不明。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 に多い褐色 普通	P341 20% 甕内土中と内コー ナー一部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第118図 18	球状土師器	2.3	1.8	0.6	17.2	北西部甕敷床西	DP132 PL77
19	球状土師器	2.4	2.2	0.6	11.8	甕前甕敷床西	DP133 PL77

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第116図 20	石製模造品	3.0	1.8	0.7	2.7	滑石	甕内土中	Q50 PL80

### 第77号住居跡(第117・118図)

位置 調査区域の北東部、B3 b0区。

重複関係 本跡は、第1号地下式塼(第75号上坑)に掘り込まれていることから、第1号地下式塼(第75号上坑)よりも古い。

規模と平面形 長軸3.29m、短軸3.12mの方形である。

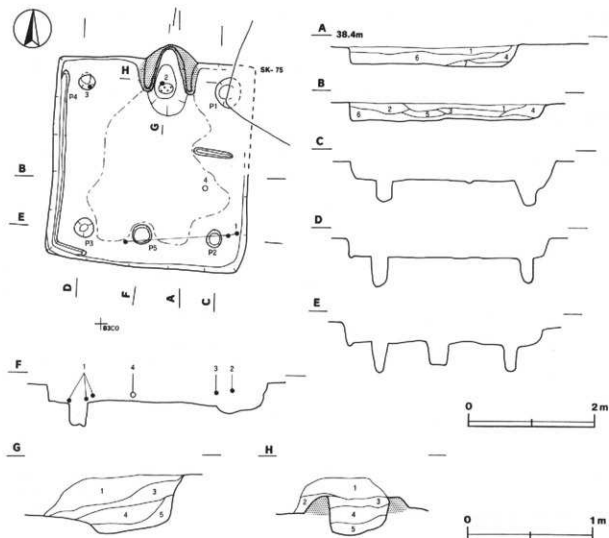
主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は28~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、西壁から南西コーナー部にかけて巡っている。上幅18~22cm、下幅4~9cm、深さ4~6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。甕前面から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径28~48cm、短径23~[40]cmの不整楕円形、深さ34~48cmで、



第117図 第77号住居跡実測図

配置や規模から主柱穴と思われる。P5は径32cmの不整円形、深さ36cmで、出入り口施設に伴うビットと思われる。

**竈** 北壁のはほぼ中央部を壁外に25cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ112cm、最大幅102cmである。火床部は、床面から15cmほど掘りくぼめられている。煙道は、火床面から外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**

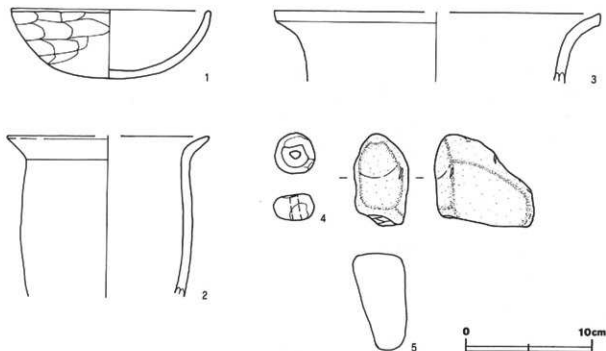
- 1 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子中量、ローム中ブロック少量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量

**覆土** 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック多量、ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片172点、土製品（球状土錘）1点、石器（砥石）1点のほか、混入と思われる須恵器片38点が出土している。破片が多く、図示できる遺物は少なかった。第118図1の土師器坏は東部の壁際と南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甕は竈内の覆土中層から、3の土師器甕はP4付近の覆土中層から出土している。4の球状土錘は東部の覆土下層から、5の磨石は竈の覆土中から出土している。所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（7世紀代）と思われる。



第118図 第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	坏 土師器	A 15.9 B 5.4	体部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	石英・砂粒・赤色 穀子 にふい橙色 良好	P343 80% PL70 東部壁際と南部 覆土下層
2	甕 土師器	A [16.1] B (12.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P344 10% PL70 竈内覆土中層
3	甕 土師器	A [26.0] B ( 5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は横やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 良好	P345 5% P 4付近覆土中 層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第118図4	球状土錘	3.2	2.1	0.8	18.4	東部覆土下層	DP136	PL77

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備	考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第118図5	磨石	7.3	4.3	7.7	279.0	砂岩	竈覆土中	Q52	

### 第82号住居跡 (第119・120図)

位置 調査区域の北東部, A3h9区。

規模と平面形 本跡は、西部及び北東部が調査区域外のため、床及び壁の一部が検出されただけである。規模及び平面形は不明である。

主軸方向 西部及び北東部が調査区域外のため、不明である。

壁 壁高は57cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、巡っている。上幅9～23cm, 下幅4～9cm, 深さ22～24cmで、断面形はU字形である。

床 確認された床面は平坦である。南壁際から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は長径30cm, 短径27cmの不整楕円形, 深さ22cm, P2は径19cmの不整形, 深さ25cmで、P1・P2とも支柱穴と思われる。

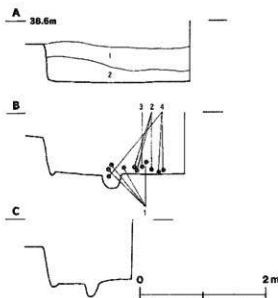
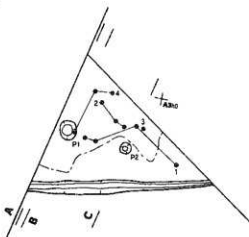
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 炭化粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック少量

遺物 七脚器片29点, 鉄製品1点が出土している。第120図1～3の土師器杯, 4の土師器甕はいずれも南部の覆土下層から出土している。5の不明鉄製品は覆土中から出土している。

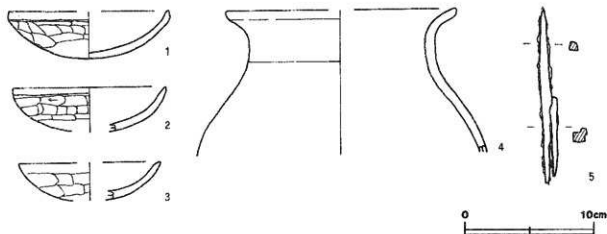
所見 本跡は、床及び壁の一部しか検出されておらず、竈は調査区域外に存在しているものと推定される。時期は、出土土器から後期(7世紀代)と思われる。



第119図 第82号住居跡実測図

#### 第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	土師器	A 10.6 B 3.7	底部から口縁部片。丸底。作部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	灰石・砂粒に多い褐色普通	P250 50% PL70 南部覆土下層



第120図 第82号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 2	環 土器	A 12.2 B (3.5)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁しながら立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石 にふい・橙色 普通	P351 50% PL70 南部覆土下層
3	杯 土器	A 11.2 B (3.0)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石 にふい・黄褐色 普通	P352 20% 南部覆土下層
4	簍 土器	A [18.3] B (11.5)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい・黄褐色 普通	P353 10% PL70 南部覆土下層

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第120図3	不明鉄製品	13.7	1.3	1.2	22.4	鉄	覆土中	M12

### 第85号住居跡 (第121・122図)

位置 調査区域の北東部、B3d8区。

重複関係 本跡は、第86号土坑に掘り込まれており、第86号土坑より古い。

規模と平面形 本跡は、遺構の南部が土取りによって失われている。検出された部分では、長軸3.12m、短軸(2.40)mで、長方形または方形と推定される。

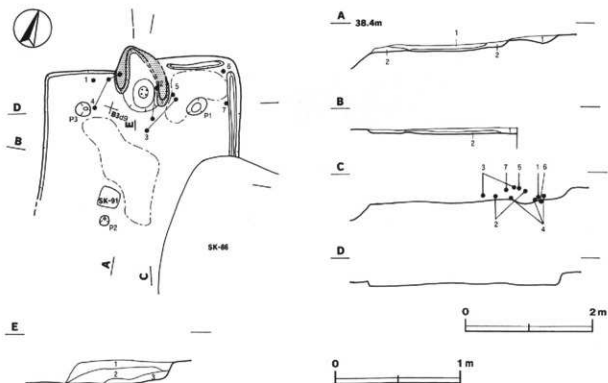
主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は19cm程度で、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下では、北壁と東壁で検出された。上幅7~12cm、下幅4~6cm、深さ3cm前後で、断面形はU字形である。

床 平坦である。中央部から北西部にかけてと、北東コーナー部で踏み固められた部分が検出された。

ピット 3か所(P1~P3)。P1~P3は、長径17~36cm、短径14~22cmの不整楕円形、深さ25~31cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。



第121図 第85号住居跡実測図

**竈** 北壁のほぼ中央部を壁外に32cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。袖部は、地山のロームを掘り残して基部とし、砂混じり粘土で構築されている。規模は、笑口部から煙道部まで長さ110cm、最大幅78cmである。火床部は、床面から6cmほど掘りくぼめている。煙道は、火床面から外傾して立ち上がっている。

**覆土層解説**

- 1 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

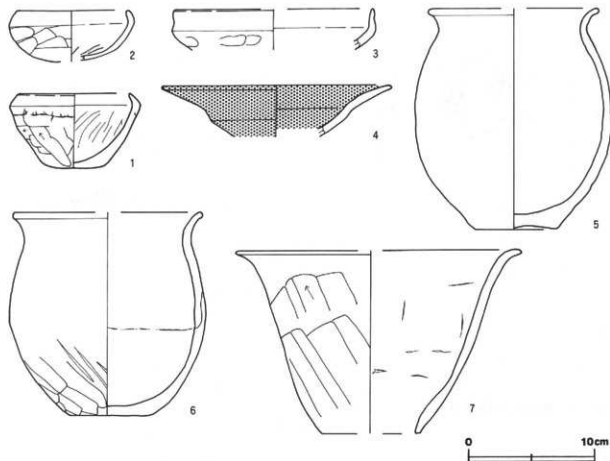
**覆土** 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 遺物は、竈の周囲を中心に、土師器片179点の他、混入と思われる須恵器片3点が出土している。第122図1の土師器鉢は北西部壁際の覆土下層から出土している。2の土師器環は竈内の覆土中層と竈前面の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の土師器環は竈前面の覆土下層と竈東袖部外側の覆土中層から、4の土師器高環はP3の東側と竈西袖部外側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕は竈東袖部外側の覆土上層から、6の土師器甕は北東コーナー部の床面から、7の土師器瓶は北東コーナー部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の南側は土取りによって失われていることから、住居跡全体の様子は捉えられなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期（6世紀代）と思われる。



第122図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第122図 1	鉢 土師器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎気味に外傾して立ち上がり、口 縁部は強く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ヘラナデ。体部外 面に輪積み痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	P357 95% PL70 北西部埋蔵層土下層
		B 9.0				
		C 4.4				
2	坏 土師器	A 8.9	体部から口縁部一部欠損。丸底。 体部は内彎しながら立ち上がり、 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英 明褐色 普通	P358 73% PL70 壺内覆土中層と 壺外面覆土下層
		B (4.0)				
3	坏 土師器	A [15.8]	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部はわずかに内傾する。 体部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。	長石 にふい赤褐色 普通	P359 15% 壺外面覆土下層と壺 外面覆土中層
		B (3.2)				
4	高坏 土師器	A 18.3	坏部片。坏部は内彎気味に外傾し、 下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・赤色粒子 にふい赤褐色 普通	P360 30% P3東側と壺内輪 部外覆土下層
		B 4.1				
5	甕 土師器	A [13.0]	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P361 60% PL70 壺外面覆土上層
		B 17.5				
		C 6.6				
6	甕 土師器	A [14.6]	体部から口縁部一部欠損。平底。 体部は内彎しながら立ち上がり、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 上位ナデ、下位ヘラ削り。体部外 面にヘラ当て痕。体部内面に輪積 み痕。	長石 赤褐色 普通	P362 70% PL70 北東コーナ一部 床面
		B 16.1				
		C 6.2				
7	瓶 土師器	A [22.7]	体部一部欠損。単孔式。体部は内 彎気味に外傾して立ち上がり、口 縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。体部内面に ヘラ当て痕及び輪積み痕。	長石・赤色粒子 にふい褐色 普通	P363 65% PL70 北東コーナ一部 埋蔵層土上層
		B 14.5				

### 第88号住居跡（第123・124図）

位置 調査区域の北東部、A4j1区。

重複関係 本跡は、第59号土坑に掘り込まれており、第59号土坑より古い。

規模と平面形 南西部が第59号土坑に掘り込まれているが、長軸3.33m、短軸2.75mの長方形と推定される。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は35~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 第59号土坑に掘り込まれている部分と南東コーナー部を除いて、通っている。上幅12~25cm、下幅3~5cm、深さ4cm前後で、断面形はU字形である。

床 平坦である。窓両袖部前面と南部が踏み固められている。

ピット 6か所（P1~P6）。P1~P4は、長径17~24cm、短径16~22cmの不整形円形または不整形楕円形、深さ36~44cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径24cm、短径19cmの不整形楕円形、深さ26cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は径16cmの不整形円形、深さ25cmで補助柱穴と思われる。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に32cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。他の住居跡と比べて遺存状態は良好である。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。袖部は、床面にロームを約30cmの厚さで貼り付け、さらにその上に砂混じりの白色粘土を貼り付けている。規模は、焚1部から煙道部まで長さ105cm、最大幅103cmである。火床部は、上層断面から観察したところ、ロームをわずかに掘りくぼめ、その上に粘土が貼り付けられて構築されていた。また、火床部の上には焼土が10~20cmの厚さで堆積していた。煙道は、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 埋土層解説

- 灰 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 明 褐色 焼土粒子・粘土粒子・灰多量
- 暗 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量
- 明 褐色 粘土粒子多量
- 暗 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子・灰少量
- 明 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量、炭化物少量
- にがい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量、炭化物少量

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 灰 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 黒 褐色 コーム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 黒 褐色 ローム粒子少量
- 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 明 褐色 焼土粒子・粘土粒子多量

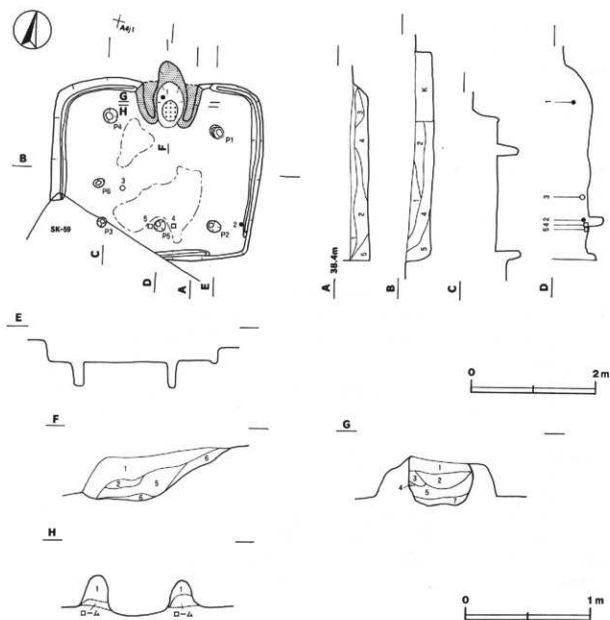
遺物 中央部を中心にして土師器片224点、土製品（球状土鏝）1点、石器2点のほか、攪乱による混入と思われる須恵器片3点が出土している。土器は細片が多く、図ができるものは少なかった。第124図1の上師器甕は竈内の覆土層から、2の上師器甕は南東部壁際の覆土下層から出土している。3の球状土鏝は西部の覆土下層から、4の磨石と5の散石はいずれもP5付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、遺存状態が良好である。時期は、遺構の形状及び出土土器から後期と思われる。

### 第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	甕 土師器	A [24.8] B (4.1)	口縁部片、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にがい褐色 良好	P306 5% P170 竈内覆土層



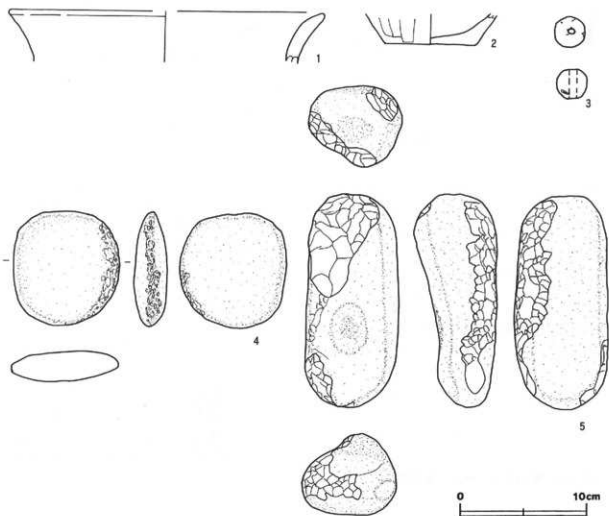


第123図 第88号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 2	甕 十筋器	B (2.4) C [7.2]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へう割り。内面ナデ。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P367 5% PL20 南東隅埋帯層上下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第124図3	球状土鉢	2.4	2.4	0.6	9.9	西部覆土下層	DP140 PL77

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第124図4	磨石	9.1	8.5	2.4	281.0	安山岩	P5付遺層上下層	Q53
5	磨石	16.9	6.6	7.4	1,097.8	安山岩	P5付遺層上下層	Q54 PL80



第124図 第88号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡 (第125・126図)

位置 調査区域の北東部, A 4 f 7 区。

重複関係 本跡は第3号道跡状遺構に掘り込まれていることから, 第3号道跡状遺構より古い。

規模と平面形 南北軸 (3.77)m, 東西軸 (2.77)mで, 北部及び西部が調査区域外となっているため, 平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 検出された部分では, 壁高は20cm前後で, ほほ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。東壁際から南壁際にかけて踏み固められている。

覆土 3層からなる。一部攪乱は受けているが, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

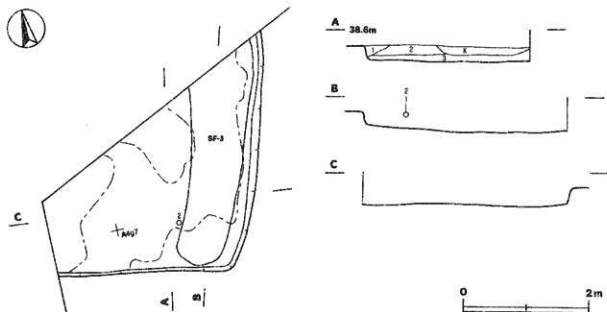
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片23点, 土製品(球状土錘)1点のほか, 攪乱による混入と思われる須恵器5点が出土している。

第126図1の土師器坏は東部の覆土中から, 2の球状土錘は南東部の覆土上層から出土している。

所見 本跡からは竈は検出されず, 調査区域外に存在しているものと考えられる。ピットや壁溝等も検出されなかった。時期は, 出土土器から後期と思われる。



第125図 第89号住居跡実測図



第126図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	環土師器	A 10.8 B (2.5)	体部から口縁部片。体部は内斡し、口縁部は短くはぼ並内立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英にふい散色良好	F368 45% PL70 京都府上中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第126図2	球状土師	3.1	2.2	0.8	20.0	南東部履上土層 DP141	PL77

第92号住居跡 (第127・128図)

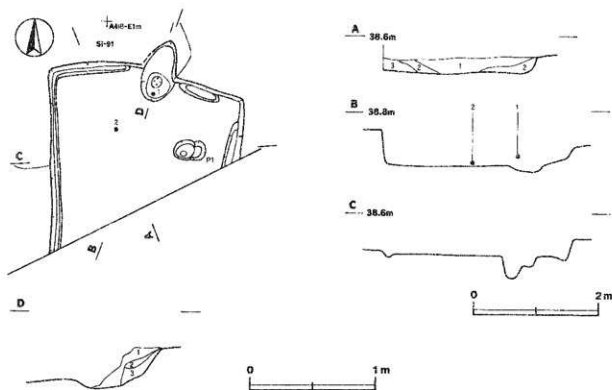
位置 調査区域の北東部、A418区。

重複関係 本跡が、第91号住居跡を掘り込んでおり、第91号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.10m、短軸(2.94)mである。南部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は17cm前後で、外傾して立ち上がる。



第127図 第92号住居跡実測図

**壁溝** 確認された壁の下には、北東コーナー部を除いて巡っている。上幅10~22cm, 下幅4~10cm, 深さ8cmで、断面形はJ字形である。

**床** 平土である。踏み固められた部分は検出されなかった。

**ピット** 1か所。P1は長径50cm, 短径28cmの不整形円形、深さ38cmで、土柱穴と思われる。

**竈** 北壁のほぼ中央部を壁外に50cmほど三角形に掘り込み、構築されている。天井部・両袖部とも残存していない。規模は、焚門部から煙道部まで長さ98cm, 最大幅57cmである。火床部は、床向を10cmほどU字形に掘りくぼめている。焼土等は検出されていない。煙道は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、中位からは急な角度で外傾する。

**電土層解説**

- 1 黒 褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子微量

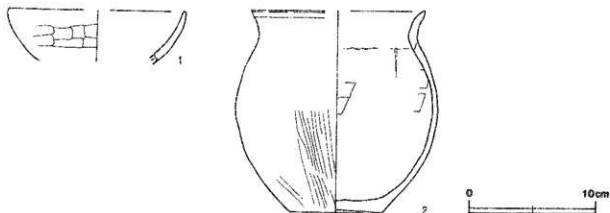
**覆土** 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大ブロック微量

**遺物** 土師器片11点と、攪乱による混入と思われる須恵器片1点が出土している。第128図1の土師器杯は竈内の覆土中層から、2の土師器甕は西部の床面から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から後期と思われる。



第128図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	杯 十 鉢器	A 14.1 B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁し、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面へラ開り、内 面ナデ。	雲性 にふい褐色 普通	P369 5% 体部内面に漆付 藍内覆土中厚
2	壺 上 部器	A 13.6 B 16.0 C 7.2	底部から口縁部の破片。平底、体 部は内壁しながら立ち上がり、口 縁部は縦く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 上反ナデ、下段へラ開き。内面へ ラナデ。体部内面にへラ当て面。 底部外面に木葉痕。	長石・石英 褐色 普通	P370 45% PL7 西部床面

### 第100号住居跡 (第129・130図)

位置 調査区域の中央部、B3f3区。

重複関係 本跡が第69号住居跡を掘りこみ、また第6号溝に掘り込まれているため、第69号住居跡より新しく、第6号溝より古い。

規模と平面形 本跡の大部分は、第69号住居跡及び第6号溝と重複しており、竈と床面は検出されたが、壁の立ち上がりは遺付近を除いて明確に検出されなかった。よって、規模及び平面形は不明である。

主軸方向 竈が検出されており、[N-90°-E]とした。

壁 遺付近で8cmである。

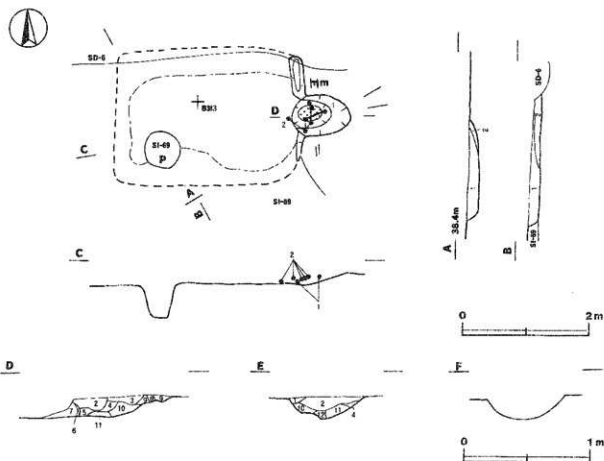
壁溝 確認された壁の下では、竈の北側で検出された。上幅20cm、下幅8cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦である。竈前面から西部にかけて踏み固められている。

竈 東壁を壁外に73cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部・両袖部とも残存していない。規模は、焚口部から煙道部まで長さ93cm、最大幅62cmである。火床部は、床面を30cmほど掘りくぼめており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

#### 遺土層解説

- 1 棕褐色 焼土粒少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 砂質粘土中層、焼土粒少量、ローム粒子微量
- 4 棕褐色 焼土粒少量、砂粒微量
- 5 暗褐色 焼土粒中層、ローム粒少量
- 6 赤褐色 焼土粒少量、ローム粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒・砂質粘土少量
- 8 明赤褐色 赤変した砂少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒中層、炭化物少量、炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量
- 11 棕褐色 焼土粒少量、ローム粒子・砂質粘土微量
- 12 暗褐色 焼土粒多量、炭化材中層、炭化粒子少量、ローム粒子微量



第129図 第100号住居跡実測図



第130図 第100号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 褐色 焼土粒子微量、ローム粒子微量

遺物 土師器片22点のほか、視乱による混入と思われる須恵器片1点が出土している。第130図1の土師器片は窟内の覆土上層と下層から出土した破片が接合し、2の土師器片は窟内の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から後期と思われる。

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130回 1	土師器 丸土師器	A 11.6 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は短く内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面は器面が割離しており、調整不明。	長石・砂粒 赤色 普通	P386 65% PL71 器内覆土1層と 覆土下層
2	土師器 丸土師器	A 20.4 B 7.0	体部は内彎し、口縁部は短く長く外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へナデあり。内面ナデ。	長石・石英 に白い赤褐色 普通	P386 5% 器内覆土下層

## (2) 土 坑

## 第29号土坑 (第131回)

位置 調査区域の中央部、B3h2区。

重複関係 本跡が第67号住居跡を掘り込んでいることから、第67号住居跡より新しい。

規模と形状 長径1.88m、短径1.74mで、深さは90cmの円筒形状である。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平皿である。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。1・2層は粘性の強い黒色土が堆積している。

## 土層構成

- 1 黒色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック微量

遺物 土師器片57点、土製品(球状土師)？点、石器2点及び燧石1点が出土している。第131回1は土師器碗で、中央部よりやや北側の覆土下層から出土している。2・3は球状土師である。2は中央部の覆土下層から出土している。3は東壁際の覆土中層から出土している。4・5は燧石である。中央部の覆土下層から出土している。

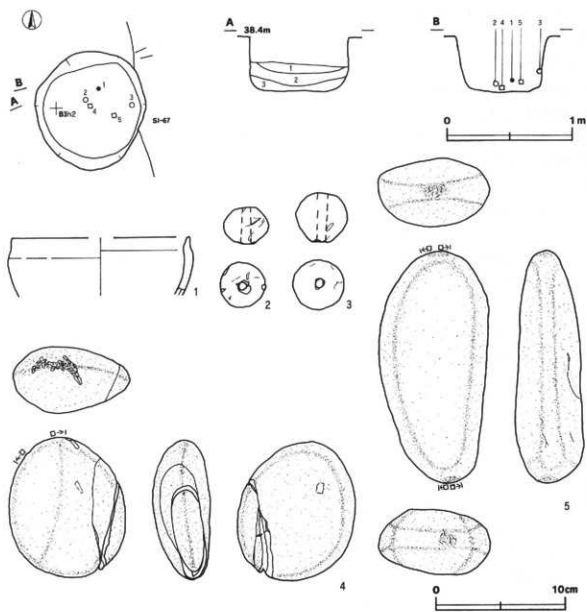
所見 遺物は、覆土の中層と下層から集中して出土していることから、一括投棄されたものと考えられる。本跡の時期は、口縁部が直立気味に立ち上がる1の土師器碗等の出土土器の特徴から5世紀中葉以降と考えられる。

第29号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131回 1	土師器 丸土師器	A 14.2 B 4.5	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 赤色	P403 10% PL71 北部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第131回 2	球状土師	4.1	3.8	0.7	60.0	中央部覆土下層 DP145	PL77
3	球状土師	3.7	2.9	0.7	30.0	東壁際覆土中層 DP146	

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第131回 4	燧石	11.0	9.2	4.7	1200.0	安山岩 中央部覆土下層	Q61	
5	燧石	18.2	8.7	5.3	610.0	凝灰岩 中央部覆土下層	Q60 PL80	



第131图 第29号土抗·出土遺物実測図



#### 4 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡21軒と土坑2基を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第5号住居跡 (第132・133図)

位置 調査区域の南西部, D1g3区。

重複関係 本跡が第6号住居跡を掘り込んでいることから, 第6号住居跡より新しい。

規模と平面形 北東側半分は調査区域外である。長軸 [2.66]m, 短軸 (1.63)mで, 方形と推定される。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は12~15cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北辺と南辺に巡っている。上幅8~18cm, 下幅4~10cm, 深さ6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。北壁際から焼土が検出された。

炉 北部の壁際に位置し, 径70cmほどの不整形円で, 床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。

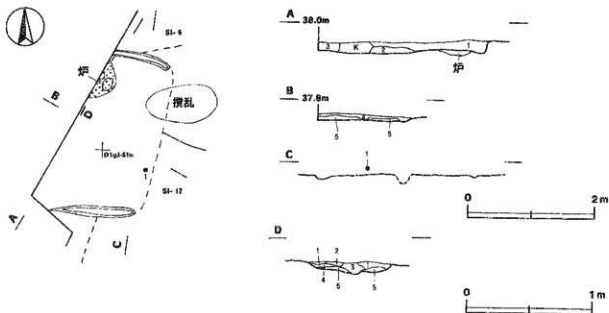
##### 炉土層解説

- |   |     |                               |
|---|-----|-------------------------------|
| 1 | 黄褐色 | ローム粒子少量                       |
| 2 | 灰褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量                  |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量           |
| 5 | 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量          |

覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |   |     |                               |
|---|-----|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子微量                       |



第132図 第5号住居跡実測図



第133図 第5号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片35点、土師質土器片1点が出土している。第133図1は土師器高台付坏で、東部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、髙台が比較的高い土師器高台付坏から10世紀以降と考えられる。

#### 第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	高台付坏 土師器	B (3.8) D [9.2] E 2.1	高台部・高台は高めで、外反する。	高台部内・外面横ナデ。底部切り 離し後、高台貼り付け。	灰石・スコリア 褐色 普通	P44 10% 東部覆土中層

#### 第17号住居跡（第134・135図）

位置 調査区域の北東部、D1c5区。

重複関係 本跡は、南で第33号住居跡と、南西コーナー部で第8号住居跡と接している。

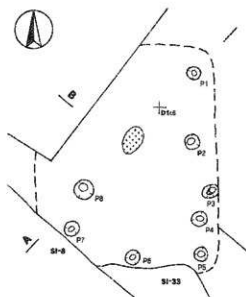
規模と平面形 北西部は調査区域外である。長軸 [3.54]m、短軸 [2.87]mで、方形と推定される。

主軸方向 N-0°

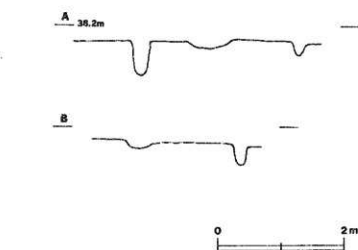
壁 壁は確認できなかった。

床 平坦である。中央部から焼土が検出された。

ピット 8か所（P1～P8）。P1は長径22cm、短径17cmの楕円形で、深さは21cmである。P2は径25cmの円形で、深さは33cmである。P3は長径29cm、短径21cmの楕円形で、深さは56cmである。P4は径27cmの円形で、深さは36cmである。P5は径21cmの円形で、深さは25cmである。P6は径24cmの円形で、深さは27cmである。P7は径23cmの円形で、深さは26cmである。P8は径31cmの円形で、深さは52cmである。いずれも性格は不明である。



第134図 第17号住居跡実測図



第135図 第17号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片6点、混入した弥生土器片1点が出土している。第135図1は土師器坏で、中央部で検出された焼土の覆土層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀以降と考えられる。

#### 第17号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	許満値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・包調・焼成	備考
第135図1	坏 土師器	A 12.7 B 4.1 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く内舞する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。全体的に器肉は厚い。	赤色粒子にふい棕色普通	P128 45% PL71 覆土1層

#### 第31号住居跡（第136・137図）

位置 調査区域の南西部，C2e5区。

重複関係 本跡は、第29号住居跡を掘り込んでいることから、第29号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 確認できたのは、南北軸（7.80）m、東西軸（4.60）mであり、遺構の東部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

南北軸方向 N-12°-W

壁 壁高は20～24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 調査区域外となっている部分を除いた壁の下には巡っている。上幅14～29cm、下幅2～12cm、深さ8～10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、北壁際から中央部にかけて踏み固められていると推定される。

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P7は、長径17～31cm、短径15～21cmの不整楕円形、深さ16～48cmで、配置や規模から柱穴と思われる。

炉 中央部からやや北寄りに位置し、径68cm前後の不整円形で、床面を12cmほど掘りこぼめた地床炉である。床面は、赤変し硬化している。

##### 伊土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量

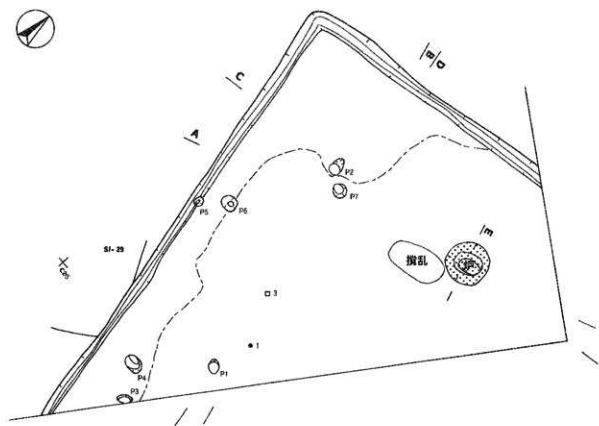
覆土 10層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

##### 土層解説

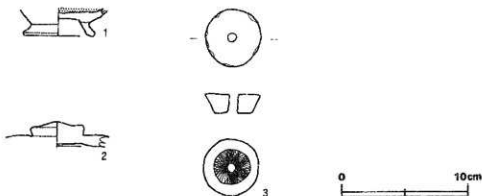
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片207点、須恵器片10点、土製品2点、石製品1点が出土している。第137図1の土師器高台付碗と3の石製紡錘車は南部の床面から出土している。2の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見 本跡は、東部が調査区域外となっているため、全体は確認できなかった。竈が検出されなかったのは、調査区域内に存在した可能性が高い。また、当遺跡内の他の住居跡と比べて、小さいピットが数多く検出されている。本跡の時期は、出土土器から平安時代（10世紀代）と思われる。



第136图 第31号住居跡実測图



第137図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 1	高台付横 土師器	B 2.3 D 5.8 E 1.0	高台部片。高台は広くハの字状に 開く。	内面ヘラ磨き後、内面黒色処理。 底面切り難し後、高台部り付け。	雲母 にふい粉色 普通	P203 40% 南部床面
2	蓋 須恵器	A (8.2) B (2.0) F 4.2 G 1.1	天井部片。天井部外面にボタン状 のつまみがつく。	天井部内・外面口ロナデ。天井 部外面上位回転ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P205 10% PL71 覆土中

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第137図1	紡錘車	1.8	1.5	0.4	44.0	緑泥片岩	南部床面 Q28	PL80

第34号住居跡 (第138・139図)

位置 調査区域の南西部、D1h2区。

規模と平面形 竈の火床部と床の一部を検出しただけで、規模と平面形は不明である。

主軸方向 [N-17°-E]

壁 壁高は10cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

竈 竈の火床部が検出されただけで、天井部や袖部は遺存していない。火床部から土師器片が出土している。

火床部の規模は、長径120cm、短径80cmで、火床面は床面をわずかに掘り込んだ程度である。煙道部の立ち上がりも不明である。

竈土層解説

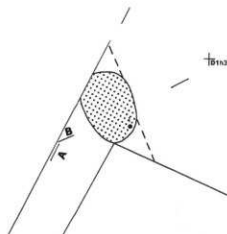
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片1点が出土している。第139図1の土師器片は竈南側の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が1点のみで判断するのは難しいが、平安時代(10世紀以降)と思われる。

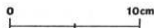
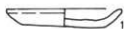
第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 1	土師器	A 9.2 B 1.6 C 6.6	平底、体部は大きく開く。	口縁部内・外面ナデ。底面回転糸 切り。	長石・石英・雲母 にふい粉色 普通	P213 100% PL71 竈南部覆土上層



第138図 第34号住居跡実測図

A 37.8m



第139図 第34号住居跡出土遺物実測図

### 第36号住居跡 (第140・141図)

位置 調査区域の南部, C 2 e 3 区。

重複関係 本跡が, 第37号及び第28号住居跡を掘り込んでおり, 両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸2.55m, 短軸2.44mの方形である。

主軸方向 N-112°-E

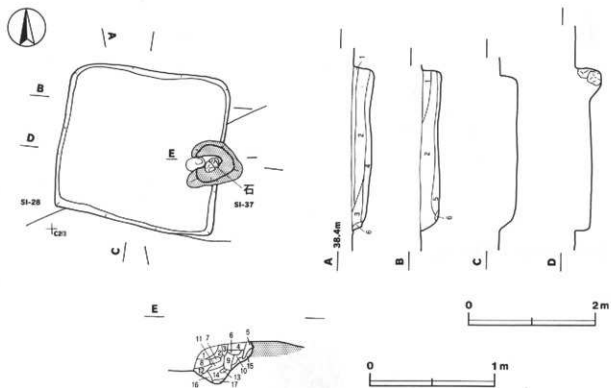
壁 壁高は20~27cmで, 南壁は緩やかに外傾して立ち上がるが, これ以外はほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

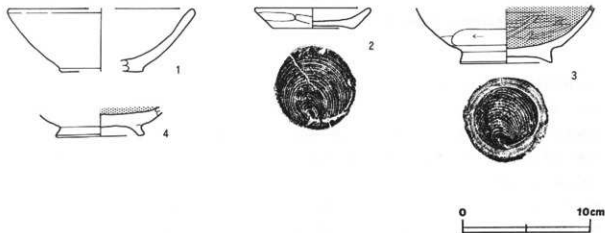
竈 東壁のほぼ中央部を壁外に38cmほど半円状に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部まで長さ92cm, 最大幅78cmである。火床部は, 床面を20cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道部は, 火床部からはほぼ垂直に立ち上がっている。火床部から安山岩が2個出土しているが, 火熱をうけている様子はない。煙道部は, 火床面からはほぼ垂直に立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 黄褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量



第140図 第36号住居跡実測図



第141図 第36号住居跡出土遺物実測図

- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 12 明褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 13 褐色 焼土粒子微量
- 14 黒褐色 ローム粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子少量
- 16 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 17 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片192点、混入したと考えられる須恵器片4点、弥生I器片35点が出土している。第141図1の上師器坏、2の上師器皿、3・4の上師器高台付碗は、いずれも南壁窯の覆土中から出土している。

所見 本跡からは、ピットや床の硬化面は検出されなかった。本跡の時期は、出土土器から平安時代（10世紀代）と思われる。

第36号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第141図 1	土 師 器	A [14.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母に多い褐色普通	P215 20% PLJ1 覆土中
		B 5.0				
		C [ 6.2]				
2	皿 十 師 器	A [ 9.2]	口縁部一部欠損。上げ気味の平底。体部は大きく開く。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・赤色粒子に多い黄褐色良好	P216 75% PL21 覆土中
		B 1.6				
		C 6.4				
3	高台付碗 土 師 器	B ( 1.5)	高台部から口縁部の破片。高台部は短くハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部下端回転糸切り。底部回転糸切り後、高台取り付け。内面ヘラ磨き後、黒色処理。	長石・石英・雲母に多い褐色普通	P217 60% PLJ1 覆土中
		D 7.2				
		E 1.0				
4	高台付碗 土 師 器	B ( 1.8)	高台部から体部の破片。高台は短く外反する。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。底部回転糸切り後、高台取り付け。内面ヘラ磨き後、黒色処理。	長石 褐色 普通	P218 20% PLJ1 覆土中
		D 7.0				
		E 0.8				

#### 第48号住居跡（第142・143図）

位置 調査区域の中央部、C 2 b7区。

重複関係 本跡は、第5号溝及び第10号土坑に掘り込まれていることから、両遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸4.12m、短軸(2.95)mで、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は50~55cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、巡っている。上幅20~43cm、下幅10~28cm、深さ3~5cmで、断面形はU字形を呈する。

床 平床である。竈東端部直前から南部にかけて、踏み固められている。西部は踏み固められていない。

ピット 8か所（P1~P8）。P1~P3は、長径34~62cm、短径30~38cmの不整楕円形、深さ20~53cmで、配置から主柱穴と思われる。P4は長径35cm、短径24cmの不整楕円形、深さ26cmで、配置から補助柱穴と思われる。P5は長径50cm、短径42cmの不整楕円形、深さ15cm、P6は長径78cm、短径54cmの不整楕円形、深さ10cmである。P5・P6については、配置や規模について規則性がなく、また掘り込みが浅いため、性格等については不明である。

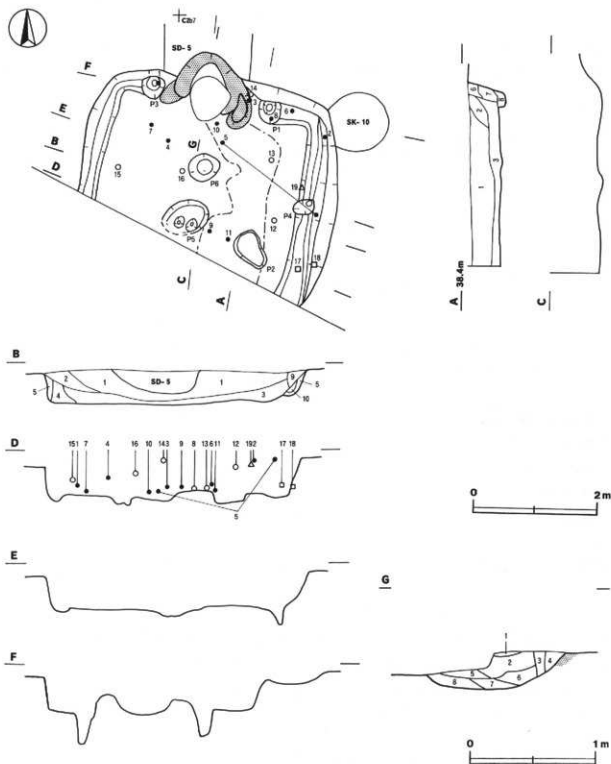
竈 北壁の中央部からやや西寄りを壁外に35cmほど半円状に掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ110cm、最大幅126cmである。

火床部は、床面が9cmほど掘りくぼめられている。煙道は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土器分析表

- 黒褐色 土師器片多数、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
- 黒褐色 焼土粒子多数、炭化粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量



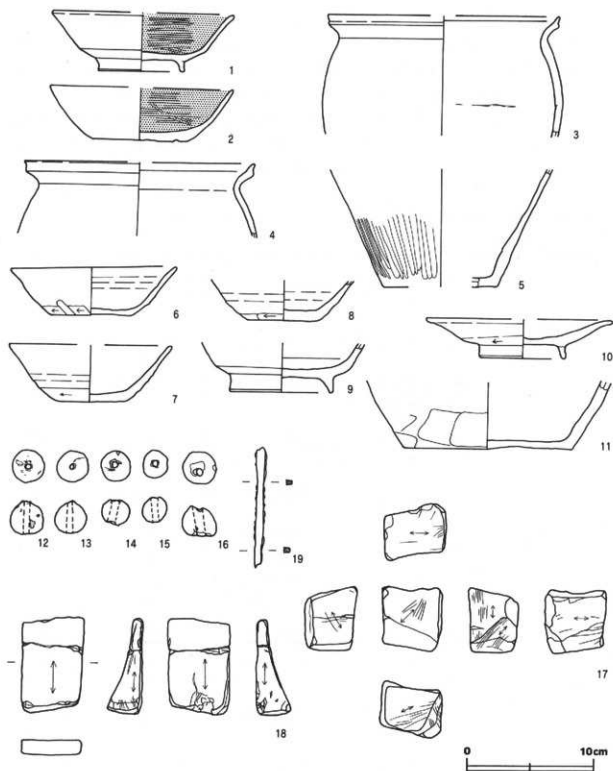


第142図 第48号住居跡実測図

覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |   |      |                              |
|---|------|------------------------------|
| 1 | 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 2 | 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 | 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック微量      |
| 5 | 暗褐色  | ローム粒子多量                      |
| 6 | 黒褐色  | 焼土粒子・ローム粒子微量                 |
| 7 | 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |



第143図 第48号住居跡出土遺物実測図

- 8 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化穀子・ローム粒子微量  
 9 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 10 黒暗褐色 ローム粒子多量

遺物 遺物は、遺構全体に散在した状態で出土している。土師器片732点、須恵器片110点、土製品(球状土錘)5点、石器(砥石)2点、鉄製品(鉄鏃)1点、鉄滓1点が出土している。第143図1の土師器高台付坏はP3上の覆土中層から、2の土師器高台付碗は北東部壁際の覆土上層から、3の土師器甕は竈石袖部付近の覆土

中層から出土している。4の土師器甕は北西部の覆土中層から、5の土師器甕は東前面の覆土下層と東壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。6の須恵器環は北東壁際の覆土下層から、7の須恵器環は北西部の覆土下層から、8の須恵器環はP1付近の覆土下層から出土している。9の須恵器高台付環は南部の覆土下層から、10の須恵器甕は東前面の覆土下層から、11の須恵器甕はP2西部の覆土下層からそれぞれ出土している。12の球状土師は東部の覆土上層から、13の球状土師は北東部の床面から、14の球状土師は甕右袖部外側の覆土上層から出土している。15の球状土師は西部の覆土中層から、16の球状土師はP6西側の覆土上層から出土している。17・18の甌石は、いずれも東壁際の覆土中層から出土している。19の鉄鏝は、東壁際の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形状及び出土土器から平安時代（9世紀代）と思われる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第13図1	高台付環土師器	A [14.4] B 4.6 D 6.8 E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台は強くハの字状に開く。体部は外反気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。内面へう磨き後、黒色処理。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・赤色粒子 灰褐色 良好	P233 30% PL21 P 3上覆土中層
2	高台付環土師器	A [14.4] B 4.2 C [7.4]	高台部及び体部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。内面へう磨き後、黒色処理。	長石・石英 灰褐色 普通	P234 35% 北東部覆土上層
3	土師器	A [18.2] B (9.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部外面に明瞭な稜を持つ。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。体部内面に輪縁のみ。	長石・石英・雲母 にぶい灰色 良好	P235 5% 甕右袖部付近覆土中層
4	土師器	A [18.4] B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部外面に明瞭な稜を持つ。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。	長石・石英・雲母 にぶい灰色 良好	P236 3% 北西部覆土中層
5	土師器	B (9.3) C [9.0]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾し立ち上がる。	体部外面へう磨き。内面ナテ。底部外面に木重痕。	長石・石英・雲母 赤色粒子 にぶい灰色 普通	P237 10% 甕前覆土下層と東壁際覆土上層
6	須恵器環	A 13.2 B 3.9 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。体部下端手持ちへう削り。底部一方の手持ちへう削り。	長石・石英 暗灰色 普通	P238 70% PL21 北東部覆土下層
7	須恵器環	A [13.0] B 4.6 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。体部下端同様にへう削り。底部一方の手持ちへう削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P239 40% PL21 北西部覆土下層
8	須恵器環	A [13.0] B 4.6 C 5.6	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。体部下端手持ちへう削り。底部一方の手持ちへう削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P240 30% P 1上覆土下層
9	高台付環須恵器	B (3.9) D 8.9 E 1.4	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P241 20% PL21 南部覆土下層
10	須恵器甕	A [14.8] B 3.2 D 6.9 E 3.0	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。体部下端同様にへう削り。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P242 70% PL21 東前面覆土下層
11	須恵器	B (5.3) C [13.4]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。外面下端手持ちへう削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P243 10% P 2西側覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第13図12	球状土師	3.1	2.7	0.4	14.3	東部覆土上層 DP65	PL27
13	球状土師	2.5	2.5	0.4	12.7	北東部床面 DP66	
14	球状土師	2.4	2.0	0.6	8.7	甕右袖部覆土上層 DP67	
15	球状土師	2.2	2.0	0.5	6.8	西部覆土中層 DP68	
16	球状土師	2.3	2.5	0.4	12.1	P 6西側覆土上層 DP69	

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第143図17	紙石	5.1	4.8	4.7	159.6	凝灰岩	東豊原遺土中層	Q30 PL80
18	紙石	(7.5)	4.5	2.8	(94.7)	凝灰岩	東豊原遺土中層	Q31 PL80

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第133図19	鉄線	2.4	2.5	0.6	10.7	鉄	東豊原遺土上層	M5

### 第54号住居跡(第144・145図)

位置 調査区域の中央部、B2j9区。

重複関係 本跡は、第52・53・56・107号住居及び第117・120号土坑に掘り込まれていることから、これらの遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸3.74m、短軸2.75mの長方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は6cm前後で、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。南部の2か所で焼土が検出された。

ピット 1か所。P1は、長径56cm、短径42cmの不整形円形、深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北部を第56号住居に掘り込まれている。北壁のはほぼ中央部を境外に(24)cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。火井部、両袖部は明確に検出できなかった。規模は、焚口部から煙道部まで現存する部分で長さ(68)cm、最大幅76cmである。火床部は、床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、北部が第56号住居に掘り込まれているため、立ち上がりの状況は不明である。

#### 遺土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック散在
- 2 黒褐色 ローム粒子散在

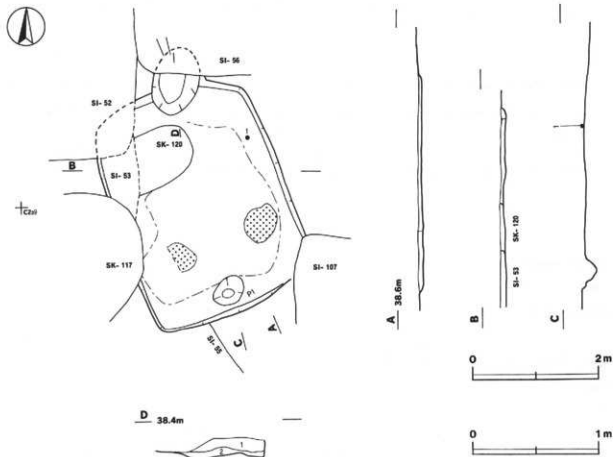
覆土 1層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

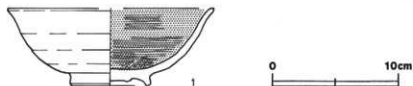
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック散在

遺物 遺構全体に散在した状態で出土しているが、細片が多く図示できるものは少なかった。土師器片106点のほか、擾乱による混入と思われる須恵器片5点が出土している。第145図1の土師器高台付碗は北東部の床面から出土している。

所見 焼土が、南部の2か所から検出されているが、性格等は不明である。また、壕溝は検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代(10世紀代)と思われる。



第144図 第54号住居跡実測図



第145図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	高台付陶土製器	A [16.2] B 6.1 D 6.2 E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へつ削り。体部内面へつ磨き。底部切り離した後、高台貼り付け。体部内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	F291 50% PL71 北東部床面

第57号住居跡 (第146・147図)

位置 調査区域の中央部, B 2 h 8 区。

重複関係 本跡は, 第107号土坑を掘り込み, また第108号土坑に掘り込まれていることから, 第107号土坑より新しく, 第108号土坑より古い。

規模と平面形 北西部が調査区域外となっている。一辺3.95mの方形と推定される。

主軸方向 N - 8° - E

壁 壁高は53～60cmで、外傾して立ち上がる。本跡は、他の住居跡に比べて掘り込みが深い。

壁溝 調査区域外となっている部分を除いて、検出された壁の下には巡っている。上幅24～33cm、下幅4～14cm、深さ8cm前後で、断面形はJ字形である。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 11か所(P1～P11)。P1・P2は長径(14)・62cm、短径20・30cmの不整楕円形、深さ53・92cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P3は長径38cm、短径22cmの不整楕円形、深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P4～P11は長径15～46cm、短径11～40cmの不整楕円形、深さ19～28cmで配置に規則性はなく性格は不明である。P4・P8・P10・P11は、壁際に位置している。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

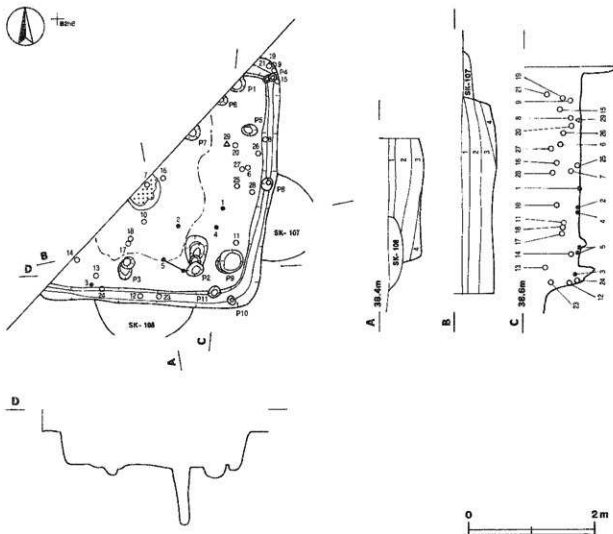
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 遺物は、東壁際と中央部付近を中心にして出土している。土師器片638点、須恵器片123点、I製品23点(球状土鍾20点、土玉3点)、鉄製品3点が出土している。土師器の坏や碗は床面からの出土が多く、また球状土鍾が多量に出土しているのが特徴である。第147図1の土師器坏は東部の床面から、2の土師器坏は中央部の床面から、3の土師器坏は南壁際の床面からそれぞれ出土している。4の土師器高台付碗は東部の床面から、5の土師器甕は南部の床面から出土した破片が接合したものである。6・8・20・28の球状土鍾と25～27の土玉及び29の鉄製鋤先は北東部の覆土中層と下層から出土している。7の球状土鍾は中央部の覆土下層から、9の土玉、15・19・21の球状土鍾はいずれも北東コーナー部の覆土中層と下層から出土している。10の球状土鍾は中央部の覆土中層から、11の球状土鍾は南東部の覆土中層から、12の球状土鍾は南壁際の覆土下層から、13の球状土鍾は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。14の球状土鍾は南西部の覆土下層から、16の球状土鍾は中央部の覆土中層から、17・18の球状土鍾は南部の覆土中層から、23の球状土鍾は南壁際の覆土上層から、24の球状土鍾は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。22の球状土鍾は覆土中から出土している。

所見 本跡は北東部が調査区域外となっているため、遺構全体は検出できなかったが、ほぼ中央部と推定される地点の床面から焼土塊が検出されている。また、竈は調査区域外に存在している可能性が高い。時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代(9世紀代)と思われる。

第57号住居跡出土遺物観察表

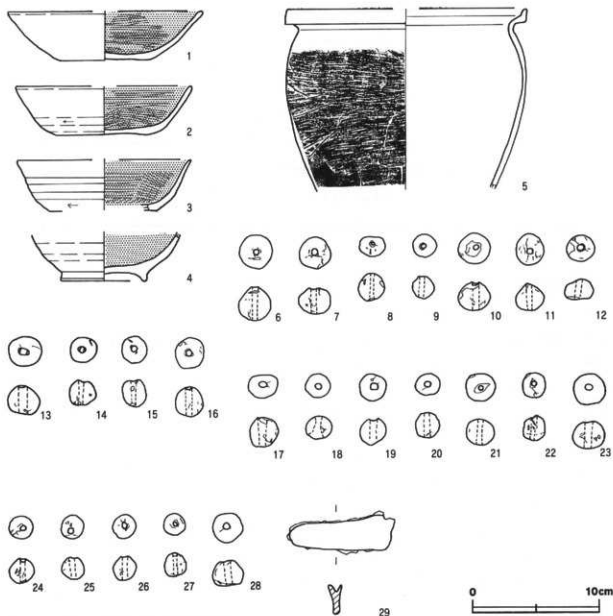
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 1	坏 土師器	A [15.4] B 3.9 C 7.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内燻気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ磨り。内面黒色処理。	長石・砂粒・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P300 40% PL71 東部床面
2	坏 土師器	A [14.0] B 3.9 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内燻気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下層回転ヘラ磨り。底部回転ヘラ磨り。内面黒色処理。	長石・赤色粒子にぶい黄褐色普通	P301 30% PL71 中央部床面
3	坏 土師器	A [13.8] B 3.9 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内燻気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は強いロクロ目。内面ヘラ磨き。底部下層回転ヘラ磨り。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P302 15% PL71 南壁跡床面



第146図 第57号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 4	高台付輪 上脚器	B (3.9) D 6.6 E 0.7	高台部から体部の破片。高台は厚くハの字状に開く。体部は内壁しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き後、褐色処理。	長石・赤色粒子に赤い褐色普通	P309 15% PL71 東部床面
5	薬 土脚器	A [19.1] B (14.3)	体部から口縁部の破片。体部は内壁し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまり上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面に叩き目。	長石・雲母黒褐色普通	P304 20% PL71 南部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第147図6	球状土鉢	2.6	2.7	0.4	13.3	北東部覆土下層	DP92 PL77
7	球状土鉢	2.6	2.1	0.4	11.5	中央部覆土下層	DP93 PL77
8	球状土鉢	2.0	2.1	0.3	5.7	北東部覆土下層	DP94 PL77
9	土	1.8	1.8	0.4	4.2	北東部覆土下層	DP95
10	球状土鉢	2.5	2.2	0.4	10.3	中央部覆土中層	DP96
11	球状土鉢	2.5	2.1	0.5	9.0	南東部覆土中層	DP97 PL77
12	球状土鉢	3.2	1.6	0.5	5.5	南東部覆土下層	DP98
13	球状土鉢	2.6	2.4	0.8	11.6	南部覆土上層	DP99 PL77
14	球状土鉢	2.0	1.9	0.4	6.2	南西部覆土下層	DP100



第147图 第57号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第147図15	球状土鉢	2.1	2.1	0.4	6.4	北東2-十部覆土中層	DP101
16	球状土鉢	2.4	2.4	0.4	10.5	中央部覆土中層	DP102

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第147図17	球状土鉢	2.3	2.3	0.7	8.6	南部覆土中層	DP103
18	球状土鉢	2.0	1.8	0.5	5.7	南部覆土中層	DP104
19	球状土鉢	2.1	2.2	0.6	6.8	北東2-十部覆土中層	DP105
20	球状土鉢	1.9	2.0	0.6	5.4	北東部覆土下層	DP106
21	球状土鉢	2.2	2.0	0.4	8.7	北東2-十部覆土中層	DP107
22	球状土鉢	1.9	2.0	0.4	5.6	覆土中	DP108
23	球状土鉢	2.5	2.2	0.6	13.0	南東部覆土上層	DP109



図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第147図24	球状土錘	2.0	2.0	0.5	5.4	南東部遺土下層	DP110
25	土	1.8	1.8	0.4	3.1	北東部遺土下層	DP111
26	土	1.9	1.9	0.4	5.6	北東部遺土中層	DP112
27	土	1.8	1.8	0.3	4.4	北東部遺土中層	DP113
28	球状土錘	2.5	2.0	0.5	8.2	北東部遺土中層	DP114 PL77

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第147図29	鋤	(2.4)	(2.5)	(0.6)	(43.9)	鉄	北東部遺土下層	M7 PL81

### 第59号住居跡 (第148・149図)

位置 調査区域の中央部, B2h9区。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸2.76mの長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は18~30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部を除いて, 巡っている。上幅27~50cm, 下幅3~11cm, 深さ7~10cmで, 断面形は逆台形である。

床 平坦である。中央部から壁際まで, 踏み固められている。

ピット 1か所。P1は, 長径26cm, 短径20cmの不整楕円形, 深さ26cmで, 配列や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

壁 北壁の中央からやや東寄りを壁外に37cmほど掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両軸部が残存している。規模は, 突口部から煙道部まで長さ85cm, 最大幅115cmである。火床部は, 床面からわずかに掘りくぼめられており, 火熱をうけて赤変している。煙道部は, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 覆土層解説

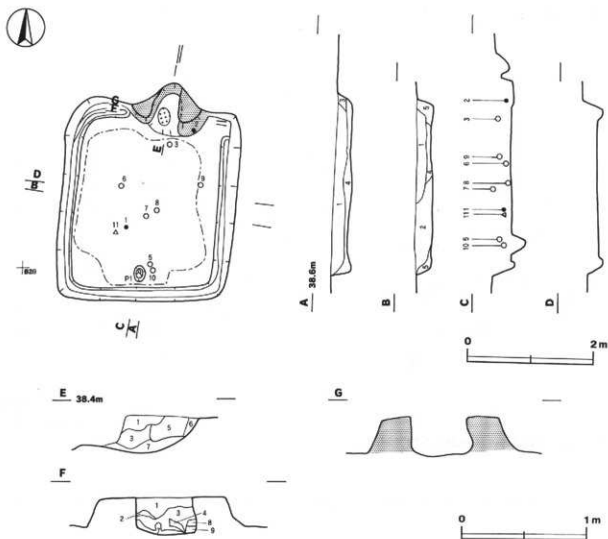
- 1 褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 明赤褐色 粘土粒子多量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 8 暗褐色 砂粒多量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 9 黒褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片262点, 須恵器片37点, 土製品(球状土錘)8点, 鉄製品(鎌)1点が出土している。土師器は破片が多く, 図示できるものは少ない。第149図1の土師器甕と11の鉄鎌は南西部の覆土下層から, 2の土



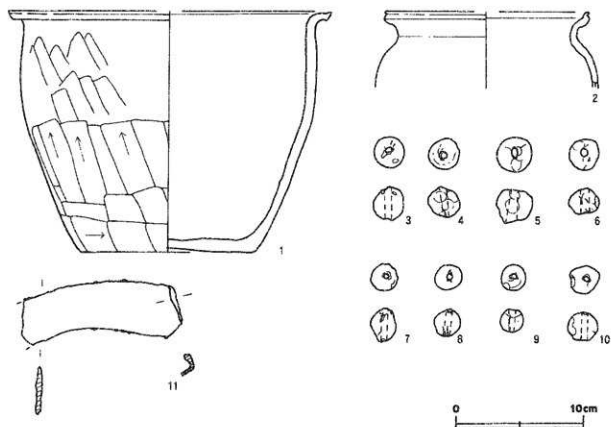
第148図 第59号住居跡実測図

師器甕は竈東袖部外側の覆土下層から出土している。3～10は球状土錘で、3は竈前面の覆土中層から、5は南部の覆土上層から、10は南部の覆土中層から出土している。6・8は中央部の床面から、7は中央部の覆土上層から出土している。9は東部の覆土中層から、4は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代（9世紀末から10世紀初め）と思われる。

第59号住居跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	甕 土師器	A [25.4] B 19.1 C 13.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色 普通	P305 20% PL72 南西部覆土下層
2	甕 土師器	A [16.2] B (6.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色 普通	P306 5% PL72 竈東袖部外側覆土下層



第149図 第59号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第149図3	球状土錘	2.5	2.8	0.6	13.4	竈前覆土中層 DP115	PL78
4	球状土錘	2.5	2.4	0.6	10.0	竈前覆土中層 DP116	PL78
5	球状土錘	2.8	2.7	0.5	14.6	南部覆土上層 DP117	PL78
6	球状土錘	2.4	2.0	0.7	9.5	中央部床面 DP118	
7	球状土錘	2.1	2.6	0.4	9.4	中央部覆土上層 DP119	
8	球状土錘	2.2	2.2	0.4	7.1	中央部床面 DP120	
9	球状土錘	2.0	1.9	0.7	5.3	竈部覆土中層 DP121	
10	球状土錘	2.5	2.2	0.5	7.9	南部覆土中層 DP122	

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第149図11	錘	(2.4)	2.5	0.6	(55.9)	土	南西部覆土下層 M8	PL81

### 第65号住居跡 (第150・151図)

位置 調査区の中央部, B3i3区。

竈榎関係 本跡は、第64号住居跡の覆土を掘り込んで床を構築しており、また、竈の一部が第66号住居に掘り込まれていることから、第64号住居跡よりも新しく、第66号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸 (2.21)mである。南部が調査区域外となっている。平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は26cm前後で、緩やかに外傾して立ち上がる。

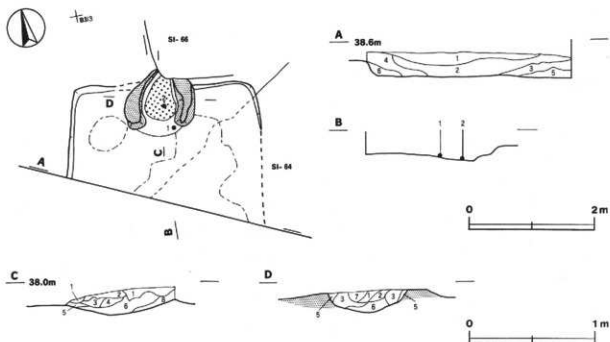
床 平坦である。竈東袖部前面から中央部にかけてと、北東部の一部が踏み固められている。

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に23cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。両袖部内側は、火熱を受け赤変している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ105cm, 最大幅110cmである。火床部は、床面から6cmほど掘りくぼめられており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、中位に段を持ち、そこから外傾して立ち上がっている。

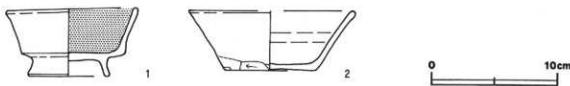
#### 竈土層解説

- 1 におい黄褐色 砂混じり粘土多量
- 2 黒 褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂混じり粘土微量
- 3 黒 褐色 砂混じり粘土多量, 焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 4 黒 褐色 砂混じり粘土中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・砂混じり粘土中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 7 におい赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗 褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



第150図 第65号住居跡実測図



第151図 第65号住居跡出土遺物実測図

## 土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘土粒少量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黄褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片28点、須恵器片2点が出土している。第151図1の土師器高台付坏、2の須恵器坏はいずれも竈の火床面直上から出している。

所見 本跡からは、壁溝・ピットは検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代（9世紀前半）と思われる。

## 第65号住居跡出土遺物観察表

図説番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図1	高台付坏 土師器	A 10.2	高台部及び体部一部欠損。高台は高めでハの字状に開く。体部は外反気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り差し後、高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい灰青色 良好	P318 85% PL72 竈火床部
		B 5.5				
		D 6.2				
		E 1.5				
2	坏 須恵器	A [13.2]	底面から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちヘラ削り。底部削りヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P319 40% PL72 竈火床部
		B 4.7				
		C 7.2				

## 第66号住居跡（第152・153図）

位置 調査区域の中央部、B3h3区。

重複関係 本跡が、第64号及び第65号住居跡を掘り込んでおり、両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸3.10m、短軸2.92mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は19~40cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部と、P2南側から南壁の中央部にかけて通っている。上幅19~31cm、下幅7~17cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形である。

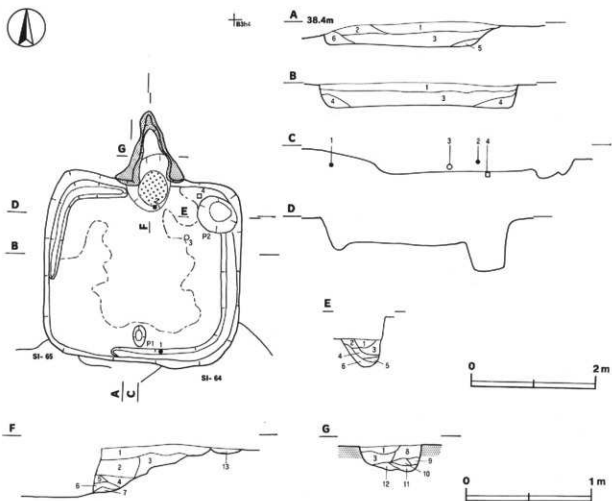
床 平坦である。北部の壁際から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径35cm、短径23cmの不整楕円形、深さ14cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は長径68cm、短径54cmの不整楕円形、深さ43cmで、断面は進台形である。P2は北東コーナー部に付設され、貯蔵穴の可能性も考えられるが詳細は不明である。

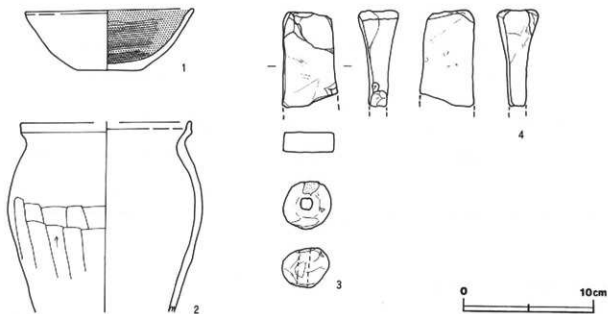
## P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量

竈 北壁のほぼ中央部を壁外に108cmほど三角形状に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。他の住居跡に比べて壁外への掘り込みが大きい。天井部は崩落し、両袖部も遺存していない。規模は、焚口部から煙道部まで長さ160cm、最大幅112cmである。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用し、焼けて赤変しているが節まりはない。煙道部は壁外へ大きく掘り込まれており、火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。



第152图 第66号住居跡実測図



第153图 第66号住居跡出土物実測図

## 覆土層解説

- 1 灰 暗 褐色 砂質粘土少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 灰 暗 褐色 焼土粒子・炭化材・砂質粘土少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 3 灰 暗 褐色 砂質粘土中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 灰 暗 褐色 焼土粒子・砂質粘土少量、炭化材・ローム粒子微量
- 5 灰 暗 褐色 砂質粘土中量
- 6 暗 赤 褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック微量
- 7 にぶい赤褐色 ローム粒子多量
- 8 灰 暗 褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂質粘土微量
- 9 暗 赤 褐色 ローム粒子少量
- 10 灰 暗 褐色 ローム粒子・砂質粘土少量、ローム中ブロック微量
- 11 灰 暗 褐色 ローム粒子中量、砂質粘土少量
- 12 暗 褐色 ローム粒子・砂質粘土少量、炭化粒子微量
- 13 にぶい褐色 焼土粒子・砂質多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 灰 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 暗 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 5 暗 暗褐色 焼土粒子・炭化材少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 遺物は、竈の周囲を中心にして、土師器片323点、須恵器片60点、石器（砥石）1点、土製品（球状土鉢）1点が出上している。土器は細片が多く、図示できるものは少ない。第153号1の土師器片は南部壁際の際土下層から正位の状態で、2の上師器片は竈内の覆土中層から、3の球状土鉢は北東部覆土下層から、4の砥石は北東コーナー部の床面からそれぞれ出上している。

所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代（9世紀代）と思われる。

## 第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の概要	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153号1	土師器	A 13.4	体部一部欠損。平底。体部は内壁しながら立ち上がり、口縁部に全。	口縁部及び体部内・外面ロタロナデ。内面へラ磨き後、黒色処理。	雲母・赤色粒子にふい白色	P320 75% PL72 南部壁際覆土下層
		B 4.8				
2	土師器	A [13.6]	体部から口縁部の破片。体部は内壁し、口縁部は外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英にふい赤褐色普遍	P321 25% PL72 竈内覆土中層
		B (15.1)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第153号3	球状土鉢	3.9	3.0	1.0	33.6	北東部覆土下層	DF125

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第153号4	砥石	(7.5)	4.4	3.2	(109.2)	凝灰岩	北東コーナー部床面	Q49 PL80

## 第68号住居跡（第154・155号）

位置 調査区域の中央部、B 2 j 8 区。

遺構関係 本跡が、第50～53号住居跡の覆土を掘り込んで構築されており、これらの遺構よりも新しい。

規模と平面形 長軸 [3.39]m、短軸 [3.35]m の方形と推定される。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は3~11caと推定される。

床 平坦である。中央部が窪み開められている。

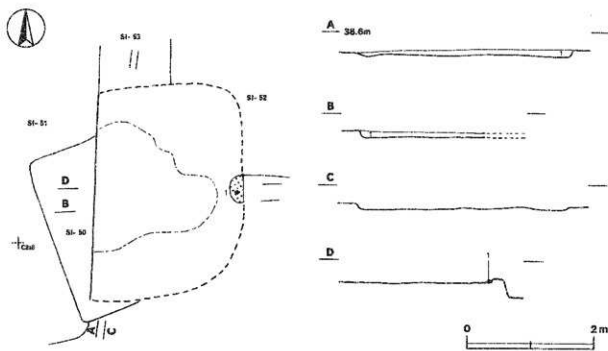
覆土 単一層である。掘り込みが浅く、土層の観察からは自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子混入

遺物 土師器片95点、須恵器片6点、土製品（球状土錘）1点が出土している。第155図1の土師器環は、東部の床面から出土している。2の高台付環と3の土師器高台付碗、4の球状土錘はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は床の硬化面が検出され、土器が出土していることから、住居跡として扱うことにした。しかし、掘り込みが浅く、壁の立ち上がりは明確に確認できなかった。竈やピット等も検出されていない。時期は、出土土器から平安時代（10世紀代）と思われる。

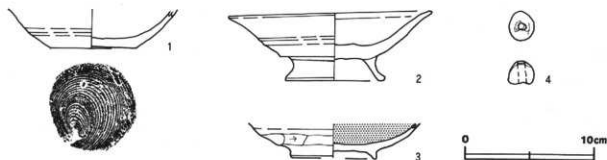


第154図 第68号住居跡実測図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	環 土師器	B (3.0) C 5.8	底部から体部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転軸切り離し。	長石・石英・赤色 粒中にぶい褐色 普通	P322 15% PL72 東部床面
2	高台付環 土師器	A 16.2 B 5.5 D 7.9 E 1.5	口縁部一部欠損。高台は高めでハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は塗いロクロ目。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P323 95% PL72 覆土中
3	高台付碗 土師器	B (2.3) D 1.6-7] E 0.5	高台部から体部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下部回転軸へつ削り。底部回転軸切り離し後、高台貼り付け。内面無色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P321 25% 覆土中





第155図 第68号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第155図4	球状土跡	2.3	1.8	0.6	6.9	覆土中	DP130

### 第70号住居跡 (第156・157図)

位置 調査区の中央部, B3d3区。

規模と平面形 長軸3.62m, 短軸2.72mで, 長方形である。

主軸方向 N-91°-E

壁 壁高は10~15cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部から南壁際にかけて踏み固められている。

ピット 1か所。P1は, 長径78cm, 短径75cmの不整形円形, 深さ28cmで, 配置や規模から柱穴と思われる。

#### P1土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

■ 東壁中央部から南寄り壁外に75cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されている。壁外への掘り込みは大きい。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部まで長さ90cm, 最大幅88cmである。火床部は, 床面とはほぼ同じレベルで, 火熱を受けて赤変している。煙道は, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

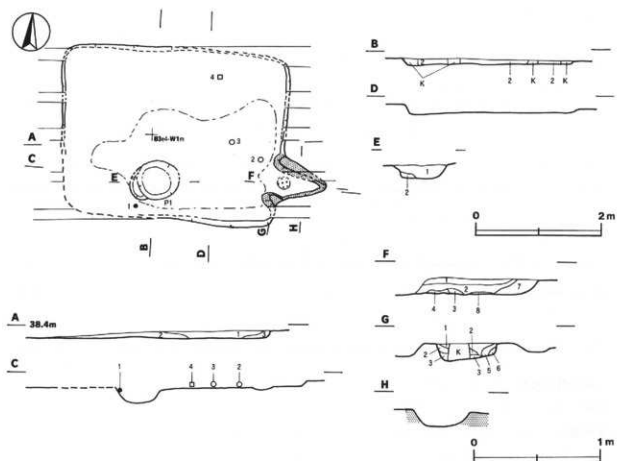
#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中・中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・砂質粘土中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土少量, 焼土粒子微量

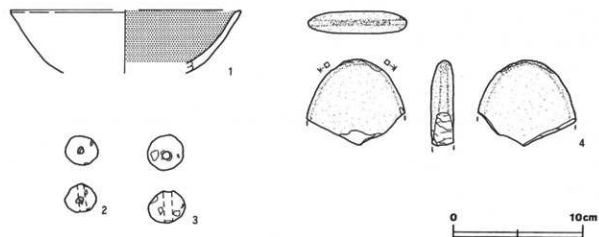
■ 覆土 掘り込みは浅いが, 3層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量



第156図 第70号住居跡実測図



第157図 第70号住居跡出土遺物実測図

遺物 土器片50点, 須恵器片2点, 土製品2点(球状土錘), 石器1点(蔽石), 不明鉄製品2点, 鉄滓1点  
 が出土している。土器は細片が多く, 図示できるものは少ない。第157図1の土器器環はP1南側の床面から, 2  
 の球状土錘は竈前面の床面から, 3の球状土錘は東部の床面から, 4の蔽石は北部の床面からそれぞれ出土し  
 ている。不明鉄製品及び鉄滓は覆土中から出土している。

所見 本跡は掘り込みが浅く、出土遺物も少なかった。また、堆積も検出されなかった。時期は、遺構の形状及び出土遺物から平安時代（9世紀代）と思われる。

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図1	坏土師器	A [18.4] B (5.0)	体部から口縁部片、体部は内壁し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外周口ロナデ。内面黒色処理。	石英・砂粒 明褐色 普通	P342 15% PL72 P1 南側床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第157図2	球状土師	2.5	2.3	0.5	11.7	甕前面床面	DP134
3	球状土師	2.8	2.5	0.8	18.0	甕部床面	DP135

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第159図4	竈	41 (6.7)	(7.8)	1.8	(125.1)	安山岩	北部塚面	Q51 磨石兼用

#### 第79号住居跡（第158・159図）

位置 調査区の北東部、B3b8区。

重複関係 本跡は、第83号住居跡に掘り込まれており、第83号住居跡よりも古い。

規模と平面形 西部が調査区外となっているため、長軸3.06m、短軸(0.84)mであるが、規模及び平面形は不明である。

南北軸方向 N-15°-Eと推定される。

壁 増高は10cm前後で、緩やかに外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下では、南東コーナー部を除いて巡っている。上幅9~20cm、下幅3~6cm、深さ4cmで、断面形はU字形である。

床 平坦であるが、中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径50cm、短径32cmの不整楕円形、深さ22cmで、配置や規模から柱穴と思われる。

竈 検出されなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

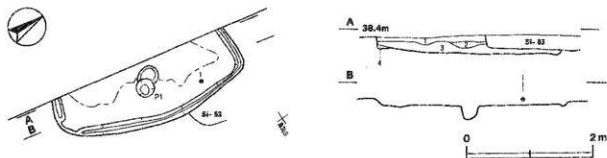
##### 土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 黒色 ローム粒少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒少量、焼土粒子少量

遺物 土師器片34点、須恵器片16点が出土している。第159図1の土師器甕は、北東部の覆土中層から出土している。

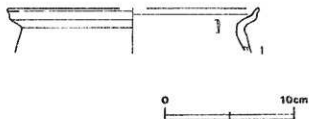
第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図1	甕土師器	A [20.0] B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は内壁し、口縁部は外反する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外周口ロナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母にふいぶ色 普通	P346 5% PL72 北東部覆土中層



第158図 第79号住居跡実測図

所見 遺構の西部が調査区域外となっているため、竈は検出されなかった。時期は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と思われる。



第159図 第79号住居跡出土遺物実測図

#### 第81号住居跡（第160・161図）

位置 調査区域の北東部、B317区。

規模と平面形 本跡は、調査区域内から南側に延ばしたトレンチ内で検出された。遺構の東部・西部ともに調査区域外で、さらに南部が擾乱を受けており、竈と壁及び床の一部だけが検出された。よって、規模及び平面形は不明である。

主軸方向 [N-9°-E]

壁 壁高は32cm前後で、外傾して立ち上がる。

床 検出された床面は平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

竈 北壁を壁外に54cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ100cm、最大幅87cmである。火床部は、床面から14cmほど掘りくぼめられており、焼けてレンガ状に硬化し、かなり長期にわたって使われたものと思われる。煙道は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 埋土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック多量
- 3 黒褐色 ローム中アブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量

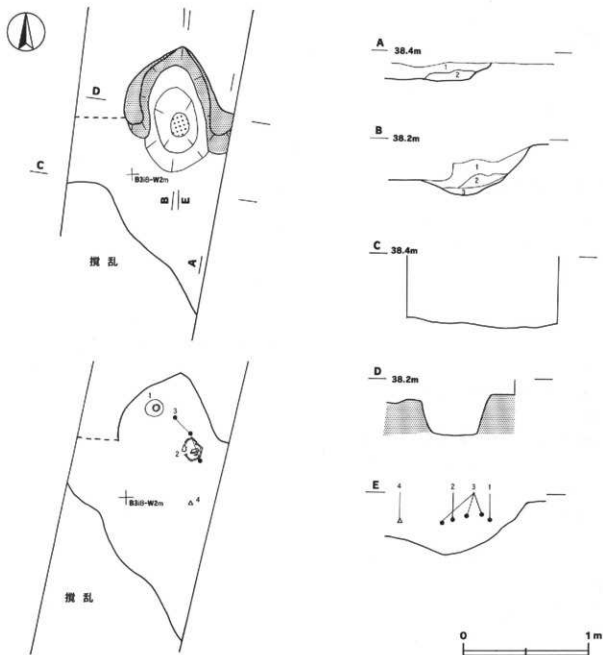
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、粘土粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片36点、須恵器片1点、鉄製品（鎌）1点が出土している。第161図1・2の土師器甕、3の須恵器杯、4の鉄鎌はいずれも竈内の覆土中層から出土している。

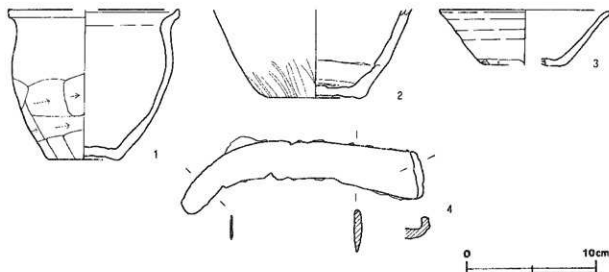
所見 本跡の時期は、出土土器から平安時代（9世紀代）と思われる。



第160図 第81号住居跡実測図

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	土師器	A [13.4]	体部一部欠損。上げ底気味の平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位へら削り。内面ナデ。	長石・石英・雲母に多い赤褐色普通	P347 70% PL72 壺内覆土中層
		B 11.9				
		C 5.8				
2	土師器	B (7.0)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面へら磨き、内面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子明赤褐色普通	P348 30% PL72 壺内覆土中層
		C 8.0				
3	坏須恵器	A 13.6	体部一部欠損。平底。体部は外翻して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は強いロクロ目。体部下端手持ちへら削り。	長石・石英・雲母灰黄褐色普通	P349 80% 壺内覆土中層
		B 4.5				
		C 6.5				



第161図 第81号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第161図4	罐	19.2	5.7	0.6	69.9	鉄	竈内覆土中層	M11 PJ.81

#### 第83号住居跡 (第162・163区)

位置 調査区の中央部、B3a8区。

重複関係 本跡が第79号住居跡を掘り込んでおり、第79号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸2.64m、短軸(0.89)mであるが、遺構の西部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は7~14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、南壁下を除いて巡っている。上幅9~17cm、下幅4~7cm、深さ5cmで、両面形は逆台形である。

床 平坦で、南東コーナー部から中央部にかけてと、竈の北部付近が踏み固められている。

竈 南壁中央部からやや南よりを壁外に46cmほど掘り込み構築されている。天井部・両袖部とも残存していない。規模は、焚口部から煙道部まで長さ105cm、最大幅55cmである。火床部は、床面から10cmほど掘りくぼめられており、焼けて赤変している。煙道は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

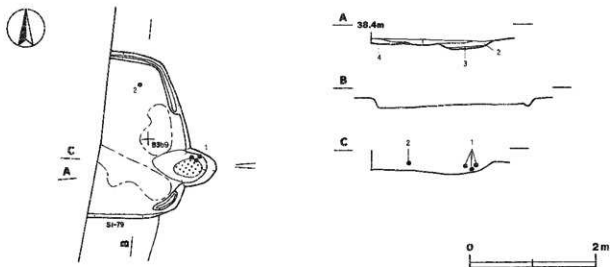
覆土 4層からなる。1層と4層は住居跡の覆土、2と3層は竈覆土の上層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 炭土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック多量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片49点、須恵器片4点の他、鉄滓が1点出土している。第163図1の土師器環は竈内の覆土下層から出土した破片が接合し、2の須恵器環は北東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代（10世紀代）と思われる。



第162図 第83号住居跡実測図



第163図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	土師器 土師器	A [16.4] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に外傾する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部ナデ、内面ヘラ磨き。	長石 明赤褐色 普通	P354 30% PL72 竈内覆土下層
2	須恵器 須恵器	B (2.5) C [5.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。体部外面は強いロクロ目。体部下端を持ちヘラ削り。底部外面一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P355 30% 北東部覆土下層

#### 第87号住居跡（第164・165図）

位置 調査区域の北東部、A4h4区。

重複関係 本跡は、第38号土坑に掘り込まれていることから、第38号土坑よりも古い。

規模と平面形 本跡は、北西部が第38号土坑に掘り込まれ、東部が調査区域外となっているため遺構全体の状況は検出されなかったが、長軸2.99m、短軸 [2.89]m の方形と推定される。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は37~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、竈東袖部付近と南西コーナー部の一部を除いて巡っている。上幅13~16cm, 下幅4~9cm, 深さ4cm前後で、断面形はU字形である。

床 平坦である。北東コーナー部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は、径30cmの不整形円形、深さ12cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P2は、径16cmの不整形円形、深さ4cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P3~P5は、長径17~26cm, 短径15~25cmの不整形楕円形、深さ11~24cmで補助柱穴と思われる。

竈 検出された部分では、北壁のほぼ中央部を壁外に44cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し、西袖部は第38号土坑に掘り込まれている。規模は、焚口部から煙道部まで長さ90cm, 最大幅は95cm前後と推定される。火床部は、床面からわずかに掘りくぼめられている。煙道は、火床面から外傾して立ち上がる。

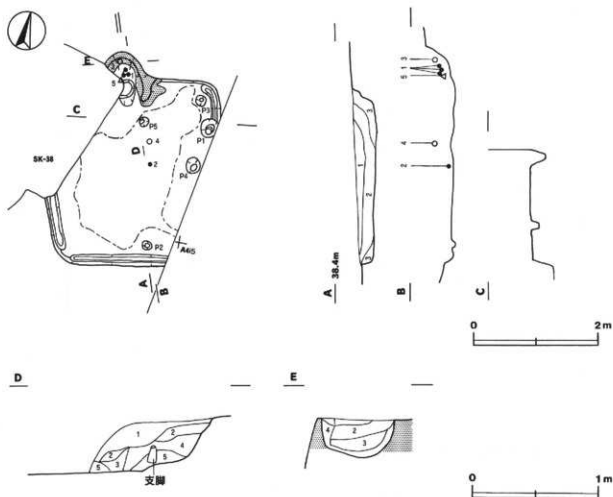
**竈土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量



第164図 第87号住居跡実測図



遺物 土師器片118点, 須恵器片16点, 土製品2点(支脚1・管状土鉢1), 不明鉄製品1点が出土している。第165図1の土師器甕と3の上製支脚, 5の不明鉄製品は竈内の覆土中層から出土している。2の須恵器高台付坏は中央部の覆土下層から, 4の管状土鉢は中央部の覆土上層から出土している。

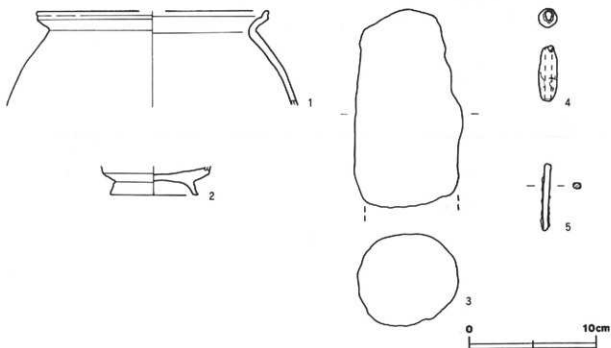
所見 本跡の時期は, 遺構の形状及び出土土器から平安時代(9世紀前半)と思われる。

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図1	土師器	A [18.2] B (7.6)	体部から口縁部片, 体部は内厚し, 口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色 普通	P364 10% PL72 竈内覆土中層
2	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 7.0 E 1.0	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部切り離し後高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	P365 30% 中央部覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第165図3	土製支脚	8.5	(15.6)	679.2	竈内覆土中層	DP138

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第165図4	管状土鉢	1.5	4.3	0.5	7.1	中央部覆土上層	DP139 PL78



第165図 第87号住居跡出土遺物実測図

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第168図	不明鉄製品	2.4	2.5	0.6	3.2	室内覆土中層	M13

### 第93号住居跡（第166・167・168・169図）

位置 調査区域の北東部，A4h9区。

規模と平面形 南部が調査区域外となっているが，長軸（5.79）m，短軸5.59mで，平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は52～58cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には，壁の両袖部付近を除いて巡っている。上幅22～32cm，下幅5～26cm，深さ6～8cmで，断面形はU字形である。

床 平坦である。意前から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1～P3は，長径60～82cm，短径40～54cmの不整楕円形，深さ44～57cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。南部が調査区域外となっているため，南部に存在すると思われる主柱穴は検出されなかった。P4は，長径82cm，短径40cmの不整楕円形，深さ46cmで，補助柱穴と思われる。

竈 北壁の中央部からやや東寄りを壁外に116cmほど三角形に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ195cm，最大幅136cmである。火床部は，床面から20cmほど掘りくぼめられている。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり，中位に平坦面を持ち，そこからほぼ垂直に立ち上がっている。

#### 覆土層解説

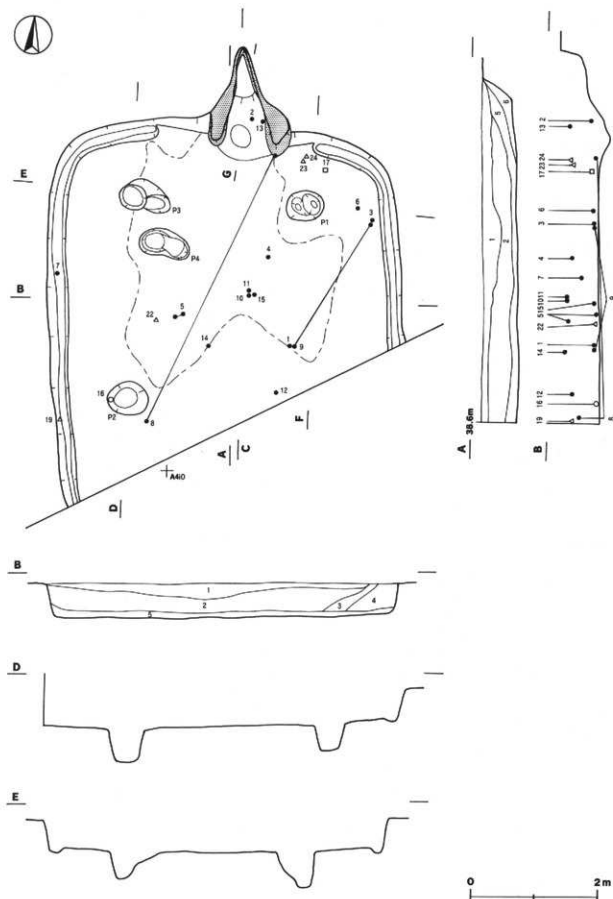
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒微量
- 4 黒褐色 砂粒中量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 5 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 10 赤褐色 焼土粒子多量，灰中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

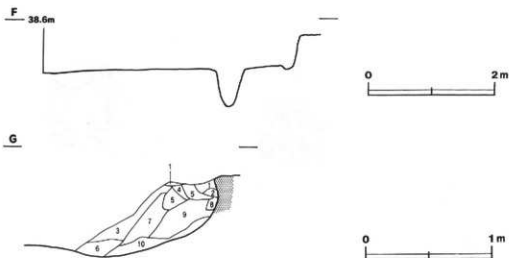
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量

遺物 遺物は土師器片662点，須恵器片270点，土製品1点，石製品2点，鉄製品8点が遺構全体から出土している。また，当遺跡内の他の住居跡と比べ，鉄製品が多く出土している。第168・169図1の土師器甕は中央部の覆土下層から，2の土師器甕は室内の覆土下層から，3・6の土師器甕は北東コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。4の土師器甕は中央部の覆土中層から出土している。5の土師器甕は中央部の覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。7の須恵器甕は西部壁際の覆土中層から，8の須恵器甕



第166图 第93号住居跡実測图(1)



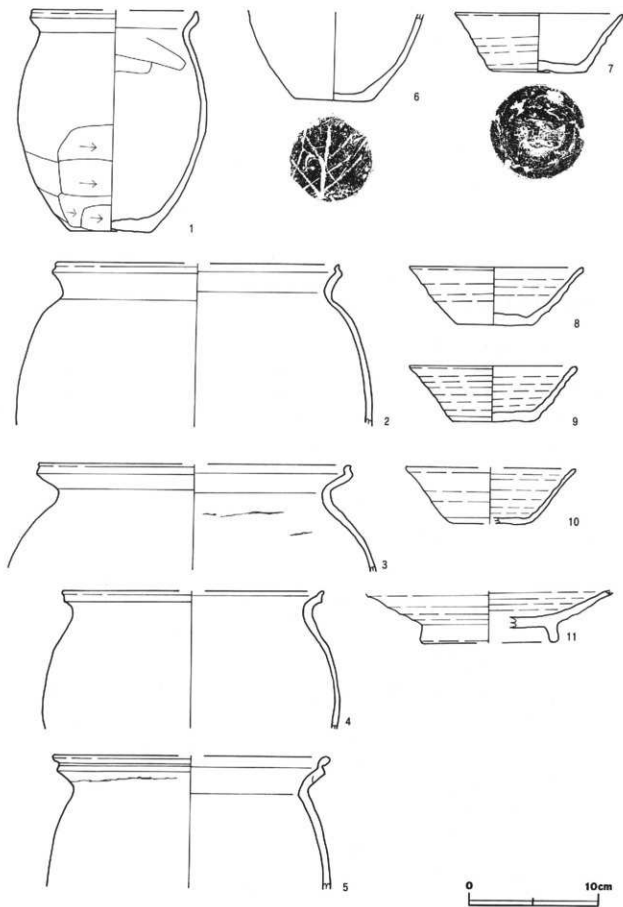
第167図 第93号住居跡実測図(2)

は竈前面の覆土下層と南西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。9の須恵器環は、中央部と北東部壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の須恵器環と11の須恵器盤は中央部の覆土上層から、12の須恵器甕は南部の覆土中層から、13の須恵器甕は竈内の覆土上層から、14の須恵器甕は中央部の覆土上層から、15の須恵器甕は同じく中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。16の球状土錘はP2付近の覆土下層から、17の砥石は北東コーナー部壁際の覆土下層から、18の軽石は覆土中から出土している。19の鉄釘は南西部壁際の覆土上層から、22の不明鉄製品は中央部の床面から、20の刀子と23の不明鉄製品は東部の覆土下層と覆土上層から出土している。21の刀子と24の不明鉄製品は北東部壁際の覆土上層から出土している。

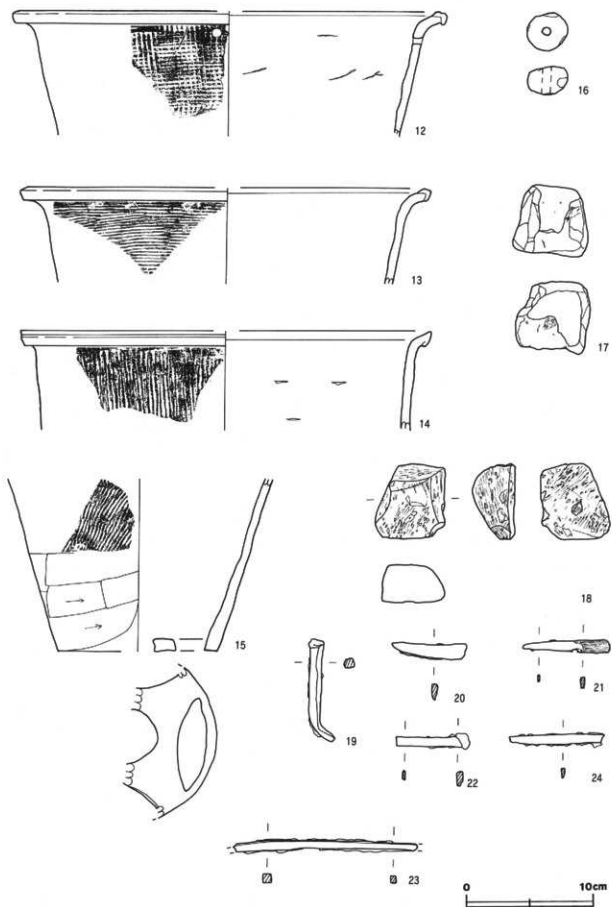
所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土土器から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	甕 土師器	A [13.0] B 17.5 C [ 6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り。内面ナデ。一部ヘラナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P371 45% PL72 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A [22.2] B (12.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。全体的に器内は薄い。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P372 10% PL72 竈内覆土下層
3	甕 土師器	A [24.4] B ( 8.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P373 10% PL73 北東部壁際覆土下層
4	甕 土師器	A [24.4] B ( 8.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P374 10% PL73 中央部覆土中層
5	甕 土師器	A [21.4] B (10.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P375 5% PL73 中央部覆土中層と下層



第168图 第93号住居跡出土遺物実測図(1)



第169图 第93号住居跡出土遺物実測图(2)

図版番号	種 別	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	岩石・色調・焼成	備 考
第108回 6	土 師 器 壺	B (7.0) C 6.3	底部から体部の破片。平底。体部は内凹し、ながら立ち上がる。	体部外面へう割り、内面へうナゲ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P378 20% PL73 底部外面に木炭痕 北東コーナー部 壁部覆土下層
7	灰 土 器 鉢	A 13.4 B 4.7	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は強いロクロ目。底部回転へう割り。底部周縁ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P377 95% PL73 西野原覆土中層
8	灰 土 器 壺	A 13.8 B 4.5 C 3.9	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は強いロクロ目。底部回転へう割り。底部周縁ナデ。	長石・石英・赤色粘土 灰黄色 普通	P378 70% 東野原覆土上層と 北西野原上層
9	灰 土 器 壺	A 13.2 B 4.4 C 6.5	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面は強いロクロ目。底部回転へう割り。底部周縁ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P377 65% PL73 中央部と北東部 境部覆土下層
10	灰 土 器 壺	A [13.4] B 4.4 C [6.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう割り。周縁ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P380 40% PL73 中央部覆土上層
11	灰 土 器 壺	A 4.1 B 11.0 E 1.5	高台部から体部の破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り差し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P381 30% 中央部覆土上層
第109回 12	灰 土 器 壺	A [31.6] B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は強く外反する。口縁部は其下に折り返されている。体部上位に種部孔1か所。	口縁部内・外面ナデ。体部外面は蓋子目吹き。内面ナデ。体部内面に輪組み痕。口縁部部に種部貼り付け。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P382 10% 東野原土中層
13	灰 土 器 壺	A [32.4] B (7.0)	体部から口縁部の破片。体部は外傾し、口縁部は強く外反する。口縁部は凹取する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面は蓋方向の吹き。内面ナデ。口縁部部に種部を貼り付けている。	長石・石英・雲母・ 赤色粘土 明赤褐色 普通	P383 10% PL73 覆土上層
14	灰 土 器 壺	A [32.5] B (7.9)	体部から口縁部の破片。体部は外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面は蓋方向の吹き。内面ナデ。体部内面に輪組み痕。	長石 暗灰黄色 普通	P384 10% PL73 中央部覆土上層
15	灰 土 器 壺	B (13.7) C [12.6]	底部から体部の破片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面上位斜め方向の吹き。へう割り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	P385 20% PL73 中央部覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第108回18	球 状 土 師	3.2	2.1	0.7	19.4	P2村北東77層	DP142 PL78

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第109回17	瓦 石	(5.7)	(5.9)	5.5	(233.2)	砂 質	東野原上層	Q55
18	瓦 石	5.9	5.6	3.4	32.9	--	覆 土 中	Q56

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第109回19	釘	8.1	1.3	0.8	18.1	西野原野原土上層	M14 PL81
20	刀 子	(6.0)	1.3	0.6	(6.3)	東野原土下層	M16 PL81
21	刀 子	6.9	1.0	0.4	4.5	北東野原野原土上層	M18 PL81
22	不明鉄製品	(6.0)	1.3	0.6	(4.8)	中央部床面	M15 PL81
23	不明鉄製品	(14.6)	0.7	0.7	(32.6)	底部覆土上層	M17
24	不明鉄製品	(7.6)	0.8	0.3	(4.4)	北東野原野原土上層	M19 PL81

第94号住居跡（第170・171図）

位置 調査区の北東部、A4f9区。

規模と平面形 長軸5.16m、短軸4.55mで、長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は43~46cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16~24cm、下幅4~12cm、深さ4~16cmで、断面形はU字形である。

床 平床で、庭前面から南部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所（P1~P5）。P1~P4は、長径32~48cm、短径28~43cmの不整楕円形、深さ39~44cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は、長径25cm、短径21cmの不整楕円形、深さ38cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁の中央部からやや東寄りを壁外に30cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は、崩落しているが、両袖部が残存している。他の遺構に比べ、竈の遺存状態は良好である。規模は、狭口部から煙道部までの長さ103cm、最大幅82cmである。火床部は、床面から14cmほど掘りくぼめられている。煙道は、火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

覆土層構成

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、炭化粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土大・中ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 7 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・ローム小ブロック微量

覆土 10層からなる自然堆積である。

土層構成

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

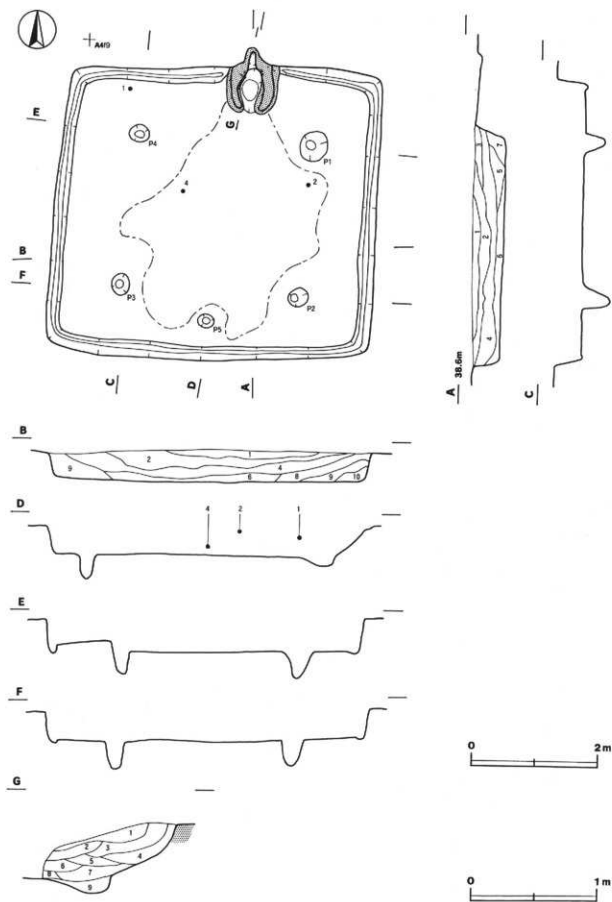
遺物 土師器を中心に多量に出土しているが、細片が多く图示できるものは少ない。土師器片317点、須恵器片14点、鉄製品2点が出土している。第171図1の土師器片は北壁際西部の覆土上層から、2の土師器高坏はP1南側の覆土上層から、4の須恵器高台付坏は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。3の土師器片は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形状及び出土遺物から奈良時代（8世紀前半）と思われる。

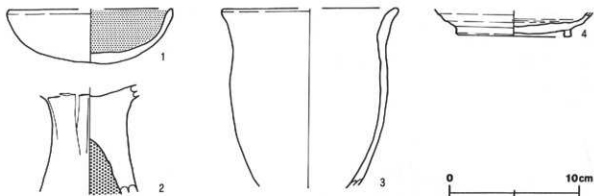
第94号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図1	土師器	A 12.8 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は広く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	石英・赤色粒子 褐色 普通	P386 60% PL73 北壁際西側上層
2	高土師器	B ( 8.7)	胴部片。胴部は中空でハの字状に開く。	胴部外面ヘラナデ。平底部内面赤彩。	長石・石英・赤色 粒子 褐色 普通	P387 30% P1南側覆土上層





第170图 第94号住居跡実測図



第171図 第94号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計面積(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 3	羹 土 器	A [13.6] B 14.3	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部は内・ 外面とも器面が剥離しており、調 整不明。	長石 にふい赤褐色 普通	P388 10% PLJ3 覆土中
4	高台付坏 須 器	B ( 2.0) D 9.1 E 0.7	高台部から体部の破片。高台は短 くハの字状に開く。体部は内彎し ながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切 り離し後、高台貼り付け。	長石 灰オリーブ色 普通	P389 25% 中央部覆土下層

### 第98号住居跡 (第172・173図)

位置 調査区域の北東部、A 5 e 6 区。

規模と平面形 長軸 (1.72)m、短軸3.55mである。南部が調査区域外となっている。平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向 N - 9° - E

壁 壁高は25cm前後で、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。竈前面から東壁際にかけて踏み固められている。

ピット 南部が調査区域外となっているためか、ピットは1か所検出されただけである。P1は長径50cm、短径31cmの不整楕円形、深さ30cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北壁の中央部からやや東寄りや壁外に25cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。壁外への掘り込みは少ない。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ124cm、最大幅115cmである。火床部は、床面から7cmほど断面逆台形状に掘りくぼめられている。土層の6層下部が火床面である。煙道は、火床面から外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、粘土小ブロック少量
- 3 柿暗赤褐色 焼土小ブロック多量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
- 6 赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量
- 7 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 8 黄褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量

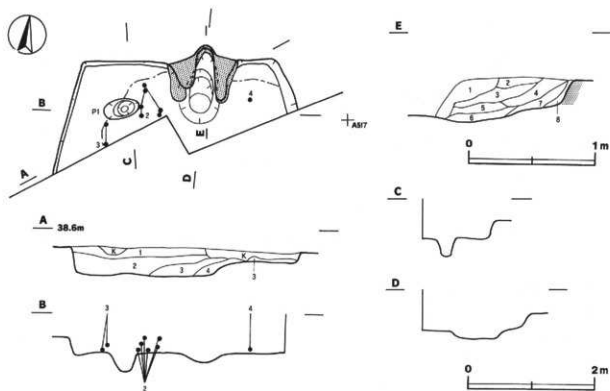
覆土 3層からなる。一部攪乱を受けているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

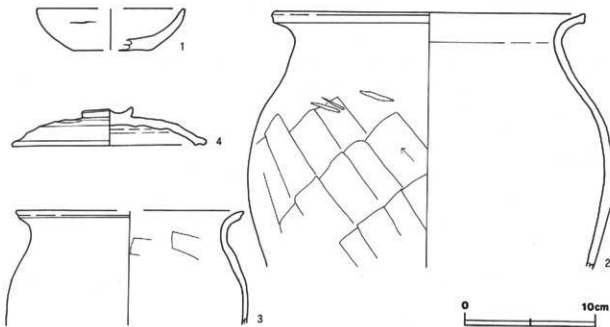
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒微量
- 4 黒褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土小ブロック微量

遺物 土師器片47点, 須恵器片8点が出土している。第173図2の土師器甕は竈西側の覆土上層及び下層から出土した破片が, 3の土師器甕はP1南側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1の土師器甕は覆土中から出土している。4の須恵器蓋は北東部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形状及び出土土器から8世紀前葉と思われる。



第172図 第98号住居跡実測図



第173図 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・産地	備 考
第173図 1	杯 土 師 器	A [19.6] B 3.3	底部から体部の破片。丸みを帯びた平底。体部は内壁しながら立ち上がる。底部から体部にかけて器肉が厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位に輪状み痕。	長石に多い黄褐色普通	P301 10% PL74 履上中
2	壺 土 師 器	A 24.4 B (29.4)	体部から口縁部の破片。体部は内壁し、口縁部は外反する。口縁部はわずかに肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へくわり、内面ナデ。体部外面上位にへく高て痕。	長石・石英・雲母明黄褐色普通	P392 30% PL74 福西彌屋土上層と下層
3	壺 土 師 器	A [17.7] B (6.8)	体部から口縁部の破片。体部は内壁し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面1位にへく高て痕。	長石・石英・雲母赤褐色普通	P393 15% P11南彌屋土下層
4	壺 須 恵 器	A 15.2 B 3.0 F 4.0 G 0.9	口縁部一部欠損。天井部はドーム状を呈し、ホタン状のつまみが付く。口縁部は瓦葺に帯びる。口縁部内面に深いえりを持つ。	天井部内・外面クロコナア。天井部外面上位斜転へく高て痕。	長石・雲母・赤色粘土赤褐色普通	P394 45% PL74 北東部区画

## 第105号住居跡 (第174・175図)

位置 調査区域の中央部、C 2 a 9 区。

重複関係 本跡は第55号住居跡を掘り込んでおり、また、第119号土坑に掘り込まれていることから、第55号住居跡より新しく、第119号土坑より古い。

規模と平面形 長軸2.34m、短軸2.24mの方形である。

主軸方向 N-0°

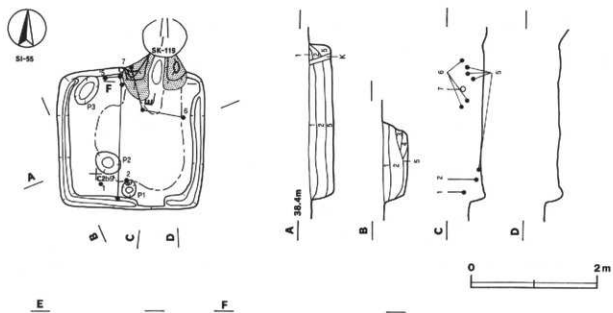
壁 壁高は22~34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、北壁と南壁の一部を除いて通っている。上幅20~24cm、下幅6~11cm、深さ6~8cmで、断面形はU字形である。

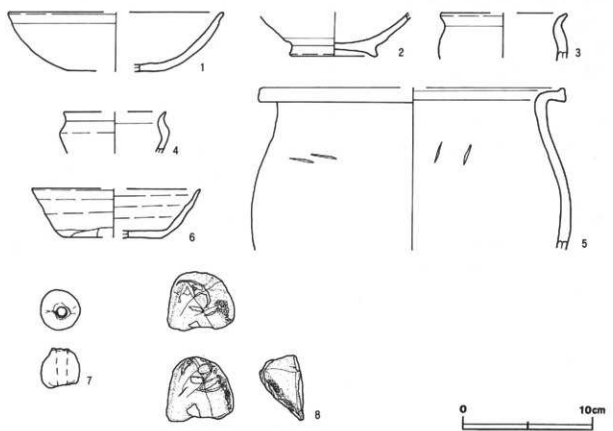
床 平坦である。直前前から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径28cm、短径22cmの不整楕円形、深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P2・P3は、長径38~50cm、短径30~35cmの不整楕円形、深さ9~15cmで、補助柱穴と思われる。

竈 北部は第119号土坑に掘り込まれている。北竈の中央部やや東寄りを壁外に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は、抜出された部分で、焚口部から舞道部までの長さ(92)cm、最大幅102cmである。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。火床部は、床面と同じレベルの平面を使用している。舞道部は、第119号土坑に掘り込まれているため、火床部からの立ち上がりは不明である。



第174图 第105号住居跡実測図



第175图 第105号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 におい黄褐色 砂混じり粘土多量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・砂混じり粘土微量
- 5 黒褐色 焼土粒子微量、砂混じり粘土微量
- 6 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片240点、須恵器片9点、土製品（球状土錘）1点、石器（磨石）1点が出土している。第175図1の土師器坏は南西部の覆土中層から、2の土師器高台付碗はP1付近の床面から、5の土師器甕は南北壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。6の須恵器坏は電前面と甕西袖部付近の覆土上層から出土した破片が接合したものである。7の球状土錘は、甕西袖部外側の覆土上層から出土している。3の土師器小形甕、4の土師器短頸甕、8の磨石はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形状及び出土土器から平安時代（9世紀代）と思われる。

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第175図1	土師器 坏	A [17.0] B 4.7 C [ 7.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子にふいふ褐色普通	P308 10% PL71 甕西袖覆土中層
2	高台付碗 土師器	B (3.5) D 6.8 E 0.8	高台部から体部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	砂粒にふいふ褐色普通	P309 25% PL74 P1付近床面
3	小形甕 土師器	A [10.0] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	赤色粒子褐色普通	P400 3% PL74 覆土中
4	短頸甕 土師器	A [ 8.0] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	赤褐色にふいふ褐色普通	P401 3% PL74 覆土中
5	甕 土師器	A [24.0] B (12.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は折り返され表側にのびる。口縁部は短く上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母にふいふ褐色普通	P402 10% PL71 南北壁際覆土上層
6	須恵器 坏	A [13.4] B 3.9 C [ 7.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外彎して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。	長石黄灰色普通	P403 55% PL74 電前面と内袖部外側覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第175図7	球状土錘	3.1	3.1	0.9	25.7	甕西袖部外側覆土上層	DP143

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第175図8	磨石	5.0	5.3	3.3	85.4	安山岩	覆土中	Q58 蔽石兼用

(2) 土 坑

第117号土坑 (第176図)

位置 調査区の北東部, C 2 a 9 区。

重複関係 本跡が第53・54号土坑を掘り込み, また第119号土坑に掘り込まれていることから, 第53・54号土坑より新しく, 第119号土坑より古い。

規模と平面形 長径2.05m, 短径1.90mの不整形円で, 深さは50cmである。

長径方向 N-0°

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

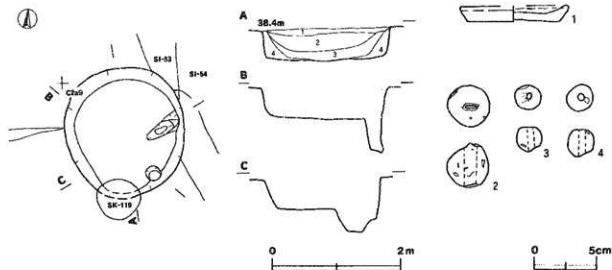
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片32点, 土製品(球状土錘)3点が出土している。第176図1の土師器皿及び2~4の球状土錘は, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から平安時代(10世紀前半)と思われる。性格は不明である。



第176図 第117号土坑・出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色画・焼成	備考
第176図 1	土師器 上 師器	A [ 8.4] B 1.4	底部から体部・部欠損。平底。体部は大きく開く。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・赤色粒子 褐色 普通	P406 45% PL74 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第176図2	球状土錘	3.3	3.4	1.0	31.9	覆土中	DP151
3	球状土錘	2.0	1.9	0.5	6.2	覆土中	DP152
4	球状土錘	2.1	2.2	1.6	6.1	覆土中	DP153

第121号土坑（第177図）

位置 調査区域の南西部，C 2 f 4 区。

重複関係 本跡が第29・40号住居跡を掘り込んでおり，両遺構より新しい。

規模と平面形 長径2.72m，短径2.15mの不整形円形で，深さは22cmである。

長径方向 N-8°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。南部及び北部で長径21~22cm，短径14~16cmの不整形円形で，深さが12~16cmのビツト状の掘り込みが検出されたが，性格は不明である。

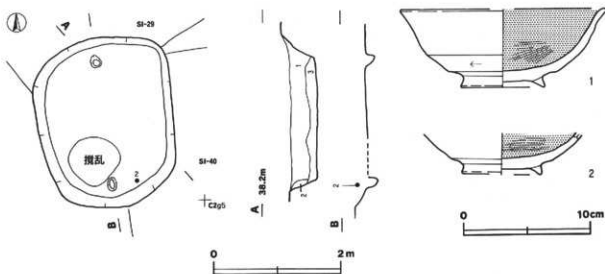
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片108点，須恵器片19点が出土しているが，細片が多く図示できるものは少なかった。第177図2の土師器高台付碗は南部の覆土上層から，1の土師器高台付碗は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から平安時代（9世紀代）と思われる。性格は不明である。



第177図 第121号土坑・出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	高台付碗	A [16.3]	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内壁して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端同軸ヘラ削り。内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部切り難した後，高台貼り付け。	長石・砂粒にぶい褐色普通	P201 25% PL74 覆土中
	土師器	B 6.2 D 6.4 E 0.9				
	高台付碗	B (3.4)	高台部から体部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内壁しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部切り難した後，高台貼り付け。	長石にぶい褐色普通	P202 20% PL74 南部覆土上層
	土師器	D [6.2] E 1.3				



## 5 中世の遺構と遺物

今回の調査で確認された中世の遺構は、地下式墳、方形堅穴状遺構、土坑である。当遺跡内の北東部で、南北約10m、東西約15mの長方形の区画が50cmほど掘り込まれた区画を検出した。中世の遺構と思われるほとんどの遺構はここから検出されている。これらの遺構は中世の墓域に関係し、しかもそれぞれが何らかの機能をもって存在していたと推定される。

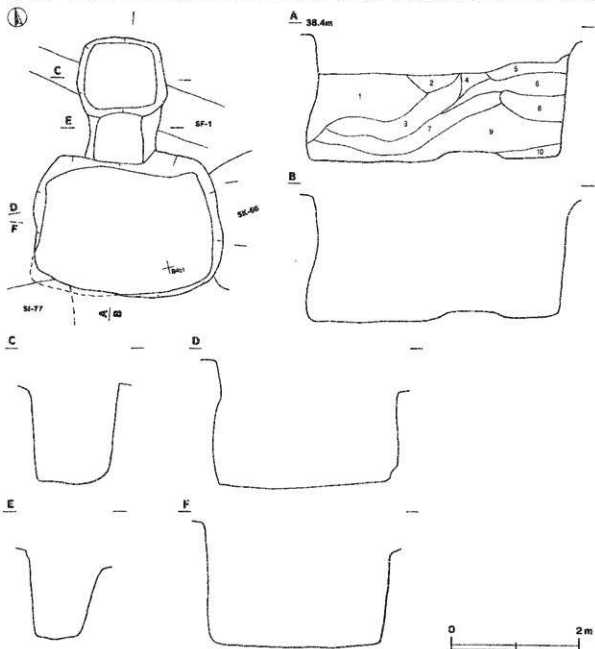
以下、検出された遺構と遺物について記載する。

### (1) 地下式墳

#### 第1号地下式墳〔SK-75〕(第178図)

位置 調査区域の北東部、B3a0区。

重複関係 本跡が第77号住居跡及び第66号土坑を掘り込み、また第1号道路状遺構に掘り込まれていることか



第178図 第1号地下式墳実測図

ら、第77号住居跡及び第66号土坑より新しく、第1号道路状遺構より古い。

主軸方向 N-16°-E

壁 崩落のため、上面の平面形は不明である。底面は長軸1.34m、短軸1.20mの、主軸方向に長い長方形で、平坦である。確認面からの深さは、1.62mである。

主室 底面は、長軸2.20m、短軸1.94mの、主軸に対して直交方向に長い長方形で、平坦である。確認面から底面までの深さは、2.0mである。壁ととの間には、20cmほどの段差を持つ。

壁 壁坑・主室ともにほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
- 8 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 10 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 鉄滓1点だけが出土しているが、混入と思われる。

所見 本跡の時期は、判断できる土器は出土していないが、北東部の墓域と考えられる地区で検出されており、中世と思われる。

(2) 方形壁穴状遺構

第1号方形壁穴状遺構〔SK-33〕(第179図)

位置 調査区域の中央部、A4j4区。

重複関係 本跡が第7号方形壁穴状遺構を掘り込んでおり、第7号方形壁穴状遺構より新しい。

規模と平面形 長軸2.36m、短軸1.42mの長方形である。

長軸方向 N-9°-E

壁 壁高は60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 4層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

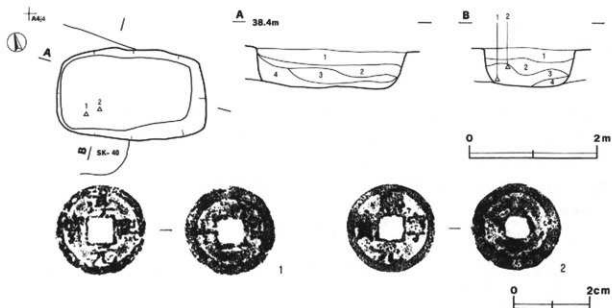
- 1 灰 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片1点、不明鉄製品1点、古銭2点、鉄滓1点が出土している。第179図!の古銭は西部の覆土下層から、2の古銭は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と考えられる。

第1号方形壁穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	銭名	計測値				初鑄年代 (西暦)	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
第179図1	淳熙元寶	2.3	0.7	0.7	2.7	覆土中	M24 西部覆土下層 PL81
2	熙寧元寶	2.3	0.7	0.7	3.4	覆土中	M25 西部覆土中層 PL81



第179図 第1号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

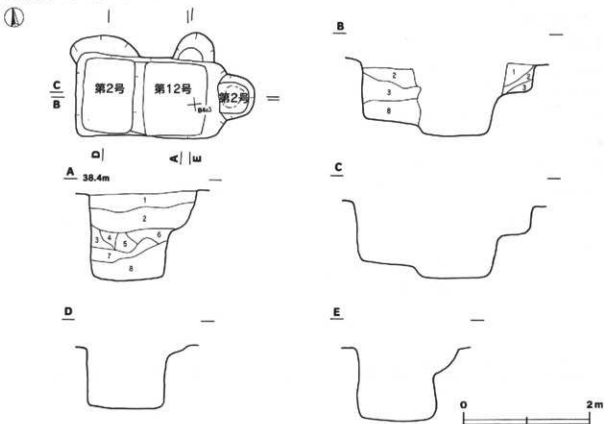
第2号方形竪穴状遺構〔SK-34〕(第180図)

位置 調査区域の中央部, A 4 j 2 区。

重複関係 本跡は, 第12号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから, 第12号方形竪穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸2.38m, 短軸1.25mの長方形である。

長軸方向 N-82°-W



第180図 第2・12号方形竪穴状遺構実測図

壁 壁高は120cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から3～6層は人為堆積で、それ以外は自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 4 明褐色 ローム大ブロック多量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中粒、粘土大ブロック少量

遺物 土師器片4点、須恵器片1点が覆土中から出土しているが、混入と思われる。いずれも細片で、図示できるものはなかった。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

第3号方形窪穴状遺構〔SK-36〕(第181図)

位置 調査区域の北東部、A412区。

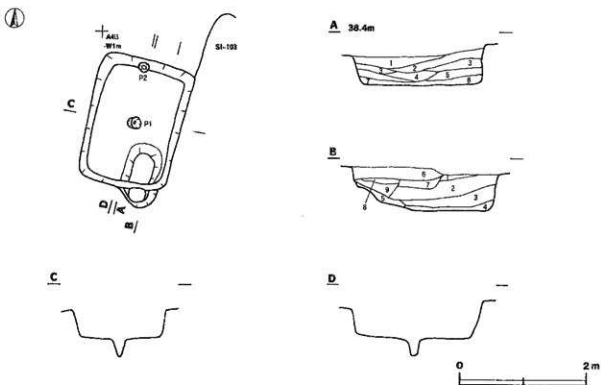
規模と平面形 長軸2.07m、短軸1.49mの長方形である。

長軸方向 N-15°-E

壁 壁高は60cmで、外傾して立ち上がる。東壁やや北寄りの壁外から、床面に向かって幅60cm、長さ100cmの傾斜部を持っている。これは出入り口の可能性も考えられる。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は、径8cmの不整形円形、深さ30cmで、性格は不明である。



第181図 第3号方形窪穴状遺構実測図

覆土 9層からなる。各層ともロームブロックなどを含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック多量、ローム中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子少量

遺物 土師器片27点、須恵器片1点が覆土中から出土しているが、混入と思われる。

所見 本跡は、墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

第4号方形竪穴状遺構〔SK-37〕(第182図)

位置 調査区域の北東部、A412区。

規模と平面形 長軸2.04m、短軸1.68mの長方形である。

長軸方向 N-67°-W

壁 壁高は56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は、径16~18cmの不整形円、深さ31~34cmである。柱穴の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

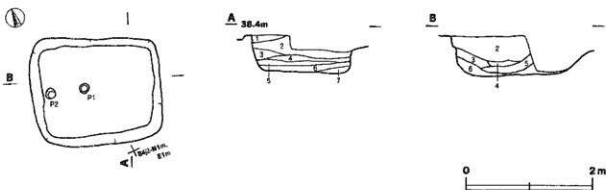
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片20点、須恵器片2点、土製品(管状土鏝)1点が覆土中から出土しているが、細片が多く図示できるものはなかった。

所見 本跡は墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。また、ピットが検出されているのが特徴である。



第182図 第4号方形竪穴状遺構実測図

第5号方形竪穴状遺構〔SK-38〕(第183図)

位置 調査区域の北東部, A4h4区。

重複関係 本跡が第87号住居跡を掘り込んでおり, 第87号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸2.13m, 短軸1.63mの長方形である。南壁はほぼ中央部の壁外から床に向かって, 幅60cm, 長さ95cmほどの傾斜部を持っている。これは出入り口の可能性も考えられる。

長軸方向 N-25°-E

壁 壁高は90cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

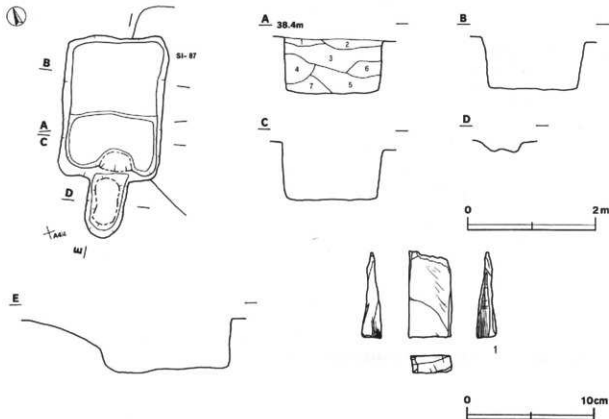
覆土 7層からなる。不自然な堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片6点, 砥石1点が覆土中から出土している。土師器片は混入と思われ, 細片である。

所見 本跡は, 墓域と推定される場所に位置し, また遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と思われる。



第183図 第5号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

第5号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第183図1	砥石	(6.8)	3.4	1.4	(37.0)	凝灰岩	覆土上層	Q62

第6号方形竪穴状遺構〔SK-39〕(第184図)

位置 調査区域の北東部、A4j2区。

重複関係 本跡は、第10号及び第11号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから、これらの遺構より古い。

規模と平面形 長軸 [1.12]m, 短軸1.03mの方形である。

長軸方向 N-17°-E

壁 壁高は51cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坝である。

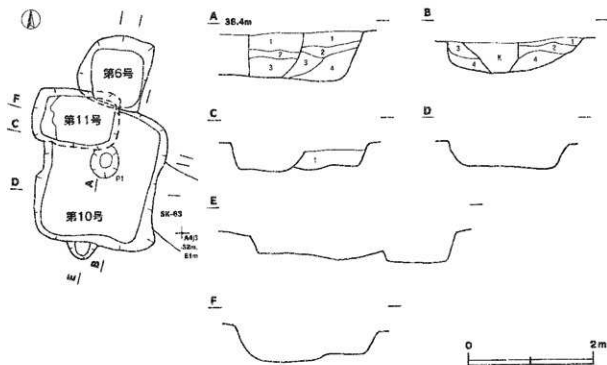
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 灰褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、黒色土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。



第184図 第6・10・11号方形竪穴状遺構実測図

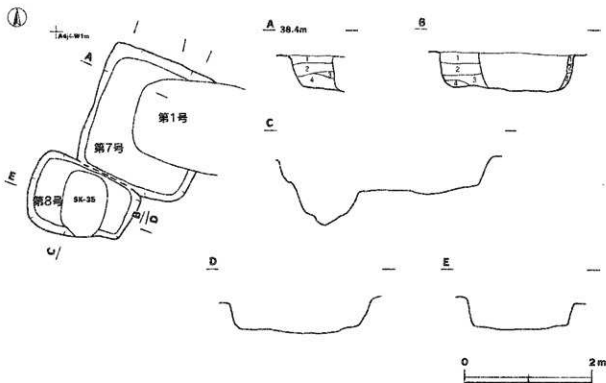
第7号方形竪穴状遺構〔SK-40〕(第185図)

位置 調査区域の北東部、A4j4区。

重複関係 本跡が第2号及び第8号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから、第2号及び第8号方形竪穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸 [2.04]m, 短軸1.93mの方形と推定される。

長軸方向 N-20°-E



第185図 第7・8号方形竪穴状遺構実測図

壁 壁高は51cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 2 泥 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微積
- 4 泥 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

第8号方形竪穴状遺構 (SK-41) (第185図)

位置 調査区域の北東部、A4j3区。

重複関係 本跡が第7号方形竪穴状遺構を掘り込み、また、第35号土坑に掘り込まれていることから、第7号方形竪穴状遺構より新しく、第35号土坑より古い。

規模と平面形 長軸1.72m、短軸1.21mの長方形である。

長軸方向 N-66°-W

壁 壁高は44cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 土師器片7点、鉄滓1点が覆土中から出土しているが、混入と思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。



第9号方形竪穴状遺構〔SK-43〕(第186図)

位置 調査区域の北東部、A413区。

重複関係 本跡が第103号住居跡及び第49号土坑を掘り込んでおり、これらの遺構より新しい。

規模と平面形 長軸2.14m、短軸1.59mの長方形である。

長軸方向 N-19°-E

壁 壁高は41cmで、外傾して立ち上がる。南壁はほぼ中央部の壁外から床に向かって、幅50cm、長さ70cmの傾斜部を持ち、表面はかなり硬化していた。これは出入り口の可能性がある。

底面 平坦である。

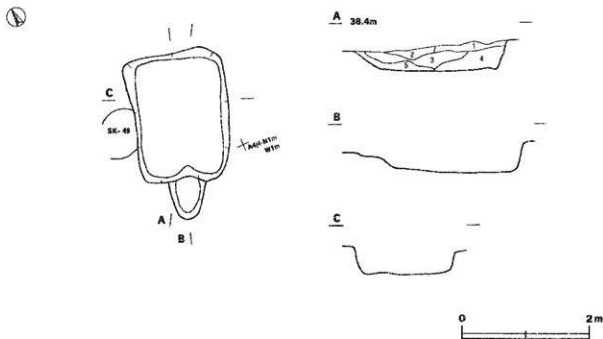
覆土 5層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 褐色 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 土褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック微量
- 4 褐色 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック・黒色土小ブロック少量
- 5 土褐色 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 出していない。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。



第186図 第9号方形竪穴状遺構実測図

#### 第10号方形竪穴状遺構〔SK-46〕(第184図)

位置 調査区域の北東部、A4j2区。

重複関係 本跡が第6号方形竪穴状遺構及び第63号土坑を掘り込み、第11号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから、第6号方形竪穴状遺構、第63号土坑より新しく、第11号方形竪穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸2.19m、短軸1.87mの長方形である。

長軸方向 N-11°-E

壁 壁高は55cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は、長径52cm、短径44cmの不整楕円形で、深さ12cmである。性格は不明である。

覆土 単一層である。自然堆積と思われる。

##### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック・灰少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片3点が、覆土中から出土しているが混入と思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と考えられる。

#### 第11号方形竪穴状遺構〔SK-47〕(第184図)

位置 調査区域の北東部、A4j2区。

重複関係 本跡が第6・10号方形竪穴状遺構を掘り込んでおり、両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸 [1.36]m、短軸 [0.92]mの長方形と推定される。

長軸方向 N-80°-W

壁 壁高は42cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

1 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘土小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

#### 第12号方形竪穴状遺構〔SK-56〕(第180図)

位置 調査区域の北東部、A4j3区。

重複関係 本跡が第2号方形竪穴状遺構を掘り込んでいることから、第2号方形竪穴状遺構より新しい。

規模と平面形 長軸2.40m、短軸1.26mの長方形である。

長軸方向 N-97°-E

壁 壁高は100cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。東壁はほぼ中央部の壁外から床に向かって、幅70cm、長さ60cmの傾斜部を持ち、表面がかなり硬化していた。これは出入り口の可能性もある。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック中量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

第13号方形竪穴状遺構〔SK-58〕(第187図)

位置 調査区域の北東部、A4j2区。

規模と平面形 長軸2.26m、短軸1.83mの長方形である。

長軸方向 N-105°-E

壁 壁高は31cmで、外傾して立ち上がる。東壁は中央部の境外から床に向かって、幅46cm、長さ78cmほどの緩やかな傾斜部がみられる。これは出入り口の可能性も考えられる。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は径24cmの不整形、深さ19cm、P2は長径46cm、短径36cmの不整形、深さ27cmで、性格は不明である。

底面 平坦である。

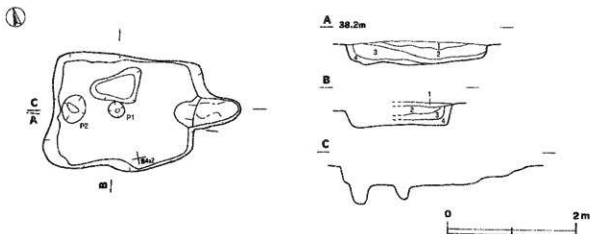
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片32点が覆土中から出土しているが、細片が多く図示できるものはなかった。混入と思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、またその形態から時期は中世と思われる。



第187図 第13号方形竪穴状遺構実測図

#### 第14号方形竪穴状遺構〔SK-59〕(第188図)

位置 調査区域の北東部，B4a1区。

重複関係 本跡が第88号住居跡を掘り込んでおり，第88号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.26m，短軸1.55mの長方形である。

長軸方向 N-20°-W

壁 壁高は50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

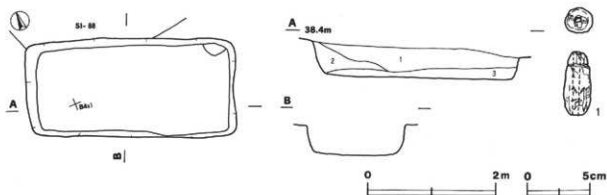
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物 土師器片34点，須恵器片3点，土製品（管状土鉢）1点が出土している。第188図1の管状土鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡は，第88号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期以降のもので，北東部の墓域と推定される場所に位置していることから，時期は中世と考えられる。



第188図 第14号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

#### 第14号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第188図1	管状土鉢	2.3	5.0	0.6	16.4	覆土中	DP148	PL78

#### 第15号方形竪穴状遺構〔SK-65〕(第189図)

位置 調査区域の中央部，B4a1区。

重複関係 本跡が第69号土坑を掘り込み，また第16号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから，第69号土坑より新しく，第16号方形竪穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸2.34m、短軸1.97mの長方形である。

長軸方向 N-32°-E

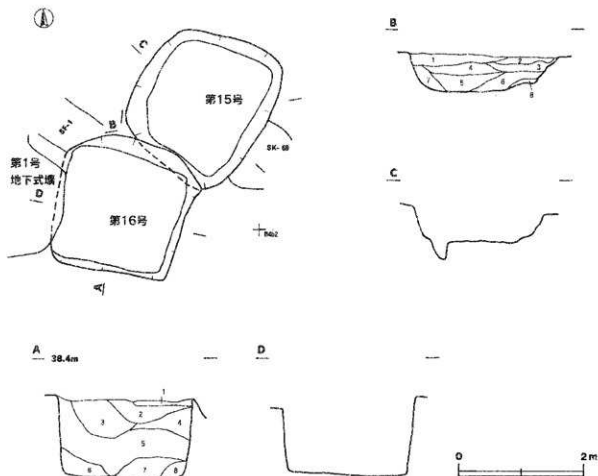
壁 壁高は57cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

埋土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

七層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、機土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土大ブロック少量
- 5 黒褐色 黒色土大ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量
- 7 黒色 黒色土大ブロック・黒色土粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土粒子少量



第189図 第15・16号方形竪穴状遺構実測図

遺物 土師器片1点が出土しているが、混入したものと思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置し、また遺構の形態から時期は中世と考えられる。

#### 第16号方形竪穴状遺構〔SK-66〕(第189図)

位置 調査区域の中央部、B4a1区。

重複関係 本跡が第15号方形竪穴状遺構を掘り込み、また、第1号地下式横溝に掘り込まれていることから、第15号方形竪穴状遺構より新しく、第1号地下式横溝より古い。

規模と平面形 長軸2.02m、短軸1.96mの長方形である。

長軸方向 N-15°-E

壁 壁高は120cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 8層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土大ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、黒色土大ブロック中量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所に位置していることから、時期は中世と考えられる。

#### 第17号方形竪穴状遺構〔SK-67〕(第190図)

位置 調査区域の北東部、A4j2区。

重複関係 本跡が第19号方形竪穴状遺構を掘り込んでいることから、第19号方形竪穴状遺構より新しい。

規模と平面形 長軸1.94m、短軸1.62mの長方形である。東壁中央部やや南寄りに壁外から床に向かって下がり、幅50cm、長さ100cmほどの傾斜部がみられる。これは出入り口の可能性があると考えられる。

長軸方向 N-64°-W

壁 壁高は59cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は長径30cm、短径24cmの不整楕円形、深さ32cmで、性格は不明である。

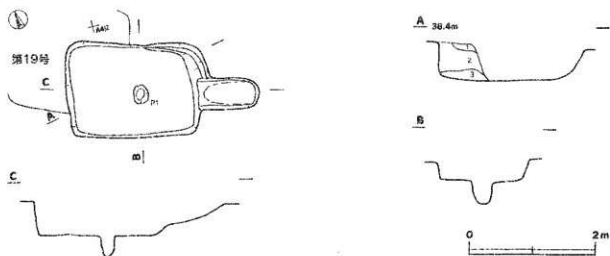
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、黒色土小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片2点、須恵器片1点が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、判断できる土器はないが、遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。



第190図 第17号方形竪穴状遺構実測図

第18号方形竪穴状遺構〔SK-68〕(第191図)

位置 調査区域の北東部、B4 b2区。

規模と平面形 長軸1.52m、短軸0.88mの長方形である。

長軸方向 N-71°-W

壁 壁高は32cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

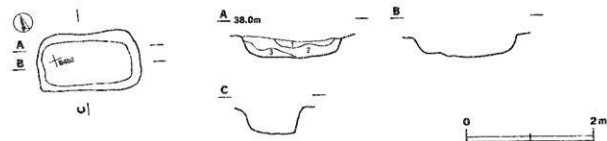
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 層 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 層 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 層 褐色 ローム中ブロック微量

遺物 上部器片4点、須恵器片1点が出土しているが、細片が多くいずれも混入したものと思われる。

所見 本跡は、時期を判断できる土器はないが、北東部の墓域と考えられる場所に位置し、またその形態から時期は中世と考えられる。



第191図 第18号方形竪穴状遺構実測図

第19号方形竪穴状遺構〔SK-70〕(第192図)

位置 調査区域の北東部、A4j1区。

重複関係 本跡が第21号方形竪穴状遺構を掘り込んでおり、また第17号方形竪穴状遺構に掘り込まれていることから、第21号方形竪穴状遺構より新しく、第17号方形竪穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸1.94m、短軸1.62mの長方形である。

長軸方向 N-64°-W

壁 壁高は59cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は長径30cm、短径24cmの不整楕円形、深さ50cmで、性格は不明である。

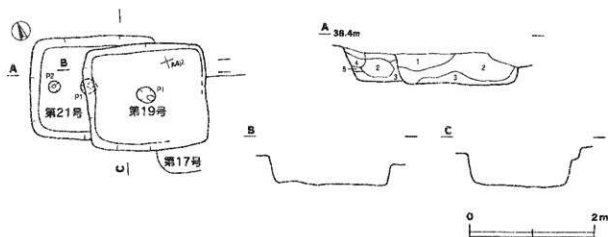
覆土 3層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土小ブロック少量、炭化粒子微少
- 2 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・黒色土小ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微少

遺物 土師器片16点、須恵器片5点が出土しているが、いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所から検出され、また遺構の形態から時期は中世と思われる。



第192図 第19・21号方形竪穴状遺構実測図

第20号方形竪穴状遺構〔SK-71〕(第193図)

位置 調査区域の北東部、B4a2区。

重複関係 本跡は、第8号溝に掘り込まれていることから、第8号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸1.62m、短軸1.13mの長方形である。

長軸方向 N-8°-E

壁 壁高は50cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

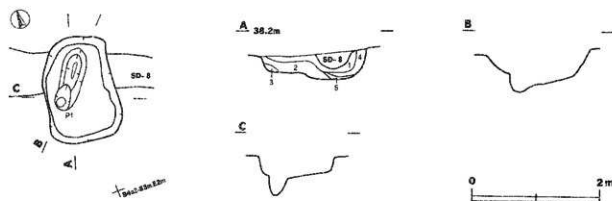
ピット 1か所。P1は、長径40cm、短径25cmの不整楕円形、深さ33cmで、性格は不明である。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量





第193図 第20号方形堅穴状遺構実測図

遺物 出土していない。

所見 本跡は土器が出土していないが、北東部の墓域と推定される区画から検出され、また遺構の形態から時期は中世と思われる。

#### 第21号方形堅穴状遺構〔SK-73〕(第192図)

位置 調査区域の北東部、A411区。

重複関係 本跡は、第19号方形堅穴状遺構に掘り込まれていることから、第19号方形堅穴状遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸 [1.00]m、短軸0.80mの長方形と推定される。

長軸方向 N-20°-E

壁 壁高は45cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2は径18~26cmの不整形円形、深さ20~30cmで性格は不明である。

覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック少量

遺物 土師器片1点、不明鉄製品1点が出土している。いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡は、北東部の墓域と推定される場所から検出され、また遺構の形態から時期は中世と考えられる。

### (3) 溝 跡

#### 第8号溝跡 (第194図)

位置 調査区域の北東部、B4a2区。

重複関係 本跡は、第62号及び第20号方形堅穴状遺構に掘り込まれていることから、両遺構より古い。

規模と形状 南西部は調査区域外である。確認できた長さは6.0mで、上幅0.50~0.88m、下幅0.21~0.45m、

深さは15~28cmである。断面形はU字形である。

方向 B4a3区から北西 (N-60°-W) に、ほぼ直線的に延びている。

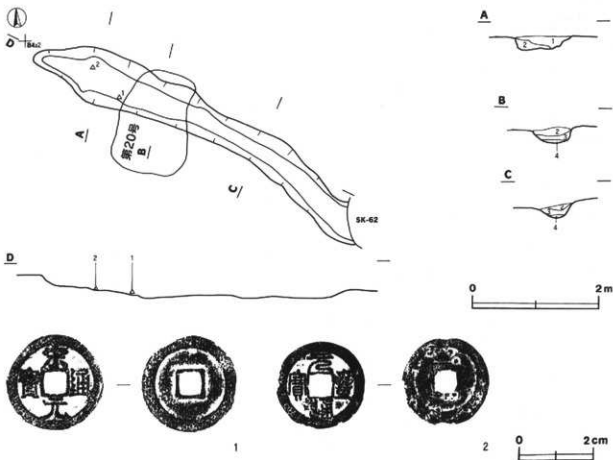
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 古銭2点が出土している。第194図1・2の古銭は、いずれも北東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、古銭が出土しており、また墓域内に位置していることから中世の可能性が高い。



第194図 第8号溝跡・出土遺物実測図

第8号溝跡出土遺物観察表

図版番号	銭名	計測値				初鑄年代 (西暦)	備考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
第194図1	□ 元通寶	2.5	0.6	0.7	2.4	不明	M28 北東部覆土下層
2	元豊通寶	2.4	0.7	0.7	2.5	天生~元禄期(1580)	M29 北東部覆土下層

(4) 七 坑

第31号土坑 (第195図)

位置 調査区域の北東部, A 4 j 3 区。

規模と平面形 長径1.28m, 短径1.19mの不整形円形で, 深さは110cmである。

長径方向 N-0°

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

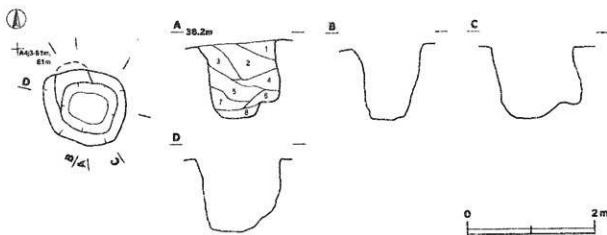
覆土 8層からなる。不自然な堆積状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片11点, 須恵器片2点が出土しているが, 混入したと思われる。土器は細片が多く, 図示できるものはなかった。

所見 本跡は, 中世の墓域と推定される場所に位置する。また土層の堆積状況から人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は, 中世と考えられる。



第195図 第31号土坑実測図

第35号土坑 (第196図)

位置 調査区域の中央部, A 4 j 3 区。

重複関係 本跡が第8号方形竪穴状遺構を掘り込んでいることから, 第8号方形竪穴状遺構より新しい。

規模と平面形 長径1.07m, 短径0.76mの不整形円形で, 深さ72cmである。

長径方向 N-13°-W

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

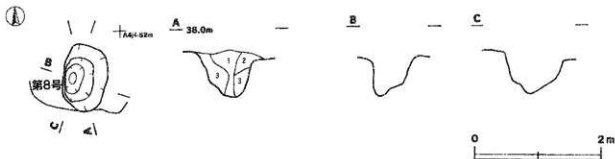
覆土 3層からなる。不自然な堆積状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック微量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、中世の墓域と推定される場所に位置することから、中世の可能性が高い。



第196図 第35号土坑実測図

第44号土坑（第197図）

位置 調査区域の北東部、A4J3区。

重複関係 本跡は、第50号土坑に掘り込まれていることから、第50号土坑より古い。

規模と平面形 長軸 [1.20]m、短軸0.75mで、長方形と推定され、深さは25cmである。

長軸方向 N-29°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

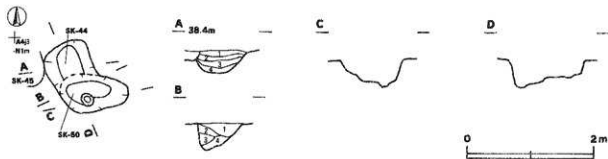
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第4層の上面で赤変硬化した部分が検出されたが、詳細は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、黒色土大ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・黒色土中ブロック多量、ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、中世の墓域と推定される場所に位置することから、中世の可能性が高い。



第197図 第44・50号土坑実測図

第50号土坑（第197図）

位置 調査区の北東部、A4j3区。

重複関係 本跡が第44号土坑を掘り込んでおり、第44号土坑より新しい。

規模と平面形 長径1.09m、短径0.49mの不整形円形で、深さは34cmである。

長径方向 N-85°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。

覆土 4層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 明 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 に近い褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、中世の墓域と推定される場所に位置することから、中世の可能性が高い。

第52号土坑（第198図）

位置 調査区の北東部、A4j4区。

重複関係 本跡が第53号土坑を掘り込んでおり、第53号土坑より新しい。

規模と平面形 平面形は、長軸1.02m、短軸 [0.96]mの台形状を呈し、深さは20cmである。

長軸方向 N-20°-E

壁 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

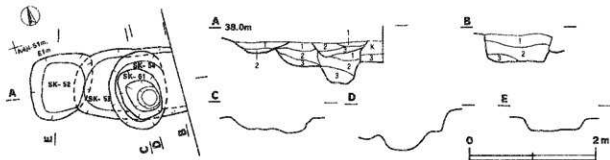
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 幾小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、中世の墓域と推定される場所に位置することから、中世の可能性が高い。



第198図 第52・53・54・61号土坑実測図

### 第53号土坑（第198図）

位置 調査区の北東部，A4j4区。

重複関係 本跡は，第52号・第54号土坑及び第61号土坑に掘り込まれており，これらの遺構より古い。

規模と平面形 長軸[1.71]m，短軸1.11mの長方形で，深さは33cmである。

長軸方向 N-74°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
- 2 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は，出土土器がなく不明であるが，中世の墓域と推定される場所に位置することから，中世の可能性が高い。

### 第54号土坑（第198図）

位置 調査区の北東部，A4j4区。

重複関係 本跡が第53・61号土坑を掘り込んでおり，両遺構より新しい。

規模と平面形 長径1.25m，短径0.72mの不整形円形で，深さは20cmである。

長径方向 N-0°

壁 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 3 褐色 焼土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は，出土土器がなく判断するのは難しいが，中世の墓域と推定される場所に位置することから，中世の可能性が高い。

### 第61号土坑（第198図）

位置 調査区の北東部，A4j4区。

重複関係 本跡が第53号土坑を掘り込んでおり，また，第54号土坑に掘り込まれていることから，第53号土坑より新しく，第54号土坑より古い。

規模と平面形 長軸0.82m，短軸0.60mの長方形で，深さは63cmである。

長軸方向 N-4°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。

覆土 3層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、中世の墓域と推定される場所に位置することから、中世の可能性が高い。

(5) 道路状遺構

第1号道路状遺構（第199図、付図1）

位置 調査区域の北東部、B3a0～A3j9区。

重複関係 本跡は、第10号溝上で検出されており、第10号溝が道路として使用された可能性が高い。

規模と形状 確認できた長さは3.70mで、上幅0.72～0.83m、下幅0.23～0.60mである。表面は硬化していた。

方向 B3a0区から南東（N-60°-W）に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 4～5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

A土層解説

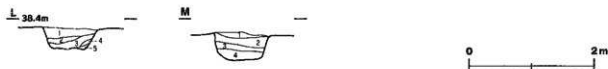
- 1 黒 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

B土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片3点、須恵器片2点、陶器片1点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡は、第10号溝上を北西部から墓域と推定される場所に向かって延びている。このことから中世に使用された道路跡と考えられる。



第199図 第1号道路状遺構土層断面実測図

## 6 時期不明の遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡16軒と土坑54基、溝跡10条、道路状遺構1条を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第1号住居跡（第200・201図）

位置 調査区域の南西部，D1h7区。

覆層関係 本跡は，北東部を第2号住居に掘り込まれていることから，第2号住居跡より古い。

規模と平面形 東側の半分以上は調査区域外である。長軸（2.30）m，短軸（1.65）mで，方形と推定される。

主軸方向 N-53°-E

壁 壁高は25～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の下に巡っている。上幅17～19cm，下幅4～8cmで，断面形はU字形である。

床 西コーナー部に硬化面が認められる。

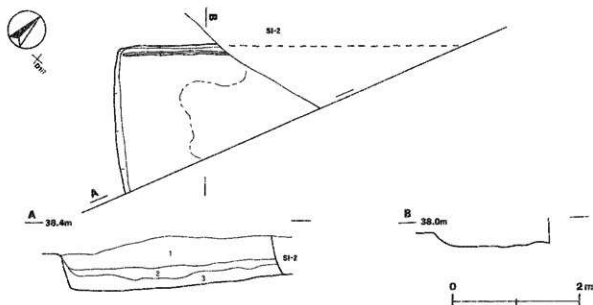
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片2点，土製品（球状土鏝）1点が出土している。第201図は球状土鏝で，覆土中から出土している。

所見 本跡は，炭化材と焼土塊が多量に検出されたことから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，時期を決める遺物が出土していないことから不明である。



第200図 第1号住居跡実測図





第201図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第201図1	球状土鉢	2.6	2.5	0.7	15.0	覆土中 DP2	PL78

第7号住居跡 (第202図)

位置 調査区域の中央部、D1d6区。

規模と平面形 南部は攪乱を受けている。長軸 [3.77]m、短軸 [2.83]mで、長方形と推定される。

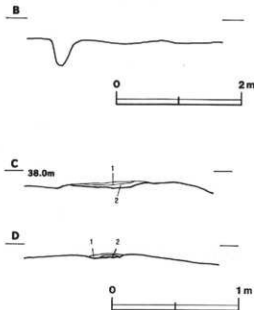
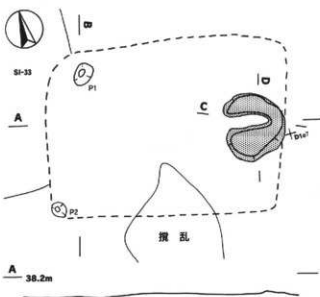
主軸方向 N-105°-E

壁 壁は確認できなかった。

床 わずかに凹凸が認められる。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径27cm、短径22cmの楕円形で、深さは10cmである。P2は長径37cm、短径25cmの楕円形で、深さは42cmである。性格は不明である。

竈 東寄りに、砂混じり粘土で構築されている。両袖部が残存している。規模は、煙道部から突出口まで98cm、最大幅109cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤化し、硬化している。



第202図 第7号住居跡実測図

地土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片9点が出土している。

所見 本跡から、竈とピットだけが検出された。本跡の時期は、時期を決める遺物が出土していないことから不明である。

第12号住居跡 (第203図)

位置 調査区域の中央部, D1g3区。

重複関係 本跡は、北西コーナー部を第5号住居に掘り込まれていることから、第5号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸 [3.47]m, 短軸 [2.71]mで、長方形と推定される。

主軸方向 N-20°-E

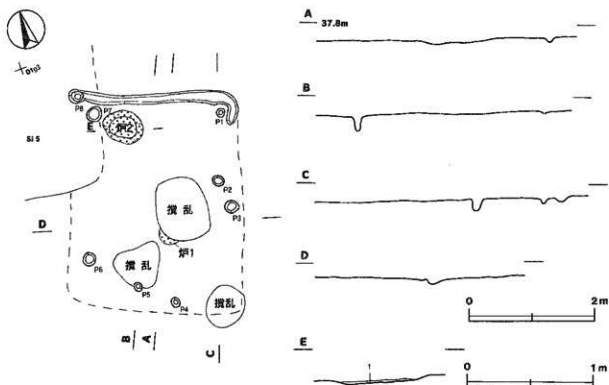
壁 壁は確認できなかった。

壁溝 北東辺に巡っている。上幅12~19cm, 下幅5~12cm, 深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1は径15cmの円形で、深さは14cmである。P2は長径21cm, 短径17cmの楕円形で、深さは20cmである。P3は径23cmの円形で、深さは15cmである。P4は径15cmの円形で、深さは10cmである。P5は長径16cm, 短径13cmの楕円形で、深さは28cmである。P6は径22cmの円形で、深さは10cmである。P7は径24cmの円形で、深さは11cmである。P8は長径18cm, 短径13cmの楕円形で、深さは17cmである。いずれも性格は不明である。

竈1 中央部に位置している。北東側半分以上が攪乱を受けている。長径48cm, 短径 (11)cmの楕円形と推定され、床を (5)cmほど掘りほめた地床竈である。竈床は赤変し、硬化している。



第203図 第12号住居跡実測図

炉2 北西コーナー部に位置している。長径60cm、短径51cmの楕円形で、床を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変し、硬化している。

炉2土層解説

1 筒 色 ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼十粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないことから不明である。

### 第16号住居跡 (第204図)

位置 調査区域の北東部、C2j2区。

重複関係 本跡は、西壁部で第21号住居跡と接している。

規模と平面形 東側の半分以上は調査区域外である。長軸(3.00)m、短軸(1.46)mで、方形と推定される。

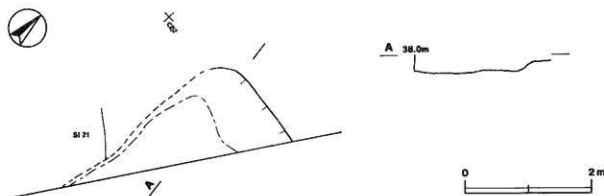
主軸方向 N-0°

壁 壁高は17cmで、緩やかに立ち上がる。

床 凹凸が認められる。北東コーナー部付近に硬化面が認められる。

遺物 弥生土器片11点、土師器片58点、須恵器片3点、礫5点が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決める遺物が出土していないことから不明である。



第204図 第16号住居跡実測図

### 第38号住居跡 (第205・206図)

位置 調査区域の南部、D1e3区。

重複関係 本跡は、第2号溝に掘りこまれ、また第6号住居跡を掘り込んでいることから、第2号溝よりも古く、第6号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸(3.43)m、短軸(1.80)mで、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

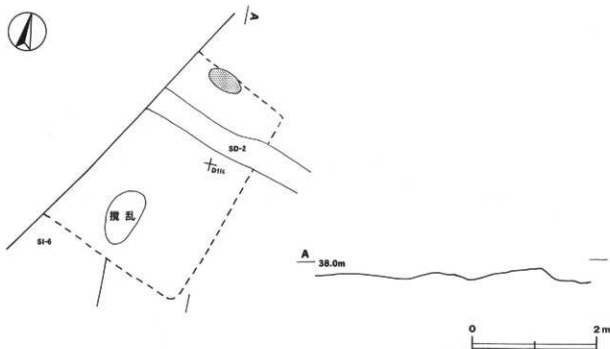
壁 壁の立ち上がりは、明確には検出できなかった。

床 東部に凹凸がみられる。踏み固められた部分は検出されなかった。

竈 北壁際から焼土と電材が検出されたが、天井部、両袖部等は検出されなかった。

遺物 土師器の碗の底部片1点と球状土錘1点が覆土中から出土している。

所見 本跡は出土土器が土師器片1点と球状土錘1点だけで、時期を限定するのは難しく不明である。



第205図 第38号住居跡実測図



第206図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
3856d1	球状土跡	2.7	2.6	0.7	18.5	覆土中	DP58

#### 第40号住居跡 (第207図)

位置 調査区域の南西部, C 2 f 4 区。

重複関係 本跡は, 第121号土坑に掘り込まれていることから, 第121号土坑より古い。

規模と平面形 確認できたのは, 南北方向と東西方向の壁の一部で, 南北 [3.50]m, 東西 [3.10]mである。

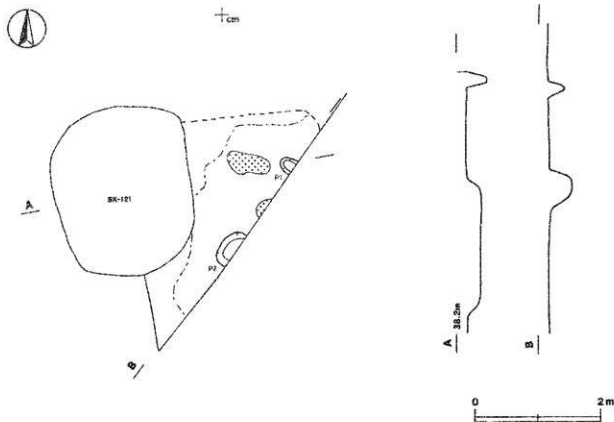
北西部が第121号土坑に掘り込まれ, 南東部が調査区域外になっているが, 平面形は方形と推定される。

南北軸方向 N - 6° - W

壁 床面が検出されたのみで, 壁高等は不明である。

床 平坦で, 北西部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所検出されたが, いずれも南東部が調査区域外になっており, 全体の状況は不明である。



第207図 第40号住居跡実測図

P1は長径(26)cm, 短径(24)cmの不整形, 深さ(28)cm, P2は長径(62)cm, 短径(24)cmの不整形, 深さ(36)cmで柱穴であると推定される。

遺物 土師器甕の体部片22点が出土しているが, 図示できるものはなかった。

所見 本跡は掘り込みが浅く, 床面が検出されただけで, 覆土の堆積状況は確認できなかった。また, 本跡の南東部の2か所で焼土が検出されている。本跡の時期は, 限定できる遺物がなく不明である。

#### 第44号住居跡(第208図)

位置 調査区の南西部, C1f0区。

重複関係 本跡は, 第24号住居跡及び第1号溝に掘り込まれていることから, 両遺構よりも古い。

規模と平面形 東部が第1号溝, 西部が第24号住居に掘り込まれているため, 規模及び平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は10~24cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

覆土 2層からなる。一部撻乱は受けているものの, レンズ状に堆積しており, 自然堆積と考えられる。

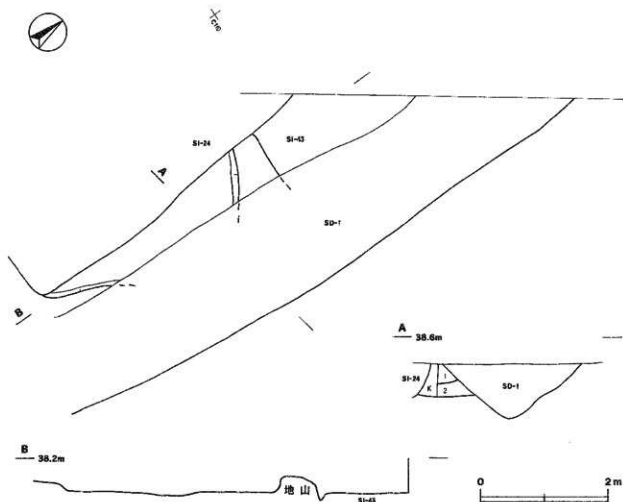
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量

遺物 出土遺物は少なく, 土師器甕の体部片1点が覆土中から出土しているだけである。

所見 本跡は, 床及び壁の一部が検出されており住居跡としたが, 第24号住居及び第1号溝に掘り込まれているため, 竈やピット等は検出されなかった。時期は出土土器が少なく限定するのは難しいが, 第24号住居に掘



第208図 第44号住居跡実測図

り込まれていることから7世紀以前のものである。

#### 第49号住居跡 (第209図)

位置 調査区域の中央部、C2c8区。

規模と平面形 確認できたのは床と壁の一部で、南北軸(2.40)m、東西軸(0.71)mである。南東部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

南北軸方向 N-29°-E

壁 壁高は48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、巡っている。上幅12~20cm、下幅2~6cm、深さ3cmで断面形はU字形である。

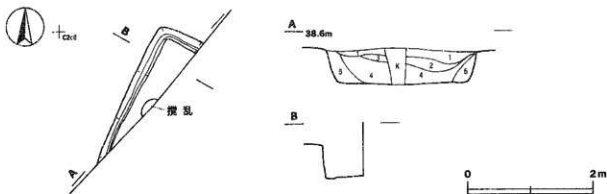
床 平坦である。踏み固められていない。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器甕の体部片38点が出土しているが、細片が多く図示できるものはない。



第209図 第49号住居跡実測図

所見 本跡は、床と壁の一部を除いて、大部分が調査区域外のため、竈や柱穴等は検出されなかった。本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

第60号住居跡 (第210・211図)

位置 調査区の中央部、B210区。

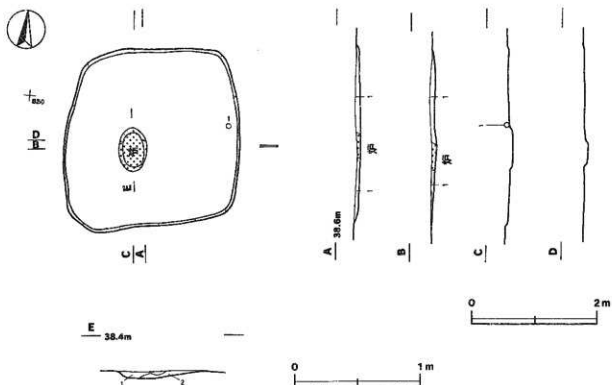
規模と平面形 長軸2.80m、短軸2.70mで方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は4~7cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に柔らかい。

炉 中央部からやや南西寄りに位置し、長径67cm、短径41cmの不整楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床かである。か床は焼けて、赤変している。



第210図 第60号住居跡実測図

浮土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子微量

覆土 覆土は薄い。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子微量



第211図 第60号住居跡出土遺物実測図

遺物 上師器片35点、土製品2点、鉄製品1点が出土している。1の上玉は東部壁際の床面から出土している。  
 所見 本跡からは竈、ピット、椀溝等は検出されていない。本跡は、時期を限定できる遺物がなく不明である。

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	挟み (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
表211図1	土	1.7	1.8	0.2	3.8	東部壁際床面	DP123

第78号住居跡 (第212・213図)

位置 調査区の北東部, B3 d8区。

重複関係 本跡は, 第81号及び第83号土坑に掘り込まれていることから, 両道構よりも古い。

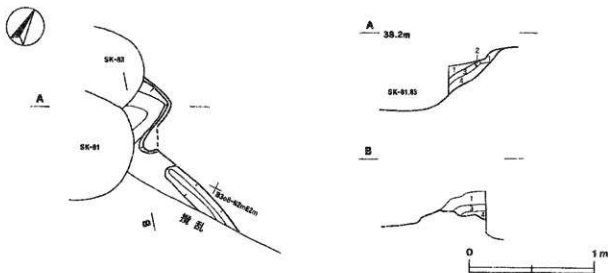
規模と平面形 本跡は, 第81号及び第83号土坑に掘り込まれているため, 竈の一部が残存するのみである。よって, 規模や平面形は不明である。

主軸方向 N-40°-E

壁 壁高は34cm前後で, 外傾して立ち上がる。

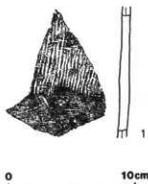
壁溝 確認された壁の下には, 竈袖部付近を除いて巡っている。上幅15cm, 下幅5cm, 深さ8cm前後で, 断面形はU字形である。

床 一部が検出されただけである。平坦であり, 踏み固められた部分はなかった。



第212図 第78号住居跡実測図





第213図 第78号住居跡  
出土遺物実測図

竈 北壁に付設され、砂混じりの粘土で構築されている。第81・83号土坑に掘り込まれているため、天井部は遺存せず、東軸部の一部が残存するだけである。規模も不明である。煙道部は、火床面からやや急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、粘土粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック少量

遺物 須恵器片1点が、出土している。第213図1は須恵器甕の体部片で、外面に縦方向の叩きが施されている。覆土中から出土している。

所見 本跡は、第81号及び第83号土坑に掘り込まれており、竈と床面及び壁の一部が検出されただけで、土層の堆積状況も観察できなかった。また、壁溝やピット等も検出されていない。時期は、遺物が出土していないため不明である。

第80号住居跡 (第214図)

位置 調査区域の北東部、B3j7区。

規模と平面形 本跡は、調査区域の北東部でトレンチ試掘中に検出され、床及び硬化面と壁の一部が確認された。西部と南部が調査区域外であるとともに、東部も攪乱を受けており、規模及び平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。検出された部分では、南部が踏み固められている。

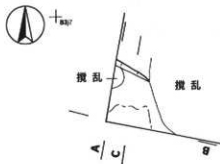
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積しているため、自然堆積と考えられる。

土層解説

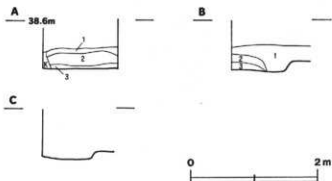
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量、粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 遺構の一部分しか検出されず、遺物も出土していない。竈・ピット及び壁溝も検出されていない。時期は、出土遺物がなく不明である。



第214図 第80号住居跡実測図



### 第95号住居跡（第215図）

位置 調査区の北東部、A4f9区。

規模と平面形 南北軸1.60m、東西軸2.62mである。北部が調査区域外となっているため、平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は33~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には、南壁の一部を除いて巡っている。上幅15~21cm、下幅4~10cm、深さ4cm前後で、断面形はU字形である。

床 確認された床面はほぼ平坦である。P1の北側から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径50cm、短径38cmの不整楕円形、深さ35cmで、配管から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

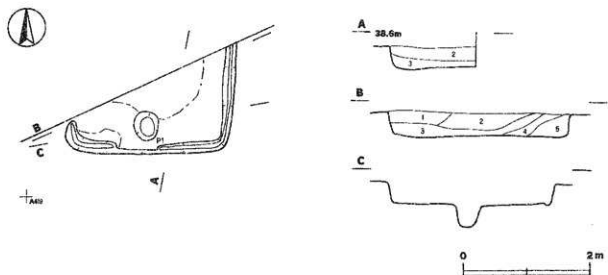
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器甕の体部片1点が出土している。

所見 本跡の甕は、北部の調査区域外となっている部分に存在すると思われる。時期は、出土遺物が土師器甕の体部片1点だけで、限定するのは難しい。



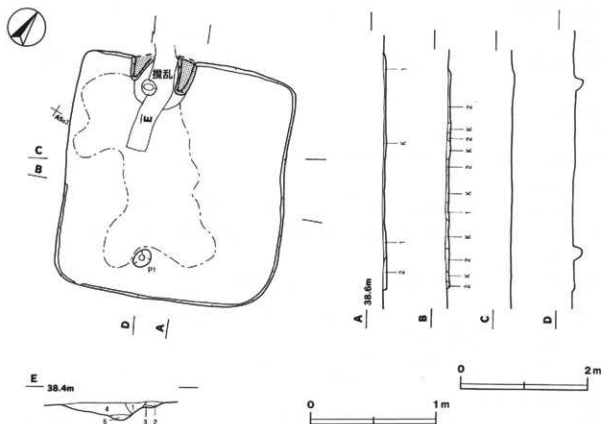
第215図 第95号住居跡実測図

### 第96号住居跡（第216・217図）

位置 調査区域の北東部、A5e3区。

規模と平面形 長軸3.84m、短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-23°-W



第216図 第96号住居跡実測図



第217図 第96号住居跡出土遺物実測図

壁 掘り込みは浅く、壁高は3～4cmで外傾して立ち上がる。

床 平坦である。竈前面から西部及び中央部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径31cm、短径24cmの不整楕円形、深さ14cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北西壁の中央部からやや西寄りに構築されている。ほぼ中央部が攪乱を受けており、天井部や火床部は明確に検出できなかった。両袖部は白色粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さは不明で、最大幅は103cmである。竈の土層は、中央部からやや西寄りで観察した。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・炭化粒子微量

遺物 出土遺物も少なく、また細片が多かった。土師器片41点が出土している。第217図1の土師器壺は竈内の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が少なく限定するのは難しい。

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 1	壺 土師器	A (17.6) B (6.6)	体部から口縁部片。体部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ刷り、ナデ。	長石・石英・赤色粒子に多い褐色普通	P300 5% PL74 竈内覆土中

第101号住居跡 (第218図)

位置 調査区域の中央部, B 3 e2 区。

重複関係 本跡は、第102号住居に掘り込まれていることから、第102号住居より古い。

規模と平面形 本跡は、南部が第102号住居に掘り込まれ、また北西部が調査区域外となっているため、規模・平面形ともに不明である。

主軸方向 不明である。

壁 検出された部分では、壁高は38cmで外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

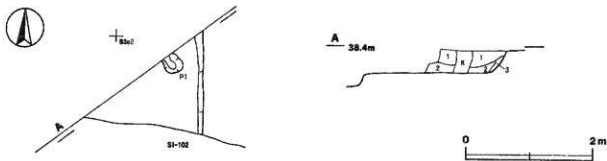
ピット 1か所。P1は北西部が調査区域外となっている。長径(28)cm、短径25cm、深さ6cmで、柱穴と推定される。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片58点、須恵器片2点が出土しているが、細片で図示できるものはない。



第218図 第101号住居跡実測図

所見 本跡は、第102号住居（8世紀前葉）に掘り込まれ、また北西部が調査区域外となっているためか、壺・釜・漆器等は検出されていない。時期は、出土土器が少なく詳細は不明であるが、第102号住居との重複関係から、8世紀前葉以前である。

#### 第102号住居跡（第219・220図）

位置 調査区域の中央部、B3e2区。

重複関係 本跡が第69号住居跡及び第101号住居跡を掘り込み、また第6号溝に掘り込まれていることから、第69号住居跡及び第101号住居跡より新しく、第6号溝より古い。

規模と平面形 長軸3.05m、短軸2.96mの方形である。

主軸方向 N-98°-E

壁 壁高は15~25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下では、北西コーナー部を除いて巡っている。上幅14~27cm、下幅5~14cm、深さ6~8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット 1か所。P1は南壁際にあり、径33cm前後の不整形円形、深さ22cmで主柱穴と思われる。P1以外にピットは検出されなかった。

竈 東壁の中央部からやや南寄り壁外に27cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、南袖部と北袖部の一部が残存している。北袖部は、砂混じり粘土が床に貼り付いた状態で遺存していた。規模は、焚口部から煙道部まで長さ64cm、最大幅67cmである。火床部は、床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用している。煙道は、火床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 赤褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土粒子少量、rome 粘土微量
- 3 赤褐色 rome 粘土少量、焼土粒子・rome 小ブロック微量
- 4 赤褐色 rome 小ブロック・rome 粘土微量
- 5 赤褐色 焼土粒子・rome 中ブロック・rome 小ブロック・rome 粘土少量、炭化粒子微量
- 6 赤褐色 rome 粘土微量
- 7 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・rome 粘土微量
- 8 赤褐色 焼土粒子中量、rome 粘土微量
- 9 赤褐色 rome 粘土少量、焼土粒子微量
- 10 赤褐色 rome 粘土中量、炭化粒子微量
- 11 赤褐色 焼土粒子少量、rome 粘土微量

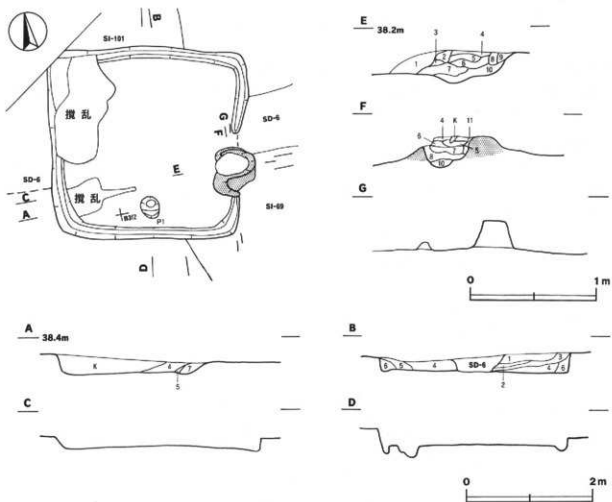
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 赤褐色 rome 中ブロック中量、rome 小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 赤褐色 rome 粘土少量、rome 中ブロック少量、rome 小ブロック微量
- 3 赤褐色 rome 粘土少量、rome 中・小ブロック微量
- 4 赤褐色 rome 中ブロック・rome 小ブロック・rome 粘土少量、炭化粒子・rome 大ブロック微量
- 5 赤褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック中量
- 6 赤褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量
- 7 赤褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック中量、炭化粒子・rome 中ブロック微量

遺物 土器片77点、須恵器片8点、土製品（土玉）1点、不明石器（剥片）1点が出土している。1の不明石器の剥片は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、時期を限定できる遺物がなく不明である。



第219図 第102号住居跡実測図



第220図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第220図1	剥片	(4.8)	3.3	1.3	(16.0)	メノウ	覆土中	Q57 PL80

### 第107号住居跡（第221図）

位置 調査区域の中央部，C 2 a 0 区。

重複関係 本跡が，第54号住居跡を掘り込んでおり，第54号住居跡より新しい。

規模と平面形 南北軸（1.48）m，東西軸（1.07）mである。東部が調査区域外となっているが，平面形は方形または長方形と推定される。

南北軸方向 N - 6° - E

壁 壁高は24cm前後で，外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁の下には，西壁の一部を除いて巡っている。上幅18～27cm，下幅4～7cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床 平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット 1か所。P1は径14cmの不整円形，深さ10cmで，柱穴と思われる。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

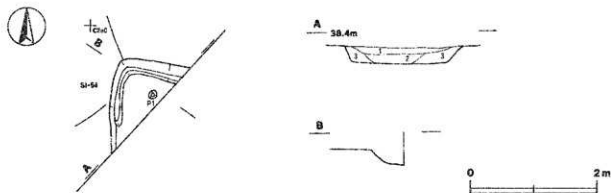
#### 土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 灰褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡は，北東コーナー部だけが検出され，床，壁，壁溝が確認されたことから，住居跡として扱った。

出土遺物がなく時期について詳細は不明だが，第54号住居跡（6世紀前半）を掘り込んでいることから，6世紀前半以降のものである。



第221図 第107号住居跡実測図

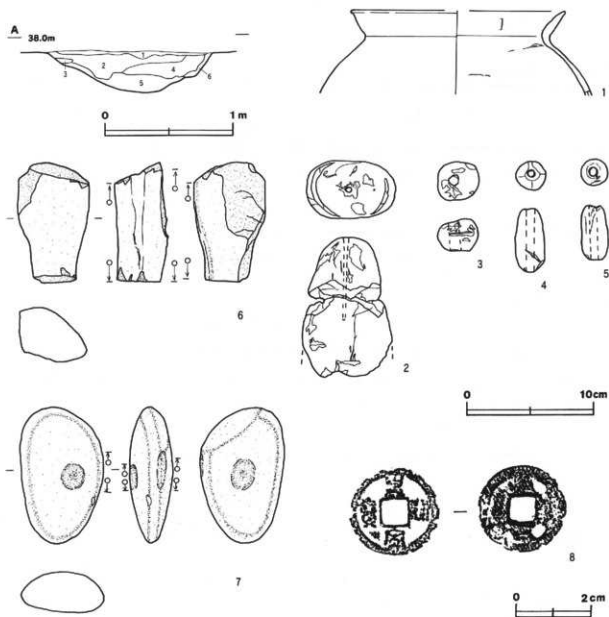
## (2) 溝 跡

### 第1号溝跡（第222図，付図1）

位置 調査区域の南西部，D 1 e 3 ～ C 1 e 0 区。

重複関係 本跡は，第4・8・14・15・20・22・27・35・41・43・44号住居跡及び第8号土坑を掘り込んでおり，これらの遺構より新しい。

規模と形状 西側及び北側は調査区域外である。長さは（66.0）mで，上幅1.20～3.00m，下幅0.40～2.40m，深さ22～64cmである。断面形は緩やかなU字形である。



第222図 第1号溝跡土層断面・出土遺物実測図

方向 D1e3区から湾曲気味に東(N-73°-W)に延び、D1e8区で北東(N-14°-E)に屈曲し、湾曲しながら延びている。

覆土 6層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片1604点、須恵器片84点、土師質土器3点、土製品4点、石器2点、古銭1点のほか、混入と思われる縄文土器片12点、弥生土器片107点が出土している。細片が多く、図示できるものは少なかった。第222図1の土師器甕、2の不明土製品、3の球状土錘、4・5の管状土錘はいずれも覆土中から出土している。6・7の磨石、8の古銭も覆土中から出土している。



所見 本跡の時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいることから、平安時代以降と思われる。

### 第1号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第2224回 1	磨土加蓋	A 15.8 B (6.7)	体部から口縁部の破片。体部は内埋し、口縁部は外埋する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部内面にヘラ当て痕。体部内面に輪組み痕。	砂粒にふい黄褐色 覆土中 普通	P407 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第224回	不明土製品	(11.1)	7.0	4.5	(307.4)	覆土中 DP155-部に穿孔跡	PL78

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第225回 1	球状土鉢	3.3	2.6	0.8	22.1	覆土中 DP156	
4	管状土鉢	2.4	5.0	0.7	20.4	覆土中 DP157	PL78
5	管状土鉢	2.1	4.1	0.7	14.9	覆土中 DP158	

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第226回 6	磨石	9.4	5.6	4.3	315.2	安山岩	覆土中 Q65	PL80
7	磨石	10.7	6.5	3.4	318.5	砂岩	覆土中 Q66	

図版番号	銭名	計測値				初唐年代 (西暦)	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
第228回 8	宋通寶	2.4	0.7	0.8	2.5	1039年北宋	M27 北越層土中 PL81

### 第2号溝跡(付図1)

位置 調査区域の南西部、D3e3～D1f7区。

重複関係 本跡は、第4・35・38号住居跡を掘り込んでおり、これらの遺構より新しい。

規模と形状 西部は調査区域外である。長さは[16.0]mで、上幅0.30～0.80m、下幅0.10～0.30m、深さは10cmで、非常に浅い。断面形は緩やかなU字形である。

方向 D1e3区から南西(N-77°-W)に、ほぼ直線的に延びている。

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく詳細は不明だが、第3・4・35・38号住居跡を掘り込んでいることから、古墳時代後期以降と思われる。

### 第3号溝跡(付図1)

位置 調査区域の南西部、D1e3～D1e4区。

重複関係 本跡は、第4・15号住居跡を掘り込んでおり、これらの遺構より新しい。

**規模と形状** 西側は調査区域外である。長さは(4.5)mで、上幅0.40～0.50m、下幅0.20～0.30m、深さ10cmで、非常に浅い。断面形は緩やかなU字形である。

**方向** D1e3区から南東(N-66°-W)に、ほぼ直線的に延びている。

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、平安時代の住居跡を掘り込んでいることから、平安時代以降と思われる。

#### 第4号溝跡(第223図、付図1)

**位置** 調査区域の南西部、C2d2～C2e4区。

**重複関係** 本跡は、第28・32号住居跡を掘り込んでおり、これらの遺構より新しい。

**規模と形状** 西部及び東部は調査区域外である。長さは(11.5)mで、上幅1.65～1.98m、下幅0.60～0.80m、深さは40～90cmである。断面形は緩やかなU字形である。

**方向** C2d2区から東(N-90°-E)に、ほぼ直線的に延びている。

**覆土** 9層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |   |     |                                  |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材微量               |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量          |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量          |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量    |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック微量               |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子中量                          |
| 7 | 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量                     |
| 8 | 黒褐色 | ローム粒子中量                          |
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡の時期は、出土土器がなく判断するのは難しいが、第28・32号住居跡を掘り込んでいることから、古墳時代後期以降である。



第223図 第4号溝跡土層断面実測図

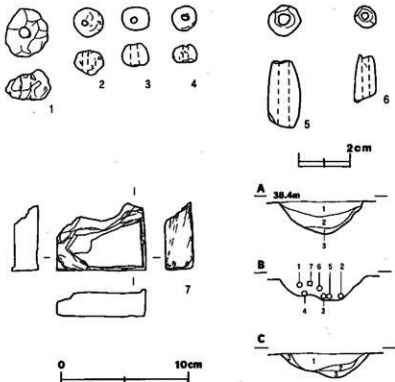
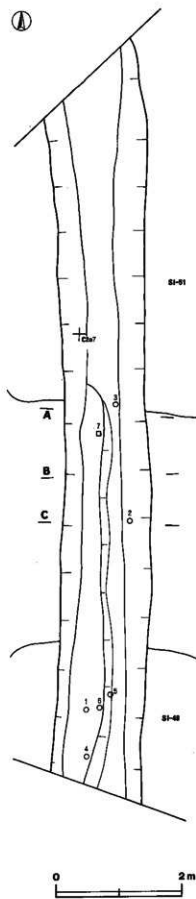
#### 第5号溝跡(第224図)

**位置** 調査区域の中央部、C2b7～B2i7区。

**重複関係** 本跡は、第48・51号住居跡を掘り込んでおり、両遺構より新しい。

**規模と形状** 南部及び北部は調査区域外である。長さは(13.0)mで、上幅1.34～1.40m、下幅0.50～0.86m、深さ25～35cmである。断面形は緩やかなU字形である。

**方向** C2b7区から北(N-2°-W)に、ほぼ直線的に延びている。



第224図 第5号溝跡・出土遺物実測図

**覆土**

A 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

C 3層からなる。Aと同じようにレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

**遺物** 土師器片768点、須恵器片69点、土製品6点が出土している。土器は細片で、図示できるものはなかった。第224図1の球状土錘と6の管状土錘は南部の覆土中層から、2・3の球状土錘は中央部の覆土下層から、4の土玉と5の管状土錘は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。7の石製硯は中央部の覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器が細片で判断できないが、第48・51号住居跡を掘り込んでいることから平安時代以降と思われる。

第5号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第24図1	球状土鏝	3.9	(2.5)	1.0	(20.7)	南部覆土中層	DP159
2	球状土鏝	2.3	(2.0)	0.5	(8.9)	中央部覆土下層	DP160
3	球状土鏝	2.1	1.8	0.5	5.7	中央部覆土下層	DP161
4	土玉	1.9	1.4	0.4	4.2	南部覆土下層	DP162
5	管状土鏝	(1.3)	(2.1)	0.4	(3.7)	南部覆土下層	DP163 PL78
6	管状土鏝	0.9	(1.9)	0.3	(1.1)	南部覆土中層	DP164

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第24図7	硯	(7.0)	(5.3)	2.3	(87.6)	粘板岩	中央部覆土中層	Q67 PL80

第6号溝跡 (第225図, 付図1)

位置 調査区域の中央部, B3e1~B3e5区。

重複関係 本跡は, 第100号及び第102号住居跡を掘り込み, 第102号及び第106号土坑に掘り込まれていることから, 第100号及び第102号住居跡より新しく, 第102号及び第106号土坑より古い。

規模と形状 東部及び西部は調査区域外である。長さは(17.0)mで, 上幅0.40~1.14m, 下幅0.14~0.54m, 深さ15~30cmである。断面形は, 緩やかなU字形である。

方向 B3e5区から西(N-97°-W)に, ほぼ直線的に延びている。

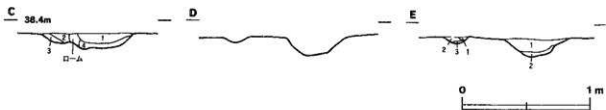
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 断褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片135点, 須恵器片4点が出土しているが, 細片が多く図示できるものはなかった。

所見 本跡の時期は, 出土土器が少なく判断するのは難しいが, 第100号及び第102号住居跡を掘り込んでいることから, 奈良時代以降である。



第225図 第6号溝跡土層断面実測図

第7号溝跡 (第226図, 付図1)

位置 調査区域の中央部, B3f2~B3f5区。

重複関係 本跡は, 第69号及び第99号住居跡を掘り込んでおり, 両遺構より新しい。



第226図 第7号溝跡土層断面実測図

**規模と形状** 東部は調査区域外である。長さは(14.2)mで、上幅0.45~0.86m、下幅0.10~0.20m、深さは10~15cmである。断面形は緩やかなU字形で、底面に凹みがある。

**方向** B3f5区から東(N-85°-W)に、ほぼ点線的に延びている。

**覆土** 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

**遺物** 土師器片66点、須恵器片4点が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはなかった。

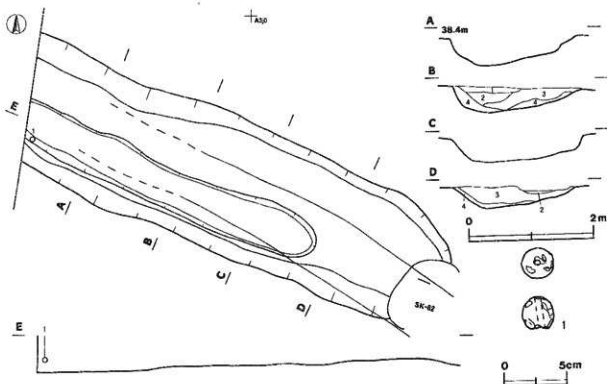
**所見** 本跡の時期は、判断できる出土器はないが、第69号及び第59号住居跡を掘り込んでいることから、古墳時代後期以降である。

**第10号溝跡 (第227図・付図)**

**位置** 調査区域の北東部、A3j9~B3a0区。

**重複関係** 本跡は、第82号土坑に掘り込まれていることから、第82号土坑よりも古い。また、本跡上に道路跡が検出されている。

**規模と形状** 西部は調査区域外である。長さは(7.5)mで、上幅1.95~2.12m、下幅1.30~1.66m、深さは32~45cmである。断面形は緩やかなU字形である。



第227図 第10号溝跡・出土遺物実測図

方向 B3j9区から北東(N-62°-W)に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 土製品(球状土錘)1点が出土している。1の球状土錘は、西部覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、判断できる土器がなく不明である。

第10号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第27図1	球状土錘	2.5	2.5	0.5	12.9	西部覆土下層	DP166

第11号溝跡(第228図)

位置 調査区域の中央部、C2b6~B2j6区。  
重複関係 本跡は、第46号住居跡を掘り込んでおり、第46号住居跡より新しい。

規模と形状 南部及び北部は調査区域外である。長さは(7.6)mで、上幅0.60~0.80m、下幅0.20~0.30m、深さは21~36cmである。断面形は緩やかなU字形である。  
方向 C2b6区からほぼ北(N-7°-W)に、ほぼ直線的に延びている。

覆土

A 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

C 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

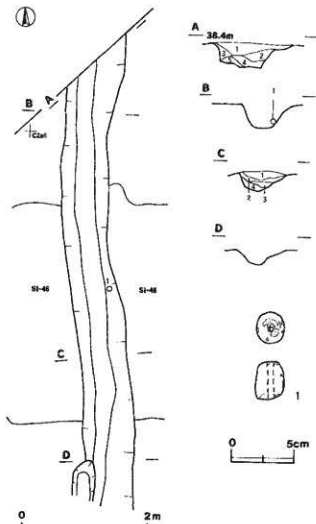
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、粘性、締まりとも抑えて強い
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 土製品(管状土錘)1点が出土している。第228

図1の管状土錘は中央部の底面から出土している。

所見 本跡の時期は、判断できる土器がなく難しいが、第46号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期以降である。



第228図 第11号溝跡・出土遺物実測図

第11号溝跡出土遺物観察表

図説番号	種 類	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第229区1	管状土鉢	2.4	3.1	0.4	17.0	中央部破面	DP166

第12号溝跡 (第229区, 付図)

位置 調査区域の北東部, B 3 b 8 ~ B 3 c 0 区。

規模と形状 東部及び西部は調査区域外である。長さは (9.0)m で、上幅0.50~0.90m, 下幅0.15~0.33m, 深さは10cmで、非常に浅い。断面形は緩やかなU字形である。

方向 B 3 c 0 区から北東 (N-55°-W) に、湾曲しながら延びている。

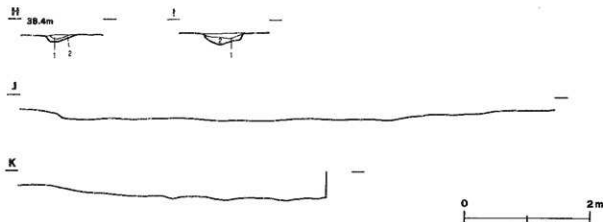
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中層
- 2 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多層

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、判断できる土器がなく不明である。



第229区 第12号溝跡土層断面実測図

(3) 土 坑

第7号土坑 (第230区)

位置 調査区域の南西部, D 1 d 7 区。

重複関係 本跡は、第9号住居跡を掘り込んでおり、第9号住居跡より新しい。

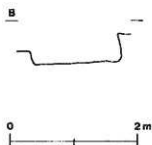
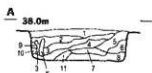
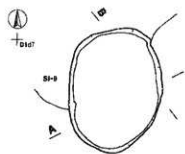
規模と平面形 長径1.96m, 短径1.46mの不整楕円形で、深さ50cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほほ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 11層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。



第230図 第7号土坑実測図

土層解説

- |    |     |   |
|----|-----|---|
| 1  | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 2  | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量             |
| 3  | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量・ローム小ブロック微量  |
| 4  | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量               |
| 5  | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量                       |
| 6  | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 7  | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量, ローム小ブロック微量      |
| 8  | 黒褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量      |
| 9  | 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量                  |
| 10 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量                          |
| 11 | 黒褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片33点, 不明鉄製品1点のほか, 混入と思われる弥生土器片5点が出土している。細片が多く, 図示できるものはなかった。

所見 本跡の時期は, 第9号住居跡との重複関係及び出土土器から, 古墳時代後期以降と思われる。

第9号土坑 (第231図)

位置 調査区域の南西部, D1a9区。

重複関係 本跡は, 第20号住居跡を掘り込んでおり, 第20号住居跡より新しい。

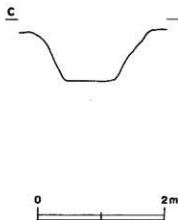
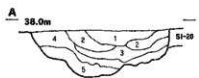
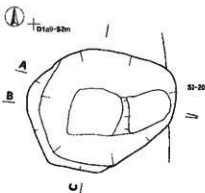
規模と平面形 長径2.35m, 短径1.87mの不整形円形で, 深さは80cmである。

長径方向 N-63°-E

壁 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなる。不自然な堆積状況から, 人為堆積と考えられる。



第231図 第9号土坑実測図



#### 土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 石2点が出土している。土器は出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく限定するのは難しいが、第20号住居跡との重複関係から古墳時代後期以降と思われる。

#### 第11号土坑（第232図）

位置 調査区域の中央部、C2a7区。

重複関係 本跡は、第51号住居跡を掘り込んでおり、第51号住居跡より新しい。

規模と平面形 長径2.00m、短径1.98mの不整形円で、深さは25cmである。

長径方向 N-0°

壁 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

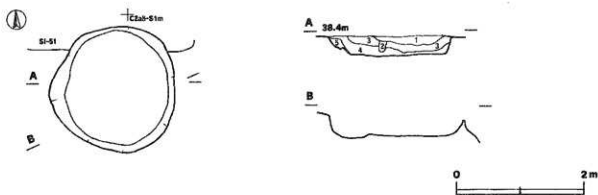
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片52点、須恵器片2点、鉄滓1点のほか、混入と思われる縄文土器片1点が出土している。細片が多く、図示できるものはなかった。

所見 本跡の時期は、第51号住居跡との重複関係及び出土土器から古墳時代後期（6世紀末から7世紀初め）以降と思われる。



第232図 第11号土坑実測図

第13号土坑 (第233図)

位置 調査区域の中央部, B 3 h 4 区。

規模と平面形 長径0.30m, 短径0.25mの不整楕円形で, 深さは26cmである。

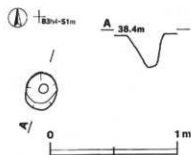
長径方向 N-0°

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 遺物は, 貝だけが多量に出土し, 土器は出土していない。

所見 本跡からは, ハマガリなどの多量の貝が出土しており, 廃棄されたものと思われる。本跡の時期は, 出土土器がなく判断するのは難しい。



第233図 第13号土坑実測図

第86号土坑 (第234図)

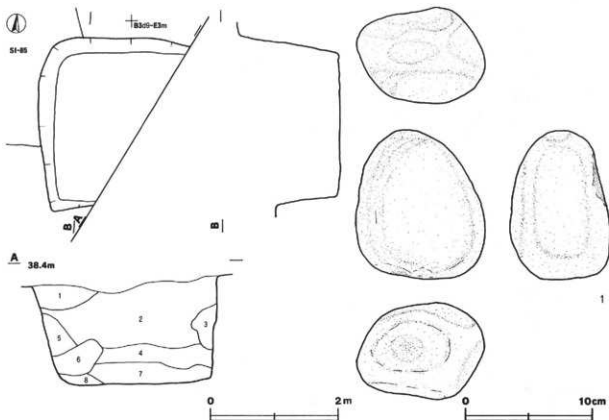
位置 調査区域の北東部, B 3 d 9 区。

重複関係 本跡は, 第85号住居跡を掘り込んでおり, 第85号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸2.66m, 短軸(2.05)mで, 東部が調査区域外のため平面形は不明である。深さは135cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。



第234図 第86号土坑・出土遺物実測図

底面 平坦である。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 黒色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 8 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片21点、須恵器片7点、石器（磨石）1点が出土している。1の磨石は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、判断できる土器は出土していないが、第85号住居跡との重複関係から古墳時代後期以降である。

第86号土坑出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
表33図1	磨石	11.7	10.2	7.6	1330.0	安山岩	覆土中	Q63礫石、凹石兼用

(4) その他の土坑

第1号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

**第12号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**第14号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

**第30号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

**第45号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第49号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第51号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土中ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第55号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

**第57号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黒色土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック多量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

**第62号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック多量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

**第63号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

**第64号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第69号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第72号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子多量、焼上粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

**第77号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

**第78号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量

**第79号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量

**第80号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

**第81号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼上土小ブロック・焼上粒子微量

**第82号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

**第83号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

**第84号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第85号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・黒色土大ブロック多量、ローム中ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**第87号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量

**第88号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色十小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**第89号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

**第90号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量

**第95号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

**第96号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック多量

**第101号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量

**第102号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

**第103号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

**第105号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

**第106号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**第107号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

**第109号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

**第109号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第110号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量

**第111号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**第114号土坑土層解説**

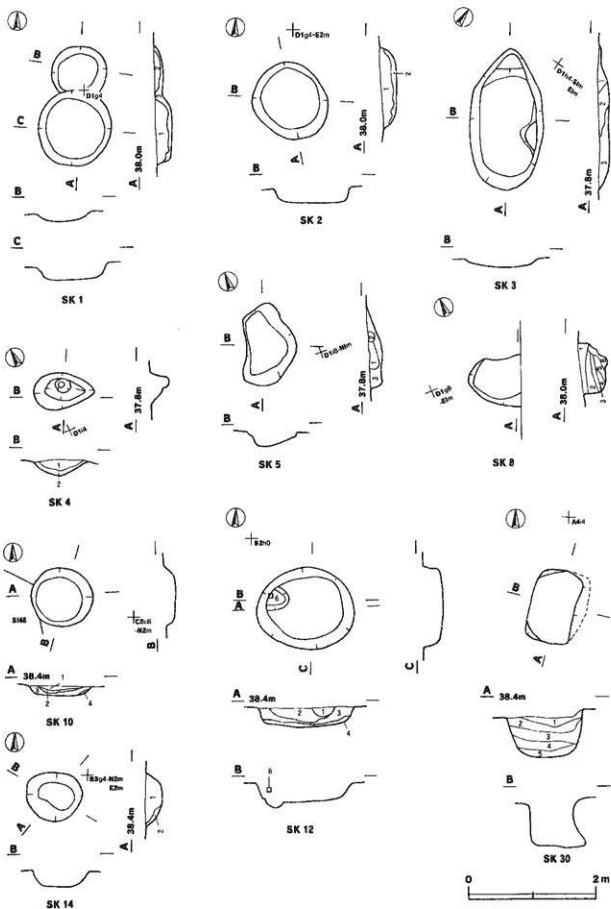
- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

**第119号土坑土層解説**

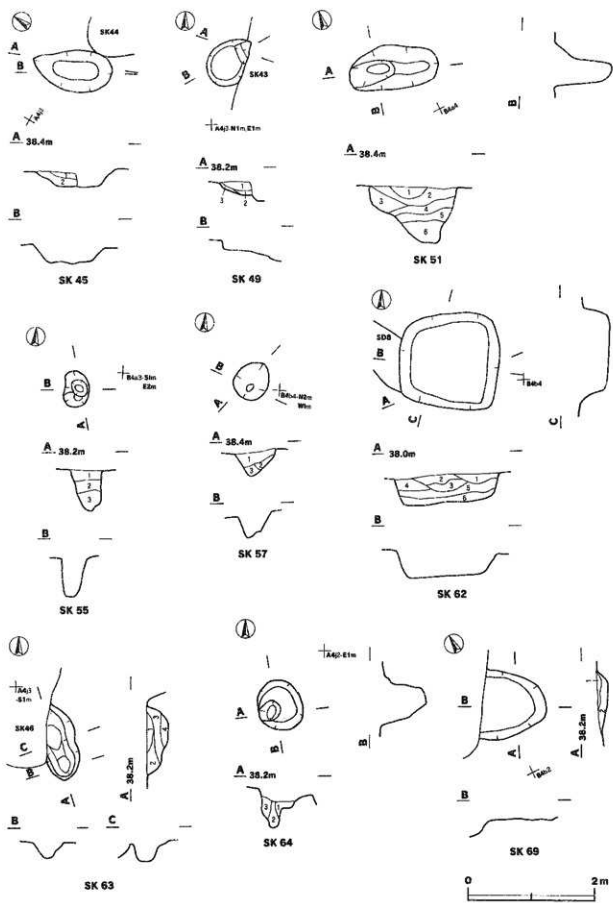
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

**第120号土坑土層解説**

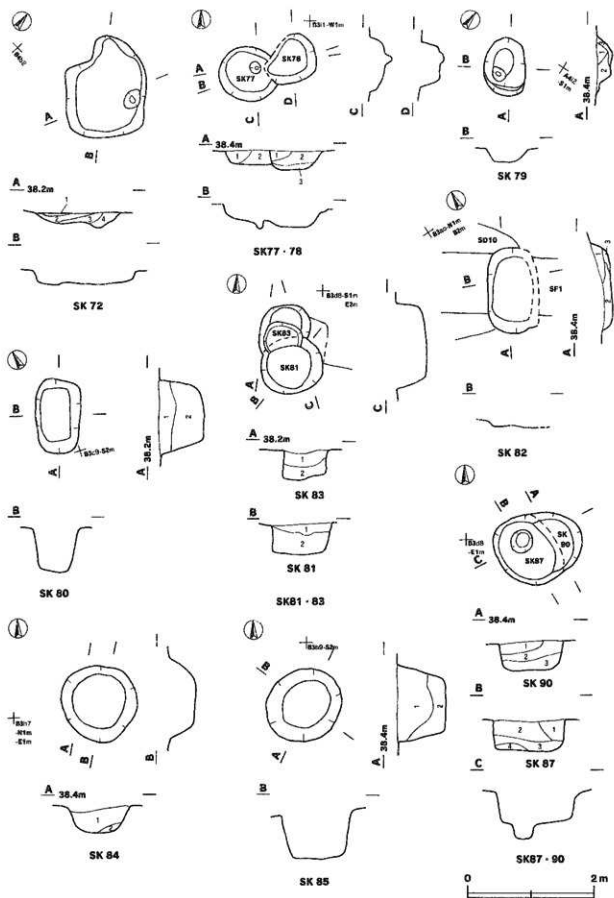
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量



第235図 その他の土坑実測図(1)

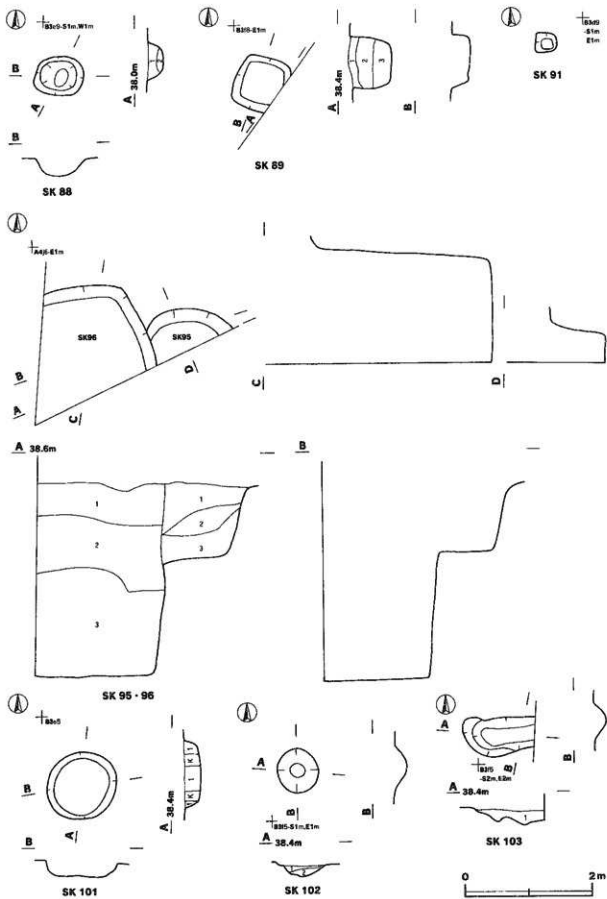


第236図 その他の土坑実測図(2)

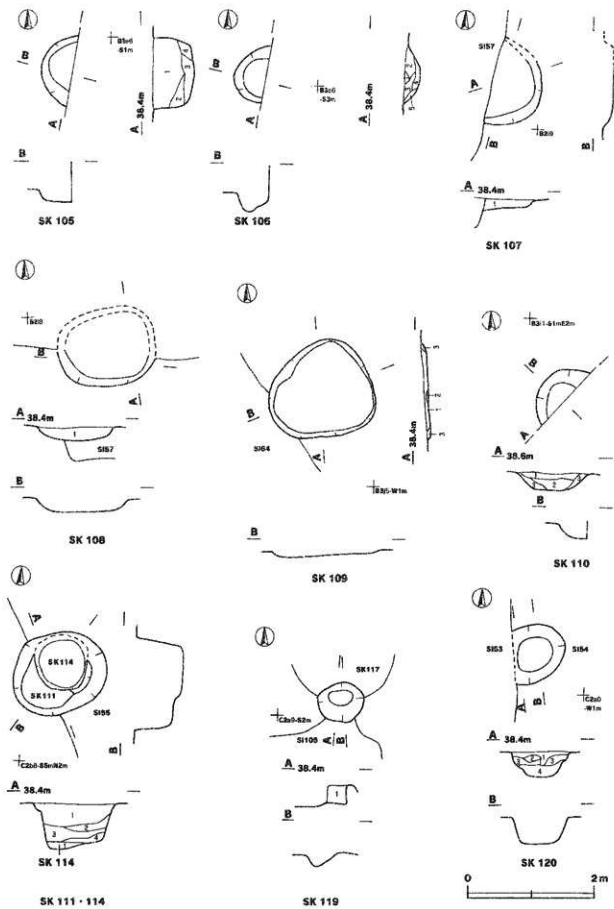


第237図 その他の土坑実測図(3)

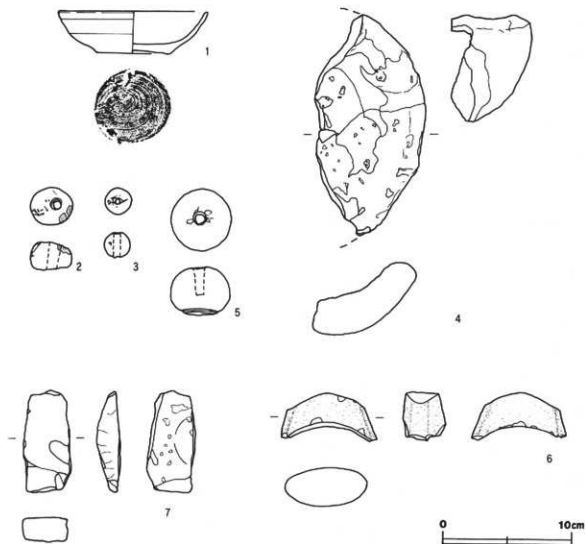




第238図 その他の土坑実測図(4)



第239図 その他の土坑実測図(5)



第240図 その他の土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第240図 1	坏 土器	A 11.8 B 3.5 C 5.8	突出気味の平底。体部は内押しながら立ち上がる。口縁部端部はわずかに肥厚する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P404 75% PL74 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第240図2	球状土鉢	3.4	(2.2)	0.9	(19.1)	覆土中	DP149
3	球状土鉢	2.1	2.0	0.5	7.3	覆土中	DP150

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第240図4	埴 埴	(17.5)	(8.8)	3.0	(445.9)	覆土中	DP144

図表番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
表4005	不明石製品	4.8	4.8	3.8	108.0	凝 灰 岩	履 土 中	Q80	PL80
6	帯 石	( 3.8)	( 7.6)	( 3.1)	(100.5)	凝 灰 岩	履 土 中	Q59	PL80
7	砥 石	8.0	3.9	1.8	74.0	安 山 岩	履 土 中	Q64	

### (5) 道路状遺構

#### 第3号道路状遺構（第241図，付図1）

位置 調査区域の北東部，A4g7～A4f7区。

重複関係 本跡は，第89号住居跡を掘り込んでおり，第89号住居跡より新しい。

規模と形状 北部は調査区域外である。長さは（10.5）mで，上幅0.92～1.05m，下幅0.75～0.90m，深さは26～35cmである。断面形は逆台形である。

方向 A4g7区から北東（N-30°-E）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は，判断できる土器は出土していないが，第89号住居跡を掘り込んでいることから，古墳時代後期以降と思われる。



第241図 第3号道路状遺構土層断面実測図

表2 西平遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	方位	平面形状	規模(m) (長横×短横)	壁高 (cm)	内部構造							出土	出土遺物	時期	備考	
						壁面	柱間	柱長	土間	土間厚	土間材	土間厚					土間材
1	D1g7	N-53°E	[方形]	(2.50)×(1.70)	25-34	凸出	一部	-	-	1	-	-	土	土層第2	不明	本跡→SI-2	
2	D1g7	N-4°E	方形	6.00×5.54	30-37	平垣	全面	4	1	5	1	-	土	土層第17, 土層上層1, 管状土層2	不明	土層→SI-4→本跡	
3	D1g5	N-0°	矩形	5.28×3.47	15-20	平垣	-	-	-	2	1	1	土	自然	弥生土層72, 土層1	弥生後期	本跡→SI-4→SD-2
4	D1f5	N-20°E	矩形	5.15×4.56	14-17	平垣	一部	4	-	1	1	1	土	土層第512, 弥生土層1, 土層上層19, 土層上層1, 土層上層5	古墳後期	SI-3→本跡→SD-1	
5	D1g3	N-12°E	[方形]	(2.66)×(1.63)	12-15	平垣	部	-	-	1	1	-	土	土層第35, 土層上層1	平安	SI-6→本跡	
6	D1f3	N-0°	[方形]	(3.00)×(2.00)	21	凸出	-	-	-	-	-	-	土	土層第36, 弥生土層2, 土層1	古墳中期	本跡→SI-5, SI-20	
7	D1d6	N 105°E	矩形	(3.73)×(2.83)	不明	凸出	-	-	-	2	-	-	土	自然	土層第9	不明	SI-5→本跡→SI-15b1
8	D1d5	N 39°E	矩形	(7.86)×(4.35)	33-25	平垣	全面	2	1	5	-	-	土	土層第156, 弥生土層1, 土層上層1, 弥生土層84, 管状土層1	古墳中期	SK-6本跡→SI-33	
9	D1e7	N 37°W	方形	5.33×5.24	11-36	平垣	全面	4	1	2	2	-	土	土層第37, 弥生土層1, 土層上層1, 弥生土層84, 管状土層1	古墳中期	SI-10→本跡→SI-5b7	
10	B1d8	N-54°E	[矩形]	(4.63)×(2.85)	10-17	平垣	一部	-	-	1	1	1	土	土層第57, 弥生土層1, 土層上層1, 弥生土層84, 管状土層1	古墳中期	本跡→SI-9-11-13	
11	D1d8	N-35°W	方形	5.30×5.13	25-50	平垣	全面	4	1	1	1	-	土	土層第565, 弥生土層2, 弥生土層1, 管状土層1, 土層上層1, 土層上層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	本跡→SI-13→本跡	
12	D1g3	N-20°E	[矩形]	(3.47)×(2.71)	6	平垣	部	-	-	8	1/2	-	不明		不明	本跡→SI-5	
13	D1d6	N 22°W	矩形	(5.64)×(4.92)	12-15	平垣	部	4	-	2	1	1	不明	土層第160, 弥生土層3, 有孔土層1	古墳中期	SI-10→本跡→SI-11	
14	D1d6	N 33°W	矩形	(3.20)×(4.20)	5-7	平垣	部	2	-	1	1	1	不明	弥生土層52, 土層上層3, 土層1	弥生後期	本跡→SD-1	
15	D1e4	N-0°	[方形]	3.20×[2.87]	27-31	平垣	部	-	-	1	1	1	自然	土層第25, 弥生土層2, 土層上層1	古墳後期	本跡→SI-1, 3	
16	C1j2	N-0°	[方形]	(3.00)×(1.46)	不明	凸出	-	-	-	-	-	-	不明	土層第8, 弥生土層3, 弥生土層1, 土層上層1	不明	[SI-21→本跡]	
17	D1e6	N-0°	[方形]	3.34×[2.87]	不明	平垣	部	-	-	6	-	-	無	土層第8, 弥生土層1	平安	SI-8→SI-33→本跡	
18	C1i7	N-21°W	[方形]	(1.87)×(4.50)	33-41	平垣	全面	1	1	1	-	-	土	土層第494, 弥生土層4, 管状土層1	古墳後期		
19	C1d8	N-36°W	[矩形]	(2.40)×(3.17)	16-25	平垣	部	-	-	1	-	-	土	土層第136, 弥生土層1, 管状土層1, 土層上層4, 土層上層4	古墳後期		
20	D1h3	N-3°W	方形	6.56×6.46	14-27	平垣	全面	4	1	-	-	-	土	土層第194, 弥生土層1, 土層上層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	SI-22→本跡→SK1-SI-1	
21	C2j1	N-50°W	方形	3.35×3.42	2-10	平垣	部	-	-	-	1	-	自然	土層第325, 弥生土層6, 土層上層1	古墳後期	[本跡→SI-16]	
22	C1j10	N-41°W	[方形]	5.24×[5.21]	32-34	平垣	部	4	-	-	-	-	自然	土層第70, 弥生土層4, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	本跡→SI-5a→SI-5b1	
23	C2j1	N-0°	方形	5.12×4.70	30-34	平垣	全面	4	1	-	-	-	土	土層第70, 弥生土層4, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	SI-41→本跡	
24	C1j10	N-6°W	不明	(5.22)×(4.60)	48	平垣	全面	-	-	5	-	-	自然	土層第416, 弥生土層2, 土層上層1	古墳後期	SI-43→44→本跡	
25	C2g2	N 14°W	矩形	3.50×2.90	14-28	平垣	部	-	-	-	-	-	自然	土層第256, 弥生土層2, 土層上層1, 土層上層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期		
27	C2e1	N-25°W	[矩形]	4.68×(5.70)	24-30	平垣	部	2	1	-	-	-	自然	土層第11, 弥生土層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	本跡→SD-1	
28	C2d2	N-29°W	方形	4.60×4.70	37-64	平垣	全面	4	1	-	-	-	土	土層第211, 弥生土層2, 土層上層10, 土層上層10, 土層上層10	古墳後期	SI-37→48→SI-36, SD-4	
29	C2d4	N-39°W	方形	4.42×4.70	8-13	平垣	全面	4	1	5	1	-	自然	土層第104, 弥生土層3&4, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	SI-14→49→SI-38, SI-10	
31	C2e5	N-12°W	不明	(7.80)×(5.60)	29-34	平垣	全面	-	-	7	1/1	-	土	土層第30, 弥生土層2, 土層上層1	平安	SI-29→本跡	
32	C2c3	N-15°W	不明	(3.30)×(4.86)	30-35	平垣	一部	1	-	2	1/1	1	土	土層第63, 弥生土層4, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	本跡→SD-4	
33	D1d5	N-0°	[矩形]	(6.10)×(5.10)	30	平垣	部	4	1	3	-	-	不明	土層第1	古墳後期	SK-6→SI-6→48→SI-7	
34	D1h2	N-17°E	不明	不明	16	平垣	部	-	-	-	1	-	不明	土層第1	平安		
35	D1e8	不明	不明	(0.95)×(1.05)	12	平垣	一部	-	-	-	-	-	不明	土層第59, 弥生土層1	古墳後期	本跡→2, 3&4, SI-1, 2	
36	C2e3	N-112°E	方形	2.55×2.44	20-27	平垣	部	-	-	-	1	-	自然	土層第192, 弥生土層4, 弥生土層85	平安	SI-37→SI-28→本跡	
37	C2e1	N-4°W	[矩形]	(4.52)×(4.02)	34-38	平垣	部	4	1	33	1/1	-	土	土層第	弥生後期	本跡→SI-29→SI-36	
38	D1e5	N-0°	不明	(3.43)×(1.86)	不明	凸出	-	-	-	-	-	-	不明	土層第1	不明	SI-6→本跡→SD-2	
40	C2f4	N-6°W	[方形]	(3.50)×(3.10)	不明	平垣	部	-	-	2	-	-	不明	土層第22	不明	本跡→SK-121	
41	C2h1	N-22°W	[矩形]	6.00×5.86	40-55	平垣	一部	4	1	7	1/1	1	土	土層第	弥生後期	本跡→SI-32→SD-1	
42	C1j10	N 23°W	方形	3.39×3.37	29-36	平垣	全面	4	1	4	1	-	自然	土層第126, 弥生土層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	SI-22→本跡	
43	C1i10	不明	不明	不明	20	平垣	一部	1	-	-	-	-	不明	土層第23, 弥生土層1	古墳後期	本跡→SI-21→SD-1	
44	C1f10	不明	不明	不明	10-24	平垣	部	-	-	-	-	-	自然	土層第10の土層部	不明	本跡→SI-24→SD-1	
46	C2b7	N-0°	方形	3.50×3.40	45-58	平垣	全面	-	-	1	3	1	-	土	土層第65, 弥生土層4, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	本跡→SD-11
48	C2b7	N-6°E	不明	4.12×(2.95)	50-25	平垣	全面	3	-	5	1	-	自然	土層第732, 弥生土層10, 土層上層10, 土層上層10, 土層上層10, 土層上層10	平安	本跡→SK10, SD-5	
49	C2c8	N-29°E	不明	(2.40)×(0.71)	48	平垣	部	-	-	-	-	-	自然	土層第10の土層部	不明		
50	B2h8	N-16°W	[矩形]	(2.65)×(2.33)	26-26	平垣	部	-	-	-	1	-	自然	土層第1, 弥生土層1, 土層上層1, 土層上層1	古墳後期	SI-33→SI-51→SI-52→本跡→SI-68	

作探號 番号	探探 方向	平高距 (真極×包圍)	規模(m) (真極×包圍)	壁高 (m)	床面	内部施設				覆土	西上遺物	時期	備考 新編關係(古-新)			
						塙溝 土柱穴	土人 (土人)	伊 土	竈							
51	B2 J7	N 2° E	方 形	6.20 × 6.01	22-58	平垣	部	4	1	16	竈 1	-	自然	土層第18區、須惠器 18、土製品 土層第19區、須惠器 19、土製品 土層第20區、須惠器 20、土製品	古墳後期	本跡→SI-50→SI- 51(50-52+1)、SI-5
52	B2 J8	N 90° E	長方形	4.78 × 3.34	20-30	平垣	部	-	-	3	竈 1	-	自然	土層第21區、須惠器 4、土製品 2、 石器(石鏃) 1、陶器土層第 2	古墳後期	SI 33-4跡→SI 50-51
53	B2 J8	N 0°	方 形	4.30 × 4.15	17-42	平垣	穴	4	1	2	竈 1	-	自然	土層第306、須惠器 4、土製品 3	古墳後期	SI 33-4跡→SI 50-51
54	B2 J9	N-18° W	長方形	3.74 × 2.75	8	平垣	部	-	-	1	竈 1	-	自然	土層第106、須惠器 3	平安	本跡→SI 52→SI 50→ SI 51(50-51)7-2跡 →SI 51(50-51)9-8跡 →SI 117-120、SI 107
55	C2 a8	N-25° W	[方形]	[5.43] × [5.40]	14-35	平垣	[穴]	3	1	8	竈 1	-	自然	土層第236、土製品(埴土器) 土層第237、土製品(埴土器) 土層第238、土製品(埴土器)	古墳後期	本跡→SI 105-108-54 →SI 111-117-119
56	B2 I9	N 0°	方 形	3.88 × 3.62	40-50	平垣	全周	4	2	-	竈 1	-	自然	土層第406、土製品(土器) 土層第407、土製品(土器)	古墳後期	本跡→SI 54
57	B2 h8	N-8° E	[方形]	3.95 × (3.40)	53-60	平垣	[穴]	2	1	8	-	-	自然	土層第308、須惠器 11、土製品(須惠器) 1	平安	SI 107→4跡→SK 108
58	B2 h9	N-6° E	長方形	3.20 × 2.76	18-30	平垣	全周	-	-	1	-	-	自然	土層第282、須惠器 17、土製品 1、須惠器 1	平安	
60	B2 I0	N-5° W	方 形	2.80 × 2.70	4-7	平垣	-	-	-	-	-	-	自然	土層第4、須惠器 1、土製品 1、須惠器 1	不明	
62	B2 g9	N-5° W	不明	(3.92) × (4.70)	43-47	平垣	部	3	1	2	-	-	自然	土層第500、須惠器 1、土製品(埴土器) 土層第501、須惠器 1、土製品(埴土器)	古墳後期	
64	B3 I3	N-33° W	不明	5.57 × (4.27)	17-22	平垣	一部	2	-	6	竈 1	-	自然	土層第264、土製品(埴土器) 2	古墳後期	SI 8-9-51-55→SI 33
65	B3 I3	N-1° E	不明	3.00 × (2.21)	26	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第265、須惠器 2	奈良	SI 64→4跡→SI 66
66	B3 h3	N-2° W	方 形	3.10 × 2.92	19-40	平垣	部	-	-	1	竈 1	-	自然	土層第275、須惠器 6、石器 1、土製品 1	平安	SI 64→SI 65→4跡
67	B3 g5	N 10° W	椭圆形	5.40 × 4.55	48-35	平垣	一部	4	1	16	竈 1	-	自然	土層第 1	古墳後期	本跡→SI 69-SK-29
68	B2 J8	N 90° E	[方形]	3.39] × [3.35]	3-11	平垣	-	-	-	-	-	-	不明	土層第295、須惠器 6、土製品 1	平安	SI 53→SI 51→SI 51 28→SI 51 50→本跡
69	B3 I2	N 150° E	[椭圆形]	[6.12] × [4.00]	14-18	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第726、須惠器 14、土製品 (埴土器) 2、石製品(石鏃) 1	古墳後期	SI 51-10→SI 67
70	B3 d4	N 91° E	長方形	3.62 × 2.72	10-15	平垣	部	-	-	1	竈 1	-	自然	土層第296、須惠器 3、土製品 2 不明須惠器 2、陶器 1、石器 1	平安	
77	B3 b6	N-8° E	方 形	3.29 × 3.12	38-32	平垣	部	4	1	-	竈 1	-	自然	土層第172、須惠器 38、土製品 (埴土器) 2、内器(磁器) 1	古墳後期	本跡→SK 75
78	B3 d8	N-40° E	不明	不明	34	平垣	部	-	-	-	竈 1	-	不明	須惠器 1	不明	本跡→SK 81-83
79	B3 b8	N 15° E	不明	3.06 × (0.84)	10	平垣	一部	-	-	1	-	-	自然	土層第34、須惠器 16	平安	本跡→SI 83
80	B3 J7	不明	不明	不明	12	平垣	-	-	-	-	-	-	自然		不明	
81	B3 I7	[N-9° E]	不明	不明	32	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第86、須惠器 1、土製品 1	平安	
82	A3 h9	不明	不明	不明	57	平垣	部	2	-	-	-	-	自然	土層第29、土製品 1	古墳後期	
83	B3 a8	N 90° E	不明	2.94 × (0.85)	7-14	平垣	部	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第48、須惠器 4、瓦片 1	平安	SI-79→本跡
85	B3 d8	N 26° W	不明	3.12 × (2.40)	19	平垣	一部	3	-	-	竈 1	-	自然	土層第179、須惠器 3	古墳後期	本跡→SK-86
87	A4 h4	N-14° W	[方形]	2.99 × [2.89]	37-45	平垣	部	1	1	3	竈 1	-	自然	土層第35、須惠器 1、土製品 1	平安	本跡→SK-38
88	A4 J1	N 17° W	[方形]	3.33 × 2.73	35-40	平垣	全周	4	1	1	竈 1	-	自然	土層第24、須惠器 1、土製品 1	古墳後期	本跡→SI 59
89	A4 I7	不明	不明	(3.77) × (2.77)	20	平垣	-	-	-	-	-	-	自然	土層第183、須惠器 1、土製品(埴土器) 1	古墳後期	本跡→SI 3
91	A4 h7	N-65° E	椭圆形	3.70 × 3.90	20-30	平垣	部	4	-	-	竈 1	-	自然	土層第 1、土製品 1	古墳後期	本跡→SI 92
92	A4 I8	N-10° E	不明	3.10 × (2.91)	17	平垣	部	1	-	-	竈 1	-	自然	土層第111、須惠器 1	古墳後期	SI 91→本跡
93	A4 h0	N 1° E	不明	(5.79) × (5.59)	32-58	平垣	[穴]	3	-	1	竈 1	-	自然	土層第265、須惠器 270、土製品 土層第 1、土製品 1、土製品(埴土器) 1	平安	
94	A4 I9	N-9° E	長方形	5.16 × 4.55	43-46	平垣	全周	4	1	-	竈 1	-	自然	土層第317、須惠器 14、土製品 2	奈良	
95	A4 I9	不明	不明	(3.60) × (2.62)	33-31	平垣	部	-	-	1	-	-	自然	土層第 1	不明	
96	A5 e3	N-23° W	方 形	3.84 × 3.50	3-4	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第41	不明	
97	A3 e4	N 11° W	椭圆形	(5.67) × (5.55)	12-30	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第 1、土製品 1	古墳後期	
98	A5 e6	N 9° E	不明	(1.72) × 3.55	25	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第47、須惠器 8	奈良	
99	B3 g5	N 4° E	椭圆形	4.34 × (1.37)	25-34	平垣	部	2	-	-	-	-	自然	土層第 1	古墳後期	本跡→SI-7
100	D3 I3	[N 90° E]	不明	不明	8	平垣	部	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第22、須惠器 1	古墳後期	SI 40→本跡→SI 6
101	B3 e2	不明	不明	不明	38	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然	土層第38、須惠器 2	不明	本跡→SI 102
102	B3 e2	N-96° E	方 形	3.05 × 2.96	15-25	平垣	部	1	-	-	竈 1	-	自然	土層第272、須惠器 8、土製品 (埴土器) 1、不明須惠器 1	不明	SI 40-101→本跡→SI 1
105	C2 a9	N 0°	方 形	2.34 × 2.24	22-34	平垣	部	-	-	1	竈 1	-	自然	土層第286、須惠器 9、土製品 1、石器 1	平安	SI 55→本跡→SK-119
106	C2 a5	N-42° E	椭圆形	2.40 × (1.80)	15-30	平垣	-	-	-	-	-	-	人為	土層第 1	不明	
107	C2 a0	N-6° E	不明	(1.48) × (1.07)	24	平垣	部	-	-	-	-	-	不明		不明	SI 54→本跡

表3 西平遺跡溝跡一覽表

溝跡 序號	位置	方向	形狀	寬			溝面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田關係(古→新)	
				溝底寬(m)	上幅(m)	下幅(m)						深(m)
1	D165~C165	N-73°-W	曲線	(68.00)	1.25~3.05	0.30~0.40	22~41	凹形	平頂	人為	土師器163, 須惠器21, 土師器1 陶片, 古錢1, 陶文土師器3, 古 土蓋107, 土版瓦4, 石蓋2	SI 4・8・11・15・20・22・27・ 33・41・43・44, SK 8→9跡
2	D342~D177	N-77°-W	直線	[16.00]	0.30~0.40	0.30~0.32	49	凹形	平頂	不明		SI-3・4・35・38→本跡
3	D143~D144	N-65°-W	直線	(4.50)	0.40~0.20	0.20~0.30	40	凹形	平頂	不明		SI 4・15→本跡
4	C262~C261	N-90°-E	直線	(11.50)	1.65~1.85	0.20~0.30	40~70	凹形	平頂	自然		SI-28・32→本跡
5	C261~B217	N-2°-W	直線	(3.00)	1.24~1.40	0.30~0.40	25~35	凹形	平頂	自然	土師器768, 須惠器49, 土版瓦4	SI-48・54→本跡
6	B341~B315	N-97°-W	直線	(17.00)	5.40~1.34	0.4~0.54	15~20	凹形	平頂	自然	土師器135, 須惠器4	SI-100~102→本跡-SK 102・106
7	B312~B315	N-85°-W	直線	(14.20)	5.45~0.48	0.30~0.20	10~15	凹形	凹形	自然	土師器66, 須惠器4	SI-69・99→本跡
8	B342~B343	N-90°-W	直線	(6.00)	2.50~0.80	0.21~0.41	14~28	凹形	平頂	自然	古錢?	本跡-SK 62・71
9	A319~B346	N-62°-W	直線	(7.50)	1.65~2.12	1.32~1.66	32~45	凹形	平頂	自然	土師器(鐵杖1跡) 1	本跡-SK 62, SF 1
10	C236~B219	N-7°-W	直線	(7.60)	0.60~0.40	0.20~0.30	21~26	凹形	平頂	自然	土師器(鐵杖1跡) 1	SI-16→本跡
12	B236~B240	N-53°-W	直線	(9.80)	0.30~0.90	0.10~0.32	40	凹形	平頂	自然		

表4 西平遺跡方形形竈穴狀遺構一覽表

遺構 序號	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	寬		溝面	底面	覆土	出土遺物	SK	備考 新田關係(古→新)
				長(m)	短(m)						
1	A 4 14	N-9°-E	長方形	2.36 × 1.42	60	垂直	平頂	人為	土師器1, 不明鉄製品1, 古錢2, 鐵片1	SK-33	SK 40→本跡
2	A 4 12	N-82°-W	長方形	2.38 × 1.25	120	垂直	平頂	人為	土師器4, 須惠器1	SK-34	本跡-SK-56
3	A 4 12	N-15°-E	長方形	2.07 × 1.49	60	外傾	平頂	人為	土師器27, 須惠器2	SK-36	
4	A 4 12	N-67°-W	長方形	2.04 × 1.68	58	垂直	平頂	自然	土師器20, 須惠器2, 土 版瓦(貫杖上跡) 1	SK-37	
5	A 4 14	N-25°-E	長方形	2.13 × 1.83	90	垂直	平頂	人為	土師器6, 礫石1	SK-38	SI-67→本跡
6	A 4 12	N-17°-E	方形	[1.12] × 1.03	51	外傾	平頂	自然		SK-39	本跡-SK-46・47
7	A 4 14	N-20°-E	[方形]	[2.04] × 1.91	51	垂直	平頂	自然		SK-40	本跡-SK 33・ 41
8	A 4 13	N-66°-W	長方形	1.72 × 1.21	41	外傾	平頂	不明	土師器7, 鐵片1	SK-41	SK-10→本跡-SK 33
9	A 4 13	N-19°-E	長方形	2.14 × 1.59	41	外傾	平頂	人為		SK-43	SI-103, SK 49→本跡
10	A 4 12	N-11°-E	長方形	2.19 × 1.87	55	外傾	平頂	自然	土師器3	SK-46	SK 39→本跡-SK 47
11	A 4 12	N-80°-W	[方形]	[1.36] × [0.92]	42	外傾	平頂	自然		SK-47	SK 39・46→本跡
12	A 4 13	N-97°-E	長方形	2.40 × 1.26	100	垂直	平頂	自然		SK-56	SK-34→本跡
13	A 4 12	N-106°-E	長方形	2.25 × 1.83	31	外傾	平頂	自然	土師器32	SK-58	
14	B 4 a 1	N-20°-W	長方形	3.25 × 1.35	50	垂直	平頂	自然	土師器31, 須惠器3, 土師器1	SK-59	SI-88→本跡
15	B 4 a 1	N-32°-E	長方形	2.34 × 1.97	57	外傾	平頂	自然	土師器1	SK-65	SK 49→本跡-SK 66
16	B 4 a 1	N-15°-E	長方形	2.02 × 1.96	120	垂直	平頂	人為		SK-66	SK 65→本跡-SK 75
17	A 4 12	N-64°-W	長方形	1.94 × 1.62	39	垂直	平頂	自然	土師器2, 須惠器1	SK-67	SK-70→本跡
18	B 4 b 2	N-71°-W	長方形	1.52 × 0.88	32	外傾	平頂	自然	萬骨, 土師器4, 須惠器1	SK-68	
19	A 4 11	N-64°-W	長方形	1.94 × 1.62	59	外傾	平頂	人為	土師器16, 須惠器5	SK-70	SK-73→本跡-SK 67
20	B 4 a 2	N-8°-E	長方形	1.62 × 1.13	50	外傾	平頂	自然		SK-71	本跡-SD-8
21	A 4 11	N-20°-E	長方形	[1.00] × [0.80]	45	外傾	平頂	人為	土師器1, 不明鉄製品1	SK-73	本跡-SK-70

表5 西平遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位置	長軸方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 發掘關係(古→新)
				長(米)×短(米)	深さ(cm)					
1	D 1 g3	N-3°-E	不定形	1.86 × 1.15	23	外傾	平坦	不明		
2	D 1 g1		円形	1.24 × 1.18	22	外傾	平坦	不明		
3	D 1 h1	N-32°-W	楕円形	2.22 × 1.15	13	緩斜	平坦	不明		
4	D 1 h4	N-66°-W	楕円形	0.96 × 0.57	30	外傾	凹状	不明		
5	D 1 h6	N-18°-E	不整楕円形	1.30 × 0.83	23	緩斜	凹状	不明	土製品(埴輪) 1	
6	D 1 d5	N-46°-W	不定形	(4.92) × 2.04	12	緩斜	凹状	人為	灰土壘	本跡→SI-8→SI-23
7	D 1 d7	N-0°	不整楕円形	1.96 × 1.46	50	垂直	平坦	人為	土師器33, 不明土師器1, 赤土土器5	SI-9→本跡
8	D 1 g8	N-80°-W	不定形	[9.82] × [0.73]	30	緩斜	凹凸	不明		SI-20→本跡→SD 1
9	D 1 a9	N-63°-E	不整楕円形	2.35 × 1.87	80	外傾	平坦	人為	石2	SI-20→本跡
10	C 2 b7		円形	0.58 × 0.53	17	緩斜	平坦	不明		SI 48→本跡
11	C 2 a7	N-0°	不整円形	2.00 × 1.98	25	外傾	平坦	自然	土師器32, 須惠器2, 灰土1, 横土土器1	SI 51→本跡
12	B 2 b6	N-60°-W	楕円形	1.50 × 1.30	30	外傾	平坦	不明	石器1	
13	B 3 h4	N-0°	不整楕円形	0.30 × 0.25	26	外傾	平坦	不明	貝多量	
14	B 3 f4		円形	0.87 × 0.80	23	外傾	平坦	不明		
19	B 3 h2		円形	1.84 × 1.74	90	垂直	平坦	人為	土師器57, 埴土罐2, 石器2	SI-67→本跡
30	A 4 i3	N-12°-E	楕円形	1.16 × 0.87	74	袋状	平坦	不明		
31	A 4 j3	N-0°	不整円形	1.28 × 1.19	110	垂直	平坦	人為	土師器11, 須惠器2	
35	A 4 j3	N-13°-W	不整楕円形	1.07 × 0.76	72	垂直	平坦	人為		SK 41→本跡
44	A 4 j3	N-29°-W	[長方形]	[1.20] × [0.75]	25	外傾	平坦	自然		本跡→SK-50
45	A 4 i3	N-21°-W	楕円形	1.27 × 0.67	25	緩斜	平坦	不明		
49	A 4 i3	N-47°-E	楕円形	0.86 × 0.63	17	外傾	平坦	不明	不明土製品1	本跡→SK-43
50	A 4 j5	N-85°-E	不整楕円形	1.09 × 0.49	31	外傾	凹凸	人為		SK-44→本跡
51	B 1 a3	N-23°-E	楕円形	1.40 × 0.68	91	外傾	平坦	不明		
52	A 4 j4	N-20°-E	合形	1.02 × [0.96]	20	外傾	平坦	自然		SK 53→本跡
53	A 4 j4	N-74°-W	長方形	[1.71] × 1.11	33	外傾	平坦	自然		本跡→SK 52-54-61
54	A 4 j4	N-0°	不整楕円形	1.25 × 0.72	20	外傾	平坦	自然		SK 52→本跡→SK-61
35	B 4 a3	N-0°	楕円形	0.54 × 0.41	61	垂直	平坦	不明		
57	B 4 a3	N-21°-E	楕円形	0.64 × 0.54	36	緩斜	凹凸	不明		
61	A 4 j4	N-4°-W	長方形	0.82 × 0.60	63	外傾	凹凸	人為		SK 53→SK 54→本跡
62	B 4 a3	N-90°-W	合形	1.61 × 1.42	44	外傾	平坦	不明		本跡→SD 8
63	A 4 j5	N-29°-W	不定形	1.00 × 0.54	36	緩斜	平坦	不明		本跡→SK-46
64	A 4 j2	N-28°-W	楕円形	0.82 × 0.71	71	外傾	平坦	不明		
69	B 4 a2	N-58°-W	楕円形	(0.99) × 0.92		不明	不明	不明		本跡→SK-65
72	B 4 a2	N-55°-W	楕円形	1.61 × 1.26	20	外傾	凹凸	不明		
75	B 3 a0	N-16°-E	不定形	1.34 × 1.20	162	垂直	平坦	不明		SI 77, SK-66→ 本跡→SI 79-10
77	A 3 i0		円形	0.95 × 0.85	22	垂直	平坦	不明		本跡→SK-78
78	A 3 i0	N-27°-E	不定形	0.86 × [0.70]	30	外傾	凹凸	不明		SK-77→本跡
79	A 4 i1	N-35°-W	楕円形	0.93 × 0.64	21	外傾	平坦	不明		
80	B 3 e8	N-17°-E	長方形	1.15 × 0.67	70	垂直	平坦	不明		
81	B 3 d8		円形	1.00 × [0.88]	47	垂直	平坦	不明		SI-78, SK 83→本跡
82	B 3 a0	N-32°-E	[長方形]	1.37 × [0.82]	7	緩斜	平坦	不明		本跡→SD 10→SI-1
83	B 3 d8		[円形]	0.87 × (0.63)	41	垂直	平坦	不明		本跡→SK-81
84	B 3 g7		円形	1.21 × 1.18	37	緩斜	平坦	不明		
85	B 3 b8		円形	1.20 × 1.14	72	垂直	平坦	不明		
86	B 3 d9	N-0°	不明	2.66 × (2.05)	135	垂直	平坦	人為	土師器21, 須惠器7, 石器(磨石)1	SI-85→本跡



土坑 番号	位置	方位方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	版土	出土遺物	備 考 新田園林(古→新)
				長さ(m)×幅(m)	深さ(m)					
87	B 3 d8	N-32°-W	[楕円形]	1.17 × (0.92)	45	垂直	平坦	不明		SK-90→本跡
88	B 3 e8	N-0°	[楕円形]	0.78 × 0.60	29	緩斜	皿状	不明		
89	B 3 f8	N-24°-E	方形	0.84 × 0.80	30	垂直	平坦	不明		
90	B 3 d8	N-35°-W	[楕円形]	0.94 × (0.44)	36	垂直	平坦	不明		本跡→SK-87
91	B 3 d9	N-90°-W	方形	0.32 × 0.30	不明	不明	不明	不明		SI-85の中
95	A 4 j6	N-66°-E	[楕円形]	1.20 × (0.68)	110	垂直	平坦	不明		本跡→SK-96
96	A 4 j6	N-3°-E	[楕円形]	(1.85) × (1.65)	355	垂直	平坦	不明	石器1	SK-95→本跡
101	B 3 e5	-	円形	1.12 × 1.05	23	外傾	平坦	不明		
102	B 3 f5	-	円形	0.70 × 0.65	19	緩斜	皿状	不明		
103	B 3 f5	N-90°-W	不定形	1.15 × 0.58	19	緩斜	円凸	不明		
105	B 3 e5	N-10°-E	[楕円形]	(1.10) × (0.52)	不明	不明	不明	不明		
106	B 3 e5	N-9°-E	[楕円形]	(0.90) × (0.51)	不明	不明	不明	不明		
107	B 2 h8	N-12°-E	[楕円形]	[1.33] × (0.80)	15	緩斜	平坦	不明		本跡→SI-57
108	B 2 i8	N-84°-W	[楕円形]	1.54 × 1.24	20	緩斜	平坦	不明	土製品(埴土鉢) 2	SI-57→本跡
109	B 3 i4	N-48°-E	[楕円形]	1.71 × 1.50	8	外傾	平坦	不明		SI-64→本跡
110	B 3 i1	-	[円形]	1.06 × (0.44)	24	緩斜	平坦	不明		
111	C 2 b8	-	円形	1.16 × (0.47)	58	垂直	平坦	不明		SI-55→本跡→SK-111
114	C 2 b8	-	[円形]	1.36 × 0.97	75	垂直	平坦	不明		SI-55→SK-111→本跡
117	C 2 a9	N-0°-W	不定円形	2.05 × 1.90	50	外傾	平坦	自然	土師器32, 土製品3	SI 55→SI 53-54 →本跡→SK-119
119	C 2 a9	-	円形	0.70 × 0.60	20	緩斜	皿状	不明		SI 55→SI 109 + SK 117→本跡
120	B 2 j9	-	[円形]	0.95 × (0.80)	43	外傾	平坦	不明		SI-53・54→本跡
121	C 2 f4	N-8°-E	小楕円形	2.72 × 2.15	22	外傾	平坦	自然	土師器108, 須恵器19	SI 29・40→本跡

## 7 遺構外出土遺物 (第242・243・244・245図)

今回で調査で、遺構に伴わない土器や陶磁器、土製品、石器、石製品、金属製品、古銭等が出土している。ここでは、それらの出土遺物のうち、縄文土器片4点(早期)、弥生土器片9点(後期)、須恵器片1点について解説し、その他は、実測図(第244図)と観察表で報告する。

遺構外出土遺物観察表

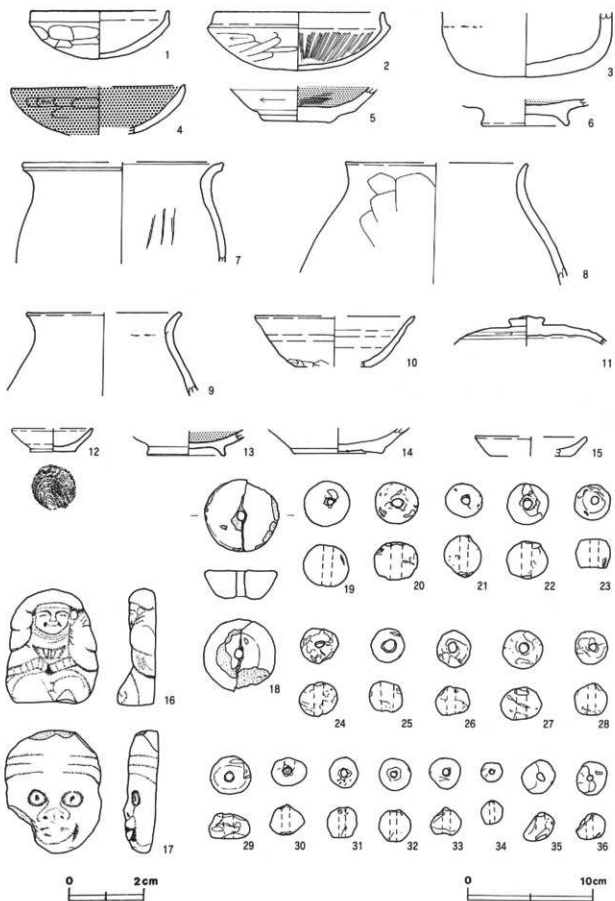
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 1	坏 土器器	A 11.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部は ほぼ直立する。体部と口縁部の境 にわずかな稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラナデ、内面ナデ。	長石・砂粒 褐色 良好	P408 95% PL21 表採
		B 3.7				
2	坏 土器器	A 13.4	体部一部欠損。丸底。体部は内彎 しながら立ち上がり、口縁部は内 傾する。体部と口縁部の境に明瞭 な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。体部内面に 磨文。	長石・赤色粒子 に多い赤褐色	P409 85% PL74 表採
		B 4.7				
3	坏 土器器	B (5.1)	底部から体部の破片。丸底。体部 は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面に輪 轆み痕。全体的に器内が厚い。	長石・赤色粒子 褐色 普通	P410 50% PL75 表採
4	坏 土器器	A [13.9] B (3.8)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面ナデ。内・外面赤 彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P411 10% PL75 表採
5	縄 土器器	B (2.8) C 5.4	底部から体部の破片。突出した平 底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端回転 ヘラ削り。内面ヘラ磨き後、黒色 処理。	長石・雲母・赤色粒子 に多い褐色	P412 30% PL75 表採
6	高台付 土器器	B (2.1) D 7.0 E 1.1	高台部から体部の破片。高台はハ の字状に開く。体部は内彎しなが ら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部切り磨し 後、高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P413 5% PL75 表採
7	壺 土器器	A [15.8] B (7.9)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は強く外反する。口 縁端部はわずかにつまみ上げられ ている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P414 5% PL75 表採
8	壺 土器器	A [14.4] B 9.5	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P415 5% PL75 表採
9	壺 土器器	A [12.4] B (6.6)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P416 5% PL75 表採
10	坏 須恵器	A [12.6] B 4.0 C [6.0]	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面クロコナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	P417 20% PL75 表採
11	蓋 須恵器	B (2.4) F 2.4 G 0.7	天井部片。天井部中央にボタン状 のつまみが付く。天井部はドーム 状を呈する。	天井部内・外面クロコナデ。天井 部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P418 50% PL75 表採
12	かわらけ 土器器	A [6.4] B 1.8 C 3.6	体部一部欠損。突出した平底。体 部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底 部回転糸切り。	長石 赤褐色 普通	P35 65% PL74 表採
13	高台付 土器器	B (2.0) D 6.0 E 9.8	高台部から体部の破片。高台は短 くハの字状に開く。底部切り磨し 後、高台貼り付け。	体部内・外面ナデ。体部内面黒色 処理。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P36 15% PL74 表採
14	壺 陶器	B (2.0) C [7.0]	高台部から体部の破片。高台は短 くハの字状に開く。体部は内彎し ながら立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。	胎土 表面 灰ナリ 緑石 精良	P356 5% PL74 表採
15	皿 土器器	A [8.8] B 1.5 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体 部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 浅黄褐色	P397 5% PL74 表採

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第22図16	泥 函 子	3.1	2.4	1.0	5.13	表 採	DP167 PL78
17	泥 函 子	3.2	2.5	0.8	6.50	表 採	DP168 PL78

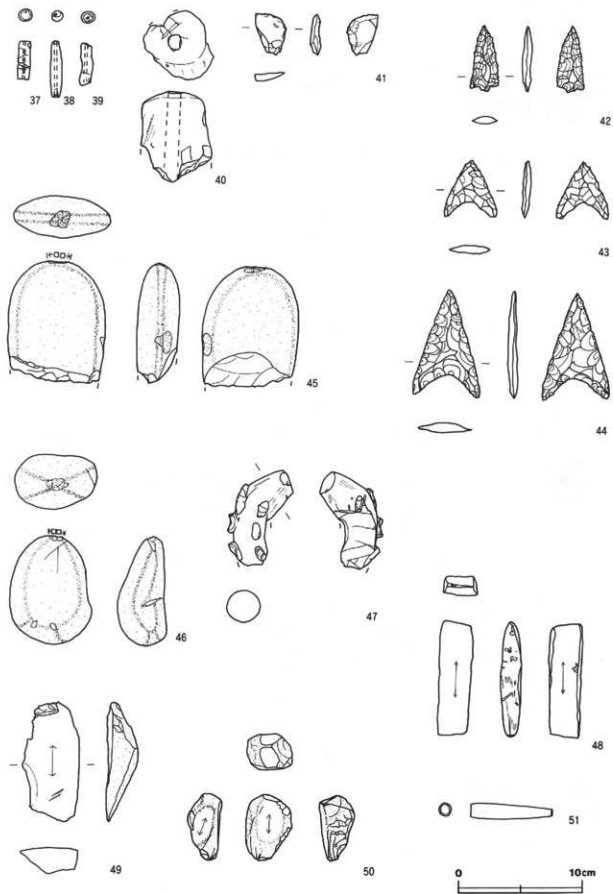
図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第22図18	紡 錘 車	5.8	厚さ2.3	0.7	74.8	表 採	DP169 PL78
19	球 状 土 錘	3.6	3.3	0.7	42.4	表 採	DP170
20	球 状 土 錘	3.4	3.0	1.0	27.1	表 採	DP171
21	球 状 土 錘	3.0	3.3	0.7	20.0	表 採	DP172
22	球 状 土 錘	3.3	2.9	0.8	26.2	表 採	DP173
23	球 状 土 錘	2.8	2.3	0.7	17.5	表 採	DP174
24	球 状 土 錘	3.0	2.7	0.9	16.6	表 採	DP175
25	球 状 土 錘	2.7	2.4	1.1	13.2	表 採	DP176
26	球 状 土 錘	2.9	2.2	0.7	14.9	表 採	DP177
27	球 状 土 錘	3.2	2.5	0.8	21.0	表 採	DP178
28	球 状 土 錘	2.6	2.5	0.7	13.8	表 採	DP179
29	球 状 土 錘	3.2	2.0	0.8	15.9	表 採	DP180
30	球 状 土 錘	2.8	2.4	0.6	10.9	表 採	DP181
31	球 状 土 錘	2.3	2.4	0.5	11.0	表 採	DP182
32	球 状 土 錘	2.5	2.5	0.6	14.9	表 採	DP183
33	球 状 土 錘	2.5	2.1	0.6	10.1	表 採	DP184
34	土 玉	1.7	1.8	0.3	3.7	表 採	DP185
35	球 状 土 錘	2.6	(2.0)	0.7	(9.3)	表 採	DP186
36	球 状 土 錘	2.6	(2.0)	0.5	(10.3)	表 採	DP190
第23図27	管 状 土 錘	1.1	3.0	0.1	3.0	表 採	DP154 PL78
38	管 状 土 錘	0.9	4.4	0.2	3.3	表 採	DP187 PL78
39	管 状 土 錘	1.1	3.3	0.2	3.3	表 採	DP188 PL78
40	管 状 土 錘	(5.7)	(7.1)	1.0	(110.0)	表 採	DP189

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第23図41	剥 片	3.2	2.4	0.8	5.7	チャート	表 採	Q78
42	石 鏃	2.6	1.1	0.3	0.9	メノウ	表 採	Q77 PL80
43	石 鏃	4.3	2.7	0.4	1.2	チャート	表 採	Q76 PL80
44	石 鏃	2.3	2.2	0.4	2.8	チャート	表 採	Q75 PL80
45	砥 石	(9.4)	7.7	3.2	(359.7)	安山岩	表 採	Q69 PL80
46	砥 石	8.4	6.6	4.0	314.6	砂 岩	表 採	Q68
47	子持勾玉	(7.5)	5.2	2.5	(77.7)	滑 石	表 採	Q79 PL80
48	砥 石	9.0	2.7	1.6	53.5	凝灰岩	表 採	Q70 PL80
49	砥 石	9.4	4.6	2.1	96.9	粘板岩	表 採	Q72
50	砥 石	5.1	3.6	2.7	56.9	砂 岩	表 採	Q74

図版番号	器 種	計 測 値			出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)		
第23図51	埴 管	(6.5)	(1.2)	(9.2)	表 採	M30 PL81

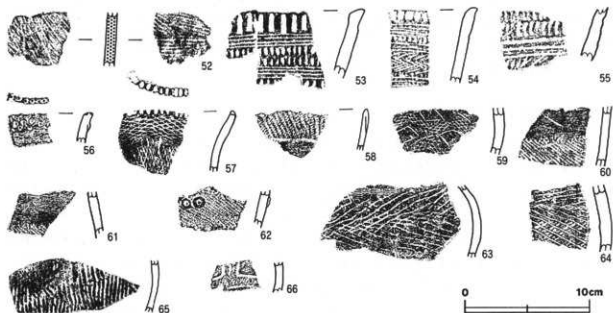


第242图 遗物出土物实测图(1)

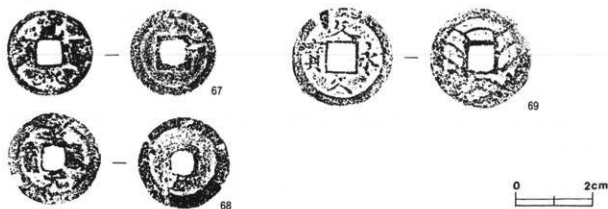


第243图 遺構外出土遺物実測図(2)

第244図52～55は縄文土器片である。52は条痕文系土器の胴部片で、表裏に条痕文が施されている。53・55は田戸下層式土器である。53は口縁部片で、細い沈線による横位の区画内に連続刺突文が施されている。55は胴部片で、横位の沈線と幅広い連続刺突文が施されている。54は三戸式土器の口縁部片である。細い沈線による横位の区画内に梳杉状の細密沈線と連続刺突文が施されている。56は時期不明の土器である。口唇部と口縁部に竹管が押圧されている。57～64は弥生土器片である。57・58は口縁部片である。57は口唇部に縄文原体が押圧され、口縁部に網目状燃糸文が施されている。58は複合口縁に単節縄文RLが施されている。59～64は胴部片である。59は網目状燃糸文を地文に、細い沈線が菱形状に施され、内面を磨り消している。60・61は単節縄文が施されている。62は単節縄文が施された上に円形浮文が貼り付けられている。63・64は附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。65は須恵器片で、縦位の平行叩きが施されている。66は中期の弥生土器片である。縄文地文がコの字状に区画され、区画内を磨り消している。



第244図 遺構外出土遺物実測図(3)



第245図 遺構外出土遺物実測図(3)

図版番号	銭名	計測値				初鋳年代 (西暦)	備	考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)			
表16567	□元□寶	2.3	0.7×0.7	0.7	3.0	不明	M32	覆土 PL81
68	□元通寶	2.4	0.6×0.6	0.9	3.3	不明	M33	覆土 PL81
69	文久永寶	2.6	0.7×0.7	0.8	1.9	1863年江戸	M34	覆土 PL81

## 第4節 まとめ

今回の調査で、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代及び中世にわたる遺構と遺物が検出された。中世については、墓域と推定される地区から検出された遺構と遺物が中心である。ここでは、各時代ごとに検出された遺構と遺物について概要を述べ、まとめとする。

### 1 縄文時代

縄文時代の遺構としては、住居跡1軒が検出された。第106号住居跡で、調査区域の中央部に位置している。平面形は、遺構の北東部が調査区域外となっているため全体は検出できなかったが、隅丸方形と推定される。遺構のローム面への掘り込みは少なかった。ピットは1か所検出されたが、刃などは検出されなかった。主な出土遺物は、縄文時代早期(旧戸下層時期)に比定される尖底土器の底部片及び胴部片である。縄文時代の遺構は、この住居跡1軒だけしか検出されていないため、集落としての広がりや縄文時代早期以降弥生時代までのつながりは残念ながら不明である。

### 2 弥生時代

弥生時代の遺構としては、住居跡8軒と土坑1基が検出された。第3・14・37・41・67・91・97・99号住居跡及び第6号土坑である。検出された位置からみると、調査区域内の南西部から4軒、中央部から2軒、北西部から2軒と分散している。後期の土台式に比定される弥生土器が出土しているのが、第37・41・91号住居跡の3軒と第6号土坑、在地のものと思われる弥生土器が出土しているのが、第14・67・97・99号住居跡の4軒である。第3号住居跡は、土器の細片だけが出土しており、詳細は不明である。平面形は、第3号住居跡が長方形で、ほかはいずれも隅丸方形である。主軸方向は、第91・99号住居跡を除いて、 $N-0^{\circ}$ から $N-65^{\circ}-W$ の範囲内にある。規模はさまざまで、一辺が3.5m程度のものから6m前後のものまでである。住居跡内には、第99号住居跡を除いて、いずれも床面を10cm前後掘り下げたがをもっている。第41号住居跡からは、建て替えによると思われるが2か所検出されている。土台式及び在地のものと考えられる弥生土器のほか、南関東系の装飾帯と思われる弥生土器も出土しており、当時この地域が文化的に独自性をもちながら、広範囲にほかの地域と交流していたことが窺われる。

### 3 古墳時代

西平遺跡の中心となる時期で、中期の住居跡5軒、後期の住居跡37軒、後期の土坑1基が検出された。時期ごとに記載する。

#### (1) 中期

当期にあたるのは第6・8・9・10・13号住居跡で、いずれも調査区域の南西部から検出されている。平面形は、遺構の一部が調査区域外となっているものもあるが、方形あるいは長方形と推定される。規模は一辺が5m前後のものが多く、第8号住居跡は一辺8m近くあった。第8号住居跡は、床面から炭化材が多量に検出されたことから焼失家屋と考えられる。

出土遺物は、土師器の坏、高坏、埴、甕、壺、椀、鉢などである。中期の住居跡が存在するのは、低地に面した傾斜部である。後期や奈良・平安時代の住居跡が台地上で多数検出されていることから、時代の経過とともに集落の中心が斜面部から台地上へと移っていったことが予想される。

## (2) 後 期

当期にあたる住居跡は、37軒検出されている。調査区域の南部から中央部にかけて多数検出され、あまり時期差のない住居跡の重複もみられた。平面形は方形が中心で、長方形のものは少ない。規模は、一辺が6mを越す大形のものから、3m前後の小形のものまでさまざまであるが、主体は4～5mのものである。調査区域の北東部では、検出された住居跡の数も少ない上、小規模のものが多く、小規模のものが多い。主軸方向は、遺構全体が検出されず、推定のものも多いが、真北から西に偏するものが、東に偏するものより多い。

この時期の特色ある遺構として、竈を住居跡内の南部にもつものがある。第52号住居跡及び第69号住居跡である。主軸方向は、第52号住居跡がN-90°-E、第69号住居跡がN-150°-Eである。竈を住居内の南部につくるといえるのは、当遺跡でもほかに例がなく、単に居住すること以外にも目的を持って作られたものなのか、あるいはほかの地域の影響を受けたものなのか不明である。

この時期の出土遺物は、土師器が中心で、坏・高台付坏・高坏・甕・甔などである。土製品では球状土鉢や土玉が多かった。鉄製品は出土点数が少なかった。土師器の坏では、須恵器坏身模倣の体部外面に稜をもつものが多く、また内面を黒色処理されたものが多い。

## 4 奈良・平安時代

古墳時代同様、西平遺跡の中心となる時期で住居跡21軒、土坑2基が検出されている。この時期の住居跡の分布状況を見ると、南西部、中央部及び北東部の三つのグループに分けることができる。住居跡の規模は、一辺が2mから4m未満のものがほとんどで、4m以上のものは少ない。主軸方向は、N-18°-WからN-112°-Eの範囲内にあり、真北から東に偏しているものが14軒、西に偏しているものが3軒、真北のものが1軒で、東を意識して構築しているものが多い。

出土遺物は、須恵器の坏・高台付坏・高坏、土師器の坏・甕などであるが、この時期は須恵器の出土量が増加するのが一般的である。当遺跡では出土量が少ないように思われる。

## 5 中 世

遺跡内の北東部において、10mから12m前後の方形の区画を約50～60cmほど掘り込んだ地区が検出され、区画内から地下式竈や土坑が多数検出された。そしてこの地区から、土師器、須恵器などの破片に混じって、陶器片、古銭（北宋銭）、獣骨（馬骨）などが出土した。これらの事実から、この区画は中世の墓域の可能性が高いと推定された。また北西部からこの区画内に延びるように、第1号道路状遺構が検出された。

検出された遺構のうち、土坑は便宜上、平面形が方形あるいは長方形のものを方形竈穴状遺構とし、それ以外の円形や楕円形のを土坑として区別した。方形竈穴状遺構は21基、これ以外は8基検出されている。さらに方形竈穴状遺構も、南あるいは東の壁外から底面に向かって傾斜部をもつものと、もたないものとに区別できる。傾斜部をもつ方形竈穴状遺構は6基検出された。第3・5・9・12・13・17号方形竈穴状遺構である。方形竈穴状遺構の傾斜部は、幅50～60cm、長さ100～120cmほどで、上面が硬化しているものが多く、出入り口部と判断された。ピットらしい掘り込みが、底面から検出されたものは2基である。出入り口部をもつ方形竈穴状遺構のうち、第5号方形竈穴状遺構を除いては、並んでいるようにみえるが、これが何かの意味をもつものなのかどうかは不明である。また、この方形竈穴状遺構の性格については、住居とする説<sup>31</sup>もあるが、判断できる出土遺物などはない。

出入り口部をもたない方形竈穴状遺構は、16基検出された。ほとんどは長方形を呈している。規模は長軸が



1.6～3m、短軸が1～2mの範囲内であるが、並び方に規則性はない。主な出土遺物は、第1号方形竪穴状遺構から古銭（北宋銭）、第18号方形竪穴状遺構から獣骨（馬骨）で、これ以外は混入と思われる土師器や須恵器の破片である。方形竪穴状遺構以外、円形あるいは楕円形を呈する土坑が検出されているが、遺物がなく性格等も不明である。

なお、第1号及び第4号方形竪穴状遺構の底部から白色物質が検出され、分析したところ第1号方形竪穴状遺構から検出されたものは、イネ科草本類の灰と判断された。一方、第4号方形竪穴状遺構の底部から検出されたものは、稲初穀の灰と判断された。分析の結果、これらの方形竪穴状遺構の底部で、稲や初穀などが燃やされたことが判明したが、これが何の目的で行われたものなのか、墓域とどんな関係があるのかなどは、残念ながら不明と言わざるをえない。仮に方形竪穴状遺構や土坑を人間を埋葬した土葬墓とすれば、人骨が出土する可能性もあるが、酸性土壌のためあまり期待はできず、性格などの特定は困難である。

地台式墳は、方形区画の西端から検出された。地下式墳は、中世の墓域から検出される例が多く、墓域内において何らかの機能をもっていた可能性が高い。

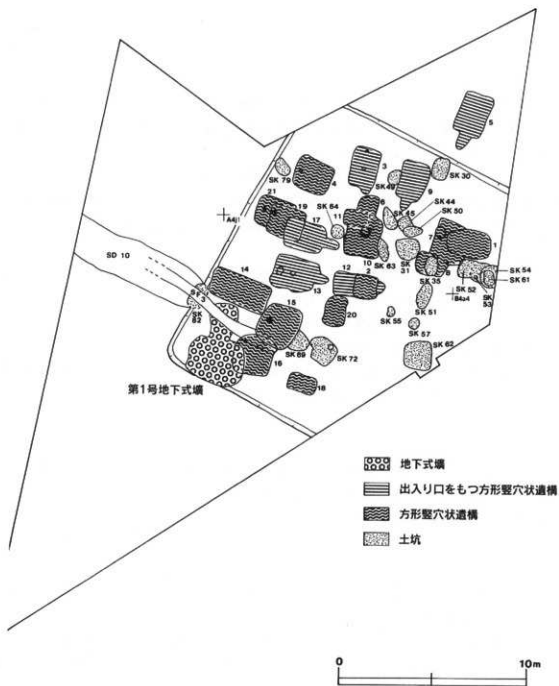
当遺跡から南西方向500mほどのところに津賀城の存在が知られている。津賀城は北浦に面する台地の突端にあった。城主である津賀氏の系図は明らかではないが、大永年間（1521～1527年）に津賀大膳が、天正年間（1573～1591年）に津賀大炊介の存在が知られている。また津賀氏は、古く鎌倉幕府の御家人であった大塚平氏の一族との説もある<sup>20</sup>。いずれにしても、鎌倉時代以降存在が知られた城である。中世の墓域は、館あるいは城と深い関わりが推定されるものもあり、今後の調査・研究が期待される。

## 註

- (1) 中・近世研究班「中世の竪穴遺構について」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1991年7月
- (2) 大野村史編さん委員会『大野村史』大野村教育委員会 1979年

## 参考文献

- (1) 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
- (2) 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
- (3) 笠生衛「東国における中世墓地の諸相」『千葉県文化財センター 研究紀要16 20周年記念論集』1995年
- (4) 桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景—中世墓の諸相と通史的叙述への試論—」茨城県考古学協会誌 第7号
- (5) 新坂遺跡発掘調査会『新坂遺跡』1979年
- (6) 茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書5 前田村遺跡」・K区上下巻『茨城県教育財団文化財調査報告』第147集 1999年3月
- (7) 茨城県教育財団「主要地方道下船つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 中根十三塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第154集 1999年7月



第246図 中世墓域土坑群

# 付 章

## 西平遺跡出土の白色物質の材質推定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西平遺跡では、中世（12世紀代）とされる方形竪穴状遺構が確認され、第1号方形竪穴状遺構（SK-33）・第4号方形竪穴状遺構（SK-37）と称される2基の方形竪穴状遺構の底部から白色物質が検出された。発掘調査所見では、この白色物質は骨粉と考えられ、SK-33・SK-37は墓坑の可能性が考えられた。

検出された白色物質は粉状であり、当社における肉眼観察では植物の灰のような状態であったことから、顕微鏡観察を行った結果、植物珪酸体を含む植物の組織片であり、骨に由来する物質ではないことが明らかにされた。しかし、SK-33・SK-37の性格について、発掘調査のみでは十分な情報が得られないことから遺体埋葬に関する試料を得ることを目的としてリン酸・カルシウム分析を実施することとした。

リン分析は、人体とくに人骨に多量に含まれるリン酸を測定し、リン酸の特徴的な濃集状態から遺体の痕跡を定性的に推定する方法である（竹迫ほか、1980など）。この分析手法は、リン酸が人骨に多量に含まれる成分であること、さらには分解した遺体のリン酸成分が土壤中に含まれるアルミや鉄と結合して難溶性のリン酸化合物を形成する。そのためにリン酸の濃集が確認しやすい。とくに黒ボク土やローム土のようにリン酸と結合しやすい可溶性のアルミや鉄が多い土壌では遺体痕跡検証の成果が大きい。また、カルシウムも動物の骨に大量に含まれる成分であり、この含量も検討の際の材料とした。

### 1. 試 料

調査対象は、第1号方形竪穴状遺構（SK-33）底部で認められた白色物質1点（試料名：KND-B⑨ SK-33No.4）、第4号方形竪穴状遺構（SK-37）底部で認められた白色物質の混在する土壌1点（試料名：KND-B⑩ SK-37骨粉）の合計2点である。

### 2. 分析方法

土壌標準分析・測定法委員会（1986）、土壌養分測定法委員会（1981）、京都大学農学部農芸化学教室（1957）を参考に以下の操作工程で行った。

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコを秤量し、はじめに硝酸（HNO<sub>3</sub>）約5mlを加えて加熱分解する。法冷後、過塩素酸約10mlを加えて、再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）濃度を測定する。

別に、ろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。

これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量 ( $P_2O_5$ mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

### 3. 結 果

両試料中に含まれる白色物質を抽出して牛物顕微鏡で観察したところ、第1号方形堅穴状遺構 (SK-33) ではイネ科に由来すると思われる植物珪酸体、第4号方形堅穴状遺構 (SK-37) では稲穂に形成されるイネ属珪酸体がそれぞれ認められた。

一方、リン酸・カルシウム分析結果を表1に示す。SK-33の分析試料は土壤が極微量に混在するものの、主体は白色物質である。この中には、リン酸が $5.00P_2O_5$ mg/g認められるが、カルシウムは検出されない。

SK-37の分析試料は土壤中に白色物質が含まれる。土壤はやや粘質であり、土性はCL (堆填土) に区分される。土色は10YR 2/2であり、少なからず腐植成分を含む。この中には、リン酸が $2.91P_2O_5$ mg/g、カルシウムが $6.97CaO$ mg/g含まれている。

表1 土坑出土白色物質のリン酸・カルシウム分析結果

試料名	土性	土色	$P_2O_5$ (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
SK-33 No.4	-	-	5.00	0.00	白色物質
SK-37	CL	10YR 2/2 基褐	2.91	6.97	黒ボク土と白色物質が混在

土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖 (農林省農林水産技術会議監修, 1967) による。  
土性：土壌調査ハンドブック (ペドロジスト懇談会編, 1984) の野外土性による。  
CL: 堆填土 (粘土15~25%, シルト20~45%, 砂3~65%)

### 4. 考 察

白色物質のうち、第1号方形堅穴状遺構 (SK-33) 底部で認められたものはイネ科草本類の植物体の灰と判断できる。このリン酸含量は $5.00P_2O_5$ mg/gであった。通常、骨はコラーゲンを含有するものの、大部分がリン酸とカルシウムによって構成されている。そのため、骨に含まれるリン酸含量としては若しく低い値と言える。また、カルシウムも検出されなかった。この結果によりこの白色物質は骨片に由来するものではない。なお、植物体にもリン酸成分は含まれており、後述するように土壤中にも賦存することから、検出されたリン酸は燃やされた植物体および土壤より供給されたものと思われる。

一方、第4号方形堅穴状遺構 (SK-37) 底部で認められた白色物質は稲穂殻の灰と判断できる。底部には、黒ボク土と白色物質が混在していた。今回は土壤中に拡散移動した遺体成分を検出することが目的であったが、このような場合には同時期の堆積物などの対照試料が必要である。今回はこれが得られなかったため、リン酸の天然賦存量から考察する。リン酸の土壤中に普通に含まれる量、いわゆる天然賦存量は約 $3.0P_2O_5$ mg/g程度とされる (Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991)。また、人為的な影響を受けた黒ボク土の平均値は $5.5P_2O_5$ mg/gとの報告もある (川崎ほか, 1991)。さらに、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では $6.0P_2O_5$ mg/gを越える場合が多い。なお、各調査例の記載単位が異なるため、ここではすべて $P_2O_5$ mg/gで統一した。これらの値を著しく越える土壤では、外的要因 (おそらく人為的影響によるもの) によるリン酸の富化が指摘できる。この点を考慮すれば、SK-37でもリン酸の富化は指摘できず、遺体の痕跡が残留するとは言いにくい。

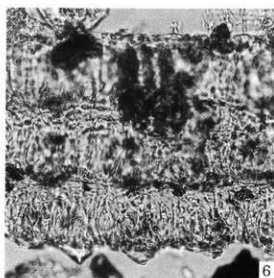
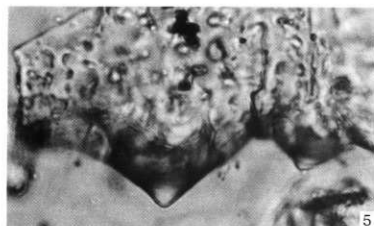
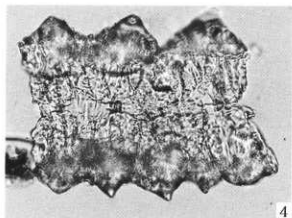
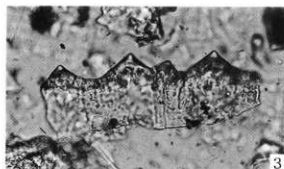
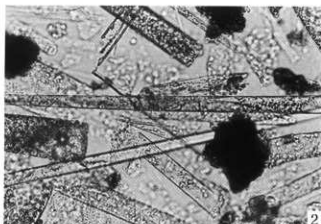
以上、今回の結果を見る限り、SK-33やSK-37に遺体の痕跡は認められず、遺構内に遺体が埋納されたことは考えにくい。また、白色物質の稲穂殻などのイネ科草本類の灰であることが明らかにされた。両遺構とも床面付近には炭化粒が多く認められ、その上部に白色物質が認められていることから、稲穂殻などが土坑底部

で燃やされた可能性がある。しかし、遺構の埋積状態など発掘調査所見を考慮として再評価する必要がある。

#### (引用文献)

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信 (1991) 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36.
- Bowen, H. J. M. (1983) 環境無機化学-元素の循環と生化学-。浅見輝男・茅野充男訳, 297p., 博友社[Bowen, H. J. M. (1979) Environmental Chemistry of Elements].
- Bolt, G. H.・Bruggenwert, M. G. M. (1980) 土壌の化学。岩田進午・三輪審太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 309 p., 学会出版センター [Bolt, G. H. and Bruggenwert, M. G. M. (1976) SOIL CHEMISTRY], p.235-236.
- 土壌標準分析・測定法委員会編 (1986) 土壌標準分析・測定法, 354p., 博友社。
- 土壌養分測定法委員会編 (1981) 土壌養分分析法, 440p., 養賢堂。
- 藤貫 正 (1979) カルシウム・地質調査所化学分析法, 52: 57-61, 地質調査所。
- 川崎 弘・吉田 滯・井上恒久 (1991) 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省 農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, 149p.: p.23-27.
- 京都大学農学部農芸化学教室編 (1957) 農芸化学実験書 第1巻, 411p., 産業図書。
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967) 新版標準土色帖。
- ベドロジスト懇談会 (1984) 野外土性の判定。ベドロジスト懇談会編「土壌調査ハンドブック」, 156p.: p.39-40.
- 竹迫 紘・加藤哲郎・坂上寛一・黒部 隆 (1980) 神谷原遺跡への土壌学的アプローチ。神谷原 I, p.412-416, 八王子市櫛田遺跡調査会。

図版1 白色物質の生物顕微鏡写真



50  $\mu$ m  
(1-4,6)

50  $\mu$ m  
(5)

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 1. 組織片 (SK33; 4) | 2. 不明珪酸体: 棒状型 (SK33; 4) |
| 3. イネ属珪酸体 (SK37) | 4. イネ属珪酸体 (SK37)        |
| 5. イネ属珪酸体 (SK37) | 6. イネ属珪酸体 (SK37)        |

茨城県教育財団文化財調査報告第165集

国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線  
道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1

西平遺跡  
五安遺跡  
上巻

平成12(2000)年3月16日印刷

平成12(2000)年3月21日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 きと印刷所  
〒310-0913 水戸市見川2558番21号  
TEL 029-241-2325